文 京 区 のみどり

《第９次 文京区緑地実態調査 報告書》

令和６年３月

文京区

はじめに

文京区は、社寺や江戸時代の大名屋敷の跡地を中心に歴史的由来のある緑地が残され、また、文教地区として多くの大学が存在し、都会の中のオアシスとなる大規模なみどりがあります。

みどりは、憩いやふれあいの場として人々に安らぎを与えるレクリエーション機能だけでなく、防災、景観形成や環境保全の機能など、様々な役割を果たしています。

区では、令和元年度に「文京区みどりの基本計画」を策定し、公共施設や民有地を含めた総合的なみどりの保全と創出に取り組んでまいりました。この第9次文京区緑地実態調査は、区内のみどりの現況と経年変化を把握し、次年度の「文京区みどりの基本計画」の中間見直しに向けて、緑化施策の方向性を検討するための基礎資料とするものです。

今後も、目指す将来都市像である“歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」”の実現に向けて、文京区のみどりの充実と継承に取り組んでまいります。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力をいただきました区民の皆様並びに関係各位に厚くお礼申し上げます。

令和6年3月

文京区長　成澤廣修

目　次

Ⅰ 調査の概要

１．調査の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．調査位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
３．調査期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
４．調査機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
５．調査項目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
６．調査手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
７．調査方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
７－１．文京区の緑をとりまく環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
７－２．樹木調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
７－２－１．樹木調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
７－２－２．保護樹木調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
７－３．樹林・公園緑地調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
７－３－１．樹林調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
７－３－２．公園緑地調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
７－４．緑被調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
７－４－１．空中写真撮影とオルソ画像の作成 ・・・・・・・・・・・・ 9
７－４－２．緑被調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
７－４－３．都市構造区分図の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
７－４－４．屋上緑化調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
７－４－５．壁面緑化調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
７－５．緑視率調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
７－６．道路および河川に関わる緑の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・ 18
７－６－１．道路内植栽調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
７－６－２．接道緑化調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
７－６－３．河川緑化調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
７－７．緑に関わる環境の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
７－７－１．地表面温度の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
７－７－２．生物多様性の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
７－８．緑の地域カルテ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
７－９．緑の特徴と今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

Ⅱ　文京区の緑をとりまく環境
１．文京区の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
２．自然的背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
３．歴史的背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
４．社会的背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

Ⅲ　樹木の状況
１．樹木の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
１－１．樹木本数の概況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
１－２．樹木の分布状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
１－３．樹木の大きさの状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
１－４．樹種の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
１－５．樹木の経年変化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
２．保護樹木の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
２－１．保護樹木の健康度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
２－２．健康度の経年変化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

Ⅳ　樹林･公園緑地の状況
１．樹林の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
１－１．樹林の概況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
１－２．樹林の分布状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
１－３．個々の樹林の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
２．公園緑地の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
２－１．公園緑地の分布状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
２－２．誘致圏の充足率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88

Ⅴ 緑被の状況

１．緑被の現況と他区との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
１－１．緑被の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
１－２．みどり率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
１－３．他区との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
２．緑被の分布状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
２－１．都市構造区分別の緑被の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
２－２．用途地域別の緑被の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
２－３．区域別、町丁目別の緑被の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
２－４．施設別の緑被の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
３．緑被率の経年変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
３－１．緑被率変化の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
３－２．都市構造区分別緑被率の経年変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
３－３．用途地域別緑被率の経年変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
３－４．区域別緑被率の経年変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
４．緑化余地の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
５．屋上緑化の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
６．壁面緑化の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132

Ⅵ 緑視率の状況

１．調査地点の選定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135
２．他区との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135
３．緑視率の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
３－１．区域別、町丁目別の緑視率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
３－２．土地利用と緑視率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
４．緑視率の経年変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・144

Ⅶ 道路および河川に関わる緑の状況

１．道路に関わる緑の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
１－１．道路内植栽の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
１－２．ポケットパークおよびグリーンスポットの状況 ・・・・・・・・・・・・・・・148
１－３．接道緑化の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
２．河川に関わる緑の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151

Ⅷ 緑に関わる環境の状況

１．地表面温度の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
１－１．ヒートアイランド現象について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
１－２．衛星から観た地表面温度の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・154
１－３．文京区における地表面温度の緩和 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
２．生物多様性の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
２－１．文京区の動植物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
２－１－１．動植物の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
２－１－２．重要な種の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
２－１－３．外来生物の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
２－１－４．特徴的な生物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
２－２．ビオトープ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
２－３．エコロジカルネットワーク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162

Ⅸ 緑の地域カルテ

１．区域別の総合評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・165
２．区域別地域カルテ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168
３．まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193

Ⅹ 緑の特徴と今後の課題

１．調査結果による緑の特徴と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
２．緑の構造からの課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199

参考文献 ・・203

Ⅰ　調 査 の 概 要

Ⅰ　調査の概要

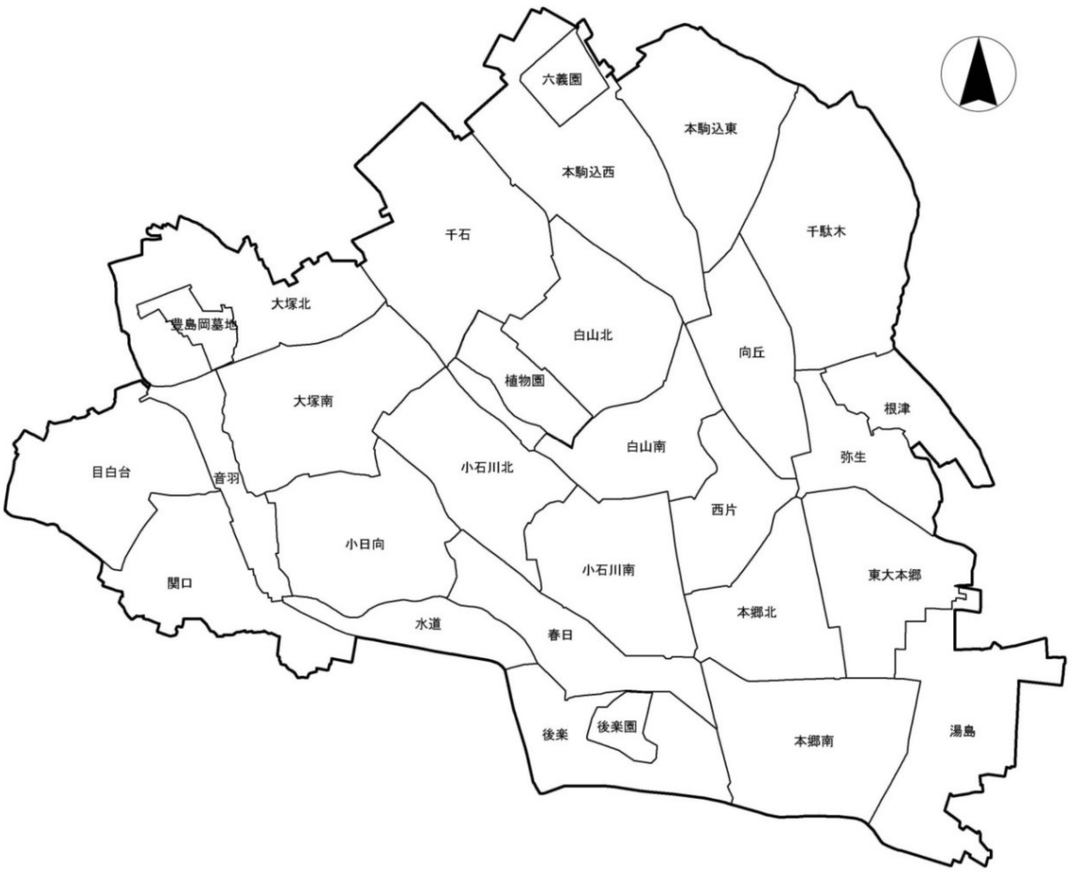
１．調査の目的

今回の調査は、昭和 49 年から定期的に実施されている第 9 回目のみどりの実態調査である。本調査では樹木・樹林の状況、緑被の状況、道路や施設等の緑化状況について実態を把握するとともに、過去 8 回の調査結果の比較による経年変化をみることよって、今後の緑化推進の施策立案の基礎資料を作成することを目的としている。

２．調査位置

文京区全域面積　　　11.29ｋ㎡

調査対象地域は文京区全域である。調査区域は一般区域と特別区域に大別し、一般区域の区分は町界を基本として設定して、面積の大きい本郷、本駒込、小石川、白山、大塚の 5 町については 2 分割している。また、土地利用の特殊性および緑の多さを考慮し、東京大学本郷キャンパス構内を含む本郷 7 丁目全域（以下、「東大本郷」という。）、六義園、小石川後楽園（以下、「後楽園」という。）、小石川植物園（以下、「植物園」という。）、豊島岡墓地の 5 地域は、一般区域とは切り離し、特別区域として設定している。その結果、区域区分は 29 区域となり、調査単位および集計単位はこの区域区分で行っている。これらの区域設定は、前回調査（平成 30 年度実施）と同様である。（図Ⅰ－１、表Ⅰ－１）



図Ⅰ－１　区域区分図

表Ｉ－１　区域区分対応表

区域種別	区域	区域名	該当町丁目	用途地域	備考
一般区域	1	後楽	後楽１，２丁目	１住、２住、近、商、準	後楽園除く
	2	春日	春日１，２丁目	１高、１住、２住、近、商、準	
	3	小石川南	小石川１～３丁目	１高、１住、商、準	
	4	小石川北	小石川４，５丁目	１高、２高、１住、２住、商、準	
	5	白山南	白山１，２丁目	１低、１住、近、商、準	
	6	白山北	白山３～５丁目	１低、１高、１住、近、商、準	植物園除く
	7	千石	千石１～４丁目	１低、１高、１住、２住、近、商、準	
	8	水道	水道１，２丁目	１住、２住、近、商、準	
	9	小日向	小日向１～４丁目	１低、１高、１住、２住、近、商、準	
	１０	大塚南	大塚１～３丁目	１高、１住、近、商、準	
	１１	大塚北	大塚４～６丁目	１高、１住、近、商、準	豊島岡墓地除く
	１２	関口	関口１～３丁目	１低、１高、２住、近、商、準	
	１３	目白台	目白台１～３丁目	１低、１高、１住、２住、近、商	
	１４	音羽	音羽１，２丁目	１低、１高、１住、２住、近、商	
	１５	本郷南	本郷１～３丁目	１住、近、商	
	１６	本郷北	本郷４～６丁目	１住、２住、近、商	
	１７	湯島	湯島１～４丁目	１高、１住、２住、近、商	
	１８	西片	西片１，２丁目	１低、１住、２住、近、商	
	１９	向丘	向丘１，２丁目	１高、１住、近、商	
	２０	弥生	弥生１，２丁目	１高、２高、１住、２住、近、商	
	２１	根津	根津１，２丁目	１高、１住、２住、近、商	
	２２	千駄木	千駄木１～５丁目	１高、１住、近、商	
	２３	本駒込東	本駒込３～５丁目	１高、１住、近、商	
	２４	本駒込西	本駒込１，２，６丁目	１低、１高、１住、２住、近、商	六義園除く
特別区域	２５	東大本郷	東京大学本郷キャンパス構内	１高	本郷７丁目全域
	２６	六義園	都立六義園	１低	本駒込６－１６
	２７	後楽園	都立小石川後楽園	１住	後楽１－６
	２８	植物園	東京大学大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）	１低	白山３－７
	２９	豊島岡墓地	豊島岡墓地	１高	大塚５－３９

１低・・・第１種低層住居専用地域
１高・・・第１種中高層住居専用地域
２高・・・第２種中高層住居専用地域
１住・・・第１種住居地域
２住・・・第２種住居地域
近　・・・近隣商業地域
商　・・・商業地域
準　・・・準工業地域

３．調査期間

令和５年５月～令和６年３月

４．調査機関

三和航測株式会社

５．調査項目

以下の調査項目に沿って調査を実施した。

○ 文京区の緑をとりまく環境

基礎調査

○ 樹木調査

樹木調査（公共、民有施設別緑化調査含む）

保護樹木調査

○ 樹林・公園緑地調査

樹林調査（公共、民有施設別緑化調査含む）

公園緑地調査

○ 緑被調査

緑被調査（公共、民有施設別緑化調査含む）

屋上緑化調査

壁面緑化調査

○ 緑視率調査

緑視率調査

○ 道路および河川に関わる緑の調査

道路内植栽調査（ポケットパーク、グリーンスポット含む）

接道緑化調査

河川緑化調査

○ 緑に関わる環境の状況

地表面温度の状況

生物多様性の状況

○ 緑の地域カルテ

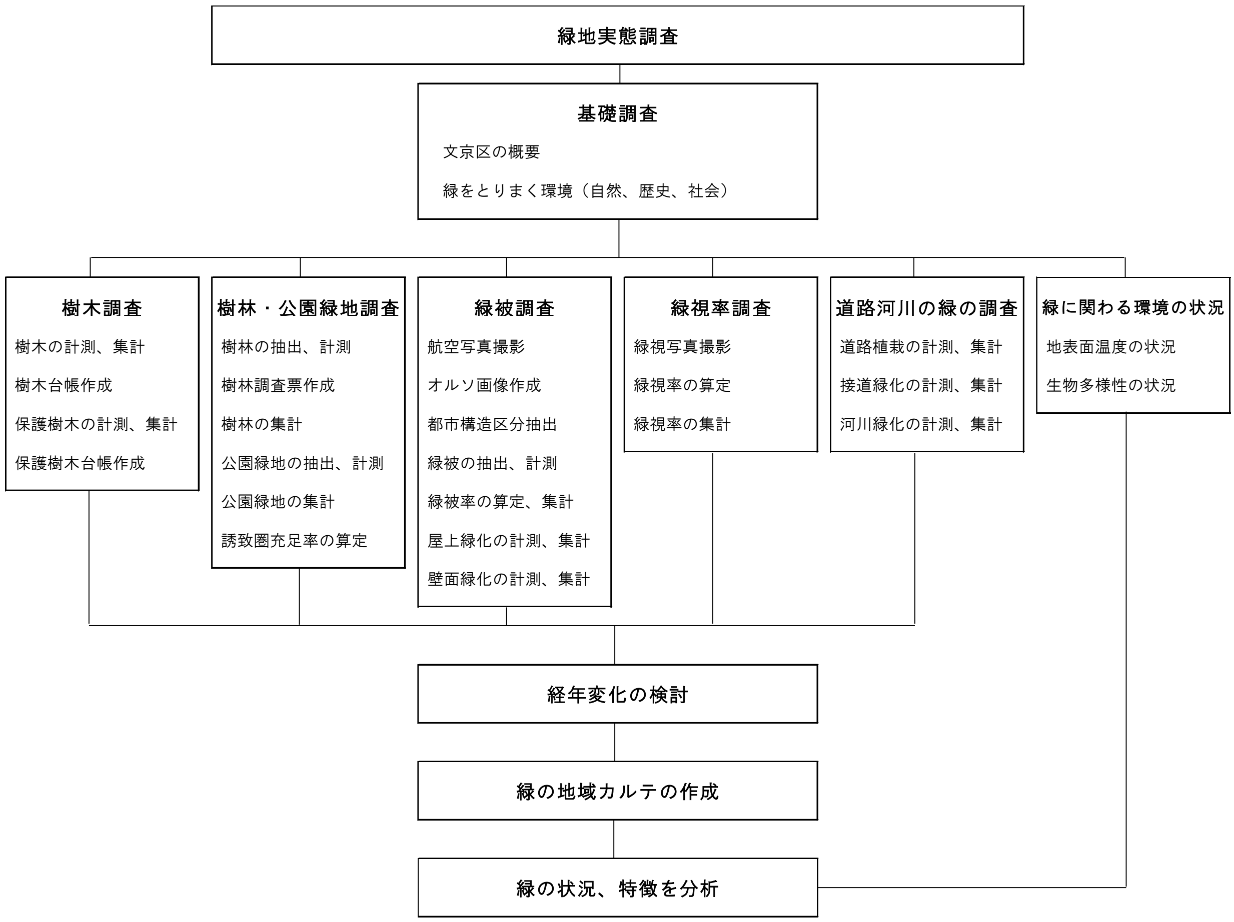
緑の地域カルテの作成

○ 文京区の緑の特徴と分析

緑の状況、特徴を分析

６．調査手順

調査は、図Ｉ－２の手順で実施した。



図Ｉ－２　調査フロー

７．調査方法

７－１．文京区の緑をとりまく環境

文京区の緑の歴史的背景、社会的条件、自然的条件についてその概要を既存資料より整理した。

７－２．樹木調査

７－２－１．樹木調査

区内全域の胸高直径 50cm 以上の樹木を調査した。

○対象樹木	胸高直径 50cm 以上（地上から 1.2ｍの位置）
○樹木位置	樹木地図帳を作成（住宅地図、縮尺 1/1,500 に樹木位置をプロットしたもの）
○樹種	樹種の確認
○土地利用	都市構造区分および都市計画による区分

調査結果は、胸高直径別、樹種別、区域別、施設別（公共・民有）に集計し、経年変化の状況を把握した。また、樹木データは一覧表で整理した。

７－２－２．保護樹木調査

　文京区の保護樹木を対象に健康度の把握をおこなった。健康度は科学技術庁資源調査会による樹木の活力度の判定基準に準じておこなった。

　計測および評価結果は、樹種別、区域別に集計・整理するとともに、経年変化の状況を整理した。調査結果は、保護樹木台帳としてとりまとめた。

使用した調査票を図Ｉ－３に示す。

調査項目

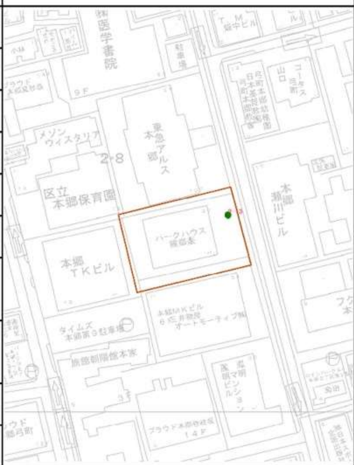
①指定年月日　②所在地　③所有者　④管理者　⑤樹種名　⑥樹高　⑦胸高直径

⑧説明版の有無　⑨周辺状況　⑩生育状況　⑪活力度　⑫調査年月日

樹　木　調　査　票

所在地	本郷　1　丁目　28　番　32　号		
指定年月日	昭和・平成　54　年　10　月　1　日		
樹種	クスノキ		
樹高	24　m	直径	286　cm
指定番号	第　2　―　13　号		
	解説番号等　有		
所有者	住所 氏名 電話		
管理者	住所 氏名 同上 電話		
指定解除	年月日	平成　年　月　日	
	理由		

所　在　地　案　内　図



※ 周辺状況
・庭の植え込み

※ 生育状況で気づいたこと
・良好

調査年月日	令和　5　年　9　月　19　日	整理番号	206

健康度の評価

調査項目	評価基準 1	2	3	4
樹勢	旺盛な生育状態を示し、被害が全く見られない	いくぶん被害の影響を受けているがあまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が劣悪で回復の見込みがない
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形が完全崩壊され奇形化している
梢端の枯損	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極度に短小ししょうが状の節間がある
葉色	正常	やや異常	かなり異常	著しく異常

図Ｉ－３　保護樹木調査票記載例

７－３．樹林・公園緑地調査

７－３－１．樹林調査

樹林調査では、樹林地を下記の抽出条件で空中写真判読により抽出した。抽出した樹林地については現地調査を実施し、樹林の状況を調査した。抽出・現地調査結果は、樹林地の位置等を樹林分布図に表示し、他の調査項目は一覧表を作成して、区域別、都市構造区分別、施設別（公共・民有）に集計・整理した。

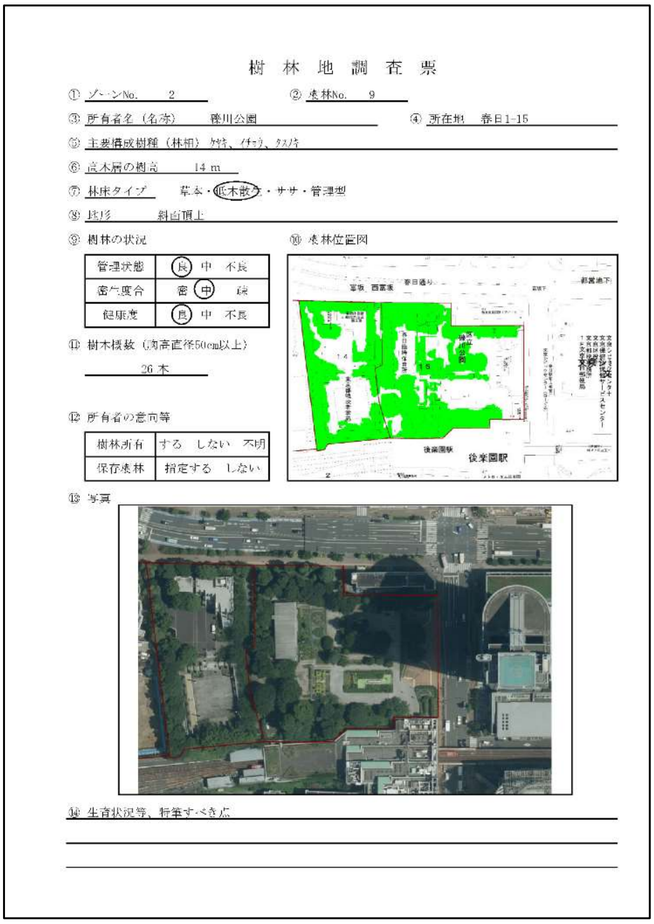
なお、樹林地の抽出および樹林分布図の作成は、GIS*でおこなっており、樹林地の面積計測も同様である。使用した調査票を図Ｉ－４に示す。

樹林地の抽出条件

- ○ 面積が 300 ㎡以上で一定の広がりを持つ
- ○ 自然樹形もしくは自然樹形仕立である
- ○ 樹冠が重なり合っている
- ○ 樹高 10m 程度の高木により構成されている

調査項目

- ① ゾーン No.
- ② 樹林 No.
- ③ 所有者名（名称）
- ④ 所在地
- ⑤ 主要構成樹種（林相）
- ⑥ 高木層の樹高（m）
- ⑦ 林床タイプ
- ⑧ 地形
- ⑨ 樹林の状況
- ⑩ 樹林の位置図
- ⑪ 樹木概数
- ⑫ 所有者の意向等
- ⑬ 写真
- ⑭ 生育状況等、特筆すべき点
- ○ 面積（GIS で計測）


樹林地調査票

① ゾーンNo.　2　② 樹林No.　9

③ 所有者名（名称）　礫川公園　④ 所在地　春日1-15

⑤ 主要構成樹種（林相）　ケヤキ、イチョウ、クスノキ

⑥ 高木層の樹高　14 m

⑦ 林床タイプ　草本・低木散生・ササ・管理型

⑧ 地形　斜面頂上

⑨ 樹林の状況

管理状態	良　中　不良
密生度合	密　中　疎
健康度	良　中　不良

⑩ 樹林位置図

⑪ 樹木概数（胸高直径50cm以上）

26 本

⑫ 所有者の意向等

樹林所有	する　しない　不明
保存樹林	指定する　しない

⑬ 写真

⑭ 生育状況等、特筆すべき点

図Ｉ－４　樹林地調査票記載例

＊GIS：地理情報システム（Geographic Information System）のこと。情報をデジタル地図上に表現できる。
樹林地（緑被地）抽出方法については、P.9の「７－４－２．緑被調査」で詳細説明している。

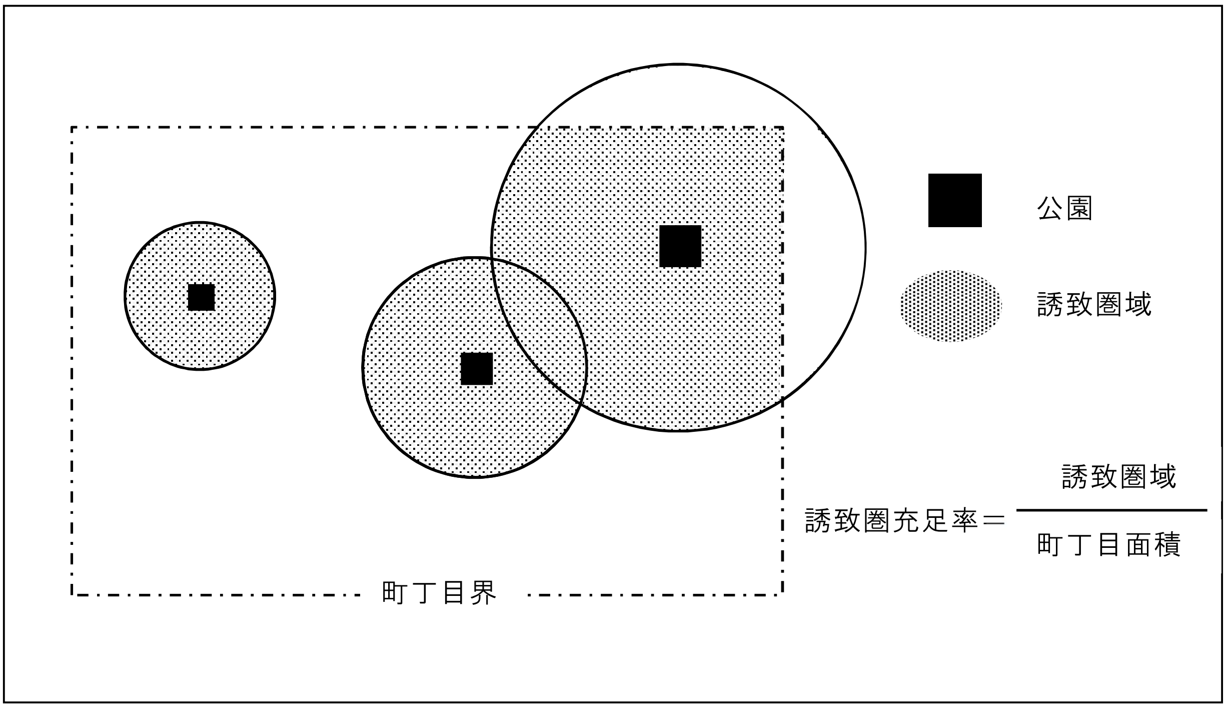
７－３－２．公園緑地調査

文京区内に存在する住区基幹公園および児童遊園を対象に、公園面積、誘致圏面積、誘致圏充足率（町丁目面積に対する誘致圏面積の割合）を計測した。計測方法は、東京都1/2500DM データに公園等をプロットし、公園区画の重心点を中心とした誘致圏を設定し、GIS 上にて面積計測をおこなった。

公園種別による誘致距離および誘致圏充足率算出方法は、表Ｉ－２、図Ｉ－５に示す。

表Ｉ－２　公園の種類による誘致距離

種　　類	誘致距離	備　　考
区立児童遊園	150m	街区公園に準ずるものとして扱った。
区立公園（0.8ha 未満）	250m	街区公園（誘致距離 250m）に対応するものとして扱った。
区立公園（0.8ha 以上）	500m	街区公園（誘致距離 500m）に対応するものとして扱った。



図Ｉ－５　誘致圏充足率の算出方法

７－４．緑被調査

７－４－１．空中写真撮影とオルソ画像*の作成

（１）調査用空中写真撮影

緑被地の抽出を行うため、下記の諸元においてデジタル空中写真を撮影した。なお、撮影時期は、空中写真による緑被判読の適期である夏季（6 月～9 月）に設定した。

撮影諸元

○ 撮影日	令和５年７月１０日
○ カメラ	UltraCam Falcon Prime
○ 焦点距離	F＝７０．５００mm
○ 基準面	０ｍ
○ 撮影高度	１，１０５ｍ
○ 地上画素寸法	１０ｃｍ
○ 撮影波長帯	可視域 3 波長（RGB)、近赤外域 1 波長

（２）オルソ画像の作成

緑被地を抽出する際の精度を高めるために、撮影したデジタル空中写真データからオルソ画像*を作成した。

７－４－２．緑被調査

（１）判読基準

緑被調査における緑被地の判読項目と判読基準を表Ｉ－３に示す。この基準にしたがって、オルソ画像から画像解析により緑被地を抽出した。

表Ｉ－３　緑被地抽出の判読基準

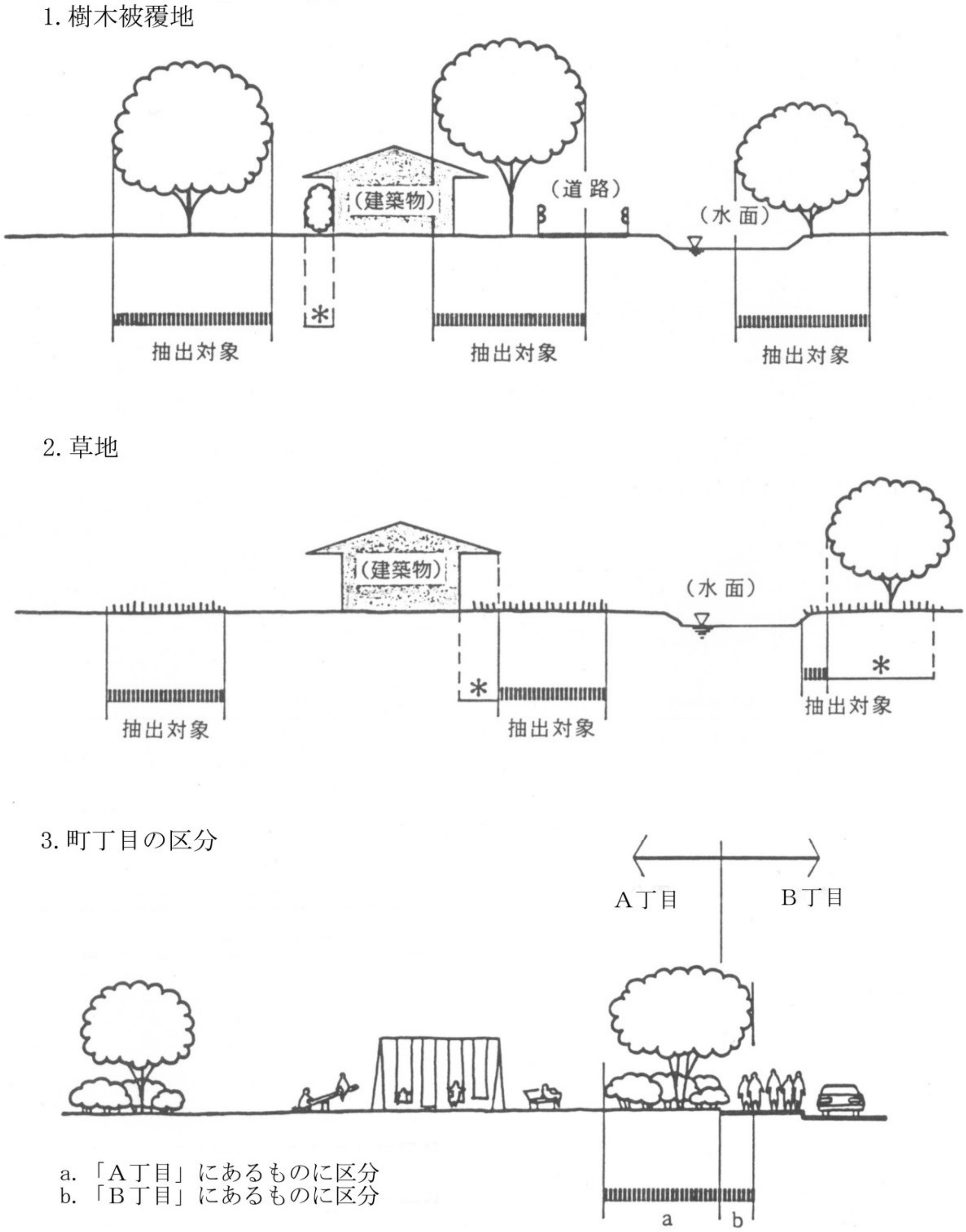
判 読 項 目	判　読　基　準
樹木被覆地	立体的な緑（樹木）で被覆されている面
草地	平面的な緑で被覆されている面
裸地	グラウンド、庭、公園、空き地、駐車場、社寺境内等の 土の露出している面
水面	河川や池 等

＊オルソ画像：空中写真を東京都 1/2,500DM を基図に重ね合わせにより正射投影し、幾何補正された写真画像。

（２）調査水準

緑被調査の調査水準にあたっては、「緑被率標準調査マニュアル」（東京都環境保全局、昭和 63 年 10 月）に準拠し、調査水準Ⅰ（街路樹、生垣などの小さな緑被地まで計測する調査基準で、地上での大きさ 1m程度）のレベルで実施した。

樹木被覆地、草地の抽出対象および緑被地の町丁目別区分は図Ⅰ－６に示す。



（緑被率標準調査マニュアルより加筆修正）

図Ⅰ－６　抽出対象と緑被地の町丁目別区分の方法

（３）画像解析処理

東京都 1/2,500DM を基図として製作されたオルソ画像（図Ⅰ－７）をもとに、画像解析処理により緑被を判読・抽出し、判読項目別にポリゴンデータ（面構造の空間データ）を作成した。ポリゴンには判読した項目を属性として入力している。

オルソ画像は基図（東京都 1/2,500DM）から GCP（基準点）を取得し、幾何構造の調整を行っているが、空中写真の収縮は完全に補正できない。したがって、基図とオルソ画像の間には同一地点で一部ズレが生じる。

また、基図には建物の平面形状が記載されているが、道路などと異なり測量誤差が大きい。したがって、基図とオルソ画像のズレは幾何補正の位置精度だけでなく、測量誤差によるズレも生じている。

このため緑被を抽出する際、緑被ポリゴンを基図に合わせ、画像上の緑被を変形し調整するか、またオルソ画像上の緑被面のまま作成するかという二つの調整法が考えられる。

本調査では以下の理由により、オルソ画像上で識別できる緑被面をもとに、ポリゴンを作成した。

① 本調査では緑の空間データベースを作成し、オルソ画像データもそのデータベースに構成される。空間データベースの運用時にオルソ画像と緑被のデータを重ね合わせた場合、基図ベースの調整ではオルソ画像上に不自然なポリゴン形状の緑被をみることになる。

② オルソ画像の判読精度と本調査以前の判読精度と比較すると、オルソ画像ベースの判読精度が高く、解析上は問題とならない。

可視画像　　　　近赤カラー画像

図Ⅰ－７　オルソ画像

（４）緑被地等の抽出方法

以下の手順により緑被地等（樹木被覆地、草地、裸地、水面）を抽出した。

緑被地等の抽出の流れと抽出した結果の画像を図Ｉ－８に示す。

①　解析用画像の作成

調査水準の精度（水準Ｉ）を念頭に画像解析における処理の効率化、過剰な情報による誤分類の低減を目的とし、オルソ画像に再配列処理を施した解析用の画像を作成した。

②　指標画像の作成

解析用画像を使用して、植生指標などの指標画像を作成した。

③　樹木被覆地・草地の分類・抽出

画像処理により指標画像から植生（樹木・草地）を分類し、誤分類を補正する処理を加えて樹木被覆地・草地をそれぞれ抽出した。

④　裸地・水面の分類・抽出

画像処理により指標画像から土壌面（土・砂地）、水域を分類し、誤分類を補正する処理を加えて裸地・水面をそれぞれ抽出した。

⑤　目視判読による調整

抽出した緑被地等について、目視判読による補正を加えて最終的な調整を施した。

⑥　緑被地画像の作成

抽出した緑被地等について、最小単位が 0.5m 相当の情報となるよう画像変換処理を施して、最終的な緑被地画像を作成した。

① 解析用画像の作成

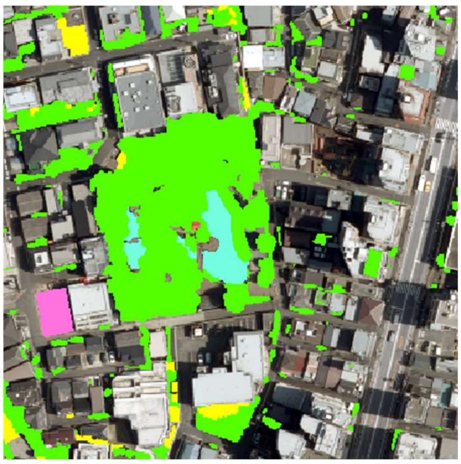
② 指標画像の作成

③ 樹木被覆地・草地の分類・抽出

④ 裸地・水面の分類・抽出

⑤ 目視判読による最終調整

⑥ 緑被地等画像の作成



■ 樹木被覆地

■ 草地

■ 裸地

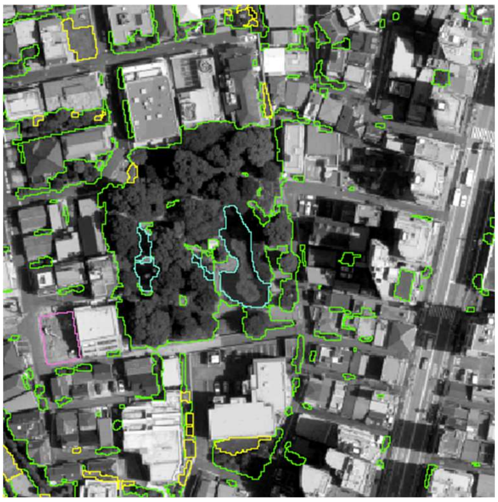
■ 水面

図Ｉ－８　緑被地等の抽出の流れと結果

（５）緑被ポリゴンの作成

抽出した緑被地等の画像について、GIS 上でポリゴンとして表示するための変換処理を施し、緑被ポリゴンデータを作成した。（図Ⅰ－９）

また、各ポリゴンには、その計測した面積値や町丁目区分等を属性情報として付加した。



図Ⅰ－９　緑被ポリゴンデータ

（６）緑被の面積計測および集計・分析

緑被面積の計測は、ポリゴンデータの面積値をもとに、集計単位ごとに面積集計した。

集計単位は、区全域、区域、町丁目、都市構造区分、用途地域、施設（公共・民有）、道路、河川とし、各区分において集計した。

また、緑被地から以下の緑被情報も算定し、集計をおこなった。

○ 緑被率

緑被地面積（樹木被覆地と草地の合計）が敷地に占める割合を緑被率として算出した。

緑被率　＝　（　樹木被覆地　＋　草地　）　／ 敷地面積　×１００

○ みどり率

緑被地、水面、公園空地*の合計面積が敷地に占める割合をみどり率として算出した。

みどり率　＝（ 緑被地　＋　水面 ＋ 公園空地* ）／ 敷地面積　×１００

＊公園空地：公園敷地から樹木被覆地、草地、水面を除外した領域。

○ 緑化余地率

草地、裸地の合計面積を緑化余地とし、敷地に占める割合を緑化余地率として算出した。

緑化余地　＝　（　草地　＋　裸地　）　×　２０／１００

７－４－３．都市構造区分図の作成

（１）都市構造区分図の作成方法

都市構造区分は表Ｉ－４ の区分凡例と判読基準により判読した。都市構造区分図は判読結果をもとに作成した。

表Ｉ－４　都市構造区分の種別と判読基準

種別	判読基準
低層建築群	２階建以下の建築群
高層建築群	３階建以上の建築群
工場用地	大工場敷地、中小工場群、それに準じるもの
社寺用地	神社、寺院、教会、墓地等
個人庭園	個人住宅
学校用地	学校、研究所、教育施設
公園緑地	公園、テニスコート、運動場
交通施設	幅員１５ｍ以上の道路、鉄道敷、操車場
河川	水面
その他	遊園地、病院、空き地、駐車場、その他

注：河川は、河川緑化調査での河川区域とは一致しない。

（２）作業方法

作業は GIS 上でおこない、下記の手順によりポリゴンを作成し、種別を属性として入力した。

都市構造区分の判読手順

①交通施設、河川を区分

②学校用地、公園緑地、社寺用地、個人庭園、その他を区分

③残ったところを工場用地、高層建築群、低層建築群の順に区分

○ 区分の最小単位

基本的に 5,000 ㎡

○ 基準以下の種別要素

周囲の種別要素に区分し、ポリゴン作成

○ 複数の種別要素が混在する場合

低層建築群、高層建築群、工場用地等が混在している場合には、

50％以上を占める種別要素、または最も優勢な要素で区分

７－４－４．屋上緑化調査

大都市におけるヒートアイランド現象の対策として、緑被面積の拡大が課題の一つとなっており、建築物の屋上は有効な緑化空間として注目されている。屋上緑化調査では実態を把握するとともに緑化可能屋上についても調査した。

屋上緑化の実態調査は、屋上やベランダ等において樹木、草花などの緑で被覆されている範囲をオルソ画像より抽出し、ポリゴンを作成後集計した。

また、緑化可能屋上として次の基準を用いてオルソ画像より抽出し、ポリゴンデータを作成して集計した。

緑化可能屋上抽出基準

○ コンクリート造、または重量鉄骨造の建築物

○ コンクリートや軽量コンクリート底板等の中重荷重屋根を持つ建築物

○ 屋根傾斜が 2/10 までの緩傾斜屋根を持つ建築物

○ 建物屋上面積が 100 ㎡以上の建築物（屋上緑化されているものは 100 ㎡未満のものも抽出）

集計結果をもとに、緑化可能屋上総面積、屋上緑化総面積から屋上緑化率を算出し、区内の屋上緑化状況を把握した。

７－４－５．壁面緑化調査

壁面緑化調査は、建築物等の壁面、擁壁、河川法面の緑化状況を把握するためにおこなった。調査方法は、対象壁面の位置および面積を現地調査した。調査結果をもとに、緑化件数および緑化面積を町丁目別、都市構造区分別に集計し算出した。

調査対象の壁面

○ 壁面の規模　　　：緑化面積 5 ㎡以上の壁面（枝葉の広がった面積）

○ 建築物等の種類　：建築物、屋根傾斜 2/10 を超える屋上、擁壁、河川法面等

７－５．緑視率調査

緑被率が地域の緑の総量を把握する指標に適しているのに対し、緑視率は住民などの地域に関わる人々が緑を実感する度合いを把握する指標に適している。

したがって、緑視率の計測では、人間の視野に近い画角で撮影された写真を用いて計測する。計測方法は画像内の緑の面積を計測し、画像全面積に対する緑の面積の割合を占有率として、その占有率を緑視率としている。

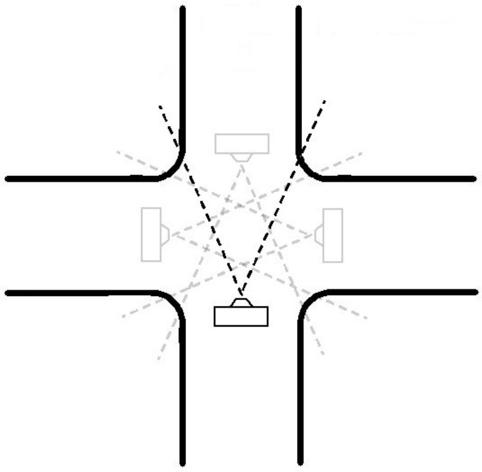
緑視率調査の地点は、前回調査まで定点撮影が行われており、本調査でもこの定点を調査地点とした。定点の設定方法は、調査区域にかけたメッシュ交点（140m×140m）に近い道路の交差点を定点として設定している。この方法で設定された調査地点数は 212 地点である。写真撮影の方法を図Ｉ－１０に示す。

撮影方法

撮影方向：交差点で４方向、T 字路では３方向

撮影地点：下図のとおり

使用レンズ：デジタルカメラ 50mm



図Ｉ－１０　撮影方法（交差点）

画像内の計測範囲は、図Ｉ－１１のように交差点の隅切り部より奥とし、周辺部分も撮影されている場合はトリミングし、すべての画像の計測範囲を一定に設定した。

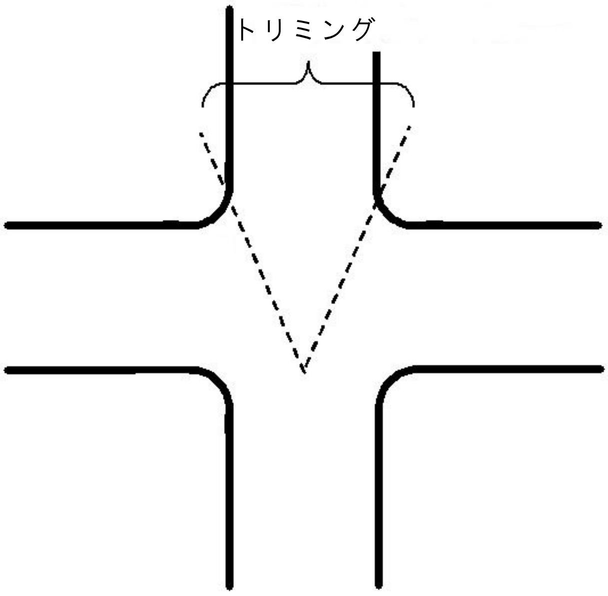
撮影された写真は、１方向ずつ画像面積を計測した。計測結果より各方向別の緑視率を算出し、交差点すべての方向の緑視率より平均値を求めて集計した。集計は町丁目別、区域別におこなった。

計測範囲

撮影方向にみえる緑について、交差点の隅切り部から奥の範囲で計測する。

計測対象外の周辺部分は、トリミング処理して除外する。

撮影画像（弥生２丁目付近、緑視率 24.6%）



図Ｉ－１１　計測範囲

７－６．道路および河川に関わる緑の調査

道路・接道（沿道）緑化が本区の緑の重要部分であり、緑被率に大きな影響を与えていることから、これらの領域の緑について調査を実施した。また、今回から新たに河川の緑化についての調査も実施した。

７－６－１．道路内植栽調査

（１）道路植栽調査

区内の国道、都道、区道の延長、植樹帯および街路樹の位置、形状を調査し、道路種別ごとに街路樹の本数、主な樹種および緑化面積を集計した。

（２）ポケットパーク・グリーンスポット調査

区内の国道、都道、区道上におけるポケットパーク・グリーンスポットの面積および位置、形状、樹木本数を調査し、種別ごとに集計した。

７－６－２．接道緑化調査

（１）調査内容

接道緑化調査は道路の接道部分の緑化情況を把握するためにおこなった。対象道路は区内の国道、都道、区道を対象とし、その接道緑化率と接道緑被率を把握した。接道緑化率は接道延長に対する接道緑化延長の割合とし、接道緑被率は対象道路の境界から敷地側 5m以内の樹木被覆地および草地の面積を接道緑被地とし、接道面積に対する割合とした。

以下に計測項目と算出方法を示す。

計測項目

- ○ 接道延長
- ○ 接道面積（道路と敷地側 5m 以内の面積）
- ○ 接道緑化延長
- ○ 接道緑被地

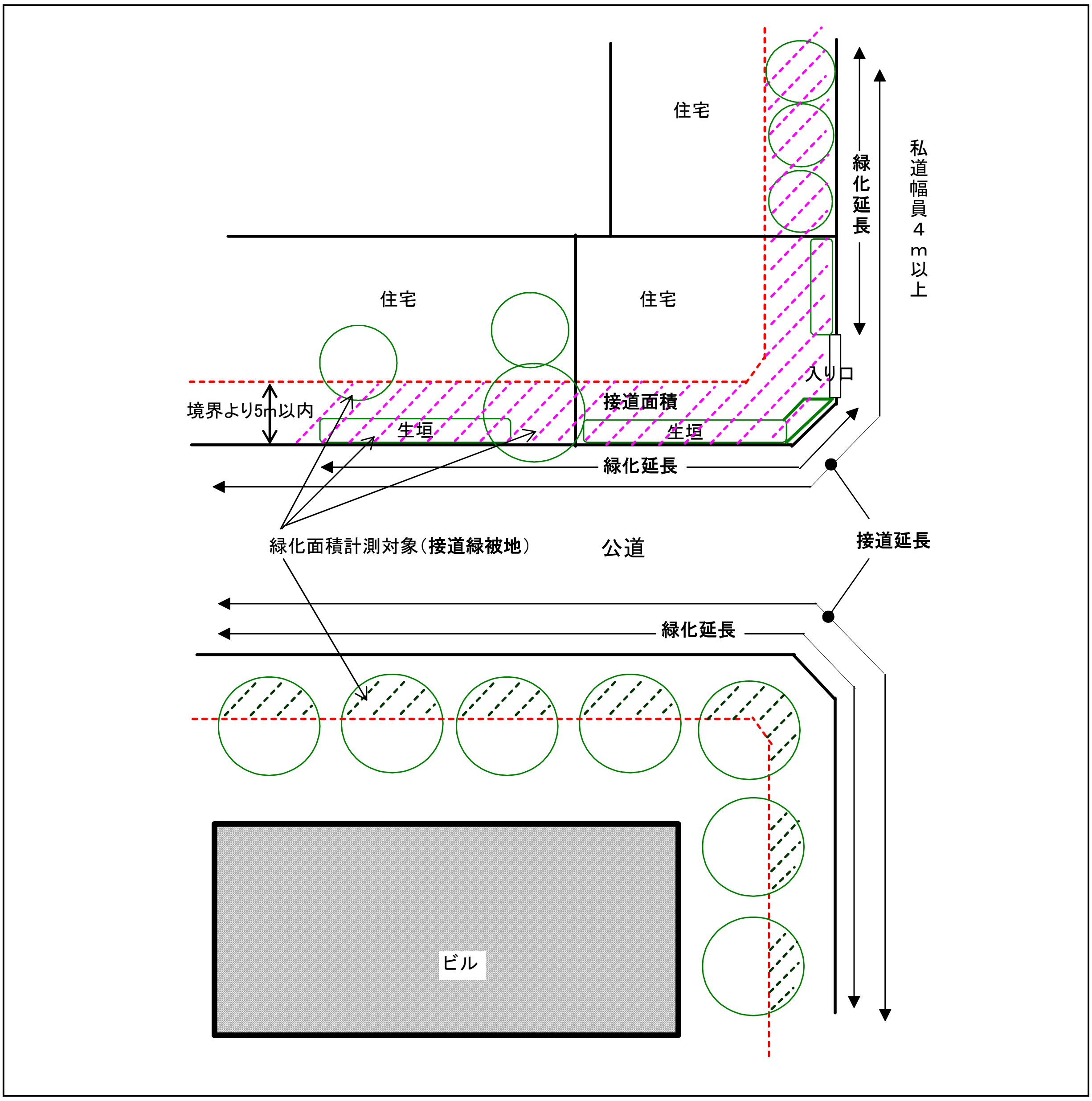
算出方法

- ○ 接道緑化率　＝　接道緑化延長　÷　接道延長
- ○ 接道緑被率　＝　接道緑被地　　÷　接道面積

（２）計測方法

接道延長および接道緑化延長は GIS 上で計測し、接道面積は GIS 上で接道線から 5mの範囲でバッファを設定し面積計測した。

また、接道緑被地の面積は GIS 上で緑被調査結果のデータをもとに接道面積の範囲内にある緑被地をバッファ解析し計測した。（図Ｉ－１２）



図Ⅰ－１２　接道緑化の計測

７－６－３．河川緑化調査

（１）調査内容

本区の河川区域（神田川）の緑化状況を把握するために河川緑化調査を行った。河川区域を３つの範囲（関口区域、水道・後楽区域、本郷・湯島区域）に区分し、それぞれに分布する緑被地を抽出して河川区域の緑化と樹木の状況を把握した。

（２）計測方法

設定した３つの河川区域において、緑化面積および緑比率については緑被調査（７－４－２）で抽出した緑被地のデータから算出し、樹木本数については樹木調査（７－２）で測定した樹木データから集計した。

７－７．緑に関わる環境の状況

緑の状態、分布は、本区のさまざまな環境に対して関わっている。ここでは、緑との関連性が高い地表面温度と生物に着目し、その状況について分析した。

７－７－１．地表面温度の状況

人工衛星から観測した日中の熱赤外線画像を用いて、文京区全域の地表面温度を調査し、ヒートアイランド現象等の社会的な課題も踏まえた上で、地表面温度分布情報とオルソ画像から抽出した緑被分布、既存の施設（公園など）、地形など、各種情報を取り入れ、文京区の緑との関わりについてとりまとめ、分析した。

（１）衛星データ

衛星により以下の日時に観測された熱赤外線画像データを入手した。

衛星画像
○・2023 年 7 月 11 日（火）（午前 10：15）

（２）調査内容

衛星により観測された熱赤外線画像をもとに、温度換算した地表面温度画像を作成し、既存の空中写真オルソ画像と整合するように幾何補正処理等を施して調整した。

地表面温度情報について、緑被情報、公園等の施設やオープンスペースの情報、地形情報などの各種情報と共に総合的な評価をおこない、文京区の緑と温度との関連性について、ヒートアイランド現象を基軸にして分析した。

７－７－２．生物多様性の状況

「文京区生物多様性地域戦略（平成 31 年 3 月）」から、区内に生息する多様な生物と緑地・水面などの生物生息地と分布について整理し、分析した。

（１）調査内容

「文京区生物多様性地域戦略」から、動植物の状況、貴重な種の確認状況、外来生物や特徴的な生物の状況、ビオトープのタイプ別の状況について、それぞれ整理、分析した。

７－８．緑の地域カルテ

区域別に緑の状況と今後のあり方等を緑のカルテとして取りまとめた。

緑のカルテ

○　基礎データ

面積、人口、用途地域、樹木本数、樹木密度、保護樹木本数、緑被率、樹木被覆地率、緑視率、公園充足率

○　緑のタイプと現況

緑被地の所有、主要な緑被地、緑被地の規模、現況

○　緑の分布

緑被調査の緑被分布図（樹木被覆地、草地、裸地、水面、屋上緑化）

○　緑の評価

緑被率、緑被変化率、樹木密度、緑視率、公園充足率、緑化余地率

○　今後の課題

７－９．緑の特徴と今後の課題

７－１から７－８までの調査結果をもとに、文京区の緑の特徴、今後の課題についてとりまとめた。

整理項目

○　文京区の緑の特徴、課題

・樹木・保護樹木
・樹林地
・公園
・緑被率・みどり率
・屋上緑化・壁面緑化
・緑視率
・道路
・地表面温度
・生物多様性

○　緑の構造からの課題

・環境保全系統からの課題
・レクリエーション系統からの課題
・防災系統からの課題
・景観系統からの課題

Ⅱ　文京区の緑をとりまく環境

Ⅱ　文京区の緑をとりまく環境

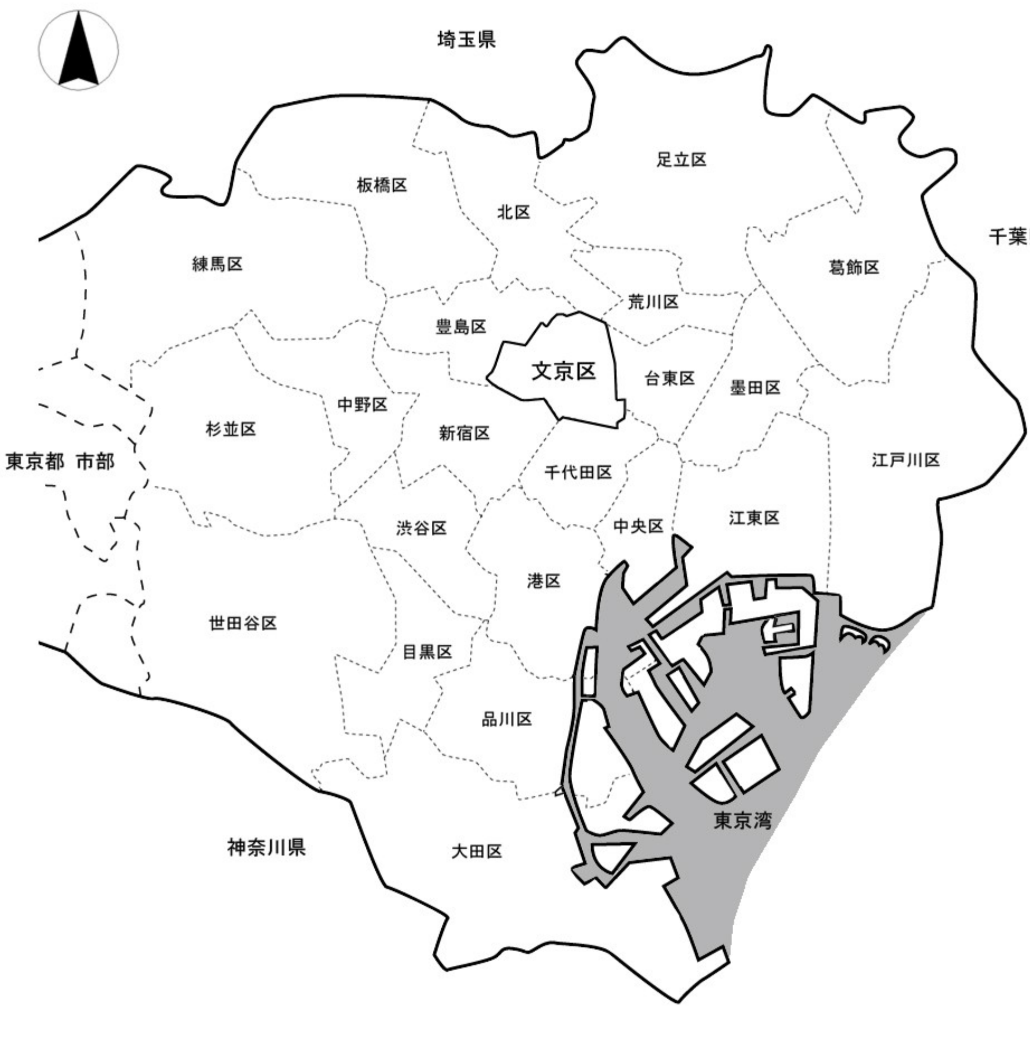
１．文京区の概要

東京都区部の中央部に位置し、千代田区、新宿区、豊島区、台東区、北区、荒川区に接している。（図Ⅱ－１）

区の面積は 11.29ｋ㎡、人口 232,177 人（住民基本台帳による外国人住民含む統計値／令和６年１月１日現在）である。面積では 23 区中 20 位、人口では 18 位となっており、人口密度が４位と高く、都心部の中では住宅地としての特徴が強い。

区内の主要施設には、大名庭園や社寺、小石川植物園などの歴史的な沿革を持つものが多く、また東京大学をはじめ多数の学校を要する文教地区となっている。このため都心部の中では緑の豊かな地域である。

本区では、緑の取り組みとして「文京区みどりの基本計画」を策定し、公共施設や民有地を含めた総合的な緑の保全と創出並びに緑化の将来像を示す指針としている。



図Ⅱ－１　文京区の位置

２．自然的背景

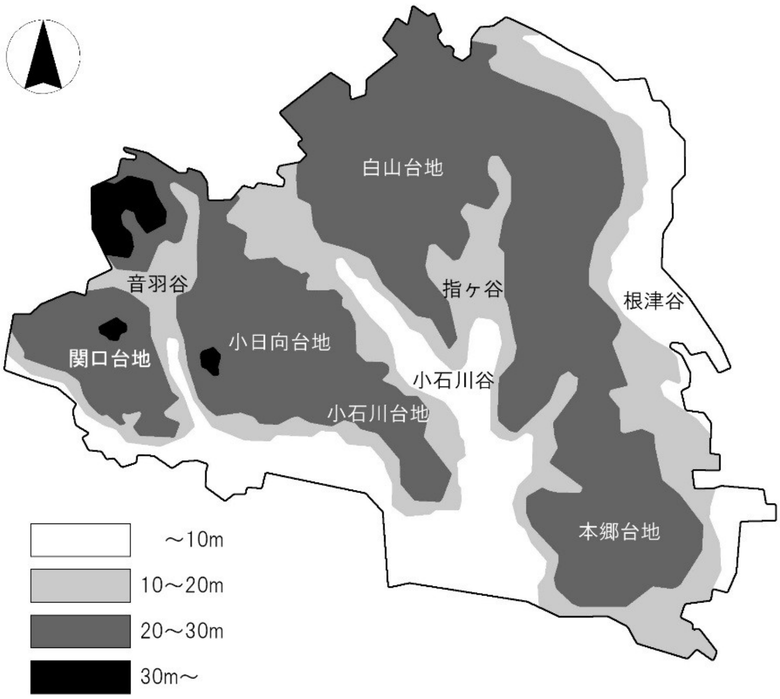
（１）地形と地質

本区は武蔵野台地の最東端に位置し、東側の隣接地域には中川・荒川低地が広がっており、図Ⅱ－２に示すように、台地と台地にかこまれた幾つかの谷から成り立つ谷戸地形を呈している。

区の西側から、関口台地、小日向台地、小石川台地、白山台地、本郷台地の５つの台地に分かれ、音羽谷、小石川谷、指ヶ谷、根津谷の４つの谷が台地の奥へ入り込んでいる。

南部と東部は、神田川、千川・藍染川（ともに現在暗渠）などにつくられた低地となっている。台地と低地の面積割合では、台地の面積が大きく、武蔵野台地の地形的支配が強いことが特徴である。

このような地形の特性が、江戸時代から現在に至る本区の土地利用の遠因ともなっている。つまり、台地上や台地から谷へ移行する斜面上に大きな敷地の大名屋敷や武家屋敷が建てられ、そこが公共・文教施設などへ引き継がれて現在の本区の緑を形成している。



図Ⅱ－２　文京区の地形

台地面の地質は関東ローム層と呼ばれる洪積層からなり、多孔質で団粒構造となりやすい火山灰土壌を生成する。この火山灰の表層土壌は別名クロボクともいわれ、良質な畑土であると同時に植物の生育にも適した土壌である。

低地面は沖積層で構成され、泥質土ないしは粘質土である。この土壌は養分に乏しく水はけが悪いため、畑や植物の生育基盤にはあまり適していない。

（２） 気候

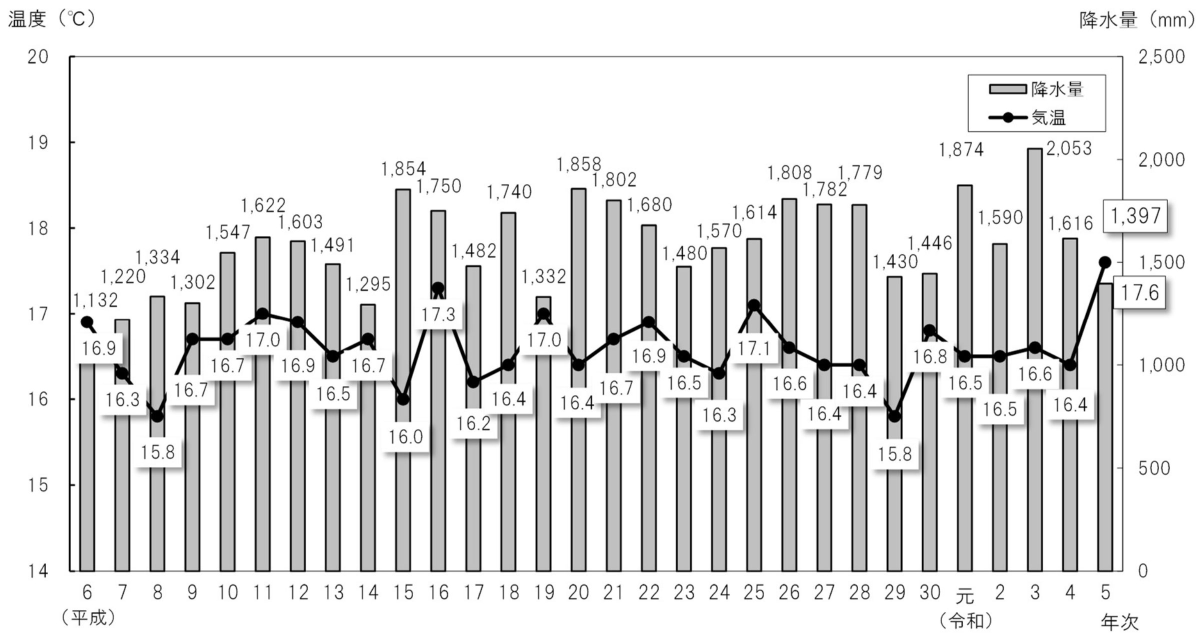
本区付近（気象庁 東京管区気象台）で観測された令和 5 年の平均気温と年間降水量および過去 30 年の気候の推移を表Ⅱ－１、図Ⅱ－３にそれぞれ示す。

過去 30 年の年間降水量には際立った傾向は確認されないが、温度は上昇傾向にあることがわかる。これは、世界的な気候変動はもとより、都市部特有のヒートアイランド現象も一因とみられ、本区もその影響を受けていると考えられる。

表Ⅱ－１　文京区付近の気候

令和５年 平均気温	令和５年 年間降水量
１７．６℃	１，３９７mm

（参考：気象庁 気象統計情報／観測地点；東京管区気象台）



（参考：気象庁 気象統計情報／観測地点；東京管区気象台）

図Ⅱ－３　文京区付近の過去 30 年の気候推移

（３） 植生

本区の気候帯に対応する植生はヤブツバキクラス域に属する。東京都植生調査報告書（昭和 62 年）によれば、東京都区部の潜在自然植生は台地面でスダジイ－ヤブコウジ群集、海に近いところでタブノキ－イノデ群集とされている。これは地形・地質の特性とも合致する植生立地である。

現存する自然度の高い植生には、自然植生としてスダジイ－ヤブコウジ群集（後楽園、六義園、関口１丁目の一部）、タブノキ－イノデ群集（後楽園）がみられ、代償植生の樹林地には、ムクノキ－ミズキ群落（後楽園）、コナラ－イイギリ群落（肥後細川庭園）がみられる。

３．歴史的背景

本区は、江戸城の隣接地域として江戸時代から開発整備がなされてきた。岩槻街道と中山道（追分－東大農学部前で分岐）の街道が整備され、その沿道に本郷地域を中心とした市街地が整備された。また台地面には大名、旗本の屋敷用地が確保され、土地利用の骨格が形成された。

主な大名屋敷跡には、小石川後楽園（水戸藩）、六義園（柳沢吉保邸）、小石川植物園（五代将軍徳川綱吉別邸）、東京大学本郷キャンパス（加賀藩）などがあり、かつての大名屋敷のいくつかは、現在では大規模な緑地となっている。

社寺は、江戸初期に御曲輪内に御家人を住まわせるために濠の外に社寺を移したことに始まる。さらに、五代将軍綱吉の代には根津神社や護国寺の二大社寺が建立され、社寺周辺の低地は寺町として商業が栄えた。

明治以降は、台地面の武家屋敷は公園用地や公共用地、住宅地となり、低地には印刷業を中心とした商工業が発達した。

これら本区の歴史的由来を背景に持つおもな緑地について表Ⅱ－２に示す。

表Ⅱ－２　おもな緑地の歴史的由来

名　　称	歴 史 的 な 由 来
小石川後楽園	水戸藩徳川家の上屋敷の庭園。昭和13年東京市立公園。
六義園	五代将軍綱吉の側用人柳沢吉保の下屋敷。昭和13年東京市立公園。
小石川植物園	五代将軍綱吉の館林城主時代の別邸（白山御殿）。「小石川御薬園」が植物園の前身。
東京大学本郷キャンパス	加賀藩前田家の上屋敷。
東京大学弥生・浅野キャンパス	水戸藩徳川家の中屋敷。
教育の森公園・占春園	守山藩松平家の上屋敷。旧東京教育大学跡地。
肥後細川庭園	熊本藩細川家の下屋敷。
椿山荘	上総久留里藩黒田家の下屋敷。
関口芭蕉庵	藤堂家の神田上水工事に参加した松尾芭蕉のゆかりの地。
湯島聖堂	五代将軍綱吉が上野忍ヶ岡から現在地に移した。
豊島岡墓地	明治6年明治天皇の第一皇子の墓所となり、以後皇族の墓所となる。
大塚先儒墓所	江戸時代幕府の儒官の墓所。寛政の三助はじめ室鳩巣の墓がある。
根津神社	1900年近く前に創祀したと伝える古社。五代将軍綱吉の兄甲府中納言綱重の屋敷。
湯島天満宮	5世紀に創建と伝えられ、14世紀に菅原道真を勧請して合祀した。のち太田道灌が再興。
富士神社	加賀藩前田家が上屋敷を賜るにあたり、その地にあったものを現在地に移した。
白山神社	10世紀に建立。五代将軍綱吉と生母桂昌院の崇敬を受けた。
護国寺	五代将軍綱吉の生母桂昌院の願いにより創建した祈願寺。
伝通院	正称寿経寺。家康の生母伝通院（於大の方）の菩提寺。
吉祥寺	曹洞宗の宗門随一の栴檀林（学寮）があった。

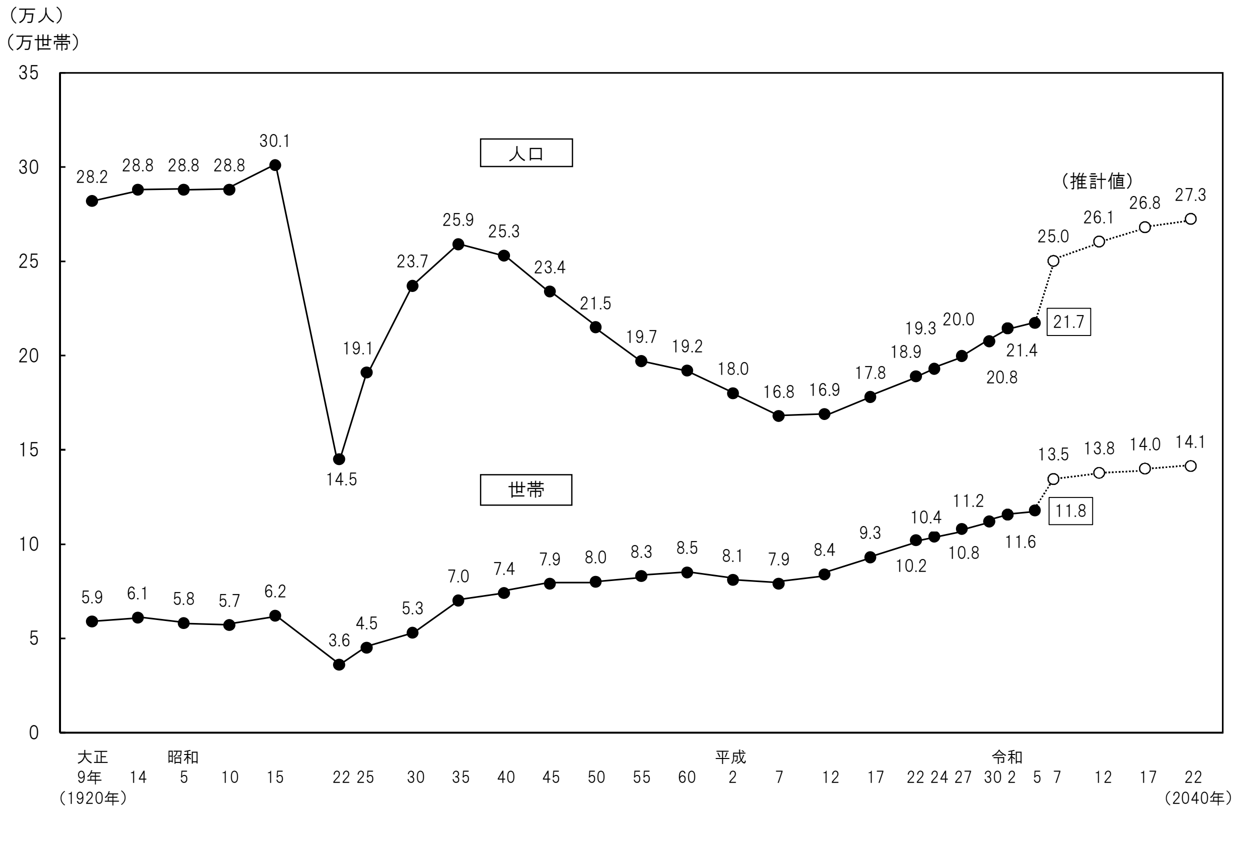
４．社会的背景

（１）人口

文京区の人口推移を図Ⅱ－４に示す。

人口は大正から昭和初期にかけて約 30 万人を超えるまでになっていたが、戦争の影響で昭和 15 年以降は激減した。戦後の復興とともに再び増加傾向に転じて、昭和 30 年代半ばに 25 万人を超えるまでになった。その後、平成 7 年までは減少傾向で 17 万人を下回るまで下がったが、現在では 20 万人超まで徐々に上昇して推移している。東京都全体の人口推移予測では、増加傾向は令和 12 年（2030 年）頃にピークに達した後、徐々に沈静化し、減少傾向に転じると考えられているが、文京区の人口推計値では、今後も緩やかな上昇傾向にある。

なお、令和 5 年までの人口、世帯数は、住民基本台帳に基づく数値であり、過去と統計値と比較するために、外国人住民を除いた値を使用している。また、推計値については、国勢調査に基づく数値となる。



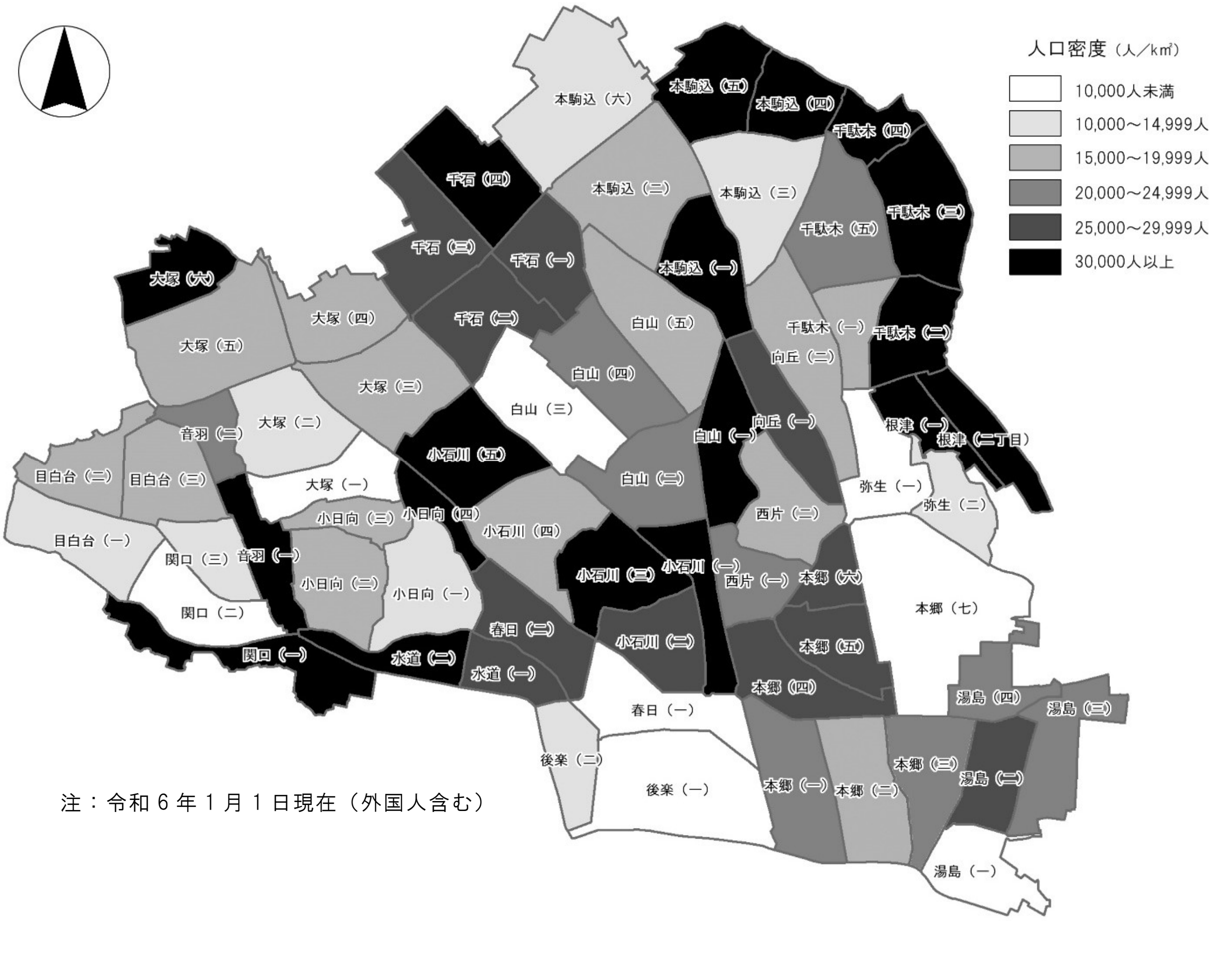
（出典：第 55 回文京の統計、東京都区市町村別人口の予測／令和 5 年 3 月、東京都世帯数の予測／平成 31 年 3 月）

図Ⅱ－４　文京区の人口の推移

町丁目別の人口密度の分布を図Ⅱ－５に示す。

町丁目別の人口密度は、根津１丁目・２丁目、千駄木２丁目・３丁目・４丁目、本駒込４丁目・５丁目などの不忍通り沿い（根津谷）、白山１丁目、小石川１丁目などの白山通り沿い（小石川谷）、音羽１丁目（音羽谷）、水道２丁目など、地形的に低地となっている地域において高い傾向を示している。また、小日向４丁目、小石川５丁目、千石４丁目、大塚６丁目など、主要な駅に近い地域も人口密度が高くなっている。

一方、本郷７丁目（東京大学本郷キャンパス）、後楽１丁目（小石川後楽園、東京ドーム）、白山３丁目（小石川植物園）など、公園や敷地面積の大きな緑地、大学等の規模の大きな学校施設、密集したオフィスビルや商業施設等が存在する町丁目では、人口密度は低くなっている。



注：令和６年１月１日現在（外国人含む）

（出典：文京区人口統計資料NO.866 町丁別世帯・人口(住民基本台帳)）

図Ⅱ－５　町丁目別人口密度

（２）土地

区の土地利用に関して地域別の行政面積および民有地面積は表Ⅱ－３に示すとおりであり、民有地面積については区部の平均的な比率と同じ程度の数値を示している。また、前回調査（平成 30 年度）との比較では変化はみられない。

民有地には地目別として宅地が含まれ、その用途別の内訳を表Ⅱ－４に示す。

用途別の内訳では、住宅地区が構成比では区部の平均値より下回っているものの、本区の 80%以上を占めている。商業地域は構成比で区部の平均値を上回り、工業地域は区部の平均値を下回っている。文京区は工業系よりも商業系の土地利用が優先している区であると位置付けられる。

表Ⅱ－５に示される個人宅地の一人あたり面積 125 ㎡という数値は、区部平均の 171 ㎡と比べて 50 ㎡程下回っている。前回調査における個人宅地の一人あたりの面積は 129 ㎡、前々回調査（平成 24 年度）は 133 ㎡と、細分化の傾向が続いていることが推測される。

表Ⅱ－３　地域別行政面積および民有地面積の増減

（単位：k㎡、%）

区市町村名		行政面積		民有地面積				民有地増減	
		令和4年 (A)	平成29年 (C)	令和4年 (B)	(B/A)	平成29年 (D)	(D/C)	面積	比率
	千代田区	11.66	11.66	4.06	34.8	4.07	34.9	-0.01	0.0
	中央区	10.21	10.21	3.95	38.7	3.93	38.5	0.01	0.1
	港区	20.37	20.37	9.99	49.0	10.01	49.1	-0.02	-0.1
	新宿区	18.22	18.22	10.16	55.8	10.19	55.9	-0.03	-0.1
	文京区	11.29	11.29	5.95	52.7	5.95	52.7	-0.01	-0.1
	台東区	10.11	10.11	4.80	47.5	4.67	46.2	0.14	1.3
	墨田区	13.77	13.77	7.09	51.5	7.10	51.5	-0.01	-0.1
	江東区	43.01	40.16	15.61	36.3	15.59	38.8	0.02	-2.5
区	品川区	22.84	22.84	13.61	59.6	13.65	59.8	-0.04	-0.2
	目黒区	14.67	14.67	9.27	63.2	9.28	63.2	0.00	0.0
	大田区	61.86	60.83	25.78	41.7	25.79	42.4	-0.01	-0.7
	世田谷区	58.05	58.05	36.73	63.3	36.88	63.5	-0.14	-0.2
	渋谷区	15.11	15.11	8.48	56.1	8.34	55.2	0.14	0.9
	中野区	15.59	15.59	10.35	66.4	10.37	66.5	-0.01	-0.1
	杉並区	34.06	34.06	22.37	65.7	22.40	65.8	-0.03	-0.1
部	豊島区	13.01	13.01	8.16	62.7	8.20	63.0	-0.04	-0.3
	北区	20.61	20.61	10.45	50.7	10.48	50.9	-0.03	-0.1
	荒川区	10.16	10.16	5.86	57.7	5.90	58.0	-0.04	-0.4
	板橋区	32.22	32.22	18.49	57.4	18.49	57.4	-0.01	0.0
	練馬区	48.08	48.08	30.91	64.3	31.13	64.7	-0.22	-0.5
	足立区	53.25	53.25	28.48	53.5	28.51	53.5	-0.03	-0.1
	葛飾区	34.80	34.80	17.39	50.0	17.43	50.1	-0.04	-0.1
	江戸川区	49.90	49.90	24.02	48.1	24.08	48.3	-0.06	-0.1
	区部計	627.53	627.57	331.97	52.9	332.43	53.0	-0.46	-0.1

出典：東京都統計年鑑

注 1：課税資料より作成。（各年 1月1日現在）

2：民有地面積は評価総地積。（区分所有に係る土地および免税点未満を含む。）

3：行政面積は「全国都道府県市区町村別面積調」により作成。（前年 10月1日現在）

4：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

5：調査時点で公開されている統計のため緑地実態調査年度と年度は異なる。

表Ⅱ－４　宅地の用途別内訳

（単位：ha、%）

区市町村名		計		住宅地区		商業地区		工業地区		その他	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
	千代田区	365.2	100.0	48.0	13.2	317.2	86.8	－	－	－	－
	中央区	393.9	100.0	137.3	34.9	247.7	62.9	8.9	2.3	－	－
	港区	934.3	100.0	606.8	65.0	306.5	32.8	20.9	2.2	－	－
	新宿区	986.0	100.0	865.7	87.8	119.6	12.1	0.7	0.1	－	－
	文京区	587.5	100.0	511.3	87.0	71.6	12.2	4.6	0.8	－	－
	台東区	453.3	100.0	203.3	44.9	250.0	55.1	－	－	－	－
	墨田区	683.8	100.0	560.6	82.0	47.5	6.9	75.7	11.1	－	－
	江東区	1,494.1	100.0	1,041.5	69.7	78.4	5.2	374.3	25.0	－	－
区	品川区	1,149.9	100.0	935.0	81.3	78.5	6.8	136.4	11.9	－	－
	目黒区	911.2	100.0	879.5	96.5	31.7	3.5	－	－	－	－
	大田区	2,500.7	100.0	2,240.5	89.6	31.6	1.3	228.6	9.1	0.0	0.0
	世田谷区	3,508.2	100.0	3,485.1	99.3	22.9	0.7	－	－	0.2	0.0
	渋谷区	812.1	100.0	685.6	84.4	126.6	15.6	－	－	－	－
	中野区	1,006.3	100.0	988.7	98.3	17.6	1.7	－	－	－	－
	杉並区	2,164.3	100.0	2,146.7	99.2	17.5	0.8	－	－	0.0	0.0
部	豊島区	778.3	100.0	686.4	88.2	91.9	11.8	－	－	－	－
	北区	954.2	100.0	881.5	92.4	20.2	2.1	52.5	5.5	－	－
	荒川区	536.5	100.0	449.3	83.8	16.1	3.0	71.0	13.2	－	－
	板橋区	1,808.1	100.0	1,660.8	91.9	15.2	0.8	132.0	7.3	0.1	0.0
	練馬区	2,865.6	100.0	2,858.0	99.7	7.1	0.2	－	－	0.5	0.0
	足立区	2,735.2	100.0	2,551.7	93.3	35.1	1.3	148.3	5.4	0.1	0.0
	葛飾区	1,658.3	100.0	1,564.9	94.4	38.3	2.3	55.2	3.3	0.1	0.0
	江戸川区	2,332.1	100.0	2,188.0	93.8	33.5	1.4	110.3	4.7	0.3	0.0
	区部計	31,619.0	100.0	28,176.2	89.1	2,022.1	6.4	1,419.5	4.5	1.2	0.0

出典：東京都統計年鑑

注 1：課税資料より作成。（令和４年１月１日現在）

2：免税点未満を含む。

3：区分所有に係る土地を含む。

4：用途地区の定義を平成９年度から変更している。

5：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

表Ⅱ－５　宅地所有者あたり宅地面積

区市町村名		宅地所有者（人）	宅地面積（ha）	一人当たり面積（㎡）	増減
区部	千代田区	4,800	56.2	117	-2
	中央区	7,612	67.9	89	-2
	港区	12,823	187.3	146	0
	新宿区	32,727	470.3	144	-5
	文京区	25,928	325.2	125	-4
	台東区	22,239	235.6	106	-3
	墨田区	29,730	383.5	129	-6
	江東区	30,139	383.3	127	-6
	品川区	41,781	570.7	137	-6
	目黒区	36,755	608.7	166	-7
	大田区	91,473	1,562.2	171	-9
	世田谷区	133,648	2,623.6	196	-10
	渋谷区	23,902	380.2	159	-5
	中野区	47,918	746.2	156	-4
	杉並区	95,145	1,755.6	185	-8
	豊島区	35,411	517.5	146	-5
	北区	40,553	590.4	146	-7
	荒川区	24,684	342.0	139	-9
	板橋区	64,851	1,160.3	179	-8
	練馬区	123,732	2,537.1	205	-11
	足立区	104,435	2,066.1	198	-12
	葛飾区	73,498	1,290.4	176	-9
	江戸川区	97,644	1,740.3	178	-8
	区部計	1,201,428	20,600.6	171	-8

出典：東京都統計年鑑

注 1：課税資料より作成。（令和２年１月１日現在）

2：免税点未満を含む。

3：区部は区分所有に係る土地を除く。

4：増減は前回調査年次（平成 28 年１月１日現在）との比較。

5：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

（３）オープンスペース

本区における主要なオープンスペースの存在状況を図Ⅱ－６に示す。

区の中心部および東西南北の 4 方向に学校、公園、社寺、墓地等が分布し、大規模なオープンスペースを形成している。また、区の北部や西部には社寺、墓地等および公園が分散しており、小規模なオープンスペースが多く存在している。

図Ⅱ－６　オープンスペースの状況

Ⅲ　樹 木 の 状 況

Ⅲ　樹木の状況

１．樹木の状況

１－１．樹木本数の概況

本調査では胸高直径が 50cm 以上の樹木を対象として測定を実施した。樹木本数の概況を表Ⅲ－1 に示す。

本区の樹木の総数は 7,245 本で、１ha あたりの樹木本数は 6.4 本、1,000 人あたりの樹木本数は約 31 本となっている。

１ha あたりの樹木本数、1,000 人あたりの樹木本数の状況について、本区と他区の比較を図Ⅲ－1、図Ⅲ－２に示す。

本区の単位面積あたりの樹木本数は 6 本/ha を超え、データのある他区と比較しても高い水準にある。本区の隣接区の台東区・新宿区と比較しても上回っている。

また、1,000 人あたりの樹木本数でも、他区と比較すると、港区 33.1 本（H23）に次ぐ 31.2 本という結果であった。

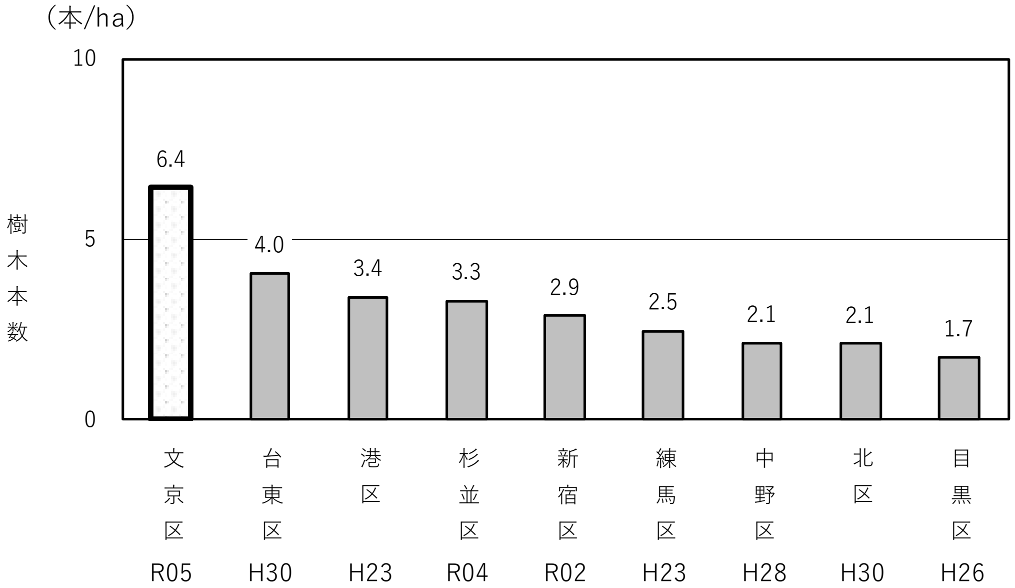
このように樹木本数が多い理由として、小石川後楽園、六義園などの大規模庭園、東京大学やお茶の水女子大学など、樹木の多い大規模施設が存在していることが考えられる。

表Ⅲ－1　文京区の樹木概況

	面積 (ha)	人口* (人)	樹木本数 (本)	樹木本数 (本/ha)	樹木本数 (本/1,000人)
文京区全体	1,129	232,177	7,245	6.4	31.2

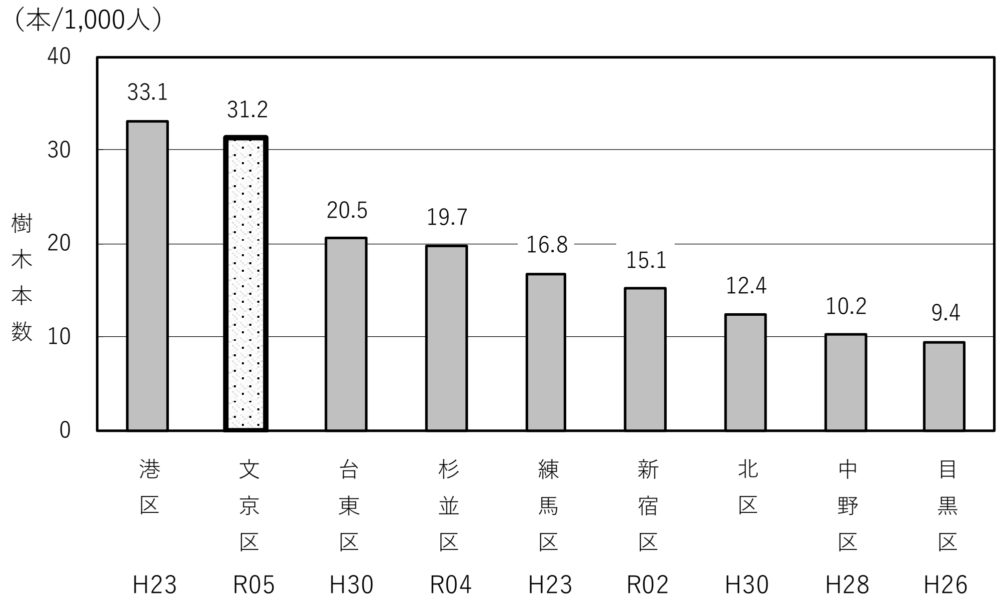
注：胸高直径 50cm 以上の樹木を対象。

＊：人口は、令和 6 年 1 月 1 日現在の外国人を含む住民基本台帳の数値。



注　1：直径 50cm 以上の樹木を調査対象としている。（台東区と中野区は幹周 150cm 以上対象）
　　2：区名の下の数字はそれぞれの区の調査年度（平成・令和）。
　　3：近 15 年の調査区および対象可能な集計を実施している区。

図Ⅲ－１　各区１ha あたりの樹木本数



注　1：直径 50cm 以上の樹木を調査対象としている。（台東区と中野区は幹周 150cm 以上対象）
　　2：区名の下の数字はそれぞれの区の調査年度（平成・令和）。
　　3：近 15 年の調査区および対象可能な集計を実施している区。

図Ⅲ－２　各区 1,000 人あたりの樹木本数

１－２．樹木の分布状況

（１） 区域別樹木本数

区域別の樹木の分布状況を表Ⅲ－２に示す。図Ⅲ－３に区域別の樹木本数、図Ⅲ－４に区域別の樹木密度、図Ⅲ－５に人口 1,000 人あたりの樹木本数をそれぞれ示す。

表Ⅲ－２　区域別樹木本数

区域番号	区域名称	面積（ha）	人口（人）	樹木本数（本）	樹木密度（本/ha）	1,000人当たり樹木本数（本/1,000人）
1	後楽	36.3	2,106	62	1.7	29.4
2	春日	33.6	5,789	184	5.5	31.8
3	小石川南	44.5	15,148	84	1.9	5.5
4	小石川北	41.2	10,083	175	4.2	17.4
5	白山南	34.1	9,519	99	2.9	10.4
6	白山北	48.1	9,370	102	2.1	10.9
7	千石	68.8	19,597	106	1.5	5.4
8	水道	19.3	6,730	7	0.4	1.0
9	小日向	50.2	8,496	91	1.8	10.7
10	大塚南	55.1	8,034	695	12.6	86.5
11	大塚北	50.7	11,869	238	4.7	20.1
12	関口	43.9	7,843	521	11.9	66.4
13	目白台	48.5	7,565	516	10.6	68.2
14	音羽	19.3	6,055	34	1.8	5.6
15	本郷南	55.6	11,717	59	1.1	5.0
16	本郷北	37.9	10,216	43	1.1	4.2
17	湯島	55.3	11,133	228	4.1	20.5
18	西片	27.9	5,687	58	2.1	10.2
19	向丘	35.4	7,055	184	5.2	26.1
20	弥生	27.2	2,032	346	12.7	170.3
21	根津	20.5	6,556	102	5.0	15.6
22	千駄木	72.7	21,317	174	2.4	8.2
23	本駒込東	53.5	13,658	267	5.0	19.5
24	本駒込西	66.9	14,195	234	3.5	16.5
	一般区域小計	1,046.5	231,770	4,609	4.4	19.9
25	東大本郷	42.8	407	742	17.3	1,823.1
26	六義園	8.8	－	430	48.9	－
27	後楽園	7.1	－	372	52.4	－
28	植物園	16.1	－	701	43.5	－
29	豊島岡墓地	8.0	－	391	48.9	－
特別区域小計		82.8	407	2,636	31.8	－
区全体		1,129.3	232,177	7,245	－	－
区平均		－	－	250	6.4	31.2

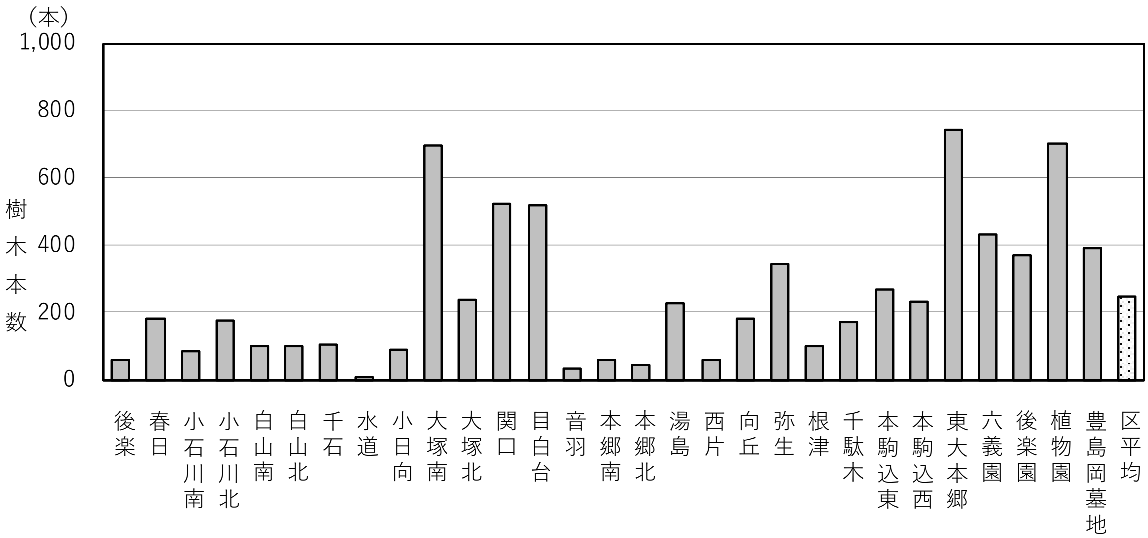
注：人口は、令和６年１月１日現在。（外国人を含む）

区域別樹木本数の平均は250本であった。特別区域では、いずれの区域も平均以上の樹木本数を有し、区の総樹木本数に対して、1/3以上の樹木が特別区域に存在する。

一般区域では、大塚南、関口、目白台、弥生、本駒込東において平均以上の樹木が確認された。これらの地域には大学や大規模公園などの施設が所在し、住居系の土地利用の区域となっている。

一方、水道、音羽においては、樹木本数が特に少ない。これらの区域の土地利用は商業系である。

○ 樹木の多い区域	:	特別区域、大塚南、目白台、関口、弥生、本駒込東
○ 樹木の特に少ない区域	:	水道、音羽



図Ⅲ－３　区域別樹木本数

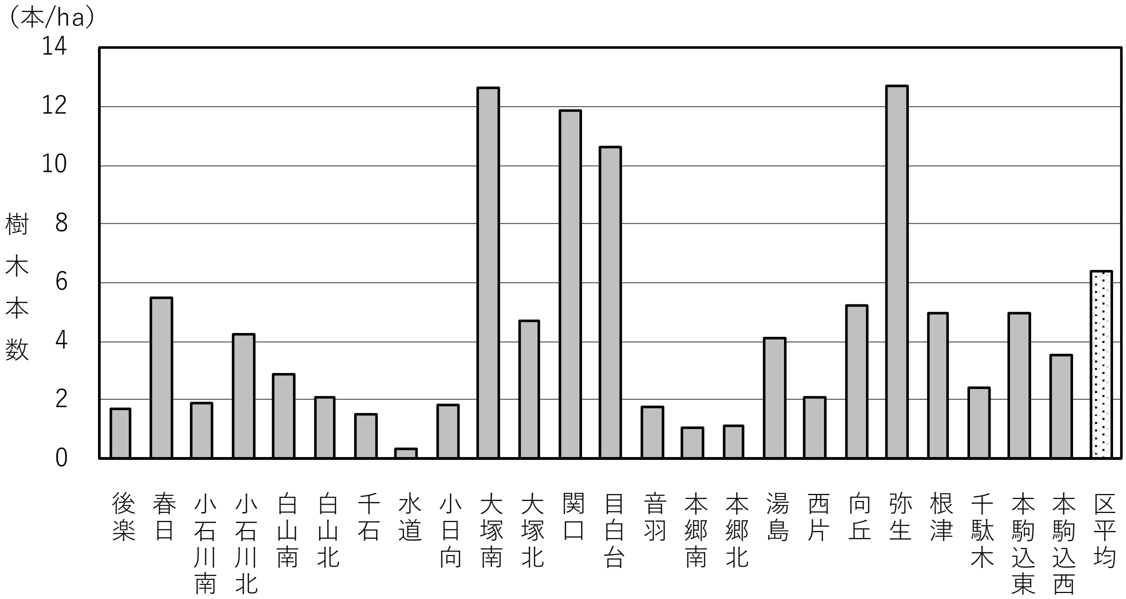
樹木密度（本／ha）は特別区域で特に高くなっている。一般区域の樹木密度では、弥生（12.7本）、大塚南（12.6本）、関口（11.9本）、目白台（10.6本）の順に高くなっている。

大塚北、本駒込東、本駒込西、湯島などは、樹木本数は200本を超えて比較的多いものの特別に樹木密度が高い区域とはならなかった。

樹木密度が特に低い区域として、水道（0.4本）があげられる。樹木密度が1haあたり1本以下であった区域はここだけであった。

樹木密度の高い区域は、規模の大きな緑地が区域内にある所で、なおかつ住居系の地域であり、一方密度の低い地域は、規模の大きな緑地がなく、商業系の地域であるといえる。

○樹木密度の高い区域	：	弥生、大塚南、関口、目白台
○樹木密度が低い区域	：	水道、本郷南、本郷北

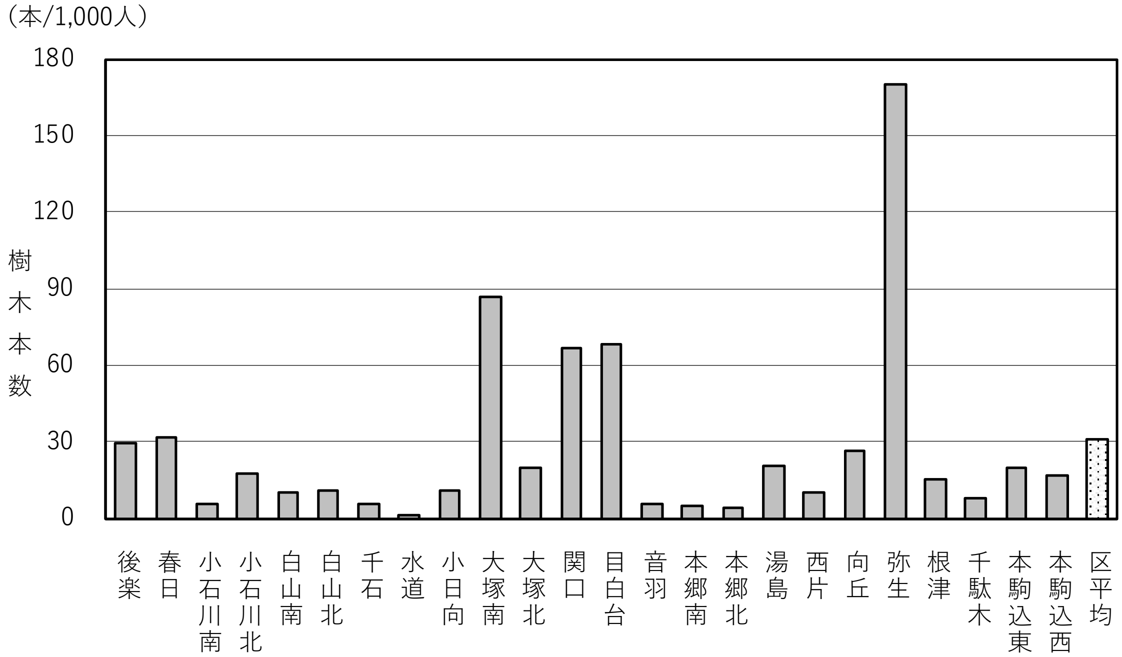


注：特別区域は除く。

図Ⅲ－４　区域別樹木密度

人口 1,000 人あたりの樹木本数が特に多い区域は、弥生 170 本、大塚南 87 本、目白台 68 本、関口 66 本である。一方、人口あたりの樹木本数がもっとも少ない区域は水道（1本）であり、本郷北、本郷南が続いている。この特徴は、面積あたりの樹木本数とほぼ同様の結果となっている。

○ 人口あたりの樹木本数の多い区域	：	弥生、大塚南、目白台、関口
○ 人口あたりの樹木本数の少ない区域	：	水道、本郷北、本郷南



注：人口は、令和 6 年 1 月 1 日日現在（外国人を含む）。特別区域は除く。

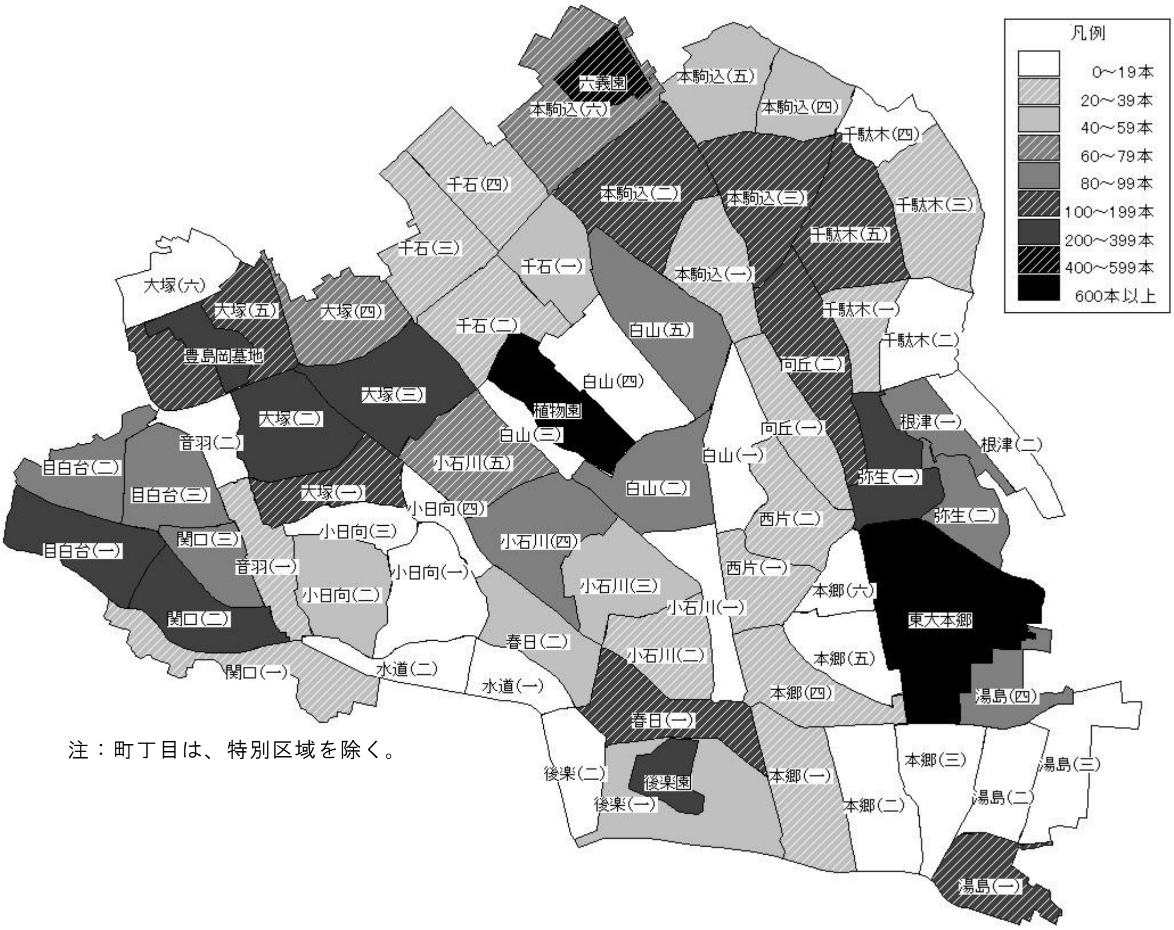
図Ⅲ－５　区域別人口 1,000 人あたりの樹木本数

（２）町丁目別樹木本数

町丁目別の樹木本数の状況を図Ⅲ－６、図Ⅲ－７に示す。

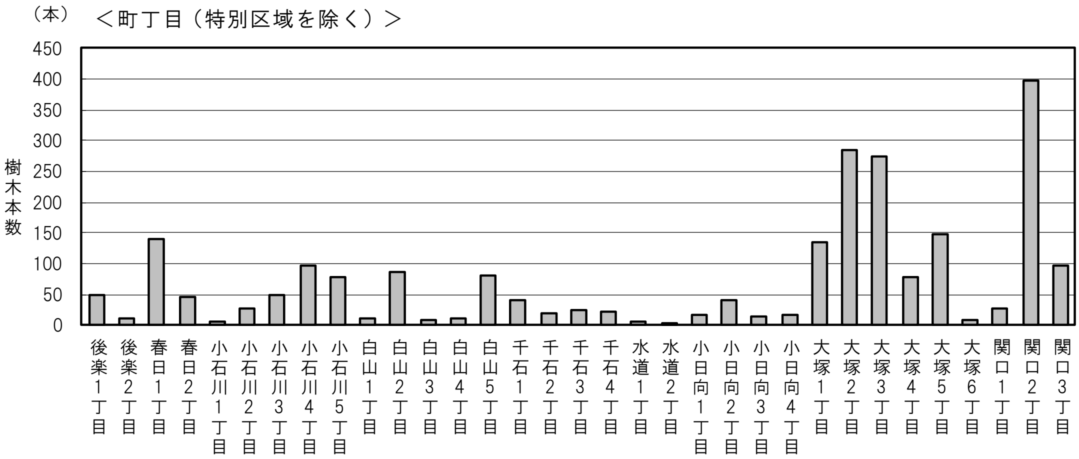
特別区域は樹木分布が多く、特に東大本郷、小石川植物園では際立って多くなっている。

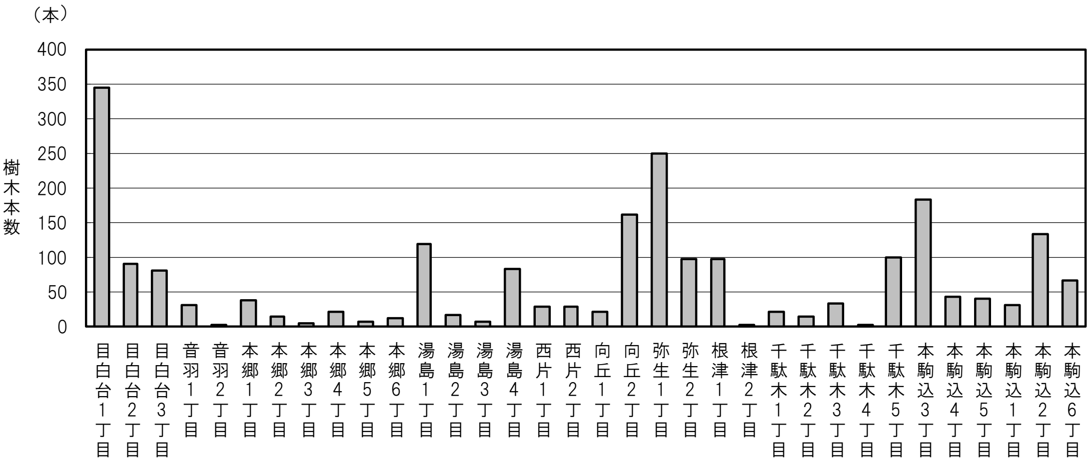
特別区域以外では、区の西部の目白台から関口の一帯、大塚の一帯、東部の本駒込から東大本郷までの一帯において、比較的多くの樹木を有する町丁目が分布している。また、区の南部において樹木の少ない町丁目が目立つ。

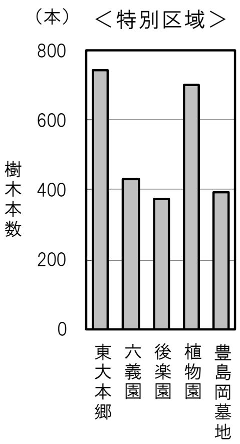


注：町丁目は、特別区域を除く。

図Ⅲ－６







注：胸高直径 50 ㎝以上の樹木本数。

図Ⅲ－７　町丁目別の樹木本数

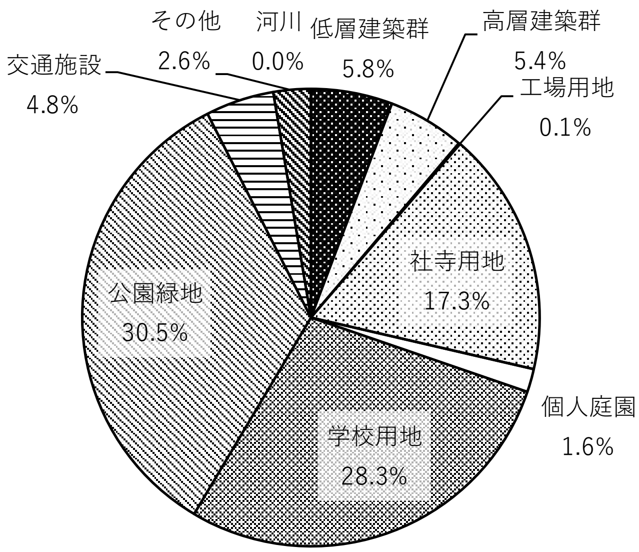
（３）都市構造区分別樹木本数

都市構造区分別樹木本数を表Ⅲ－３、区域別の都市構造区分別樹木本数を表Ⅲ－４に、都市構造区分別の樹木本数比率を図Ⅲ－８にそれぞれ示す。

区分別では公園緑地、学校用地、社寺用地に樹木が多く、合わせて 6,000 本近い樹木がこれらの用地に存在しており、本区全体の約８割を占めている。

表Ⅲ－３　都市構造区分別樹木本数

都市構造区分	樹木本数（本）	密度（本/ha）
低層建築群	417	1.4
高層建築群	394	1.0
工場用地	7	0.4
社寺用地	1,256	21.6
個人庭園	118	34.7
学校用地	2,050	13.7
公園緑地	2,461	43.1
交通施設	350	2.9
河川	1	0.1
その他	191	7.2
区全体	7,245	6.4



図Ⅲ－８　都市構造区分別樹木本数比率

区域別では、大規模施設や公園緑地、社寺用地などの有無によって偏りがあり、学校用地、公園緑地、社寺用地などが多く存在する区域で樹木が多くなっている。

表Ⅲ－４　区域別都市構造区分別の樹木本数

（単位：本）

区域番号	区域	都市構造区分										合計
		低層建築群	高層建築群	工場用地	社寺用地	個人庭園	学校用地	公園緑地	交通施設	河川	その他	
1	後楽	6	25	0	0	0	1	5	11	0	14	62
2	春日	20	6	0	3	19	77	30	27	0	2	184
3	小石川南	8	4	1	52	7	6	3	3	0	0	84
4	小石川北	2	25	0	32	23	22	35	36	0	0	175
5	白山南	5	2	0	11	0	32	6	9	0	34	99
6	白山北	1	8	0	37	0	9	10	37	0	0	102
7	千石	18	33	0	8	0	16	28	3	0	0	106
8	水道	1	2	0	0	0	0	0	4	0	0	7
9	小日向	9	7	0	42	0	26	6	1	0	0	91
10	大塚南	2	14	0	10	15	421	231	2	0	0	695
11	大塚北	6	10	0	131	0	18	72	1	0	0	238
12	関口	136	32	6	32	9	5	130	54	1	116	521
13	目白台	78	22	0	1	0	177	189	49	0	0	516
14	音羽	0	0	0	2	30	0	0	2	0	0	34
15	本郷南	12	9	0	2	0	16	12	8	0	0	59
16	本郷北	7	18	0	5	0	3	10	0	0	0	43
17	湯島	19	44	0	75	0	32	23	35	0	0	228
18	西片	33	9	0	0	0	7	8	1	0	0	58
19	向丘	3	2	0	134	0	15	6	24	0	0	184
20	弥生	2	2	0	0	0	338	0	4	0	0	346
21	根津	4	3	0	89	0	6	0	0	0	0	102
22	千駄木	25	11	0	30	8	49	44	6	0	1	174
23	本駒込東	1	2	0	137	7	15	60	21	0	24	267
24	本駒込西	19	103	0	32	0	28	50	2	0	0	234
一般区域小計		417	393	7	865	118	1,319	958	340	1	191	4,609
25	東大本郷	0	1	0	0	0	731	0	10	0	0	742
26	六義園	0	0	0	0	0	0	430	0	0	0	430
27	後楽園	0	0	0	0	0	0	372	0	0	0	372
28	植物園	0	0	0	0	0	0	701	0	0	0	701
29	豊島岡墓地	0	0	0	391	0	0	0	0	0	0	391
特別区域小計		0	1	0	391	0	731	1,503	10	0	0	2,636
区全体		417	394	7	1,256	118	2,050	2,461	350	1	191	7,245

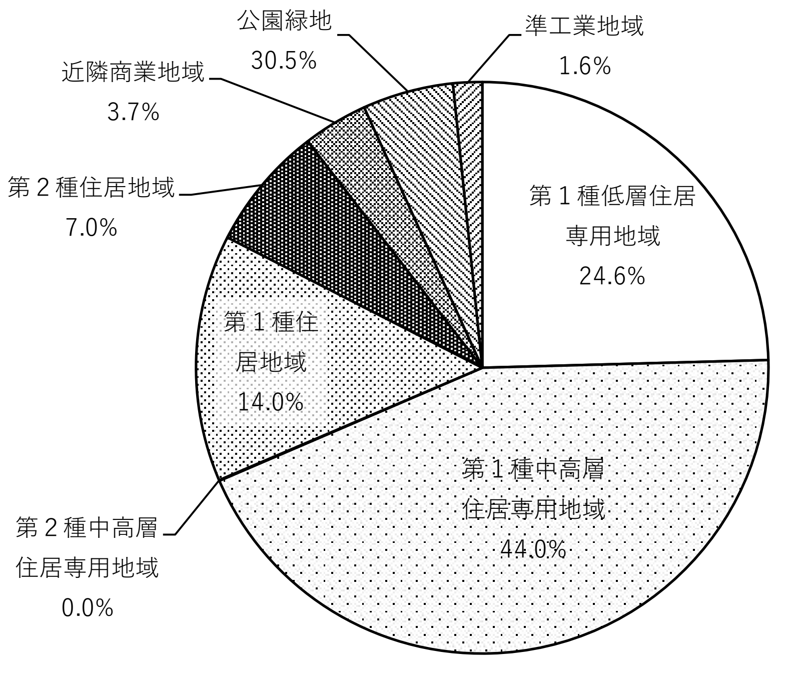
（４）用途地域別樹木本数

用途地域別樹木本数を表Ⅲ－５、区域別の用途区域別樹木本数を表Ⅲ－６に、構成比率を図Ⅲ－９にそれぞれ示す。

区分別では、第１種中高層住居専用地域、第１種低層住居専用地域、第１種住居地域に樹木が多くみられ、これらの地域に 80%以上の樹木が存在している。

表Ⅲ－５　用途地域別樹木本数

用途地域区分	樹木本数（本）	密度（本/ha）
第１種低層住居専用地域	1, 780	14. 6
第１種中高層住居専用地域	3, 185	9. 5
第２種中高層住居専用地域	2	0. 3
第１種住居地域	1, 012	5. 6
第２種住居地域	510	10. 4
近隣商業地域	265	2. 1
商業地域	372	1. 5
準工業地域	119	1. 6
合　計	7, 245	6. 4



図Ⅲ－９　用途地域別樹木本数構成比率

区域別では、樹木密度の高い第１種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第１種住居地域を多く有する区域で樹木本数が多い傾向にある。敷地の半数以上を第１種中高層住居専用地域が占めている弥生、大塚南では、地域内の樹木の 90%以上が第１種中高層住居専用地域に存在している。各区域における用途地域区分の構成状況が、樹木分布の特徴として反映されている。

表Ⅲ－６　区域別用途地域別の樹木本数

区域番号	区域	用途地域区分								合計
		第１種低層住居専用地域	第１種中高層住居専用地域	第２種中高層住居専用地域	第１種住居地域	第２種住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	
1	後楽	0	0	0	7	1	1	46	7	62
2	春日	0	22	0	118	5	24	15	0	184
3	小石川南	0	63	0	1	0	0	1	19	84
4	小石川北	0	47	0	44	39	0	7	38	175
5	白山南	0	0	0	82	0	0	11	6	99
6	白山北	9	3	0	44	0	33	3	10	102
7	千石	9	62	0	23	1	4	4	3	106
8	水道	0	0	0	0	2	2	0	3	7
9	小日向	44	15	0	28	4	0	0	0	91
10	大塚南	0	643	0	19	0	13	16	4	695
11	大塚北	0	196	0	25	0	0	11	6	238
12	関口	180	0	0	0	308	5	5	23	521
13	目白台	268	117	0	1	7	85	38	0	516
14	音羽	30	0	0	0	0	0	4	0	34
15	本郷南	0	0	0	12	0	32	15	0	59
16	本郷北	0	0	0	38	1	2	2	0	43
17	湯島	0	33	0	75	44	17	59	0	228
18	西片	44	0	0	10	1	1	2	0	58
19	向丘	0	93	0	28	0	15	48	0	184
20	弥生	0	328	2	14	0	0	2	0	346
21	根津	0	85	0	6	2	9	0	0	102
22	千駄木	0	155	0	0	0	19	0	0	174
23	本駒込東	0	193	0	42	0	3	29	0	267
24	本駒込西	66	20	0	23	95	0	30	0	234
一般区域小計		650	2, 075	2	640	510	265	348	119	4, 609
25	東大本郷	0	741	0	0	0	0	1	0	742
26	六義園	429	0	0	0	0	0	1	0	430
27	後楽園	0	0	0	372	0	0	0	0	372
28	植物園	701	0	0	0	0	0	0	0	701
29	豊島岡墓地	0	369	0	0	0	0	22	0	391
特別区域小計		1, 130	1, 110	0	372	0	0	24	0	2, 636
区全体		1, 780	3, 185	2	1, 012	510	265	372	119	7, 245

（5）区域別公有地・民有地別樹木本数

区域別公有地・民有地別樹木数を表Ⅲ－７に示す。

本区においては、公有地の樹木本数が 5,140 本、民有地の樹木が 2,105 本で、公有地の樹木本数が全体の約 70%を占めている。

しかし、特別区域を除いた一般区域で比較すると、公有地には 2,505 本、民有地は 2,104 本で、同程度の割合となる。

公有地の樹木本数が民有地より多い区域は、大塚南、弥生、小石川北、湯島、千駄木、春日、目白台、水道であり、そのほかの区域では、民有地の樹木本数の方が多くなっている。中でも、音羽、根津は、公有地の樹木の占める割合は 10%にも満たない。

表Ⅲ－７　区域別公有地・民有地別樹木本数

区域番号	区域	公有地	民有地	合計
1	後楽	16	46	62
2	春日	113	71	184
3	小石川南	12	72	84
4	小石川北	93	82	175
5	白山南	26	73	99
6	白山北	50	52	102
7	千石	45	61	106
8	水道	4	3	7
9	小日向	25	66	91
10	大塚南	635	60	695
11	大塚北	110	128	238
12	関口	188	333	521
13	目白台	278	238	516
14	音羽	2	32	34
15	本郷南	28	31	59
16	本郷北	14	29	43
17	湯島	164	64	228
18	西片	17	41	58
19	向丘	45	139	184
20	弥生	342	4	346
21	根津	6	96	102
22	千駄木	103	71	174
23	本駒込東	121	146	267
24	本駒込西	68	166	234
一般区域小計		2, 505	2, 104	4, 609
25	東大本郷	741	1	742
26	六義園	430	0	430
27	後楽園	372	0	372
28	植物園	701	0	701
29	豊島岡墓地	391	0	391
特別区域小計		2, 635	1	2, 636
区全体		5, 140	2, 105	7, 245

（６）樹木本数の多い施設

樹木本数の多い施設として、胸高直径が 50cm 以上の樹木を 15 本以上有している施設について区分別に集計して表Ⅲ－８に示す。

樹木の多い施設に存在する樹木は 5,610 本であり、区全体の樹木本数の 8 割近くを占めている。これは東京大学の関連施設（本郷キャンパス、小石川植物園)、六義園、小石川後楽園など特別区域にある施設の樹木が反映されているためである。

前回（平成 30 年）調査と比較すると、合計値は 15 本減で、ほぼ横ばいと言える。これは、施設管理上、倒木などのリスクを避けるために伐採される樹木がある一方で、前回調査で 50cm に満たなかった樹木の成長により､減少分を補うサイクルが維持されていると考えられ、今後も樹木本数が維持されていく可能性を示している。

表Ⅲ－８　樹木本数の多い施設

区分	施設数（箇所）	樹木本数（本）	増減
学校	18	1,775	-14
公園	19	2,271	-121
社寺	17	625	33
公共施設	4	465	25
民有施設	11	474	62
合計	69	5,610	-15

注 1：直径 50cm 以上の樹木を 15 本以上有している施設。
　 2：増減は前回調査（平成 30 年）との比較。

１－３．樹木の大きさの状況

（１）太さ別樹木本数

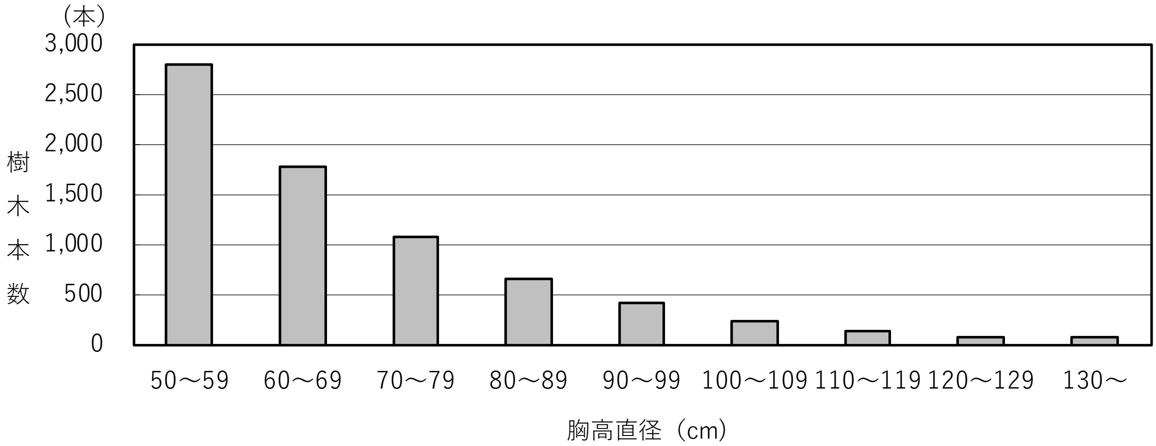
太さ別の樹木本数を表Ⅲ－９、図Ⅲ－１０に、その構成比率を図Ⅲ－１１に示す。

本区における樹木の大きさは、胸高直径 50～59cm の樹木が 2,799 本ともっとも多く、全体の約 40%を占めており、太く巨木になるほど本数が減少する傾向にある。今後成長を見込める樹木が多く、将来的な樹木本数の維持の可能性を示している。

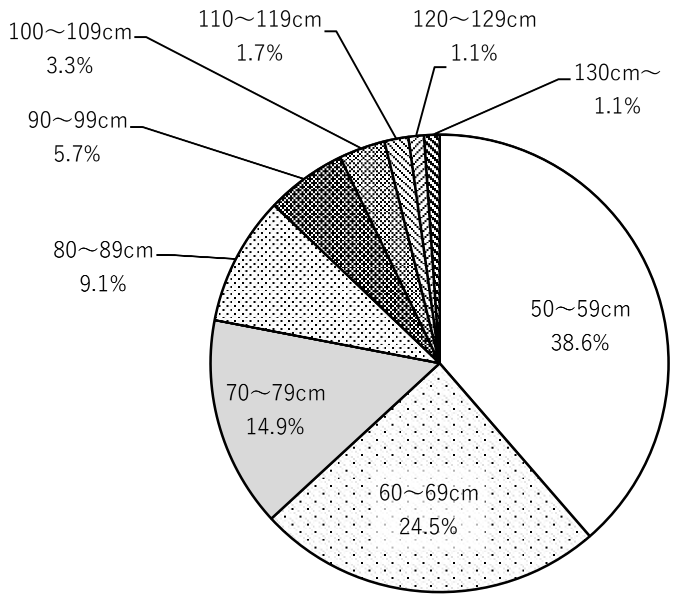
表Ⅲ－９　太さ別樹木本数

（単位：本）

胸高直径（cm）	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100～109	110～119	120～129	130～	合計
本数	2, 799	1, 775	1, 080	660	413	237	123	79	79	7, 245



図Ⅲ－１０　太さ別樹木本数



図Ⅲ－１１　太さ別樹木本数構成比率

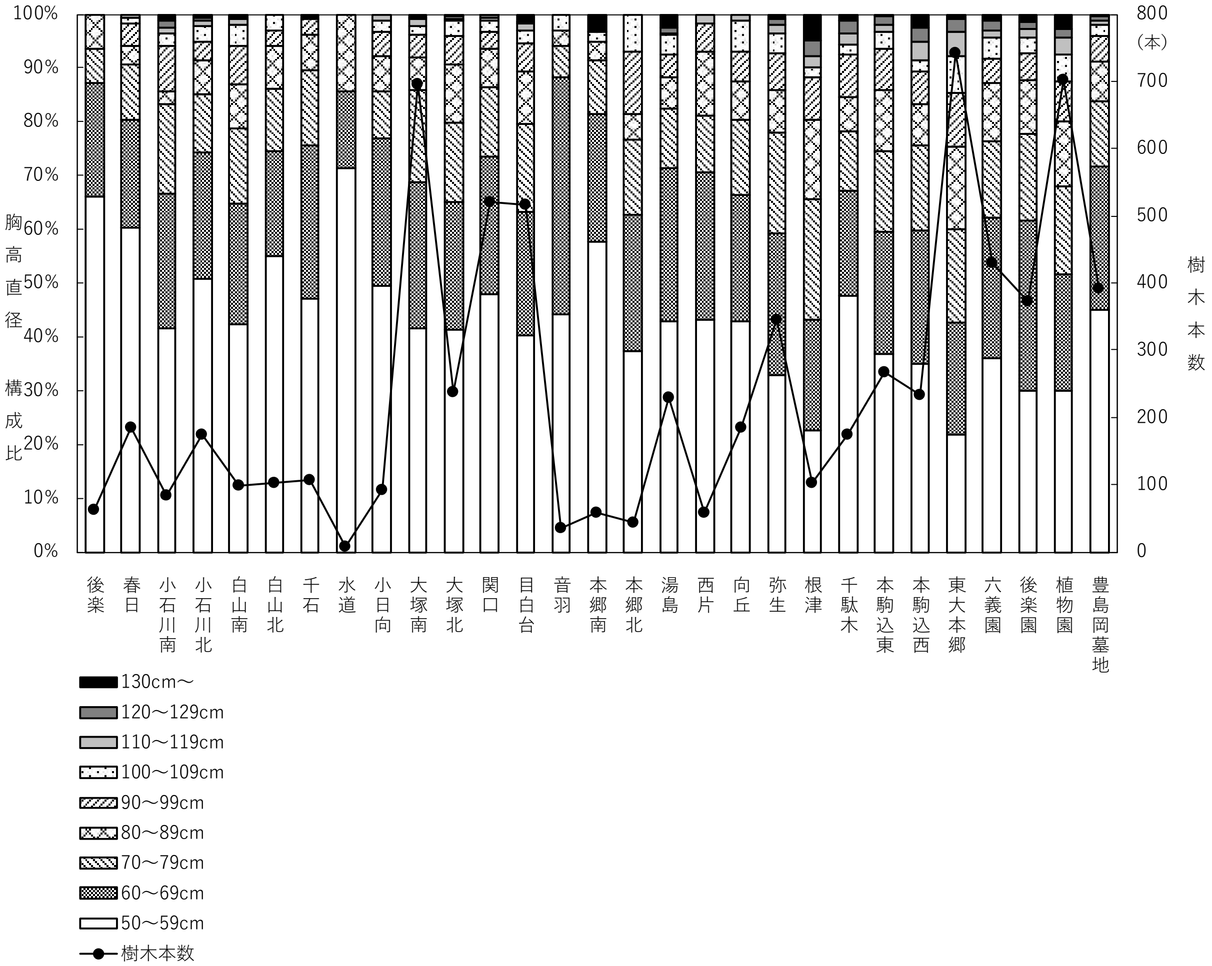
区域別の太さ別樹木本数とその構成比について表Ⅲ－１０、図Ⅲ－１２に示す。

一般区域には大径木が比較的少ない傾向がみられるが、大塚南、大塚北、関口、目白台、湯島、向丘、弥生、根津、千駄木、本駒込東、本駒込西の 11 区域においては、直径 100cm 以上の樹木がそれぞれ 10 本以上みられる。

一方、特別区域には直径 100cm 以上の大径木の樹木が 276 本存在しており、区全体おける大径木の約半数を占めている。特に東大本郷には大径木が 109 本存在し、これらの樹木だけで区全体の大径木の約 2 割を占めていることになる。このことから、特別区域は樹木本数だけではなく、大径木の現存地としての価値も有している。

表Ⅲ－１０　区域別太さ別樹木本数

区域番号	区域	胸高直径（cm） 50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100～109	110～119	120～129	130～	合計	平均直径
		（本）										（cm）
1	後楽	41	13	4	4	0	0	0	0	0	62	59.0
2	春日	111	37	19	6	8	2	1	0	0	184	61.3
3	小石川南	35	21	14	2	7	2	1	1	1	84	68.1
4	小石川北	89	41	19	11	6	5	2	1	1	175	64.6
5	白山南	42	22	14	8	7	4	1	0	1	99	67.4
6	白山北	56	20	12	8	3	3	0	0	0	102	63.1
7	千石	50	30	15	7	3	0	0	0	1	106	63.9
8	水道	5	1	0	1	0	0	0	0	0	7	59.3
9	小日向	45	25	8	6	4	2	1	0	0	91	63.5
10	大塚南	289	188	119	43	29	12	8	3	4	695	66.2
11	大塚北	98	57	35	26	12	7	1	1	1	238	67.4
12	関口	249	134	67	38	16	11	2	3	1	521	64.5
13	目白台	208	118	84	51	27	12	7	2	7	516	68.2
14	音羽	15	15	2	1	0	1	0	0	0	34	60.7
15	本郷南	34	14	6	2	0	1	0	0	2	59	64.9
16	本郷北	16	11	6	2	5	3	0	0	0	43	68.6
17	湯島	98	65	25	13	10	8	1	2	6	228	67.3
18	西片	25	16	6	7	3	0	1	0	0	58	65.5
19	向丘	79	43	26	13	10	11	2	0	0	184	67.1
20	弥生	114	91	65	27	24	13	5	4	3	346	70.1
21	根津	23	21	23	15	8	2	2	3	5	102	77.2
22	千駄木	83	34	19	11	14	3	4	4	2	174	67.9
23	本駒込東	98	61	40	30	21	8	4	4	1	267	69.6
24	本駒込西	82	58	37	18	14	5	8	6	6	234	72.0
一般区域小計		1,985	1,136	665	350	231	115	51	34	42	4,609	67.0
25	東大本郷	162	154	130	113	74	51	34	18	6	742	76.9
26	六義園	155	112	61	47	19	17	6	8	5	430	70.2
27	後楽園	111	118	60	37	19	11	6	5	5	372	70.1
28	植物園	210	151	116	85	51	35	23	11	19	701	74.4
29	豊島岡墓地	176	104	48	28	19	8	3	3	2	391	65.7
特別区域小計		814	639	415	310	182	122	72	45	37	2,636	72.5
区全体		2,799	1,775	1,080	660	413	237	123	79	79	7,245	69.0



図Ⅲ－１２　区域別太さ別樹木の構成比率

（２）巨木

太さ順で胸高直径 150cm 以上の巨木の一覧表を表Ⅲ－１１に示す。

本区に生育する直径 150cm 以上の巨木の数は 29 本で、これらは主に公園、社寺、学校などに存在している。また、もっとも直径が大きい木はクスノキであり、直径 286cm であった。

これらの巨木は、「善光寺坂のムクノキ」など、ランドマークとして地域の文化や景観に大きく寄与する樹木や、小石川植物園にある「精子発見のイチョウ」のように学術的に価値の高い樹木も多く含まれている。

表Ⅲ－１１　太さ 150㎝ 以上の樹木

順位	樹種名	胸高直径(㎝)	区分	区域
1	クスノキ	286	民有施設	本郷南
2	クスノキ	201	公園	植物園
3	クスノキ	199	公園	植物園
4	クスノキ	185	公園	植物園
5	イチョウ	185	学校	大塚南
6	クスノキ	185	公園	本駒込西
7	モミジバスズカケノキ	183	公園	植物園
8	クスノキ	180	公園	本駒込西
9	クスノキ	171	公園	六義園
10	クスノキ	170	公園	六義園
11	クスノキ	170	公共施設	豊島岡墓地
12	ムクノキ	170	公共施設	小石川南
12	イチョウ	167	社寺	根津
14	ケヤキ	166	社寺	目白台
14	イチョウ	161	社寺	目白台
16	イチョウ	161	学校	東大本郷
17	クスノキ	160	公園	植物園
18	イチョウ	160	学校	弥生
19	ユリノキ	157	公園	植物園
20	ムクノキ	157	公園	千石
20	ケヤキ	155	公園	後楽園
22	クスノキ	154	公園	六義園
23	イチョウ	154	社寺	大塚北
23	イチョウ	153	公園	植物園
25	スダジイ	152	民有施設	関口
25	モミジバスズカケノキ	152	公園	植物園
27	クスノキ	151	公園	本駒込西
28	コーカサスサワグルミ	150	公園	植物園
29	イチョウ	150	公園	大塚南

１－４．樹種の特徴

（１）樹種別の樹木本数

樹種別の樹木本数の構成を表Ⅲ－１２に、その比率を図Ⅲ－１３に示す。

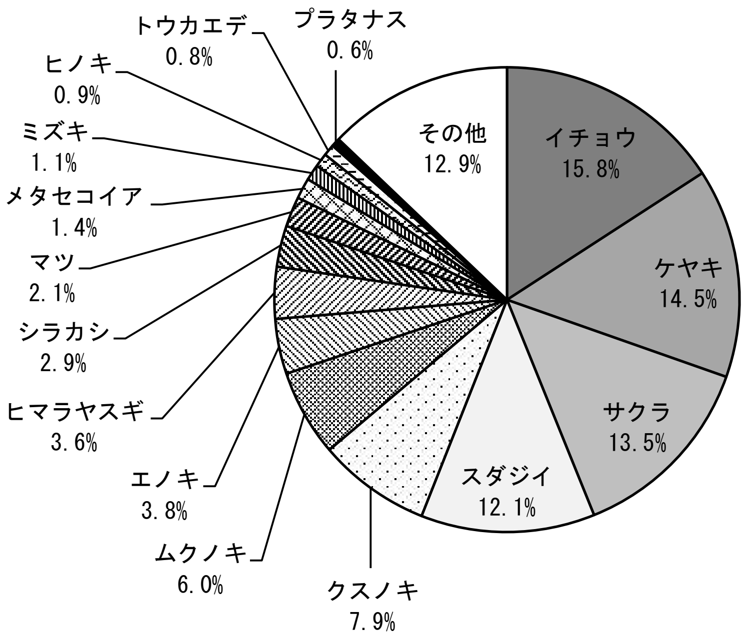
○　多い樹種：イチョウ、ケヤキ、サクラ、スダジイ

本区の樹木は樹種別ではイチョウがもっとも多く、1,148 本であった。また、イチョウ、ケヤキ、サクラ、スダジイの上位 4 種が、本区の樹木本数の半数以上（56%）を占め、上位 10 種が本区の樹木の約 8 割を占めている。

表Ⅲ－１２　樹種別樹木本数

順位	樹種名	本数
1	**イチョウ**	1, 148
2	**ケヤキ**	1, 053
3	**サクラ**	978
4	**スダジイ**	877
5	**クスノキ**	569
6	**ムクノキ**	435
7	**エノキ**	277
8	**ヒマラヤスギ**	262
9	**シラカシ**	207
10	マツ	151

順位	樹種名	本数
11	メタセコイア	105
12	ミズキ	80
13	ヒノキ	68
14	トウカエデ	59
15	プラタナス	45
-	その他	931
合計		7, 245



図Ⅲ－１３　樹種別樹木本数構成比率

（２）都市構造区分別樹種の特徴

本区の樹木本数上位 10 種の樹木について、都市構造区分別の本数を表Ⅲ－１３に示す。

公園緑地･河川以外では上位 10 種の樹木数が 80%以上を占めているが、公園緑地で 80%を超えるのは上位 16 種となり、比較的多様な樹種で構成されている。

前回調査時から交通施設内のイチョウが 78 本増と顕著な変化が見られ、これは街路樹が大きく成長したことが要因と考えられる。直径が 40cm 台の樹木も多く、今後も更なる増加が見込まれ、緑視率が向上し、景観の向上が期待できる。

表Ⅲ－１３　都市構造区分別樹種別樹木本数

（単位：本）

都市構造区分	樹種											合計
	ｲﾁｮｳ	ｹﾔｷ	ｻｸﾗ	ｽﾀﾞｼﾞｲ	ｸｽﾉｷ	ﾑｸﾉｷ	ｴﾉｷ	ﾋﾏﾗﾔｽｷﾞ	ｼﾗｶｼ	ﾏﾂ	その他	
低層建築群	41	57	77	74	36	18	18	5	18	20	53	417
高層建築群	106	54	63	48	58	15	9	11	2	1	27	394
工場用地	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	1	7
社寺用地	204	125	182	205	63	94	36	28	74	59	186	1, 256
個人庭園	6	10	9	40	3	7	8	2	9	1	23	118
学校用地	410	320	256	174	138	98	108	192	34	15	305	2, 050
公園緑地	102	450	330	277	230	188	90	22	60	55	657	2, 461
交通施設	274	12	39	0	16	1	0	1	0	0	7	350
河川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	5	25	17	59	25	13	8	1	10	0	28	191
区全体	1, 148	1, 053	978	877	569	435	277	262	207	151	1, 288	7, 245

（３）用途地域別樹種の特徴

本区の樹木本数上位 10 種の樹木について、用途地域別の本数を表Ⅲ－１４に示す。

第１種低層住居専用地域･第２種中高層住居専用地域以外では上位 10 種の樹木数が 80%以上を占めているが、第１種低層住居専用地域で 80%を超えるのは上位 18 種となり、比較的多様な樹種で構成されている。

商業地域内の樹木が前回調査時より約 11%増加と目立った変化があり、イチョウの 28 本増と主要因となっている。

表Ⅲ－１４　用途地域別樹種別樹木本数

（単位：本）

用途地域	樹種											合計
	ｲﾁｮｳ	ｹﾔｷ	ｻｸﾗ	ｽﾀﾞｼﾞｲ	ｸｽﾉｷ	ﾑｸﾉｷ	ｴﾉｷ	ﾋﾏﾗﾔｽｷﾞ	ｼﾗｶｼ	ﾏﾂ	その他	
第１種低層住居専用地域	78	216	272	211	134	116	78	21	55	52	547	1, 780
第１種中高層住居専用地域	512	492	399	385	247	144	137	206	91	65	507	3, 185
第２種中高層住居専用地域	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
第１種住居地域	110	175	132	147	84	136	46	18	26	15	123	1, 012
第２種住居地域	126	54	74	72	50	21	10	4	22	17	60	510
近隣商業地域	116	30	28	28	15	4	1	8	11	2	22	265
商業地域	160	72	31	29	37	10	3	4	2	0	24	372
準工業地域	46	14	42	4	2	4	2	1	0	0	4	119
区全体	1, 148	1, 053	978	877	569	435	277	262	207	151	1, 288	7, 245

（４）区域別樹種の特徴

区域別の樹種構成と比率を表Ⅲ－１５、図Ⅲ－１５～１８に示す。

一般区域では、ほとんどの区域で上位 10 種の樹木数が 80%以上を占めており、樹種の多様性は低い。

一方で特別区域では六義園、豊島岡墓地が同 70%台となっており、植物園においては 52%となり多様性は豊かである。

表Ⅲ－１５　区域別樹種別樹木本数

（単位：本）

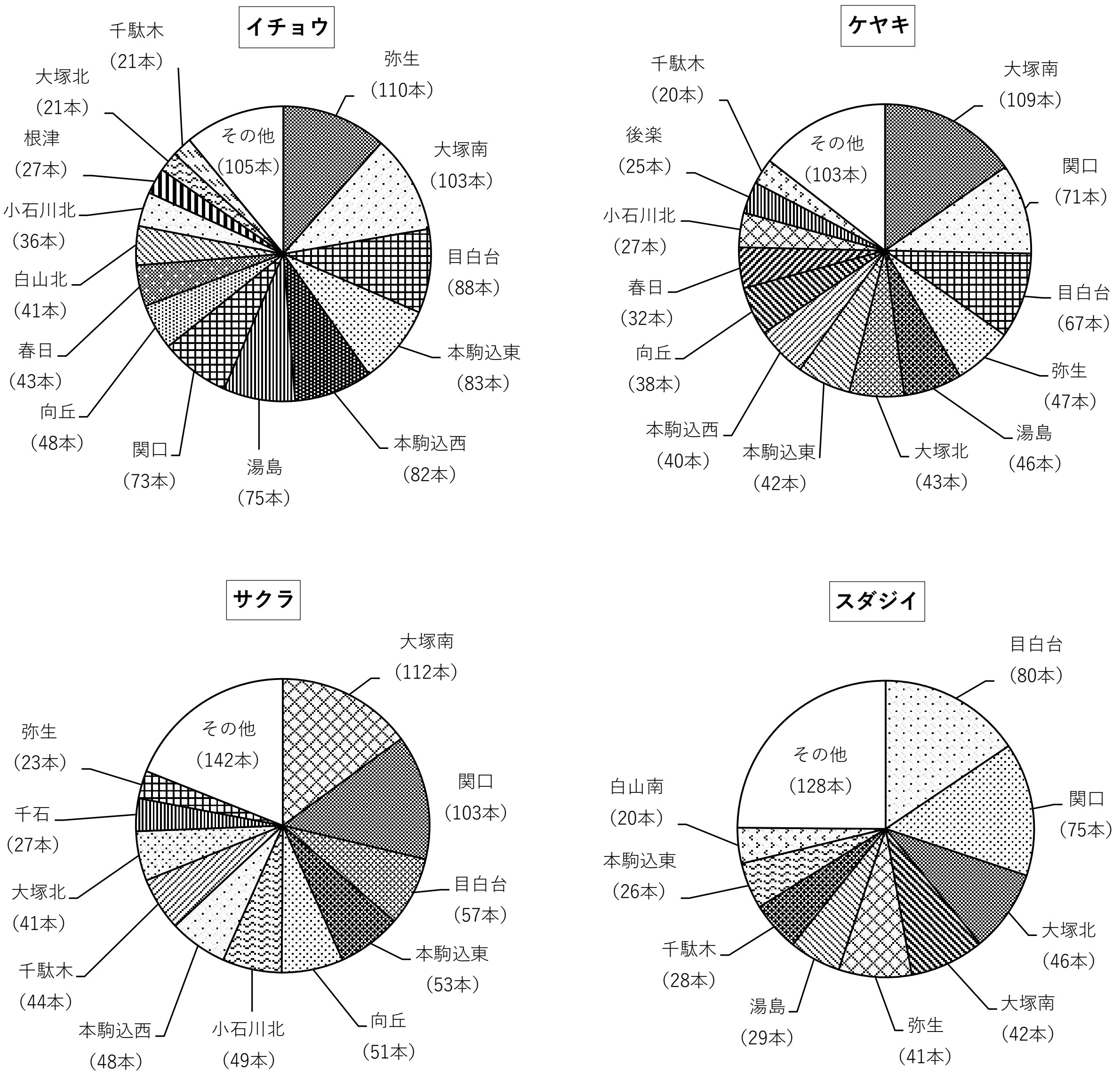
（単位：本）

区域番号	区域	樹種											合計
		ｲﾁｮｳ	ｹﾔｷ	ｻｸﾗ	ｽﾀﾞｼﾞｲ	ｸｽﾉｷ	ﾑｸﾉｷ	ｴﾉｷ	ﾋﾏﾗﾔｽｷﾞ	ｼﾗｶｼ	ﾏﾂ	その他	
1	後楽	7	25	1	0	20	0	2	2	0	0	5	62
2	春日	43	32	18	18	20	15	10	9	0	1	18	184
3	小石川南	18	2	18	13	4	9	4	3	2	0	11	84
4	小石川北	36	27	49	13	23	7	0	3	4	0	13	175
5	白山南	18	10	17	20	1	9	5	8	2	0	9	99
6	白山北	41	18	12	5	6	12	2	1	0	0	5	102
7	千石	15	18	27	10	6	5	6	6	4	0	9	106
8	水道	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	1	7
9	小日向	13	8	17	5	3	10	10	6	4	4	11	91
10	大塚南	103	109	112	42	62	10	28	78	15	6	130	695
11	大塚北	21	43	41	46	9	3	3	11	9	12	40	238
12	関口	73	71	103	75	56	20	15	4	27	16	61	521
13	目白台	88	67	57	80	12	60	28	7	26	14	77	516
14	音羽	2	5	8	4	1	0	4	1	0	0	9	34
15	本郷南	11	15	10	7	4	2	0	2	0	0	8	59
16	本郷北	10	7	12	4	2	1	2	2	0	0	3	43
17	湯島	75	46	10	29	15	8	4	7	0	6	28	228
18	西片	11	1	13	16	4	4	3	0	0	0	6	58
19	向丘	48	38	51	14	7	9	3	5	2	0	7	184
20	弥生	110	47	23	41	10	13	29	11	0	1	61	346
21	根津	27	17	4	9	16	8	3	6	0	2	10	102
22	千駄木	21	20	44	28	17	12	9	7	2	1	13	174
23	本駒込東	83	42	53	26	12	6	7	6	2	0	30	267
24	本駒込西	82	40	48	10	31	2	1	10	0	0	10	234
一般区域小計		956	710	750	515	343	225	178	195	99	63	575	4,609
25	東大本郷	139	167	38	68	96	38	31	59	15	7	84	742
26	六義園	13	77	11	85	51	29	18	0	8	17	121	430
27	後楽園	11	56	14	69	44	85	15	0	6	6	66	372
28	植物園	27	32	147	34	16	25	24	6	28	23	339	701
29	豊島岡墓地	2	11	18	106	19	33	11	2	51	35	103	391
特別区域小計		192	343	228	362	226	210	99	67	108	88	713	2,636
区全体		1,148	1,053	978	877	569	435	277	262	207	151	1,288	7,245

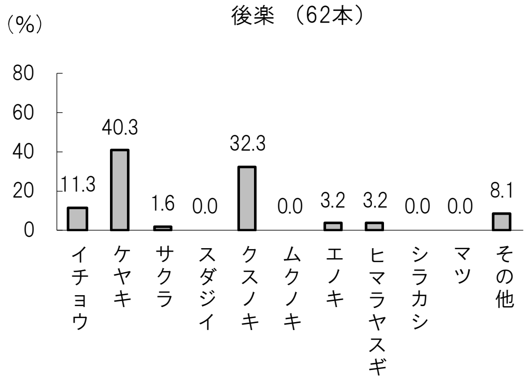
本区の樹木本数の多い上位４種（イチョウ、ケヤキ、サクラ、スダジイ）に着目し、一般区域における樹種別の区域構成を図Ⅲ－１４に示す。

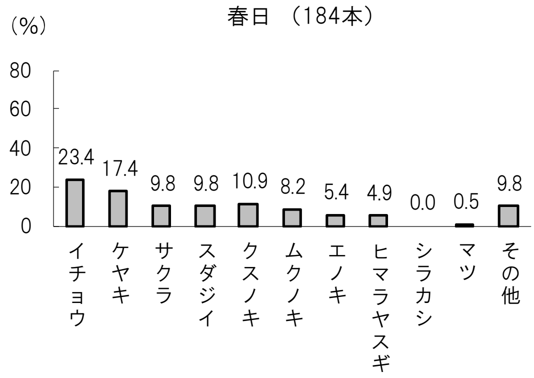
一般区域の区域別上位４位に分類すると、以下に示すような結果となる。一方、特別区域は、一般区域と比較すると多様な樹種構成となっている。

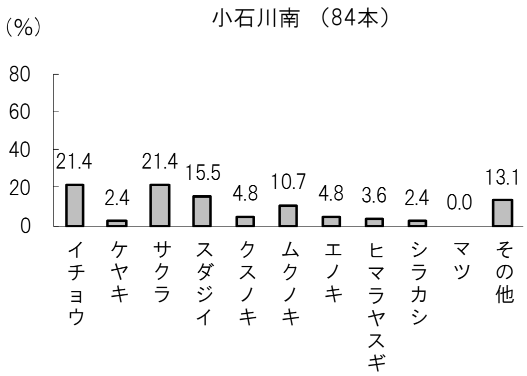
○　イチョウが多い区域　：　弥生、大塚南、目白台、本駒込東、
○　ケヤキが多い区域　：　大塚南、関口、目白台、弥生
○　サクラが多い区域　：　大塚南、関口、目白台、本駒込東
○　スダジイが多い区域　：　目白台、関口、大塚北、大塚南
○　多様な樹種構成の区域　：　特別区域

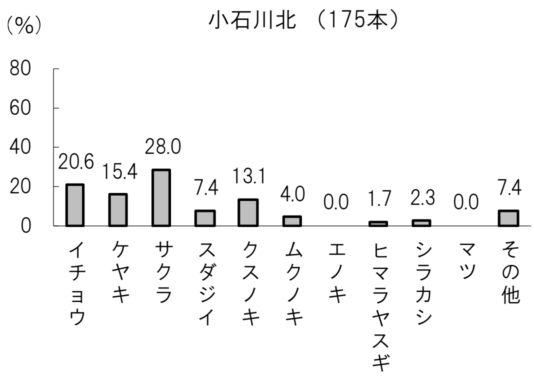


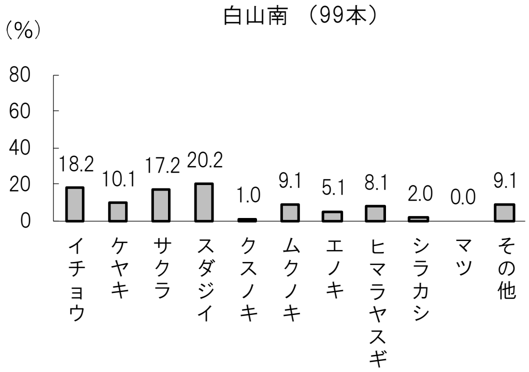
図Ⅲ－１４　一般区域の区域別樹種の特徴

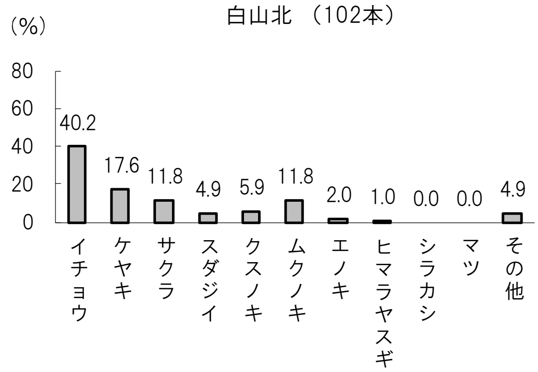


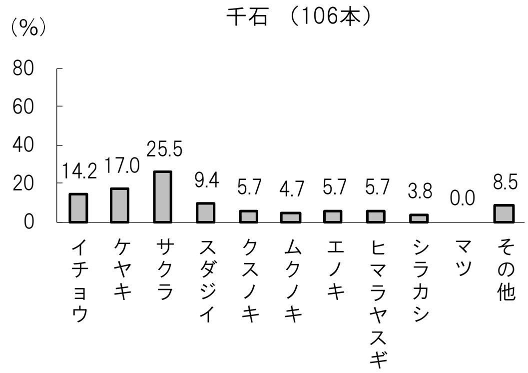


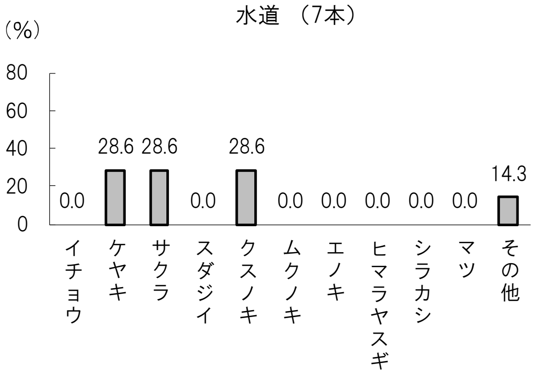




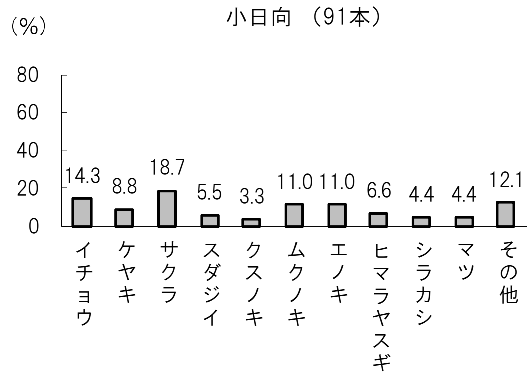


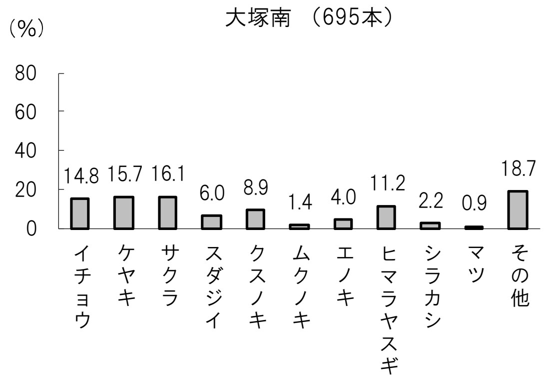


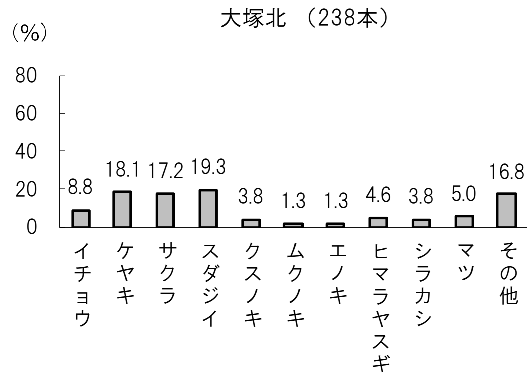


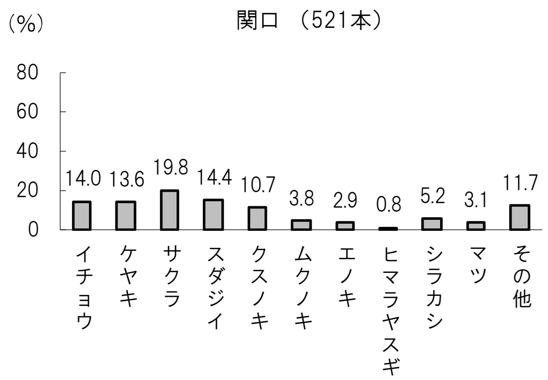


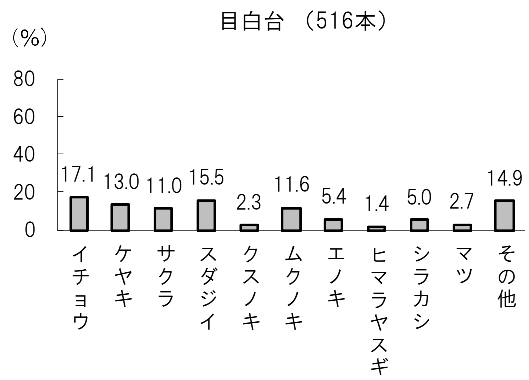
図Ⅲ－１５　区域別樹種別樹木本数構成比（1/4）

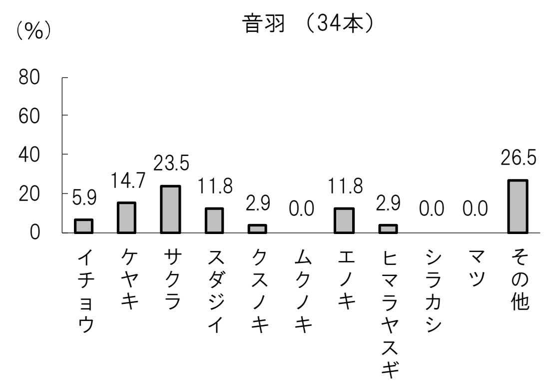


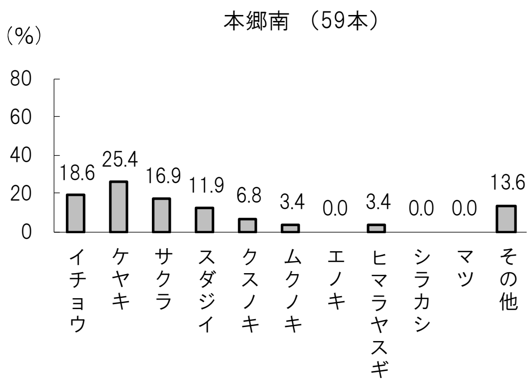


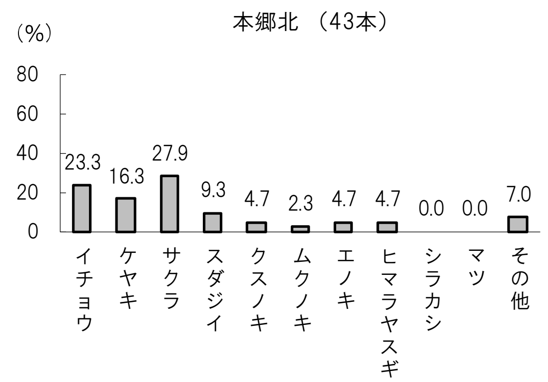




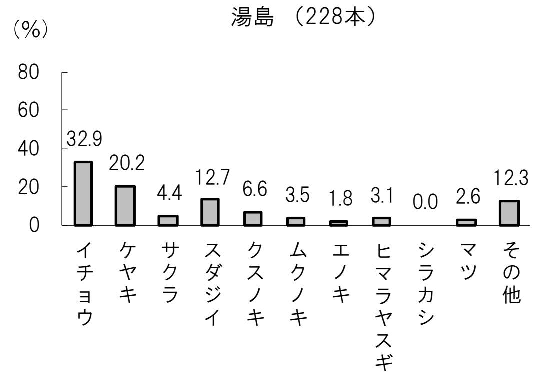


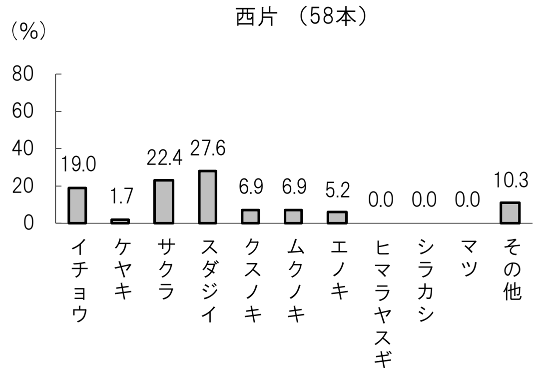


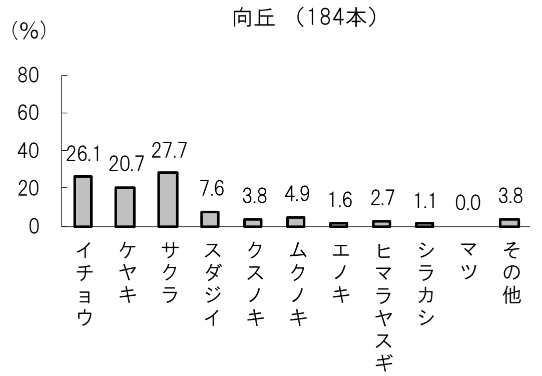


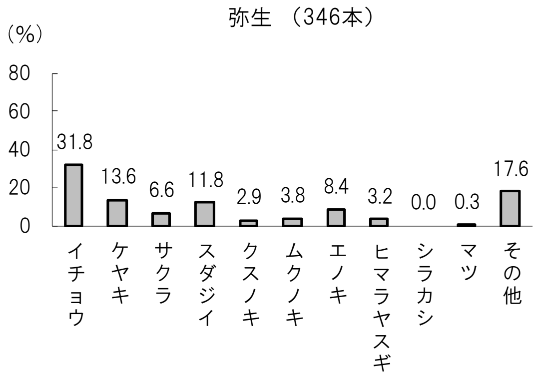


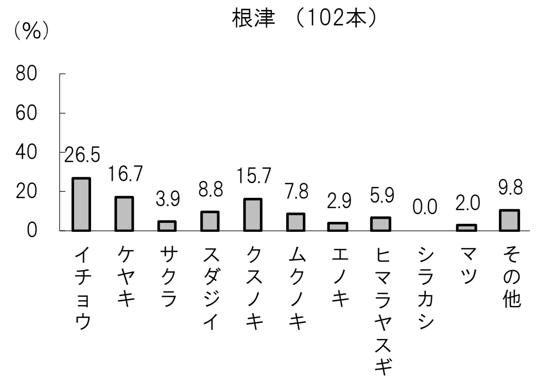
図Ⅲ－１６　区域別樹種別樹木本数構成比（2/4）

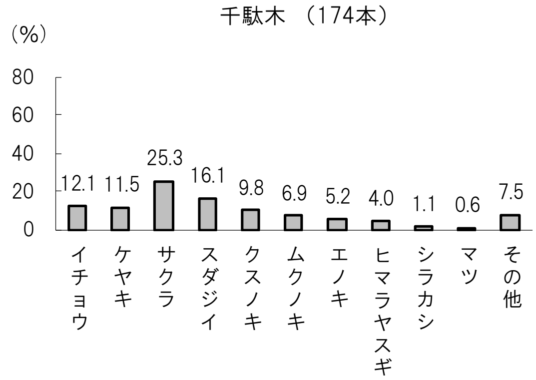


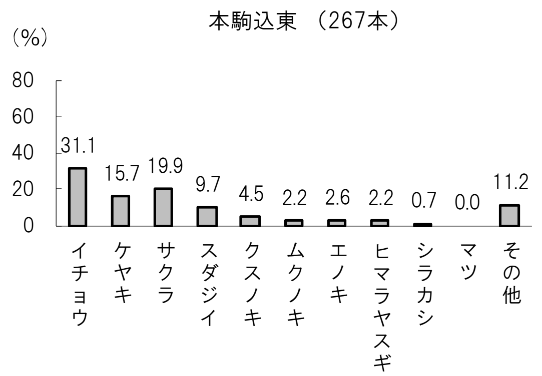


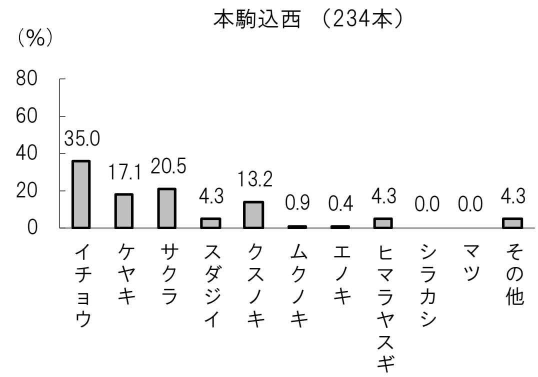




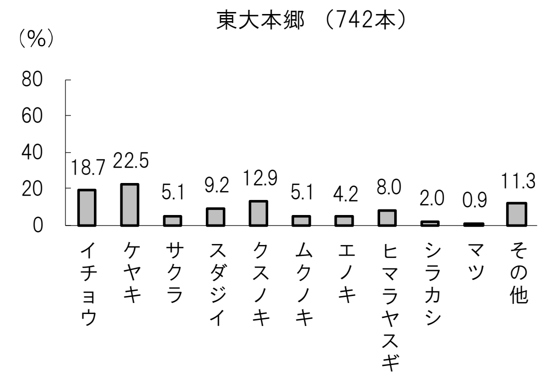


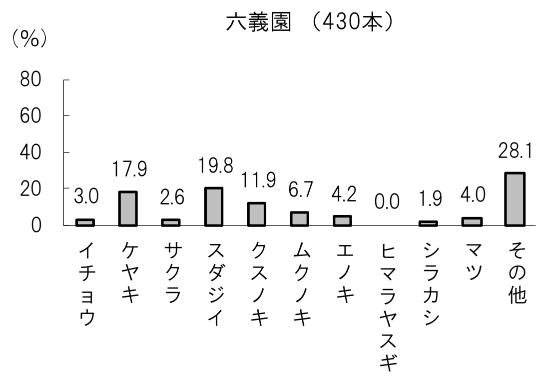


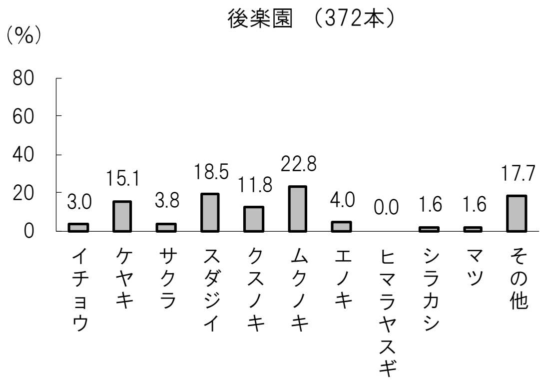


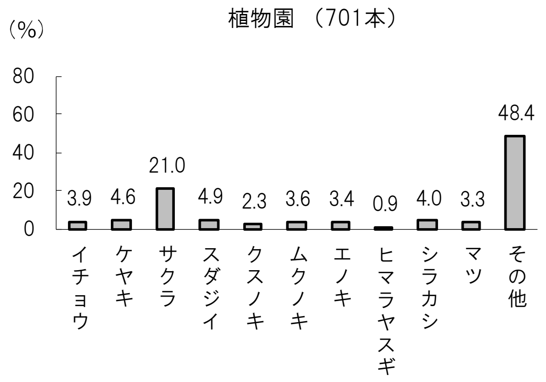


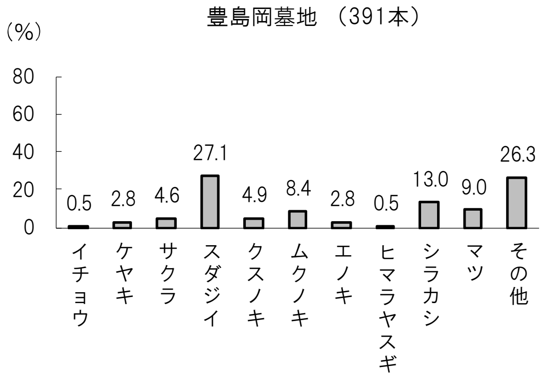
図Ⅲ－１７　区域別樹種別樹木本数構成比（3/4）











図Ⅲ－１８　区域別樹種別樹木本数構成比（4/4）

１－５．樹木の経年変化

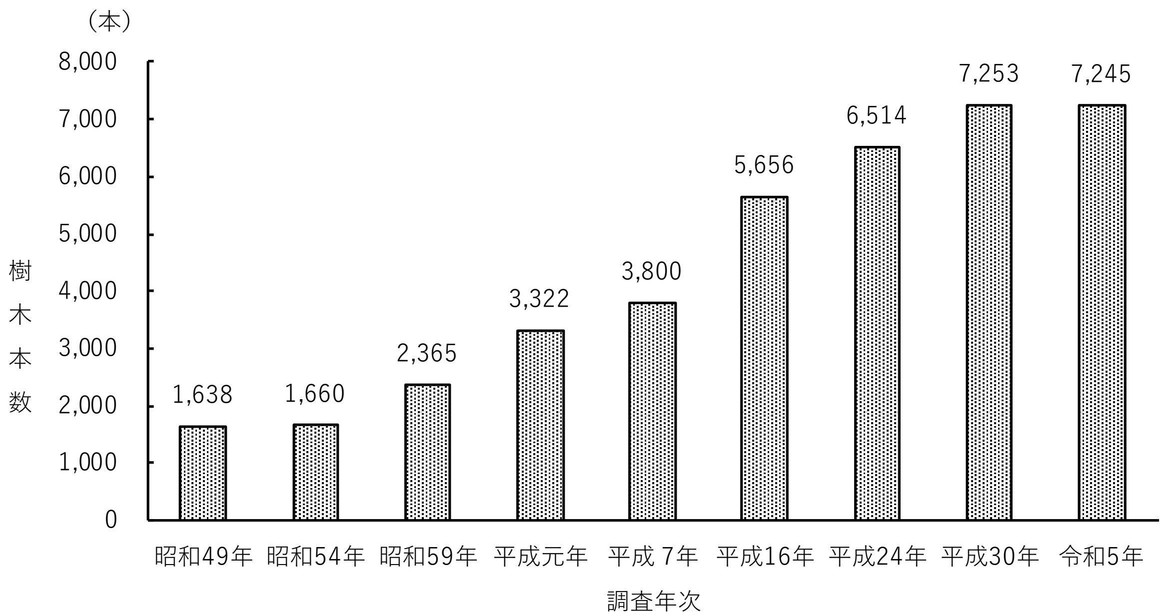
（１） 樹木本数の変化

過去８回の調査において、胸高直径 50cm 以上の樹木を対象に今回の調査の樹木本数と比較し、表Ⅲ－１６および図Ⅲ－１９に示す。

過去８回の調査では、樹木本数はいずれも増加もしくはほぼ横ばいで推移しており、今回の調査は前回（平成 30 年）から８本減少と横ばいの結果となった。

表Ⅲ－１６　樹木本数の経年変化

調査年	樹木総数(本)
昭和49年	1,638
昭和54年	1,660
昭和59年	2,365
平成元年	3,322
平成 7年	3,800
平成16年	5,656
平成24年	6,514
平成30年	7,253
令和5年	7,245



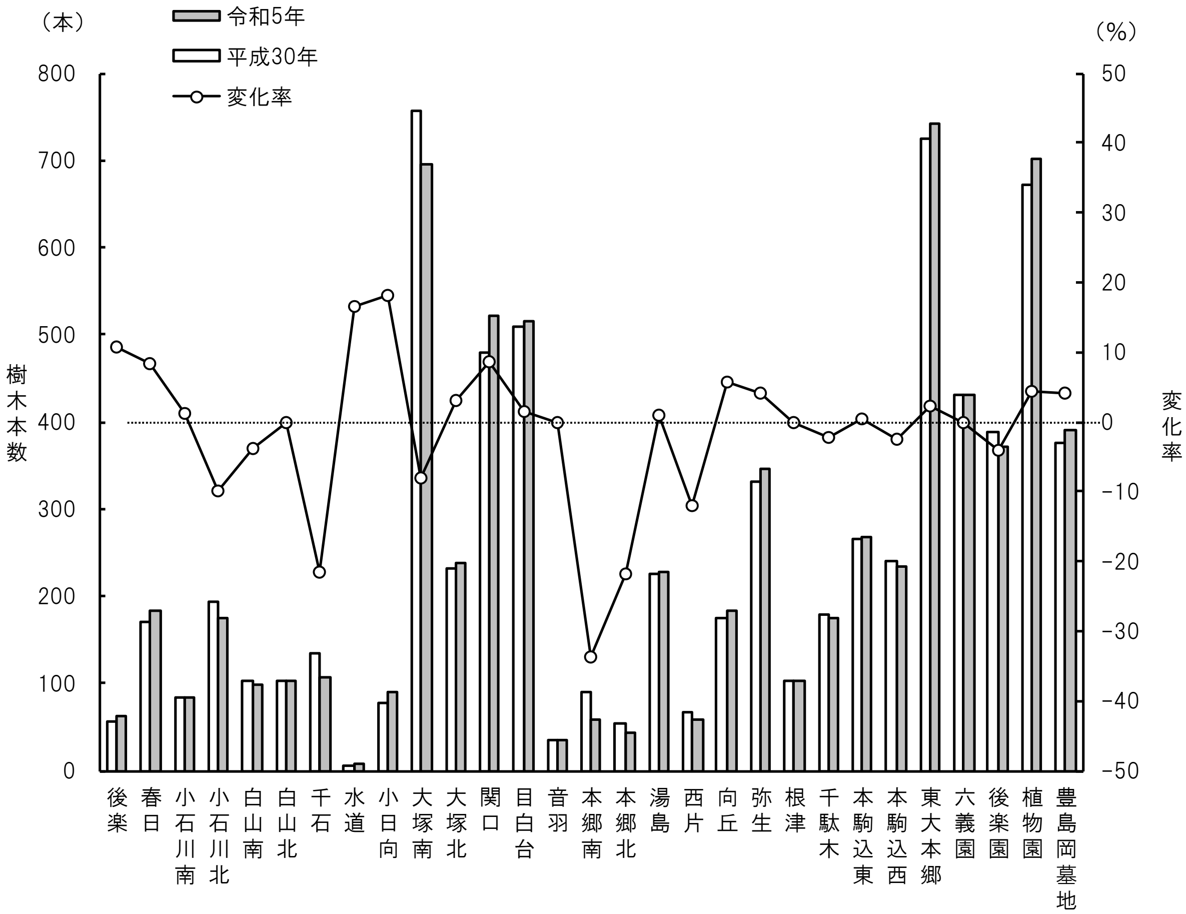
図Ⅲ－１９　樹木本数の経年変化

前回と今回の調査における区域別樹木本数の変化を表Ⅲ－１７、図Ⅲ－２０に示す。
区域別では、関口での増加が 41 本と最も多く約半数の地区で増加している。
一方で 30 本を超える減少となった地区については、公園や学校施設などの改修が影響している。

○ 増加している区域：　関口、小日向、春日、弥生
○ 減少している区域：　大塚南、本郷南、千石、小石川北

表Ⅲ－１７　区域別樹木本数の経年変化

区域番号	区域	平成30年（本）	令和5年（本）	増減値（本）	変化率（%）
1	後楽	56	62	6	10.7
2	春日	170	184	14	8.2
3	小石川南	83	84	1	1.2
4	小石川北	194	175	-19	-9.8
5	白山南	103	99	-4	-3.9
6	白山北	102	102	0	0.0
7	千石	135	106	-29	-21.5
8	水道	6	7	1	16.7
9	小日向	77	91	14	18.2
10	大塚南	756	695	-61	-8.1
11	大塚北	231	238	7	3.0
12	関口	480	521	41	8.5
13	目白台	508	516	8	1.6
14	音羽	34	34	0	0.0
15	本郷南	89	59	-30	-33.7
16	本郷北	55	43	-12	-21.8
17	湯島	226	228	2	0.9
18	西片	66	58	-8	-12.1
19	向丘	174	184	10	5.7
20	弥生	332	346	14	4.2
21	根津	102	102	0	0.0
22	千駄木	178	174	-4	-2.2
23	本駒込東	266	267	1	0.4
24	本駒込西	240	234	-6	-2.5
25	東大本郷	725	742	17	2.3
26	六義園	430	430	0	0.0
27	後楽園	388	372	-16	-4.1
28	植物園	671	701	30	4.5
29	豊島岡墓地	376	391	15	4.0
区全体		7,253	7,245	-8	-0.1



図Ⅲ－２０　区域別樹木本数の経年変化

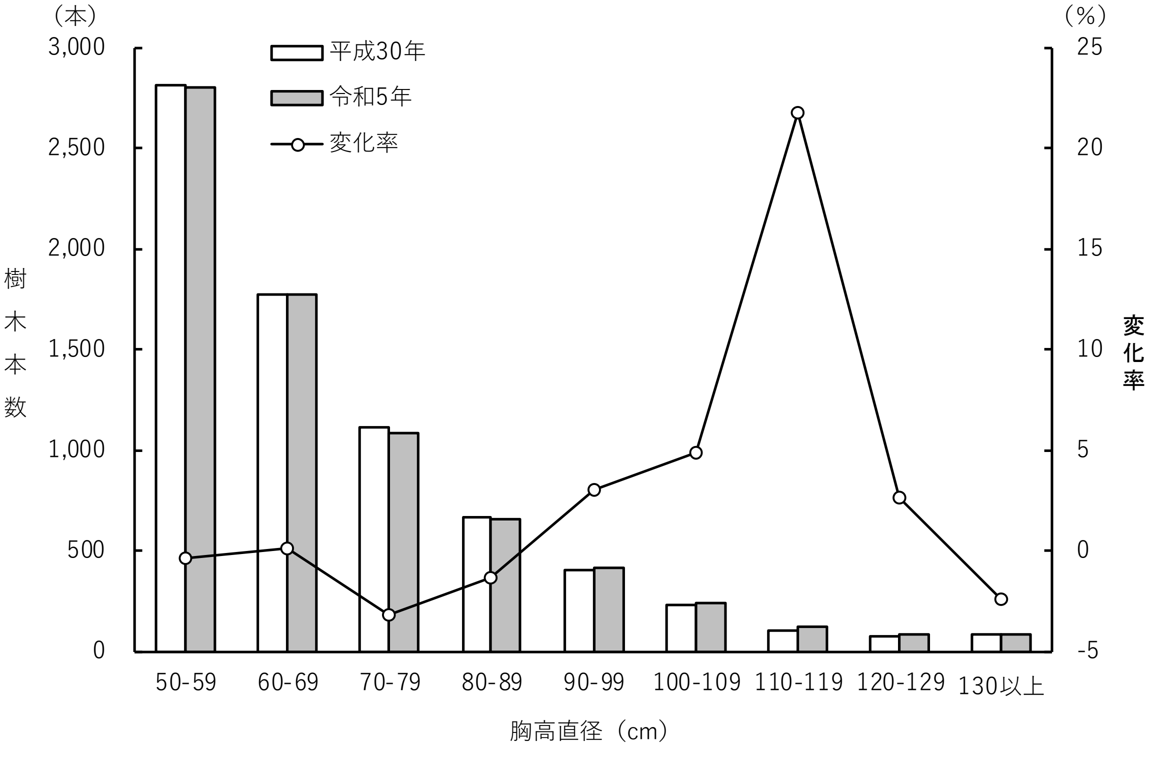
（２）太さ別の樹木本数の変化

前回調査と比較するため、胸高直径 50cm 以上の樹木における太さ別の樹木本数の増減を表Ⅲ－１８および図Ⅲ－２１に示す。

大きな施設改修などの影響もあり合計本数こそ横ばいであったが、大きな樹径となるにつれ伐採等の影響をあまり受けずに経年変化による成長分が加算されている。

表Ⅲ－１８　太さ別樹木本数の経年変化

胸高直径(㎝)	平成30年（本）	令和5年（本）	増減（本）	変化率（%）
50-59	2,809	2,799	-10	-0.4
60-69	1,773	1,775	2	0.1
70-79	1,116	1,080	-36	-3.2
80-89	669	660	-9	-1.3
90-99	401	413	12	3.0
100-109	226	237	11	4.9
110-119	101	123	22	21.8
120-129	77	79	2	2.6
130以上	81	79	-2	-2.5
合計	7,253	7,245	-8	-0.1



図Ⅲ－２１　太さ別樹木本数の経年変化

（３）樹種別の樹木本数の変化

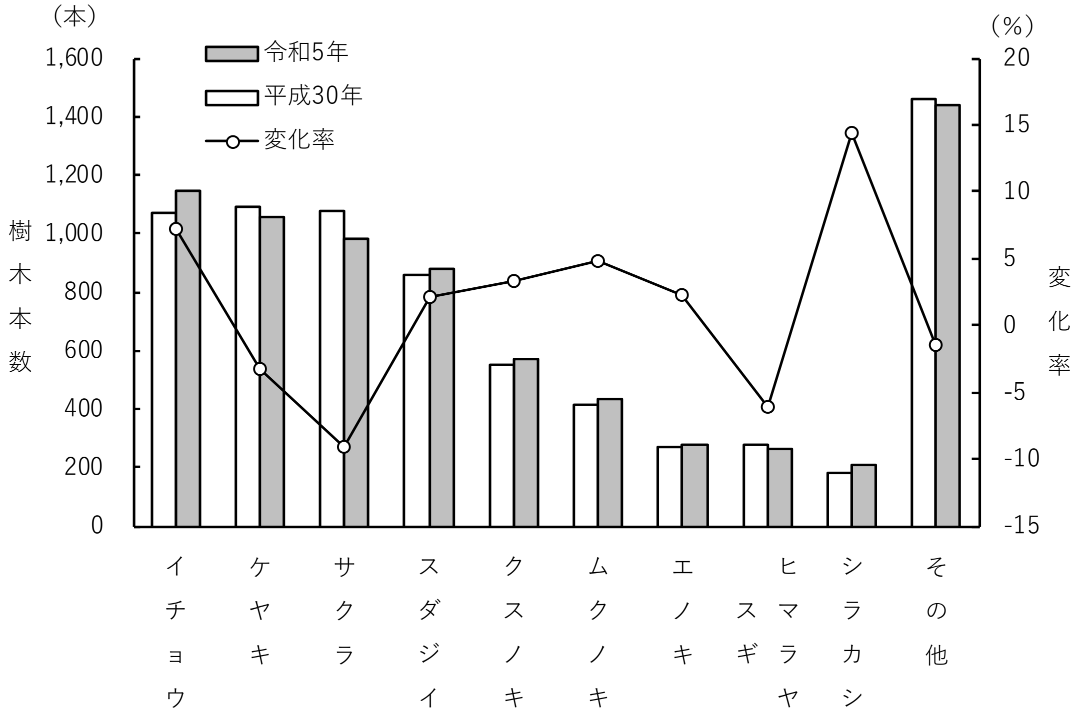
前回調査と比較するため、胸高直径 50cm 以上の樹木において樹種別樹木本数上位の樹種ついての変動状況を表Ⅲ－１９および図Ⅲ－２２に示す。

交通施設に多く分布しているイチョウの増加が目立っており、緑視率への好影響が期待される。

また、分布が比較的似ているサクラとケヤキだが、サクラの減少が特に目立っており、施設改修などの影響のほか、老木化した樹木の植替えが進められていると考えられる。

表Ⅲ－１９　樹種別樹木本数の経年変化

樹種	平成30年（本）	令和5年（本）	増減値（本）	変化率（%）
イチョウ	1,071	1,148	77	7.2
ケヤキ	1,089	1,053	-36	-3.3
サクラ	1,076	978	-98	-9.1
スダジイ	859	877	18	2.1
クスノキ	551	569	18	3.3
ムクノキ	415	435	20	4.8
エノキ	271	277	6	2.2
ヒマラヤスギ	279	262	-17	-6.1
シラカシ	181	207	26	14.4
その他	1,461	1,439	-22	-1.5
計	7,253	7,245	-8	-0.1



図Ⅲ－２２　樹種別樹木本数の経年変化

２．保護樹木の状況

２－１．保護樹木の健康度

（１） 主要樹種の健康度

保護樹木の健康度を次の評価（表Ⅲ－２０）で算出する。

表Ⅲ－２０　健康度の評価基準

調査項目	１．良好、正常 （１点）	２．普通、正常に近い （２点）	３．悪化が進んでいる （３点）	４．顕著に悪化している （４点）
樹勢	生育旺盛	多少影響あるが あまり目立たない程度	異常が一目でわかる程度	生育劣弱で回復見込みない とみられるもの
樹形	自然樹形を保つもの	一部幾分の乱れがあるが、 自然樹形に近いもの	自然樹形の崩壊が かなり進んだもの	自然樹形が全く崩壊し、 奇形化しているもの
枝葉密度	枝および葉の密度の バランスがとれている	１に比べやや劣る	やや疎	枯枝が多く、 葉の発生が少ない 密度が著しく疎
葉色	正常	やや異常	かなり異常	著しく異常

○ 健康度の算出方法

$$\text{健康度} = \frac{\text{樹勢の点数＋樹形の点数＋枝葉密度の点数＋葉色の点数}}{4}$$

令和５年８月１日現在で文京区が指定している保護樹木は 690 本あり、現地確認調査をおこなった結果、不存在だった樹木 13 本を除く 677 本の樹木について確認できた。

調査対象となった保護樹木の健康度の評価基準別内訳を表Ⅲ－２１に示す。樹勢と葉色は半数以上が良好で枝葉密度では概ね正常であるが、樹形にいたっては正常からやや悪化も多いことがうかがえる。これは剪定作業等の影響で評価が低くなる傾向とも読み取れる。

ただ、顕著に悪化していると評価される樹木もあり、単木単位での特別な対処も必要と考えられる。

表Ⅲ－２１　健康度の評価基準別内訳

調査項目	1. 良好、正常	2. 普通、正常に近い	3. 悪化が進んでいる	4. 顕著に悪化している
樹勢	353本	276本	46本	2本
樹形	166本	447本	62本	2本
枝葉密度	306本	334本	35本	2本
葉色	462本	206本	8本	1本

保護樹木の主な樹種別の健康度の評価について、樹種別の健康度および内訳を表Ⅲ－２２、２３、２４および図Ⅲ－２３に示す。

表Ⅲ－２２　樹種別の健康度

樹種	調査本数	健康度
	677本	1.59
イチョウ	206本	1.68
ケヤキ	111本	1.66
スダジイ	101本	1.54
サクラ	62本	1.52
クスノキ	45本	1.36
ムクノキ	43本	1.44
ヒマラヤスギ	18本	1.54
その他	91本	1.56

注：1.00 に近い数値ほど健康度が高く、数値が高いほど健康度は低い。

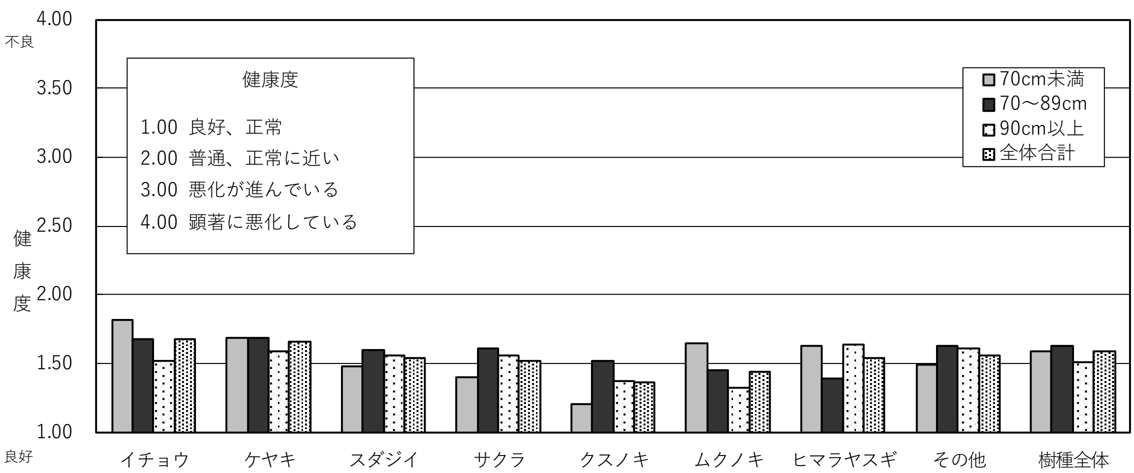
樹種としてはイチョウ、ケヤキ、スダジイが全体の半分以上を占めており、胸高直径 50cm 以上の樹木と概ね似た構成となっている。

全体平均の健康度は 1.59 で、全体的に良好であり、健康度としては特に問題ないと判断され、樹種別の健康度においても大きな差異はみられない。

健康度の内訳をみると、イチョウの直径 50～70cm 未満の健康度がもっとも低いが、直径 90cm 以上は全体平均の健康度を上回っている。

表Ⅲ－２３　樹種別健康度の内訳

樹種	直径	本数	平均 健康度
イチョウ	50～69cm	66	1.81
	70～89cm	89	1.68
	90cm以上	51	1.52
	合計	206	1.68
ケヤキ	50～69cm	36	1.69
	70～89cm	46	1.69
	90cm以上	29	1.59
	合計	111	1.66
スダジイ	50～69cm	43	1.48
	70～89cm	46	1.60
	90cm以上	12	1.56
	合計	101	1.54
サクラ	50～69cm	26	1.40
	70～89cm	28	1.61
	90cm以上	8	1.56
	合計	62	1.52
クスノキ	50～69cm	14	1.20
	70～89cm	12	1.52
	90cm以上	19	1.37
	合計	45	1.36
ムクノキ	50～69cm	10	1.65
	70～89cm	14	1.45
	90cm以上	19	1.32
	合計	43	1.44
ヒマラヤスギ	50～69cm	4	1.63
	70～89cm	7	1.39
	90cm以上	7	1.64
	合計	18	1.54
その他	50～69cm	40	1.49
	70～89cm	30	1.63
	90cm以上	21	1.61
	合計	91	1.56
樹種全体	50～69cm	239	1.59
	70～89cm	272	1.63
	90cm以上	166	1.51
	合計	677	1.59



図Ⅲ－２３　樹種別健康度

表Ⅲ－２４　樹種別健康度の内訳（詳細）

樹種	直径	本数	平均健康度	健康度の内訳			
				1.樹勢	2.樹形	3.枝葉密度	4.葉色
イチョウ	50～59cm	16	2.09	2.06	2.38	2.13	1.81
	60～69cm	50	1.72	1.74	1.98	1.76	1.40
	70～79cm	61	1.66	1.62	1.92	1.72	1.39
	80～89cm	28	1.71	1.68	1.93	1.82	1.39
	90cm以上	51	1.52	1.45	1.82	1.53	1.27
	合計	206	1.68	1.65	1.95	1.73	1.40
ケヤキ	50～59cm	11	1.57	1.55	1.91	1.73	1.09
	60～69cm	25	1.74	1.60	1.92	1.72	1.72
	70～79cm	24	1.80	1.75	2.00	1.88	1.58
	80～89cm	22	1.57	1.45	1.73	1.64	1.45
	90cm以上	29	1.59	1.41	1.72	1.76	1.48
	合計	111	1.66	1.55	1.85	1.75	1.51
スダジイ	50～59cm	14	1.34	1.29	1.71	1.21	1.14
	60～69cm	29	1.54	1.55	1.83	1.45	1.34
	70～79cm	31	1.63	1.61	1.90	1.65	1.35
	80～89cm	15	1.55	1.47	1.73	1.60	1.40
	90cm以上	12	1.56	1.67	1.92	1.50	1.17
	合計	101	1.54	1.53	1.83	1.50	1.31
サクラ	50～59cm	14	1.59	1.64	1.93	1.50	1.29
	60～69cm	12	1.19	1.00	1.75	1.00	1.00
	70～79cm	16	1.66	1.81	1.94	1.69	1.19
	80～89cm	12	1.54	1.42	1.92	1.75	1.08
	90cm以上	8	1.56	1.63	1.75	1.63	1.25
	合計	62	1.52	1.52	1.87	1.52	1.16
クスノキ	50～59cm	4	1.06	1.00	1.25	1.00	1.00
	60～69cm	10	1.25	1.20	1.70	1.10	1.00
	70～79cm	7	1.43	1.43	1.57	1.43	1.29
	80～89cm	5	1.65	2.00	1.80	1.60	1.20
	90cm以上	19	1.37	1.26	1.68	1.32	1.21
	合計	45	1.36	1.33	1.64	1.29	1.16
ムクノキ	50～59cm	2	1.38	1.50	1.50	1.50	1.00
	60～69cm	8	1.72	1.75	2.00	1.63	1.50
	70～79cm	10	1.45	1.50	1.70	1.50	1.10
	80～89cm	4	1.44	1.25	2.00	1.50	1.00
	90cm以上	19	1.32	1.21	1.58	1.37	1.11
	合計	43	1.44	1.40	1.72	1.47	1.16
ヒマラヤスギ	50～59cm	2	2.00	2.50	2.00	1.50	2.00
	60～69cm	2	1.25	1.50	1.50	1.00	1.00
	70～79cm	4	1.50	1.50	2.00	1.25	1.25
	80～89cm	3	1.25	1.33	1.67	1.00	1.00
	90cm以上	7	1.64	1.71	1.86	1.71	1.29
	合計	18	1.54	1.67	1.83	1.39	1.28
その他	50～59cm	16	1.41	1.31	1.63	1.44	1.25
	60～69cm	24	1.54	1.67	1.92	1.46	1.13
	70～79cm	17	1.54	1.53	1.71	1.59	1.35
	80～89cm	13	1.73	1.54	2.00	1.85	1.54
	90cm以上	21	1.61	1.57	1.86	1.71	1.29
	合計	91	1.56	1.54	1.82	1.59	1.29
樹種全体	50～59cm	79	1.59	1.57	1.87	1.57	1.33
	60～69cm	160	1.59	1.58	1.89	1.54	1.34
	70～79cm	170	1.64	1.63	1.88	1.68	1.36
	80～89cm	102	1.61	1.54	1.85	1.70	1.35
	90cm以上	166	1.51	1.45	1.77	1.56	1.28
	合計	677	1.59	1.55	1.85	1.61	1.33

（２） 区域別健康度

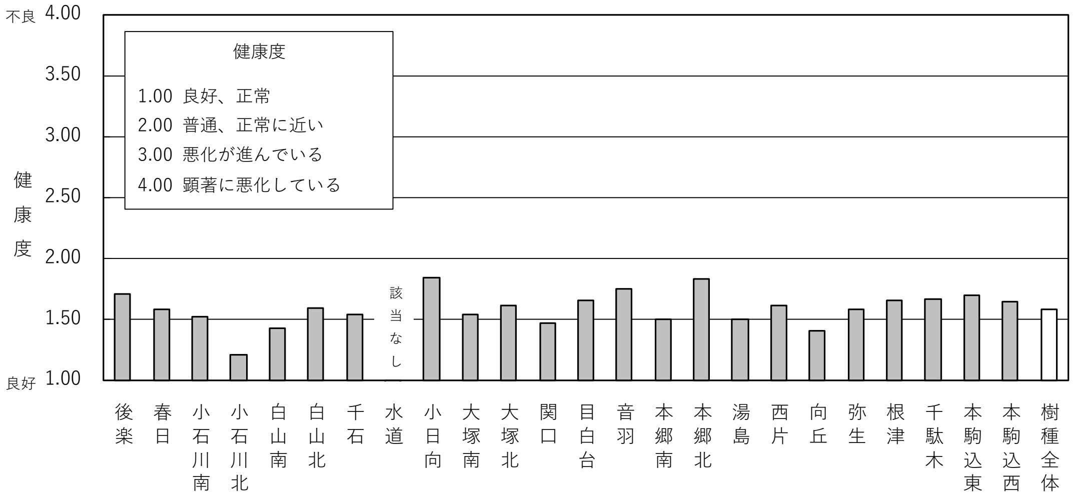
区域別の樹木の健康度を表Ⅲ－２５、図Ⅲ－２４に示し、区域ごとの樹種別健康度を表Ⅲ－２６に示す。

区域別の健康度には特に傾向はみられず、地域的な影響は考えられないと判断される。

評価項目別にみても突出して悪い評価の区域はない。

表Ⅲ－２５　区域別健康度

No.	区域	樹木本数	直径(cm)	樹勢	樹形	枝葉密度	葉色	樹種全体
1	後楽	11	70.9	1.82	1.82	1.73	1.45	1.70
2	春日	12	79.5	1.58	1.75	1.58	1.42	1.58
3	小石川南	33	71.1	1.64	1.67	1.52	1.27	1.52
4	小石川北	16	77.4	1.19	1.50	1.13	1.00	1.20
5	白山南	7	80.9	1.29	1.71	1.43	1.29	1.43
6	白山北	19	80.1	1.58	1.95	1.53	1.32	1.59
7	千石	14	72.1	1.50	1.86	1.50	1.29	1.54
8	水道	0	－	－	－	－	－	－
9	小日向	13	75.0	1.85	2.31	1.92	1.31	1.85
10	大塚南	18	65.6	1.61	1.89	1.44	1.22	1.54
11	大塚北	31	78.3	1.48	1.87	1.81	1.29	1.61
12	関口	78	79.4	1.46	1.65	1.45	1.31	1.47
13	目白台	117	81.7	1.56	1.90	1.74	1.39	1.65
14	音羽	1	63.0	2.00	2.00	2.00	1.00	1.75
15	本郷南	8	108.9	1.75	1.50	1.38	1.38	1.50
16	本郷北	13	81.6	1.77	2.15	1.85	1.54	1.83
17	湯島	10	82.5	1.30	1.70	1.80	1.20	1.50
18	西片	17	74.2	1.65	1.88	1.53	1.41	1.62
19	向丘	57	77.0	1.32	1.88	1.26	1.16	1.40
20	弥生	3	76.7	1.67	2.00	1.33	1.33	1.58
21	根津	47	85.9	1.60	1.89	1.72	1.40	1.65
22	千駄木	12	85.0	1.67	2.00	1.67	1.33	1.67
23	本駒込東	56	80.8	1.75	1.96	1.63	1.45	1.70
24	本駒込西	84	76.8	1.55	1.89	1.76	1.36	1.64
樹種合計		677	79.0	1.55	1.85	1.61	1.33	1.59



図Ⅲ－２４　区域別健康度

表Ⅲ－２６　区域別樹種別健康度

No.	区域	樹種名	本数	平均健康度	No.	区域	樹種名	本数	平均健康度
1	後楽	イチョウ	4	2.06	13	目白台	イチョウ	16	1.75
		ケヤキ	5	1.55			ケヤキ	32	1.88
		スダジイ	0	－			スダジイ	20	1.53
		サクラ	0	－			サクラ	4	1.75
		クスノキ	1	1.25			クスノキ	2	1.63
		その他	1	1.50			その他	43	1.49
2	春日	イチョウ	1	2.00	14	音羽	イチョウ	0	－
		ケヤキ	1	1.75			ケヤキ	1	1.75
		スダジイ	4	1.44			スダジイ	0	－
		サクラ	1	1.75			サクラ	0	－
		クスノキ	1	1.25			クスノキ	0	－
		その他	4	1.63			その他	0	－
3	小石川南	イチョウ	10	1.43	15	本郷南	イチョウ	1	1.25
		ケヤキ	0	－			ケヤキ	1	1.25
		スダジイ	7	1.39			スダジイ	2	2.00
		サクラ	4	1.56			サクラ	1	1.50
		クスノキ	0	－			クスノキ	2	1.50
		その他	12	1.67			その他	1	1.00
4	小石川北	イチョウ	1	1.50	16	本郷北	イチョウ	6	1.75
		ケヤキ	0	－			ケヤキ	1	2.00
		スダジイ	0	－			スダジイ	0	－
		サクラ	0	－			サクラ	2	2.25
		クスノキ	15	1.18			クスノキ	2	1.88
		その他	0	－			その他	2	1.50
5	白山南	イチョウ	2	1.63	17	湯島	イチョウ	5	1.65
		ケヤキ	0	－			ケヤキ	1	1.25
		スダジイ	0	－			スダジイ	1	1.50
		サクラ	2	1.25			サクラ	0	－
		クスノキ	0	－			クスノキ	1	1.00
		その他	3	1.42			その他	2	1.50
6	白山北	イチョウ	6	1.71	18	西片	イチョウ	3	2.08
		ケヤキ	3	1.33			ケヤキ	0	－
		スダジイ	2	1.88			スダジイ	5	1.60
		サクラ	1	1.75			サクラ	3	2.08
		クスノキ	1	1.25			クスノキ	2	1.38
		その他	6	1.54			その他	4	1.06
7	千石	イチョウ	2	2.00	19	向丘	イチョウ	15	1.35
		ケヤキ	2	1.88			ケヤキ	9	1.33
		スダジイ	3	1.17			スダジイ	5	2.10
		サクラ	2	2.13			サクラ	20	1.33
		クスノキ	1	1.25			クスノキ	3	1.17
		その他	4	1.19			その他	5	1.45
8	水道	イチョウ	0	－	20	弥生	イチョウ	0	－
		ケヤキ	0	－			ケヤキ	0	－
		スダジイ	0	－			スダジイ	2	1.50
		サクラ	0	－			サクラ	0	－
		クスノキ	0	－			クスノキ	0	－
		その他	0	－			その他	1	1.75
9	小日向	イチョウ	6	2.33	21	根津	イチョウ	20	1.66
		ケヤキ	3	1.50			ケヤキ	8	1.59
		スダジイ	1	1.75			スダジイ	2	1.63
		サクラ	2	1.25			サクラ	0	－
		クスノキ	0	－			クスノキ	6	1.38
		その他	1	1.25			その他	11	1.84
10	大塚南	イチョウ	3	1.25	22	千駄木	イチョウ	4	1.81
		ケヤキ	3	2.08			ケヤキ	2	1.38
		スダジイ	6	1.33			スダジイ	4	1.50
		サクラ	1	1.75			サクラ	0	－
		クスノキ	0	－			クスノキ	0	－
		その他	5	1.60			その他	2	2.00
11	大塚北	イチョウ	7	1.61	23	本駒込東	イチョウ	30	1.86
		ケヤキ	8	1.53			ケヤキ	2	1.63
		スダジイ	5	1.65			スダジイ	14	1.43
		サクラ	2	1.88			サクラ	2	1.63
		クスノキ	1	1.00			クスノキ	1	2.00
		その他	8	1.69			その他	7	1.54
12	関口	イチョウ	9	1.19	24	本駒込西	イチョウ	55	1.68
		ケヤキ	25	1.64			ケヤキ	4	1.56
		スダジイ	17	1.59			スダジイ	1	1.50
		サクラ	5	1.05			サクラ	10	1.53
		クスノキ	2	1.63			クスノキ	4	1.63
		その他	20	1.36			その他	10	1.60

２－２．健康度の経年変化

保護樹木における健康度の経年変化の状況を表Ⅲ－２７、図Ⅲ－２５に示す。

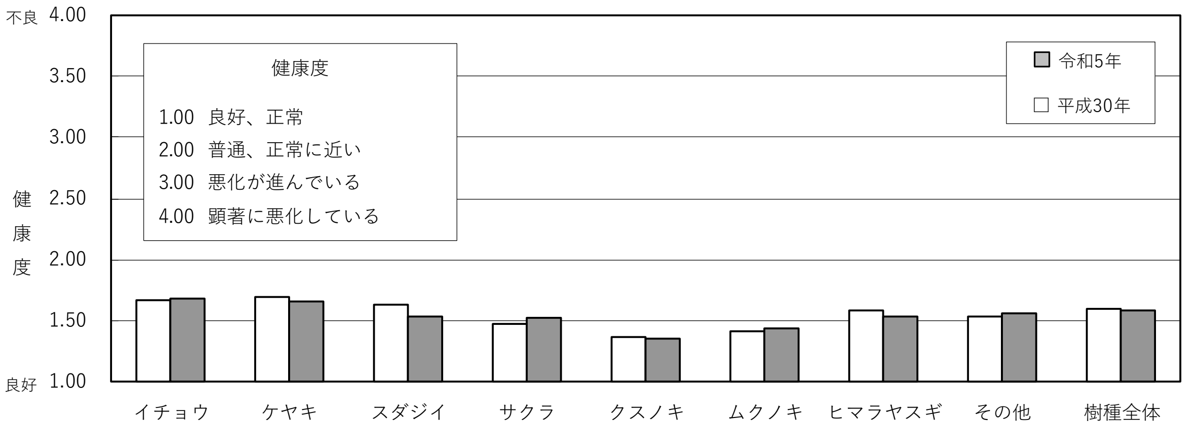
○令和５年度平均健康度　１．５９　　○平成 30 年度平均健康度　１．６２

全体的に健康度の経年変化をみると、やや良化しているが大きな変化はなかった。

樹種別に健康度の経年変化をみると、スダジイが良好へ転じている。また胸高直径 50cm 以上の樹木集計で減少が目立ったサクラ・ケヤキ・ヒマラヤスギについて、保護樹木においては特段の変化は見られない。

表Ⅲ－２７　樹種別健康度の経年変化

樹種	直径	健康度		増減
		平成30年	令和5年	
イチョウ	50～69cm	1.78	1.81	-0.03
	70～89cm	1.74	1.68	0.06
	90cm以上	1.60	1.52	0.08
	合計	1.72	1.68	0.04
ケヤキ	50～69cm	1.74	1.69	0.05
	70～89cm	1.64	1.69	-0.05
	90cm以上	1.75	1.59	0.16
	合計	1.70	1.66	0.04
スダジイ	50～69cm	1.63	1.48	0.15
	70～89cm	1.67	1.60	0.07
	90cm以上	1.83	1.56	0.27
	合計	1.66	1.54	0.12
サクラ	50～69cm	1.44	1.40	0.04
	70～89cm	1.54	1.61	-0.07
	90cm以上	1.60	1.56	0.04
	合計	1.50	1.52	-0.02
クスノキ	50～69cm	1.28	1.20	0.08
	70～89cm	1.38	1.52	-0.14
	90cm以上	1.41	1.37	0.04
	合計	1.37	1.36	0.01
ムクノキ	50～69cm	1.36	1.65	-0.29
	70～89cm	1.50	1.45	0.05
	90cm以上	1.34	1.32	0.02
	合計	1.42	1.44	-0.02
ヒマラヤスギ	50～69cm	1.50	1.63	-0.13
	70～89cm	1.38	1.39	-0.01
	90cm以上	1.64	1.64	0.00
	合計	1.51	1.54	-0.03
その他	50～69cm	1.45	1.49	-0.04
	70～89cm	1.69	1.63	0.06
	90cm以上	1.47	1.61	-0.14
	合計	1.53	1.56	-0.03
樹種全体	50～69cm	1.61	1.59	0.02
	70～89cm	1.64	1.63	0.01
	90cm以上	1.58	1.51	0.07
	合計	1.62	1.59	0.03



図Ⅲ－２５　樹種別健康度の経年変化

Ⅳ　樹林・公園緑地の状況

Ⅳ.　樹林・公園緑地の状況

１．樹林の状況

１－１．樹林の概況

本区には、樹高約 10m 以上の高木で一定の広がりを持つ樹林地が多数分布している。

今回の調査における樹林（300 ㎡以上の規模）の概況は、次のようであった。

なお、GIS による図上計測の抽出結果を基に現地で樹林の連坦性を確認して、樹林地として整理しており、緑被地面積の結果とは異なるものである。

本区の樹林概況

○　総面積　:　865,231 ㎡

○　１箇所あたりの平均面積　:　8,320 ㎡

○　箇所数　:　104 箇所

樹林の規模別内訳および箇所数を表Ⅳ－１に示す。

5,000 ㎡未満の樹林箇所数が本区における樹林地総数の 75%を占める。このことは、本区内には、小規模な樹林地が数多く存在していることを表している。また、面積の点では、面積規模 10,000 ㎡以上の樹林が、本区の樹林総面積の約 73%を占めていた。なお、箇所数の多い 1,000 ㎡以上 2,500 ㎡未満の樹林は、本区の樹林総面積の約 8%を占めるのみであった。

前回調査（H30）と比較して樹林の箇所数は減少したが、面積は増加している。規模別にみると、300 ㎡以上 1,000 ㎡未満の樹林が箇所数及び面積において目立って減少している。

一方、2500 ㎡以上の樹林では、全ての規模で面積が増加した。これは自然成長により樹冠が拡大したと供に、隣接する樹木と樹林が連続した１つの樹林として融合したためと考えられる。

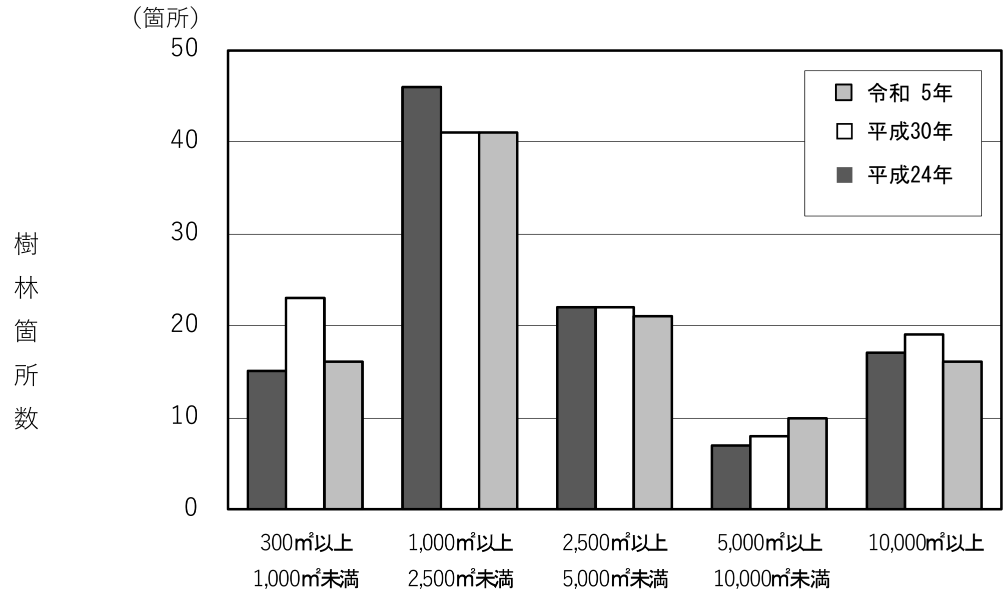
樹林の箇所数と面積の経年変化を表Ⅳ－２、図Ⅳ－１、図Ⅳ－２に示す。

表Ⅳ－１　規模別樹林内訳

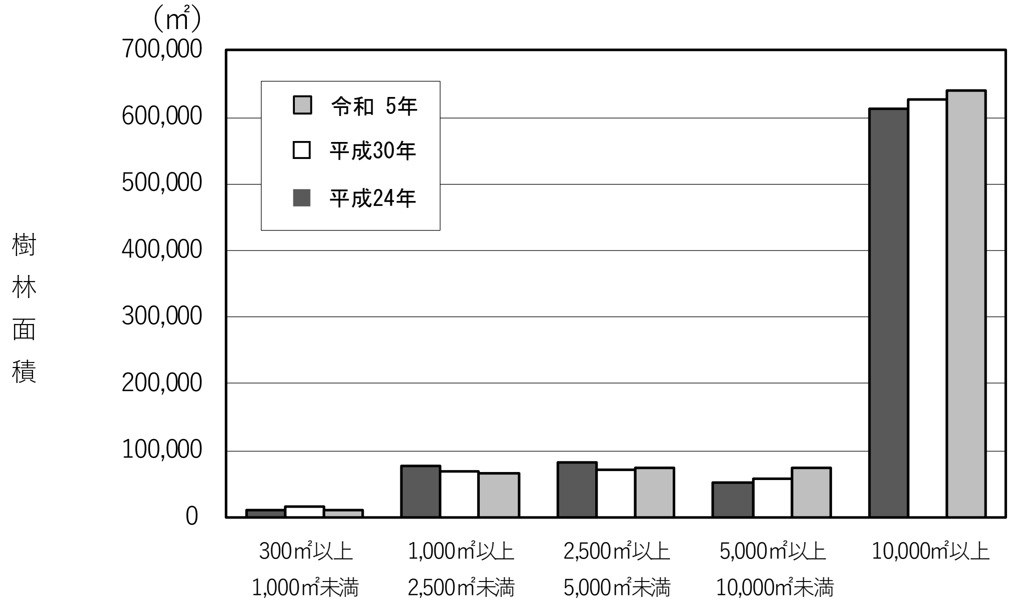
樹林規模	箇所数（箇所）	面積（㎡）	比率（%）
300㎡以上1, 000㎡未満	16	10, 960	1. 3
1, 000㎡以上2, 500㎡未満	41	67, 386	7. 8
2, 500㎡以上5, 000㎡未満	21	73, 594	8. 5
5, 000㎡以上10, 000㎡未満	10	73, 514	8. 5
10, 000㎡以上	16	639, 777	73. 9
合計	104	865, 231	100. 0

表Ⅳ－２　規模別樹林内訳の経年変化

樹林規模	箇所数（箇所）				面積（㎡）			
	平成24年	平成30年	令和5年	増減	平成24年	平成30年	令和5年	増減
300㎡以上1, 000㎡未満	15	23	16	-7	11, 190	17, 311	10, 960	-6, 351
1, 000㎡以上2, 500㎡未満	46	41	41	0	77, 647	68, 091	67, 386	-705
2, 500㎡以上5, 000㎡未満	22	22	21	-1	82, 138	72, 110	73, 594	1, 484
5, 000㎡以上10, 000㎡未満	7	8	10	2	52, 284	56, 712	73, 514	16, 802
10, 000㎡以上	17	19	16	-3	611, 605	626, 265	639, 777	13, 512
合計	104	113	104	-9	834, 864	840, 489	865, 231	24, 742



図Ⅳ－１　規模別樹林箇所数の経年変化



図Ⅳ－２　規模別樹林面積の経年変化

１－２．　樹林の分布状況

（１）区域別樹林分布状況

区域別の樹林の分布状況を表Ⅳ－３、図Ⅳ－３に、また樹林の分布図を図Ⅳ－４にそれぞれ示す。

もっとも規模の大きな樹林は、５箇所の特別区域に存在していた。この中には、本区の潜在自然植生である、スダジイ－ヤブコウジ群落（小石川後楽園、六義園）、タブノキ－イノデ群落（後楽園）が含まれ、自然度の高い貴重な樹林地が存在している。

一般区域では大塚南、関口、弥生、目白台が特に樹林の多い区域であった。関口から目白台にかけて、台地から低地面に続く斜面地には、規模の大きい樹林が残され、これらの樹林の植生にはスダジイ―ヤブコウジ群集、コナラ―イイギリ群落などが存在し、自然度の高い樹林となっている。

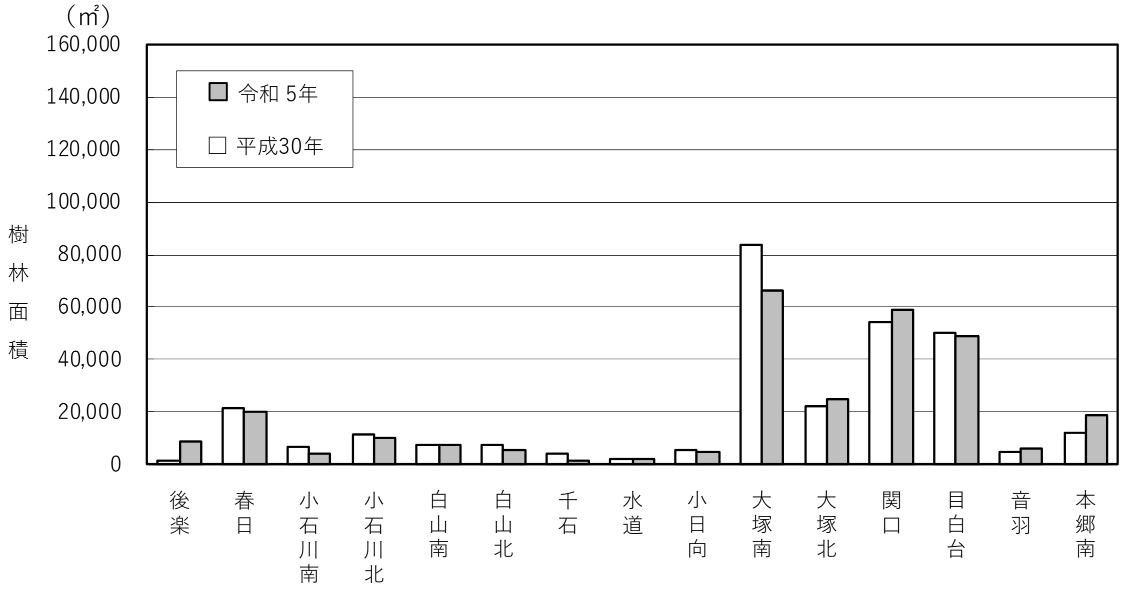
樹林がまったく存在しない区域は本郷北のみであり、小規模な樹林地は各地域に点在していた。

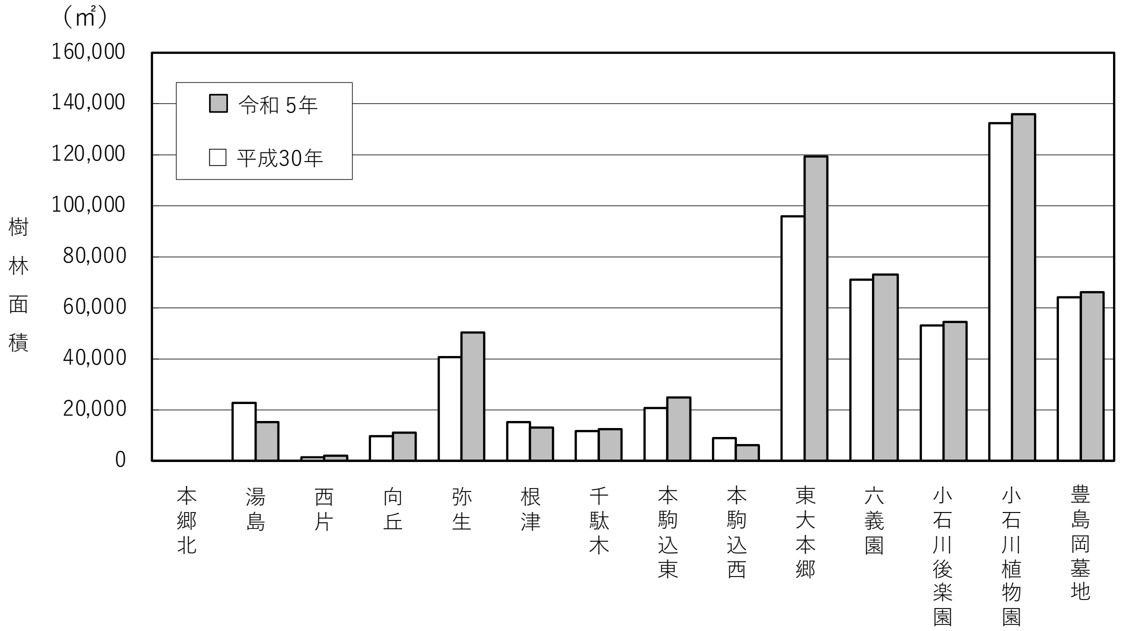
表Ⅳ－３　区域別樹林分布状況と増減

上段：面積（㎡）
下段：箇所

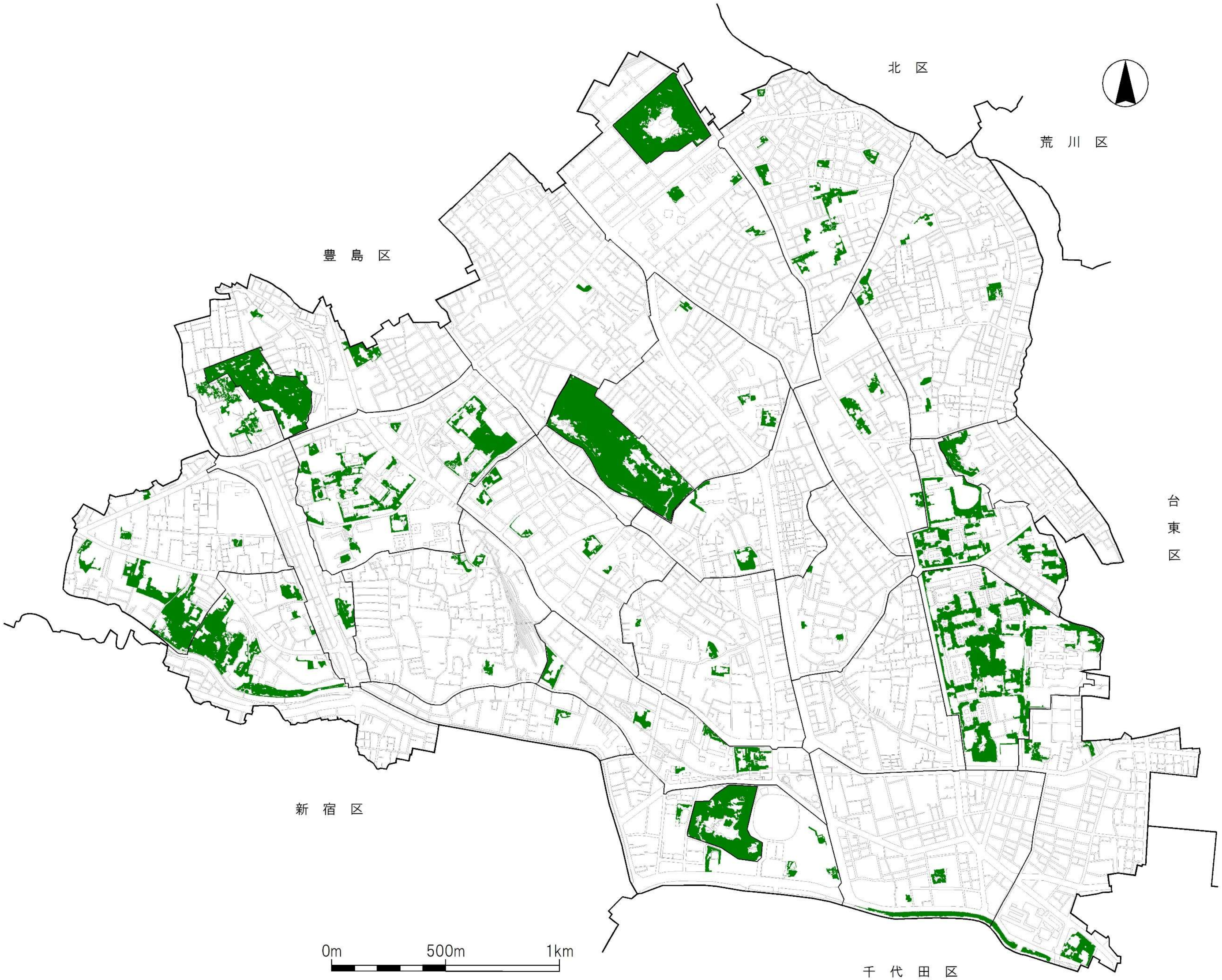
区域	平成30年	令和5年	増減
1. 後楽	1, 403 1	8, 895 3	7, 492 2
2. 春日	21, 517 8	20, 087 6	−1, 430 −2
3. 小石川南	6, 606 4	4, 413 3	−2, 193 −1
4. 小石川北	11, 720 7	10, 100 5	−1, 620 −2
5. 白山南	7, 557 3	7, 465 2	−92 −1
6. 白山北	7, 672 4	5, 551 4	−2, 121 0
7. 千石	4, 019 2	1, 252 1	−2, 767 −1
8. 水道	1, 945 1	1, 798 1	−147 0
9. 小日向	5, 572 4	5, 058 3	−514 −1
10. 大塚南	83, 902 12	66, 137 10	−17, 765 −2
11. 大塚北	22, 105 4	25, 102 4	2, 997 0
12. 関口	54, 183 6	58, 781 9	4, 598 3
13. 目白台	50, 352 12	48, 906 11	−1, 446 −1
14. 音羽	5, 096 1	5, 954 1	858 0
15. 本郷南	12, 397 2	18, 910 4	6, 513 2
16. 本郷北	0 0	0 0	0 0

区域	平成30年	令和5年	増減
17. 湯島	22, 588 6	14, 563 3	−8, 025 −3
18. 西片	1, 118 2	1, 843 3	725 1
19. 向丘	9, 258 6	10, 714 5	1, 456 −1
20. 弥生	40, 479 3	49, 821 2	9, 342 −1
21. 根津	14, 678 1	12, 438 1	−2, 240 0
22. 千駄木	11, 377 7	12, 212 6	835 −1
23. 本駒込東	20, 424 8	24, 096 9	3, 672 1
24. 本駒込西	8, 737 4	5, 800 3	−2, 937 −1
一般区域小計	424, 705 108	419, 896 99	−4, 809 −9
25. 東大本郷	95, 821 1	118, 635 1	22, 814 0
26. 六義園	70, 633 1	72, 333 1	1, 700 0
27. 小石川後楽園	53, 062 1	53, 855 1	793 0
28. 小石川植物園	132, 361 1	134, 991 1	2, 630 0
29. 豊島岡墓地	63, 907 1	65, 521 1	1, 614 0
特別区域小計	415, 784 5	445, 335 5	29, 551 0
区全体	840, 489 113	865, 231 104	24, 742 −9





図Ⅳ－３　区域別樹林面積分布状況



※300㎡以上の樹林を一件ごとに示したもの。

図Ⅳ－４　樹林分布図

（２）都市構造区分別樹林分布状況

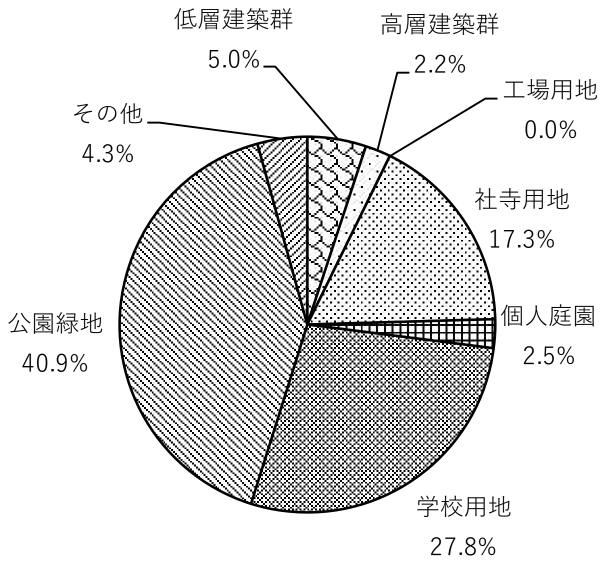
都市構造区分別の樹林分布状況を表Ⅳ－４、その面積構成割合を図Ⅳ－５に示す。また、区域別都市構造区分別の樹林分布状況を表Ⅳ－５に示す。

本区における樹林面積の約 41%が公園緑地に存在する。さらに、学校用地に属す公共・公益施設に分布する樹林面積を併せると、本区の樹林面積の約 69%が公有地およびそれに準じる場所に分布していることになる。このことから、公園緑地をはじめとする公共・公益施設は、本区の樹林の永続性を担保する上で重要な役割を持っていると考えられる。

一方、学校用地、公園緑地を除く民有地には本区の樹林面積の約 31%にあたる樹林が存在する。これらの樹林のうち、社寺用地に樹林が集中し、その面積は全体の約 17%にあたる。このように社寺・墓地等は民有地の樹林の中心となり重要な位置を占めているが、これらの樹林は現状においてその永続性が担保されていないため、その維持が望まれる。

表Ⅳ－４　都市構造区分別樹林分布状況

都市構造区分	樹林	
	面積（㎡）	箇所数
低層建築群	43,502	13
高層建築群	19,112	10
工場用地	0	0
社寺用地	149,756	25
個人庭園	21,406	7
学校用地	240,858	17
公園緑地	353,558	28
その他	37,039	4
合計	865,231	104



図Ⅳ－５　都市構造区分別樹林面積状況

表Ⅳ－５　区域別都市構造区分別樹林分布状況

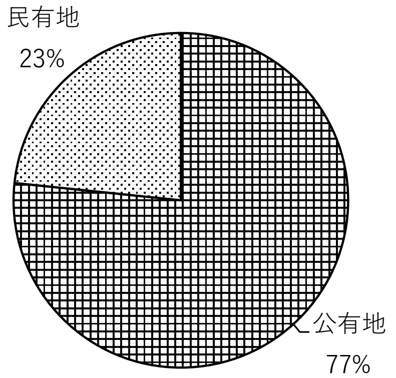
上段：面積（㎡）
下段：箇所

区域	都市構造区分別								計
	低層建築群	高層建築群	工場用地	社寺用地	個人庭園	学校用地	公園緑地	その他	
1. 後楽	0 0	4, 483 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4, 412 1	8, 895 3
2. 春日	3, 495 1	785 1	0 0	0 0	3, 098 1	7, 246 2	5, 463 1	0 0	20, 087 6
3. 小石川南	0 0	0 0	0 0	2, 789 2	1, 624 1	0 0	0 0	0 0	4, 413 3
4. 小石川北	0 0	4, 907 2	0 0	626 1	3, 221 1	0 0	1, 346 1	0 0	10, 100 5
5. 白山南	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2, 352 1	0 0	5, 113 1	7, 465 2
6. 白山北	0 0	1, 251 1	0 0	3, 251 2	0 0	0 0	1, 049 1	0 0	5, 551 4
7. 千石	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1, 252 1	0 0	1, 252 1
8. 水道	0 0	1, 798 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1, 798 1
9. 小日向	0 0	0 0	0 0	3, 085 2	0 0	1, 973 1	0 0	0 0	5, 058 3
10. 大塚南	0 0	1, 553 1	0 0	0 0	1, 785 1	43, 943 4	18, 856 4	0 0	66, 137 10
11. 大塚北	0 0	0 0	0 0	16, 573 2	0 0	0 0	8, 529 2	0 0	25, 102 4
12. 関口	17, 344 3	0 0	0 0	1, 460 2	0 0	0 0	16, 395 3	23, 582 1	58, 781 9
13. 目白台	4, 331 3	0 0	0 0	0 0	4, 922 1	14, 745 4	24, 908 3	0 0	48, 906 11
14. 音羽	0 0	0 0	0 0	0 0	5, 954 1	0 0	0 0	0 0	5, 954 1
15. 本郷南	15, 432 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3, 478 2	0 0	18, 910 4
16. 本郷北	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
17. 湯島	0 0	0 0	0 0	13, 092 2	0 0	0 0	1, 471 1	0 0	14, 563 3
18. 西片	1, 843 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1, 843 3
19. 向丘	0 0	0 0	0 0	10, 714 5	0 0	0 0	0 0	0 0	10, 714 5
20. 弥生	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	49, 821 2	0 0	0 0	49, 821 2
21. 根津	0 0	0 0	0 0	12, 438 1	0 0	0 0	0 0	0 0	12, 438 1
22. 千駄木	1, 057 1	0 0	0 0	4, 386 1	0 0	2, 143 2	4, 626 2	0 0	12, 212 6
23. 本駒込東	0 0	0 0	0 0	14, 356 3	802 1	0 0	5, 006 4	3, 932 1	24, 096 9
24. 本駒込西	0 0	4, 335 2	0 0	1, 465 1	0 0	0 0	0 0	0 0	5, 800 3
一般区域合計	43, 502 13	19, 112 10	0 0	84, 235 24	21, 406 7	122, 223 16	92, 379 25	37, 039 4	419, 896 99
25. 東大本郷	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	118, 635 1	0 0	0 0	118, 635 1
26. 六義園	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	72, 333 1	0 0	72, 333 1
27. 小石川後楽園	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	53, 855 1	0 0	53, 855 1
28. 小石川植物園	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	134, 991 1	0 0	134, 991 1
29. 豊島岡墓地	0 0	0 0	0 0	65, 521 1	0 0	0 0	0 0	0 0	65, 521 1
特別区域合計	0 0	0 0	0 0	65, 521 1	0 0	118, 635 1	261, 179 3	0 0	445, 335 5
区全体	43, 502 13	19, 112 10	0 0	149, 756 25	21, 406 7	240, 858 17	353, 558 28	37, 039 4	865, 231 104

（３）区域別公有地・民有地別樹林分布状況

本区においては、公有地の樹林面積が 663,304 ㎡、民有地の樹林面積が 201,927 ㎡であり、公有地の樹林が全体の約 77%を占めている。区域別、公有地・民有地別の樹林の分布状況を図Ⅳ－６、表Ⅳ－６に示す。

樹林箇所数については、公有地では大塚南（7 箇所）がもっとも多く、規模の大きい公園や学校などが反映されている。また、民有地では目白台(8 箇所)、関口（6 箇所）で箇所数が多く、これは社寺や旧大名屋敷などの樹林が永続的に保存されていたためである。



図Ⅳ－６　公有地・民有地別樹林分布状況

表Ⅳ－６　区域別公有地・民有地別樹林分布状況

上段：面積（㎡）
下段：箇所

区域	公有地	民有地	計
1. 後楽	0 0	8, 895 3	8, 895 3
2. 春日	8, 958 2	11, 129 4	20, 087 6
3. 小石川南	0 0	4, 413 3	4, 413 3
4. 小石川北	1, 346 1	8, 754 4	10, 100 5
5. 白山南	0 0	7, 465 2	7, 465 2
6. 白山北	1, 049 1	4, 502 3	5, 551 4
7. 千石	1, 252 1	0 0	1, 252 1
8. 水道	0 0	1, 798 1	1, 798 1
9. 小日向	0 0	5, 058 3	5, 058 3
10. 大塚南	59, 405 7	6, 732 3	66, 137 10
11. 大塚北	10, 099 3	15, 003 1	25, 102 4
12. 関口	16, 395 3	42, 386 6	58, 781 9
13. 目白台	24, 908 3	23, 998 8	48, 906 11
14. 音羽	0 0	5, 954 1	5, 954 1
15. 本郷南	18, 910 4	0 0	18, 910 4
16. 本郷北	0 0	0 0	0 0
17. 湯島	10, 119 2	4, 444 1	14, 563 3
18. 西片	0 0	1, 843 3	1, 843 3
19. 向丘	0 0	10, 714 5	10, 714 5
20. 弥生	49, 821 2	0 0	49, 821 2
21. 根津	0 0	12, 438 1	12, 438 1
22. 千駄木	6, 769 4	5, 443 2	12, 212 6
23. 本駒込東	8, 938 5	15, 158 4	24, 096 9
24. 本駒込西	0 0	5, 800 3	5, 800 3
一般区域合計	217, 969 38	201, 927 61	419, 896 99
25. 東大本郷	118, 635 1	0 0	118, 635 1
26. 六義園	72, 333 1	0 0	72, 333 1
27. 小石川後楽園	53, 855 1	0 0	53, 855 1
28. 小石川植物園	134, 991 1	0 0	134, 991 1
29. 豊島岡墓地	65, 521 1	0 0	65, 521 1
特別区域合計	445, 335 5	0 0	445, 335 5
区全体	663, 304 43	201, 927 61	865, 231 104

１－３．個々の樹林の特徴

本区における面積 300 ㎡以上の各樹林の面積は、前回調査と同様に GIS 計測による緑被抽出結果をもとにしている。

本区におけるもっとも大きい樹林は、特別区域に分布しており、本区の樹林総面積の約51%を占めていた。また、このほかの樹林は、樹林面積 475 ㎡といった小規模の樹林から36,217 ㎡といった大規模の樹林まで各区域に広く点在しており、特別区域の樹林とともに、都市域に残された貴重な緑地としての役割を担っている。

特に関口台地から神田川の低地面に続く斜面地には、公園、学校、個人宅等に 2,000 ㎡から 10,000 ㎡以上の樹林が連なっており、23 区でも有数な樹林帯を形成している。

本区における大規模樹林および点在する小規模樹林についての特徴を以下に示す。

＜大規模樹林＞

・東京大学

広大な敷地の中に育徳園、懐徳館庭園、本郷正門脇、農学部正門脇、農学部野球場周辺等に樹林が点在している。スダジイやイチョウ等が多くみられ、大径木も多く存在している。広々と生育され樹木本来の樹形を保っており、景観も良く好感がもてるものである。

・六義園

代表的な回遊式庭園の一つである。本区の自然植生であるスダジイ－ヤブコウジ群集を含む自然度の高い樹林が存在し、また、都市公園として一般の人々の利用に供せられる緑として本区の貴重なものの一つとなっている。

・小石川後楽園

代表的な回遊式庭園の一つである。本区の自然植生であるスダジイ－ヤブコウジ群集や、タブノキ－イノデ群集を含む自然度の高い樹林が存在し、また、都市公園として一般の人々の利用に供せられる緑として本区の貴重な緑の一つとなっている。

・小石川植物園

東京大学附属の植物園である。白山台地から小石川谷に続く斜面地は、比較的自然度の高い樹林となっている。また、多様な樹種が集められた樹林である。生育状態は良好であるが、区域の一部には自然の状態部分（一部崖地）も見受けられる。また、一般の人々の利用に供せられる緑として、本区の貴重な緑の１つとなっている。

・豊島岡墓地

皇族の墓所であり、一般の立ち入りは認められていない。起伏のある地形の中にスダジイを中心とした自然度の高い樹林が形成され、貴重な緑の拠点となっている。生育状態は良好である。管理は行き届いている。

＜小規模樹林＞

小規模樹林をその土地利用特性から区分すると、公園緑地型、学校等公共施設型、企業・個人所有型、社寺林型の４区分となる。

・公園緑地型樹林

ケヤキ、スダジイ、イチョウ、サクラ等が多くみられ、ツツジ類の低木植栽と組み合わされた樹林となっている。

公園利用に即した樹林形態であり、広場等の外縁部に形成されている。したがって、林床も人の立ち入りがしやすいように管理されており、管理もよく施されている。

・学校等公共施設型樹林

スダジイ、ケヤキ、エノキ、ミズキ、ヒマラヤスギなど多様な樹種がみられる。林床にもシュロ、アオキ、ササ等が生育している。規模の大きな樹林ほど樹林管理があまりなされておらず、クズ、フユヅタ等のツル類の繁茂もみられる。

・企業・個人所有型樹林

構成樹種にはイチョウ、スダジイ、クスノキ等の大径木、鑑賞の対象となりうる園芸品種等も多くみられた。樹木の生育状況、管理状況は、規模とは関係せず、所有者の意識が樹林の管理に反映されていると考えられる。

また良好な都市環境の形成には重要な要素であり、区としても更なる充実や保全に向けた取り組みとしての市民緑地認定制度の候補地と考えられる。

・社寺林型樹林

イチョウ、クスノキ、スダジイなどの大径木が多くみられ、保護指定樹木も多数存在した。御神木として保護されている巨木がみられるのも特徴である。また、全体的な傾向として、墓地、本堂等の頻繁に利用される区域を中心に、管理も行き届いていた。樹木の生育状況も比較的良好であるが、強めの剪定により、樹勢が衰えているものもみられた。

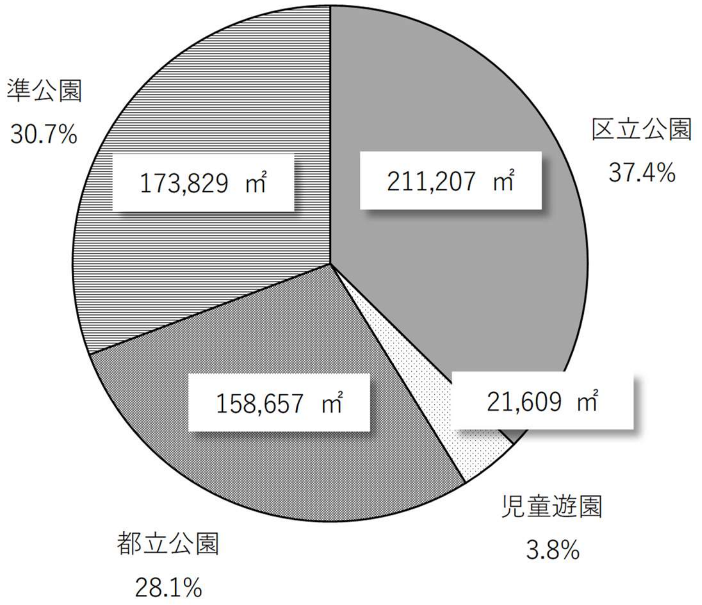
２．公園緑地の状況

２－１．公園緑地の分布状況

本区の公園緑地等は以下に示すような構成となっており、その公園種類別面積構成比率を図Ⅳ－７に、前回調査からの経年変化を表Ⅳ－７に示す。

また、町丁目別の区立公園および児童遊園の公園面積の一覧を表Ⅳ－８、９に示す。

	箇所数	面積
○ 公園緑地：	116 園	565,302 ㎡
・区立公園	46 園	211,207 ㎡
・児童遊園	66 園	21,609 ㎡
・都立公園	2 園	158,657 ㎡
・準公園	2 園	173,829 ㎡
（小石川植物園、占春園）		
○ 公園緑地面積率：		5.0 %
○ 一人あたりの公園緑地面積：		2.4 ㎡/人
○ その他　ポケットパーク・一時開放遊び場等：	43 箇所	4,262 ㎡



図Ⅳ－７　公園種類別面積構成比率

本調査において、区には児童遊園も含め 116 の公園があり、公園総面積は 565,302 ㎡となっている。公園数、公園緑地面積率は共に前回調査から変化なく、面積は約 900 ㎡増加している。

公園種別にみると、区立公園の面積が 211,207 ㎡ともっとも大きく、準公園（173,829 ㎡）、都立公園（158,657 ㎡）が同程度の規模で続いている。

一方、箇所数がもっとも多いのは児童遊園（66 箇所）であるが、面積は 21,609 ㎡と全体の 3.8%にすぎない。

また、区民１人あたりの公園緑地面積は 2.4 ㎡となっており、前回の 2.5 ㎡から 0.1 ㎡減少している。これは、区の人口が前回調査から約 10,000 人増加したことに起因する。

区域別に公園の分布状況をみると、児童遊園は、後楽、大塚南を除いたすべての区域に存在する。区立公園は、水道、音羽、向丘、弥生、根津を除いた区域に存在する。

児童遊園および区立公園が共に所在しない町丁目は、後楽２丁目、小石川２丁目、千石２丁目、小日向３丁目、小日向４丁目、大塚２丁目、目白台２丁目、音羽２丁目、本郷７丁目、弥生１丁目、千駄木４丁目の 11 箇所となっている。

表Ⅳ－７　公園の種別経年変化

種別	平成30年調査		令和5年調査		増減	
	個所数	面積（㎡）	個所数	面積（㎡）	個所数	面積（㎡）
区立公園	46	211, 097	46	211, 207	0	110
児童遊園	66	21, 626	66	21, 609	0	-17
都立公園	2	158, 657	2	158, 657	0	0
準公園	2	173, 028	2	173, 829	0	801
公園緑地	116	564, 408	116	565, 302	0	894
公園緑地面積率（%）	5. 0%		5. 0%		0. 0%	
一人あたりの 公園緑地面積（㎡）	2. 5㎡		2. 4㎡		-0. 1㎡	

表Ⅳ－８　公園の内訳（1/2）

区域	町丁目名	面積（㎡）	人　口（人）	児童遊園面積（㎡）	区立公園面積（㎡）	合　計面積（㎡）	公園緑地面積率（%）	一人あたり公園緑地面積（㎡）
後楽 *1	後楽１	331, 000	693	0	5, 769	5, 769	1. 7	8. 3
	後楽２	103, 000	1, 413	0	0	0	0. 0	0. 0
	小　計	434, 000	2, 106	0	5, 769	5, 769	1. 3	2. 7
春日	春日１	185, 000	1, 574	210	9, 328	9, 538	5. 2	6. 1
	春日２	151, 000	4, 215	376	0	376	0. 2	0. 1
	小　計	336, 000	5, 789	585	9, 328	9, 913	3. 0	1. 7
小石川南	小石川１	114, 000	5, 060	474	104	579	0. 5	0. 1
	小石川２	148, 000	4, 387	0	0	0	0. 0	0. 0
	小石川３	183, 000	5, 701	317	850	1, 167	0. 6	0. 2
	小　計	445, 000	15, 148	791	954	1, 746	0. 4	0. 1
小石川北	小石川４	217, 000	4, 072	262	0	262	0. 1	0. 1
	小石川５	195, 000	6, 011	0	8, 464	8, 464	4. 3	1. 4
	小　計	412, 000	10, 083	262	8, 464	8, 727	2. 1	0. 9
白山南	白山１	150, 000	5, 186	393	610	1, 003	0. 7	0. 2
	白山２	191, 000	4, 333	317	0	317	0. 2	0. 1
	小　計	341, 000	9, 519	710	610	1, 320	0. 4	0. 1
白山北 *2	白山３	212, 000	1, 022	387	0	387	0. 2	0. 4
	白山４	190, 000	4, 591	691	0	691	0. 4	0. 2
	白山５	240, 000	3, 757	448	1, 590	2, 038	0. 8	0. 5
	小　計	642, 000	9, 370	1, 526	1, 590	3, 116	0. 5	0. 3
千石	千石１	138, 000	4, 085	696	2, 046	2, 742	2. 0	0. 7
	千石２	176, 000	4, 887	0	0	0	0. 0	0. 0
	千石３	187, 000	4, 797	134	0	134	0. 1	0. 0
	千石４	187, 000	5, 828	678	3, 539	4, 217	2. 3	0. 7
	小　計	688, 000	19, 597	1, 508	5, 585	7, 093	1. 0	0. 4
水道	水道１	90, 000	2, 689	282	0	282	0. 3	0. 1
	水道２	103, 000	4, 041	167	0	167	0. 2	0. 0
	小　計	193, 000	6, 730	449	0	449	0. 2	0. 1
小日向	小日向１	185, 000	2, 412	307	805	1, 112	0. 6	0. 5
	小日向２	176, 000	2, 751	1, 088	0	1, 088	0. 6	0. 4
	小日向３	82, 000	1, 397	0	0	0	0. 0	0. 0
	小日向４	59, 000	1, 936	0	0	0	0. 0	0. 0
	小　計	502, 000	8, 496	1, 395	805	2, 200	0. 4	0. 3
大塚南	大塚１	134, 000	1, 201	0	5, 728	5, 728	4. 3	4. 8
	大塚２	191, 000	2, 531	0	0	0	0. 0	0. 0
	大塚３	226, 000	4, 302	0	34, 850	34, 850	15. 4	8. 1
	小　計	551, 000	8, 034	0	40, 578	40, 578	7. 4	5. 1
大塚北 *3	大塚４	168, 000	3, 319	0	15, 377	15, 377	9. 2	4. 6
	大塚５	291, 000	4, 519	582	0	582	0. 2	0. 1
	大塚６	128, 000	4, 031	677	1, 212	1, 889	1. 5	0. 5
	小　計	587, 000	11, 869	1, 259	16, 589	17, 848	3. 0	1. 5

表Ⅳ－９　公園の内訳（2/2）

区域	町丁目名	面積（㎡）	人　口（人）	児童遊園面積（㎡）	区立公園面積（㎡）	合　計面積（㎡）	公園緑地面積率（%）	一人あたり公園緑地面積（㎡）
関口	関口１	182,000	5,584	214	0	214	0.1	0.0
	関口２	154,000	1,193	0	13,204	13,204	8.6	11.1
	関口３	103,000	1,066	0	6,100	6,100	5.9	5.7
	小　計	439,000	7,843	214	19,304	19,518	4.4	2.5
目白台	目白台１	180,000	2,113	0	49,389	49,389	27.4	23.4
	目白台２	138,000	2,266	0	0	0	0.0	0.0
	目白台３	167,000	3,186	834	0	834	0.5	0.3
	小　計	485,000	7,565	834	49,389	50,223	10.4	6.6
音羽	音羽１	114,000	4,236	3,275	0	3,275	2.9	0.8
	音羽２	79,000	1,819	0	0	0	0.0	0.0
	小　計	193,000	6,055	3,275	0	3,275	1.7	0.5
本郷南	本郷１	199,000	4,777	192	3,520	3,711	1.9	0.8
	本郷２	192,000	3,563	0	7,880	7,880	4.1	2.2
	本郷３	165,000	3,377	0	667	667	0.4	0.2
	小　計	556,000	11,717	192	12,066	12,258	2.2	1.0
本郷北 *4	本郷４	172,000	4,440	473	1,445	1,918	1.1	0.4
	本郷５	132,000	3,568	721	0	721	0.5	0.2
	本郷６	75,000	2,208	422	0	422	0.6	0.2
	本郷７	428,000	407	0	0	0	0.0	0.0
	小　計	807,000	10,623	1,615	1,445	3,061	0.4	0.3
湯島	湯島１	140,000	888	0	1,295	1,295	0.9	1.5
	湯島２	129,000	3,692	0	1,037	1,037	0.8	0.3
	湯島３	174,000	4,282	322	0	322	0.2	0.1
	湯島４	110,000	2,271	0	2,775	2,775	2.5	1.2
	小　計	553,000	11,133	322	5,107	5,429	1.0	0.5
西片	西片１	120,000	2,617	298	0	298	0.2	0.1
	西片２	159,000	3,070	381	788	1,168	0.7	0.4
	小　計	279,000	5,687	678	788	1,466	0.5	0.3
向丘	向丘１	139,000	3,682	623	0	623	0.4	0.2
	向丘２	215,000	3,373	517	0	517	0.2	0.2
	小　計	354,000	7,055	1,140	0	1,140	0.3	0.2
弥生	弥生１	161,000	430	0	0	0	0.0	0.0
	弥生２	111,000	1,602	302	0	302	0.3	0.2
	小　計	272,000	2,032	302	0	302	0.1	0.1
根津	根津１	90,000	2,722	600	0	600	0.7	0.2
	根津２	115,000	3,834	627	0	627	0.5	0.2
	小　計	205,000	6,556	1,227	0	1,227	0.6	0.2
千駄木	千駄木１	93,000	1,730	0	1,142	1,142	1.2	0.7
	千駄木２	145,000	4,674	367	0	367	0.3	0.1
	千駄木３	219,000	6,732	307	5,678	5,985	2.7	0.9
	千駄木４	63,000	3,285	0	0	0	0.0	0.0
	千駄木５	207,000	4,896	615	958	1,573	0.8	0.3
	小　計	727,000	21,317	1,289	7,777	9,066	1.2	0.4
本駒込西 *5	本駒込１	152,000	4,846	903	0	903	0.6	0.2
	本駒込２	275,000	5,405	417	826	1,243	0.5	0.2
	本駒込６	330,000	3,944	0	12,188	12,188	3.7	3.1
	小　計	757,000	14,195	1,320	13,014	14,334	1.9	1.0
本駒込東	本駒込３	236,000	3,485	715	1,913	2,628	1.1	0.8
	本駒込４	126,000	4,066	0	6,896	6,896	5.5	1.7
	本駒込５	173,000	6,107	0	3,014	3,014	1.7	0.5
	小　計	535,000	13,658	715	11,823	12,538	2.3	0.9
合　計		11,290,000	232,177	21,610	211,207	232,817	2.1	1.0

注 1：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。
2：特別区域と関連する区域および町丁目(＊記号が該当）には特別区域面積を含めて集計した。
3：一人あたりの公園緑地面積は、令和6年1月1日現在の人口。（外国人を含む）

*1：小石川後楽園7.1ha含む
*2：小石川植物園16.1ha含む
*3：豊島岡墓地8.0ha含む
*4：東大本郷42.8ha含む
*5：六義園8.8ha含む

２－２．誘致圏の充足率

住区基幹公園およびそれに準ずる公園（児童遊園）を対象に公園緑地誘致圏充足率を求め、その結果を表Ⅳ－１０、１１に示す。また、誘致圏域を図Ⅳ－８に示す。

○　充足率の高い区域　：	関口、本駒込西、小石川南、目白台、本駒込東
○　充足率の低い区域　：	弥生、水道、本郷北

本区全体の誘致圏充足率は 77.3%となっている。充足率が高いのは、関口、本駒込西、小石川南、目白台、本駒込東と、公園の箇所が比較的多い区域である。充足率が低いのは、弥生、水道、本郷北である。ただ、弥生と本郷北の充足率が低いのは、それぞれのエリア内の、弥生１丁目と本郷７丁目の面積の大部分を東京大学が占めているためである。

表Ⅳ－１０　誘致圏充足率（1/2）

区域	町丁目名	面積（㎡）	児童遊園誘致圏面積（㎡）	区立公園誘致圏面積（㎡）	合　計誘致圏面積（㎡）	児童遊園誘致圏充足率（%）	区立公園誘致圏充足率（%）	合　計誘致圏充足率（%）
後楽＊1	後楽１	331,000	18	220,714	220,714	0.0	65.9	65.9
	後楽２	103,000	0	10,910	10,910	0.0	10.2	10.2
	小　計	434,000	18	231,624	231,624	0.0	52.4	52.4
春日	春日１	185,000	56,713	181,749	182,621	30.9	99.0	99.5
	春日２	151,000	83,314	2,567	83,314	54.4	1.7	54.4
	小　計	336,000	140,027	184,316	265,935	41.6	54.7	79.0
小石川南	小石川１	114,000	46,459	81,148	110,110	40.2	70.2	95.3
	小石川２	148,000	1,586	145,090	145,236	1.1	97.0	97.1
	小石川３	183,000	46,690	166,585	167,036	25.6	91.4	91.7
	小　計	445,000	94,735	392,824	422,382	21.2	87.8	94.4
小石川北	小石川４	217,000	74,873	131,666	144,840	34.5	60.7	66.8
	小石川５	195,000	20,887	196,819	196,819	10.6	100.0	100.0
	小　計	412,000	95,761	328,485	341,658	23.1	79.4	82.6
白山南	白山１	150,000	115,535	97,334	131,725	76.7	64.6	87.5
	白山２	191,000	95,271	29,261	107,508	49.4	15.2	55.7
	小　計	341,000	210,806	126,595	239,234	61.3	36.8	69.6
白山北*2	白山３	212,000	55,886	76,662	104,482	25.9	35.5	48.4
	白山４	190,000	76,424	38,924	110,312	39.7	20.2	57.3
	白山５	240,000	154,605	166,030	225,629	64.1	68.9	93.6
	小　計	642,000	286,916	281,617	440,423	44.2	43.4	67.8
千石	千石１	138,000	112,365	140,896	142,153	78.6	98.6	99.5
	千石２	176,000	33,224	138,464	138,531	18.7	78.1	78.2
	千石３	187,000	45,710	75,476	88,181	24.5	40.4	47.2
	千石４	187,000	97,969	182,816	187,681	52.1	97.1	99.7
	小　計	688,000	289,268	537,652	556,546	41.6	77.3	80.1
水道	水道１	90,000	33,058	0	33,058	36.5	0.0	36.5
	水道２	103,000	30,361	36,145	53,846	29.5	35.2	52.4
	小　計	193,000	63,419	36,145	86,904	32.8	18.7	45.0
小日向	小日向１	185,000	59,313	137,350	160,670	31.8	73.7	86.2
	小日向２	176,000	128,411	72,251	159,318	72.7	40.9	90.2
	小日向３	82,000	48,832	43,828	65,541	62.0	55.7	83.2
	小日向４	59,000	1,899	45,230	47,129	3.1	73.4	76.5
	小　計	502,000	238,456	298,658	432,657	47.4	59.3	85.9
大塚南	大塚１	134,000	2,042	116,256	116,256	1.5	85.9	85.9
	大塚２	191,000	14,153	134,241	134,241	7.3	69.5	69.5
	大塚３	226,000	6,510	227,959	227,959	2.9	100.0	100.0
	小　計	551,000	22,704	478,457	478,457	4.1	86.0	86.0
大塚北*3	大塚４	168,000	32,316	167,916	167,916	19.2	100.0	100.0
	大塚５	291,000	104,592	182,667	187,215	35.3	61.7	63.2
	大塚６	128,000	105,789	101,001	121,406	82.1	78.4	94.3
	小　計	587,000	242,697	451,583	476,537	40.9	76.2	80.4

表Ⅳ－１１　誘致圏充足率（2/2）

区域	町丁目名	面積（㎡）	児童遊園誘致圏面積（㎡）	区立公園誘致圏面積（㎡）	合　計誘致圏面積（㎡）	児童遊園誘致圏充足率（%）	区立公園誘致圏充足率（%）	合　計誘致圏充足率（%）
関口	関口１	182,000	71,403	132,934	159,622	40.7	75.7	90.9
	関口２	154,000	4,543	158,905	158,905	2.9	100.0	100.0
	関口３	103,000	45,309	99,881	99,881	45.4	100.0	100.0
	小　計	439,000	121,256	391,721	418,408	27.9	90.2	96.3
目白台	目白台１	180,000	20,295	180,557	180,557	11.2	100.0	100.0
	目白台２	138,000	11,033	126,570	126,570	8.1	92.4	92.4
	目白台３	167,000	105,143	137,902	148,532	63.6	83.4	89.8
	小　計	485,000	136,472	445,029	455,659	28.3	92.1	94.3
音羽	音羽１	114,000	56,237	110,043	112,034	48.9	95.7	97.5
	音羽２	79,000	13,990	0	13,990	17.7	0.0	17.7
	小　計	193,000	70,227	110,043	126,023	36.2	56.7	65.0
本郷南	本郷１	199,000	52,373	134,895	136,511	26.0	67.0	67.8
	本郷２	192,000	1,570	130,440	132,009	0.8	67.7	68.5
	本郷３	165,000	0	105,088	105,088	0.0	62.9	62.9
	小　計	556,000	53,942	370,422	373,608	9.6	66.0	66.6
本郷北 ＊4	本郷４	172,000	106,348	111,331	147,056	62.6	65.5	86.6
	本郷５	132,000	123,476	30,393	127,886	93.7	23.1	97.0
	本郷６	75,000	40,787	34,415	53,316	54.2	45.7	70.8
	本郷７	428,000	20,849	23,870	44,719	4.8	5.5	10.2
	小　計	807,000	291,460	200,009	372,977	35.8	24.6	45.8
湯島	湯島１	140,000	3,080	110,277	110,528	2.2	79.8	80.0
	湯島２	129,000	24,670	83,597	101,884	19.3	65.3	79.6
	湯島３	174,000	94,705	53,850	113,698	55.3	31.4	66.4
	湯島４	110,000	1,725	98,536	98,536	1.6	91.1	91.1
	小　計	553,000	124,181	346,260	424,645	22.8	63.5	77.8
西片	西片１	120,000	45,659	104,002	116,295	38.4	87.5	97.9
	西片２	159,000	70,183	112,778	138,804	43.5	70.0	86.1
	小　計	279,000	115,842	216,781	255,099	41.4	77.4	91.1
向丘	向丘１	139,000	80,601	67,102	115,882	57.1	47.6	82.1
	向丘２	215,000	116,066	45,727	145,460	53.1	20.9	66.5
	小　計	354,000	196,668	112,829	261,341	54.7	31.4	72.6
弥生	弥生１	161,000	843	0	843	0.6	0.0	0.6
	弥生２	111,000	74,969	0	74,969	68.1	0.0	68.1
	小　計	272,000	75,813	0	75,813	29.5	0.0	29.5
根津	根津１	90,000	47,911	0	47,911	51.2	0.0	51.2
	根津２	115,000	76,729	0	76,729	67.3	0.0	67.3
	小　計	205,000	124,640	0	124,640	60.0	0.0	60.0
千駄木	千駄木１	93,000	42,839	94,520	94,521	45.0	99.3	99.3
	千駄木２	145,000	73,700	78,328	109,644	51.8	55.0	77.0
	千駄木３	219,000	106,151	203,779	212,441	48.6	93.4	97.3
	千駄木４	63,000	0	62,396	62,396	0.0	75.0	75.0
	千駄木５	207,000	130,492	207,550	213,061	60.4	96.1	98.7
	小　計	727,000	353,183	646,573	692,062	46.8	85.7	91.7
本駒込東	本駒込３	152,000	111,650	113,816	196,407	49.0	50.0	86.3
	本駒込４	275,000	0	119,857	119,857	0.0	100.0	100.0
	本駒込５	330,000	0	177,662	177,662	0.0	100.0	100.0
	小　計	757,000	111,650	411,334	493,926	21.3	78.3	94.0
本駒込西 *5	本駒込１	236,000	142,750	8,360	143,398	90.8	5.3	91.2
	本駒込２	126,000	136,987	240,472	264,907	49.1	86.2	94.9
	本駒込６	173,000	17,763	325,079	325,079	5.5	100.0	100.0
	小　計	535,000	297,500	573,911	733,383	39.1	75.4	96.3
合　計		11,290,000	3,757,638	7,172,867	8,779,941	33.1	63.2	77.3

注 1：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。
　2：特別区域と関連する区域および町丁目(＊記号が該当）には特別区域面積を含めて集計した。

*1：小石川後楽園7.1ha含む
*2：小石川植物園16.1ha含む
*3：豊島岡墓地7.8ha含む
*4：東大本郷42.8ha含む
*5：六義園8.8ha含む

北 区
荒 川 区
豊 島 区
台
東
区
新 宿 区
千 代 田 区
凡 例
区立公園誘致圏(0.8ha以上)
区立公園誘致圏(0.8ha未満)
児童遊園誘致圏
0m
500m
1km

図Ⅳ－８　公園誘致圏域

Ⅴ　緑 被 の 状 況

Ｖ　緑被の状況

樹木・植栽・芝生・草等の植物で覆われた土地のことを緑被地とし、敷地面積に占める緑被地の面積割合を緑被率としている。

また、緑被地のうち樹木（高木、低木）・竹に覆われた区域を特に樹木被覆地とし、敷地面積に占める樹木被覆地の面積割合を樹木被覆地率とする。同様に、草地で覆われた面積割合を草地率、裸地、水面で覆われた面積割合をそれぞれ裸地率、水面率とする。

１．緑被の現況と他区との比較

１－１．緑被の概況

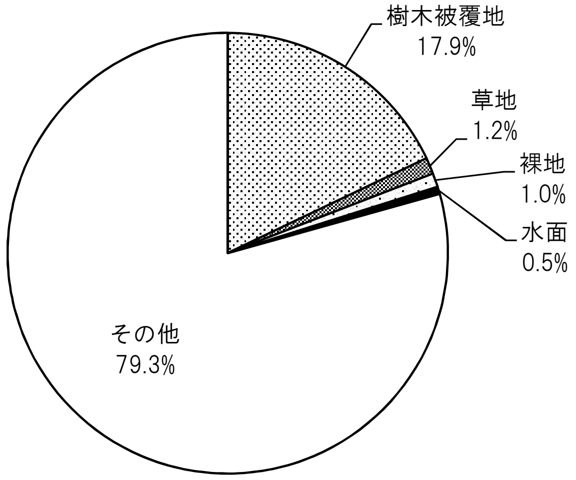
本区全域における緑被地（樹木被覆地、草地）および裸地、水面の状況を表Ｖ－１に示す。また、その構成比率を図Ｖ－１に、樹木被覆地の分布状況を図Ｖ－２に示す。

本区における緑被地面積は 215.93ha で、緑被率（緑被地の文京区全体の面積に占める割合）は 19.1%であった。

緑被率の内訳は樹木被覆地率 17.9%、草地率 1.2%となっている。緑被地の約 9 割は樹木被覆地が占めており、本区の緑被は樹木が中心となって構成されている。

表Ｖ－１ 緑被の状況

項目		面積（ha）	比率（%）
緑被地		215.93	19.1
	樹木被覆地	202.33	17.9
	草地	13.60	1.2
裸地		11.46	1.0
水面		6.07	0.5
その他		895.54	79.3
区全体		1129.00	100.0



図Ｖ－１ 緑被の構成比率

１－２．みどり率

○　みどり率＝（緑被地面積＋水面面積＋公園空地面積）÷ 地域面積 ×100

○　文京区のみどり率：20.6%

平成 12 年度に策定された「東京構想２０００」および「緑の東京計画」における東京のみどりづくりの目標値として「みどり率」がある。みどり率とは、従来の「緑被率」に「河川等の水面を占める割合」と「公園の緑で覆われていない面積の割合」を加えたもので、ある地域における樹林地、草地、農地、宅地内の緑（屋上緑化を含む）、公園、街路樹、河川、水路、湖沼などの面積がその地域全体の面積に占める割合のことである。

本区のみどり率は 20.6%で、区域別のみどり率を表Ｖ－２に示す。

表Ｖ－２ 区域別みどり率

区域	敷地面積	樹木被覆地	草地	緑被地	水面	公園空地	みどり率対象地	樹木被覆地率	草地率	緑被率	みどり率
	(ha)	面積（ha）						(%)			
後楽	36.30	5.14	0.31	5.45	0.67	0.41	6.53	14.2	0.8	15.0	18.0
春日	33.60	6.15	0.44	6.58	0.00	0.34	6.93	18.3	1.3	19.6	20.6
小石川南	44.50	5.04	0.10	5.14	0.00	0.09	5.22	11.3	0.2	11.5	11.7
小石川北	41.20	5.86	0.29	6.15	0.00	0.58	6.73	14.2	0.7	14.9	16.3
白山南	34.10	3.82	0.27	4.08	0.00	0.05	4.13	11.2	0.8	12.0	12.1
白山北	48.10	6.39	0.47	6.86	0.00	0.14	7.01	13.3	1.0	14.3	14.6
千石	68.80	6.66	0.53	7.19	0.00	0.35	7.54	9.7	0.8	10.5	11.0
水道	19.30	1.65	0.16	1.81	0.74	0.05	2.60	8.6	0.8	9.4	13.5
小日向	50.20	7.53	1.02	8.55	0.00	0.05	8.61	15.0	2.0	17.0	17.1
大塚南	55.10	13.39	1.00	14.39	0.01	1.93	16.33	24.3	1.8	26.1	29.6
大塚北	50.70	8.20	0.44	8.63	0.00	0.33	8.97	16.2	0.9	17.0	17.7
関口	43.90	10.88	0.35	11.23	1.35	0.47	13.05	24.8	0.8	25.6	29.7
目白台	48.50	11.18	1.68	12.85	0.18	0.92	13.95	23.0	3.5	26.5	28.8
音羽	19.30	2.06	0.11	2.18	0.00	0.19	2.36	10.7	0.6	11.3	12.2
本郷南	55.60	5.85	0.38	6.24	0.62	0.44	7.30	10.5	0.7	11.2	13.1
本郷北	37.90	3.61	0.17	3.79	0.00	0.14	3.93	9.5	0.5	10.0	10.4
湯島	55.30	6.87	0.42	7.29	0.38	0.27	7.93	12.4	0.8	13.2	14.3
西片	27.90	3.97	0.23	4.21	0.00	0.08	4.28	14.2	0.8	15.1	15.3
向丘	35.40	5.45	0.18	5.64	0.00	0.06	5.70	15.4	0.5	15.9	16.1
弥生	27.20	7.15	0.83	7.98	0.00	0.02	8.00	26.3	3.1	29.3	29.4
根津	20.50	2.64	0.10	2.74	0.05	0.08	2.87	12.9	0.5	13.4	14.0
千駄木	72.70	8.27	0.42	8.68	0.05	0.19	8.92	11.4	0.6	11.9	12.3
本駒込東	53.50	6.76	0.18	6.94	0.00	0.48	7.43	12.6	0.3	13.0	13.9
本駒込西	66.90	9.64	0.71	10.35	0.00	0.88	11.23	14.4	1.1	15.5	16.8
一般区域小計	1,046.50	154.19	10.79	164.97	4.05	8.52	177.54	14.7	1.0	15.8	17.0
東大本郷	42.80	14.89	0.59	15.48	0.14	0.00	15.62	34.8	1.4	36.2	36.5
六義園	8.80	7.38	0.40	7.78	0.86	0.20	8.85	83.9	4.5	88.4	100.6
後楽園	7.10	5.49	0.38	5.87	0.83	0.36	7.05	77.3	5.3	82.7	99.3
植物園	16.10	13.76	1.07	14.83	0.19	1.00	16.03	85.5	6.7	92.1	99.5
豊島岡墓地	8.00	6.63	0.37	7.00	0.00	0.00	7.00	82.9	4.6	87.5	87.5
特別区域小計	82.80	48.15	2.81	50.96	2.02	1.57	54.55	58.1	3.4	61.5	65.9
区全体	1,129.00	202.33	13.60	215.93	6.07	10.09	232.09	17.9	1.2	19.1	20.6

注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

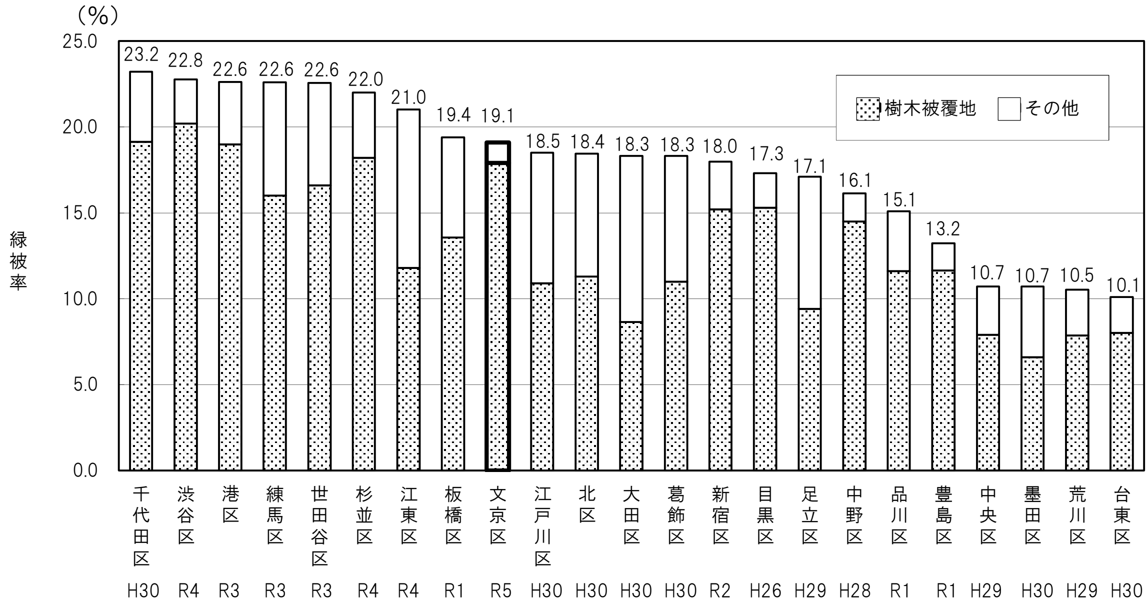
※樹木被覆地を示したもの。

図Ⅴ－２　樹木被覆地分布図

１－３．他区との比較

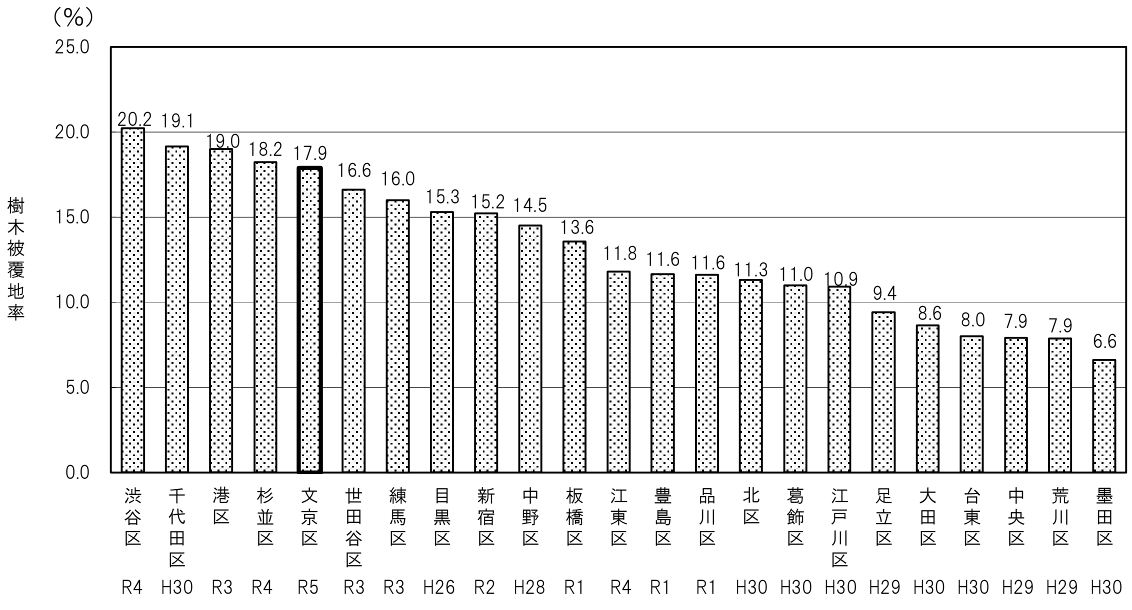
他区と本区の緑被率の状況および樹木被覆地率の状況を図Ｖ－３、図Ｖ－４に示す。

本区における緑被率は、千代田区、渋谷区、港区、練馬区、世田谷区、杉並区、江東区、といった緑被率が20%以上である区に次いで比較的高い値となっており、板橋区と同程度である。



注　１：区によって調査年度や解析、集計方法等が異なるため、厳格な意味での比較とはならない。
　　２：区名下の数字はそれぞれの区の調査年度。
　　３：その他には、草地、雑草地、農地などが含まれる。

図Ｖ－３　他区との緑被率の比較



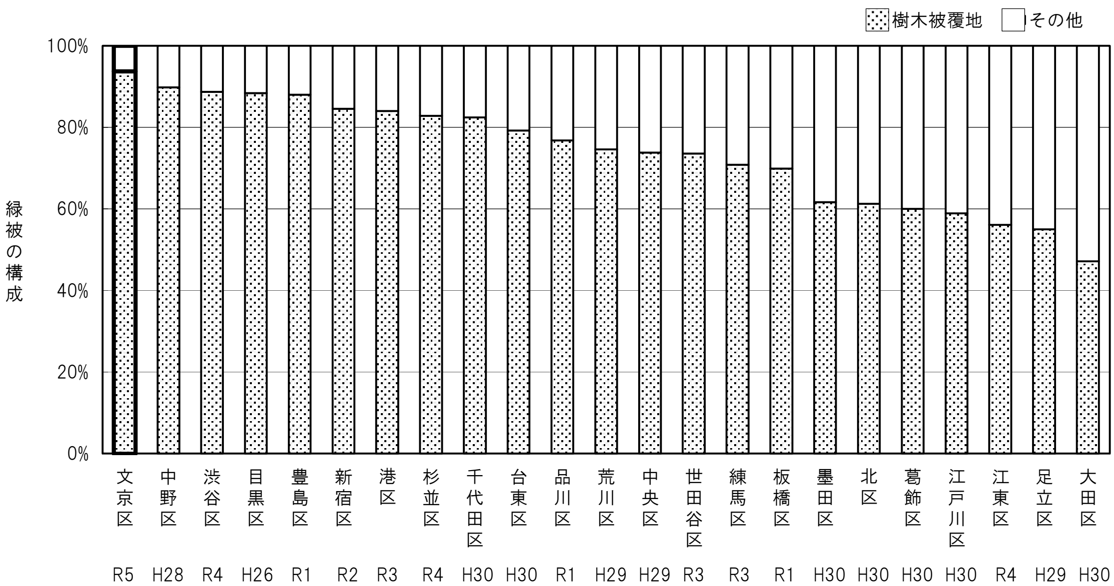
注　１：区によって調査年度や解析、集計方法等が異なるため、厳格な意味での比較とはならない。
　　２：区名下の数字はそれぞれの区の調査年度。

図Ｖ－４　他区との樹木被覆地率の比較

次に緑被の構成内容の比率を図Ｖ－５に示す。

緑被地の構成内容は区により大きく異なっている。文京区、中野区、渋谷区などの大きな河川等がない区では、樹木被覆地によって緑被地が構成される傾向にある。この中でも、本区は、緑被地に占める樹木被覆地の割合がもっとも高い位置にある。

一方、足立区、江戸川区、葛飾区といった河川敷を有する区や、大田区、江東区のように区内に海岸部の埋立地等有する区では、緑被地の多くが樹木被覆地以外（主に草地）で構成される傾向にある。



注 1：区によって調査年度や解析、集計方法等が異なるため、厳格な意味での比較とはならない。
2：区名下の数字はそれぞれの区の調査年度。
3：その他には、草地、雑草地、農地などが含まれる。

図Ｖ－５ 他区との緑被の構成比の比較

２．緑被の分布状況

２－１．都市構造区分別の緑被の特徴

○　緑被地面積の多い都市構造区分

公園緑地　　　　学校用地　　　　低層建築群　　　高層建築群

○　緑被地面積の特に少ない都市構造区分

工場用地　　　　河川　　　　　　個人庭園

都市構造区分別の面積、緑被の状況を表Ｖ－３、また、都市構造区分図を図Ｖ－６に、緑地分布図を図Ｖ－７に、都市構造区分別敷地面積比率を図Ｖ－８に、都市構造区分別緑被地面積比率を図Ｖ－９にそれぞれ示す。

表Ｖ－３　都市構造区分別緑被率

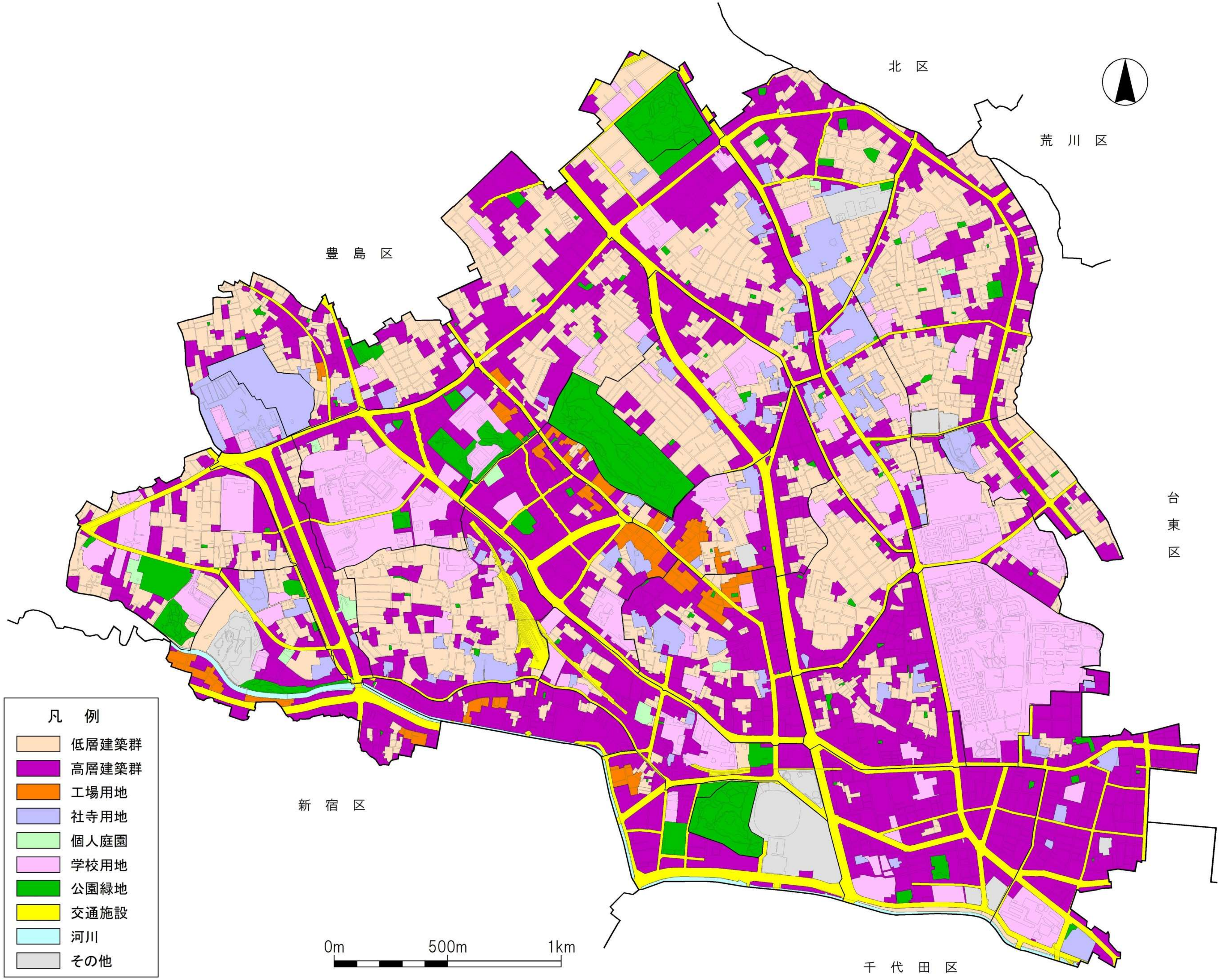
都市構造区分	敷地面積（ha）	樹木被覆地	草地	裸地	水面	緑被地	小計	樹木被覆地率	草地	裸地	緑被率
		（ha）						（%）			
低層建築群	296.10	37.36	2.47	0.98	0.00	39.83	40.81	12.6	0.8	0.3	13.5
高層建築群	395.10	34.19	2.54	0.54	0.00	36.73	37.28	8.7	0.6	0.1	9.3
工場用地	16.60	0.61	0.10	0.95	0.00	0.72	1.67	3.7	0.6	5.7	4.3
社寺用地	58.20	24.92	1.05	0.13	0.06	25.97	26.15	42.8	1.8	0.2	44.6
個人庭園	3.40	2.34	0.03	0.00	0.00	2.37	2.37	68.8	1.0	0.0	69.8
学校用地	149.70	40.33	3.17	6.04	0.14	43.50	49.68	26.9	2.1	4.0	29.1
公園緑地	57.10	40.75	3.35	2.78	2.07	44.10	48.94	71.4	5.9	4.9	77.2
交通施設	119.70	14.14	0.50	0.02	0.00	14.65	14.66	11.8	0.4	0.0	12.2
河川	6.70	0.96	0.00	0.00	3.75	0.97	4.72	14.4	0.1	0.0	14.5
その他	26.40	6.72	0.38	0.03	0.05	7.10	7.17	25.5	1.4	0.1	26.9
区全体	1129.00	202.33	13.60	11.46	6.07	215.93	233.46	17.9	1.2	1.0	19.1

注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

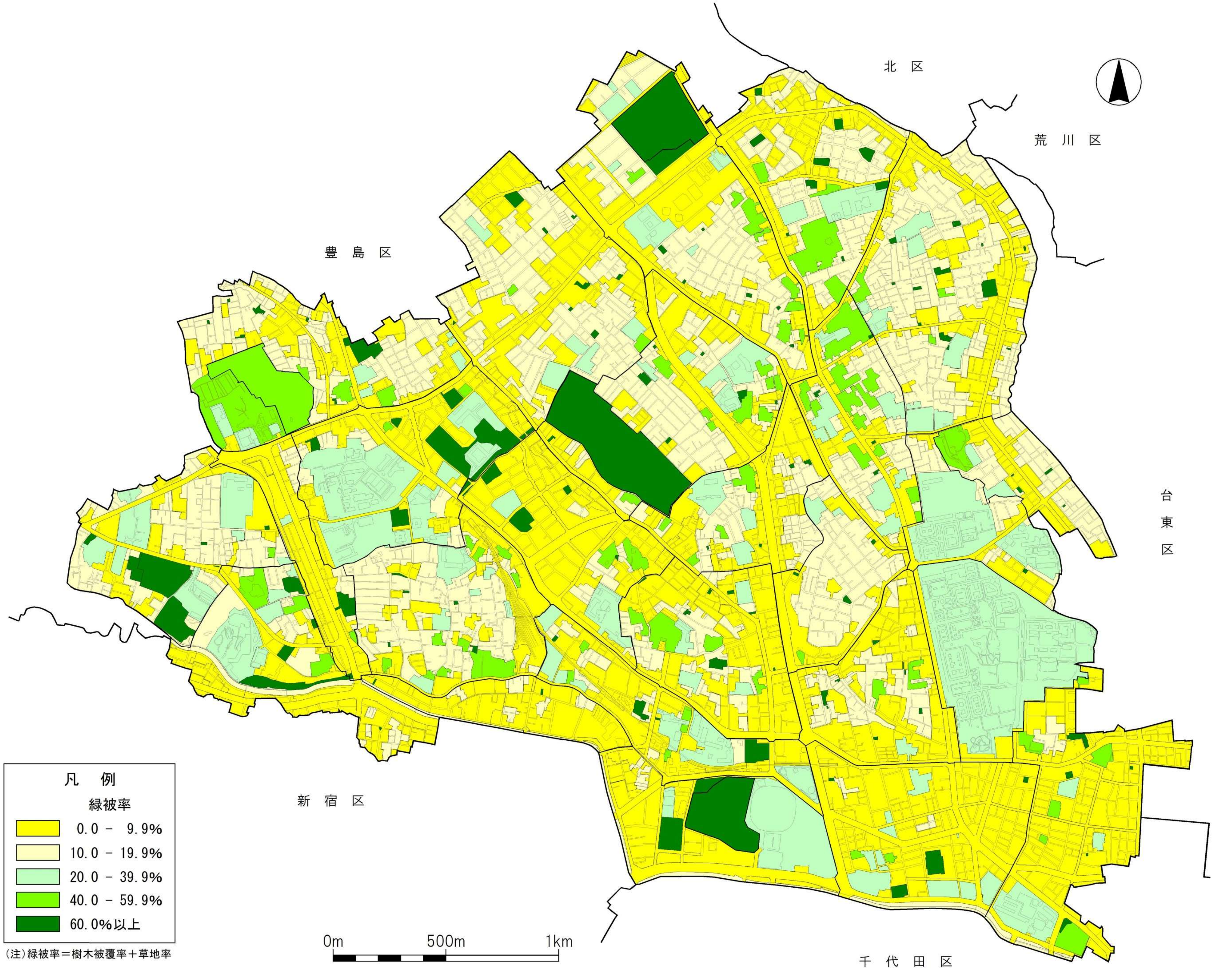
低層建築群および高層建築群の面積で本区全体の面積の約 60%を占め、これに学校用地、交通施設を加えると本区全体の 80%以上の面積となる。このように、本区の面積の大半は低層建築群、高層建築群、学校用地、交通施設の４つ都市構造区分により占められており、そのあとに社寺用地、公園緑地が続いている。社寺や公園における緑の分布がある程度固定化されていることを考えると、本区の将来的な緑化施策の展開を考える上では、この上位を占めている４つの都市構造区分に分布する緑被地が重要な役割を担っている。

緑被率では、公園緑地が 77.2%ともっとも高く、次いで個人庭園、社寺用地と続く。

特に、社寺用地の緑被地は、公園緑地の緑被地と比べて約半分ほどの面積があり、緑被率も 44.6%と本区において比較的大きな割合を占めている。

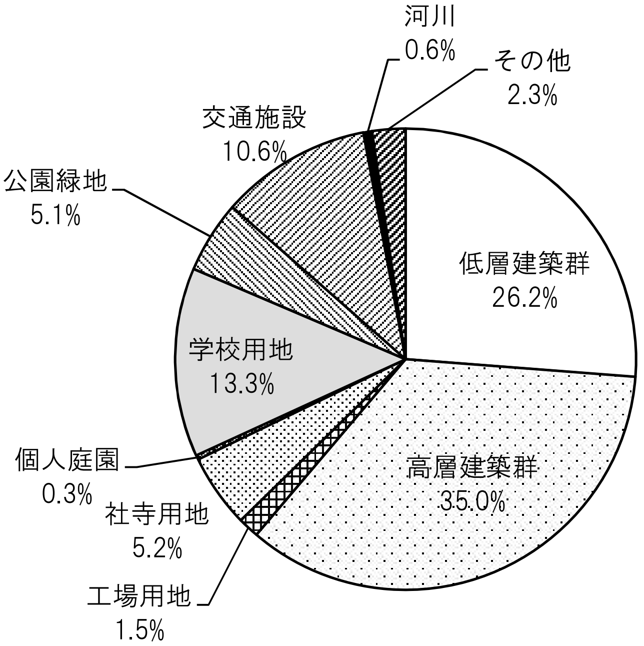

北 区
荒 川 区
豊 島 区
台
東
区
新 宿 区
千 代 田 区
凡 例
低層建築群
高層建築群
工場用地
社寺用地
個人庭園
学校用地
公園緑地
交通施設
河川
その他
0m
500m
1km

図Ｖ－６　都市構造区分図

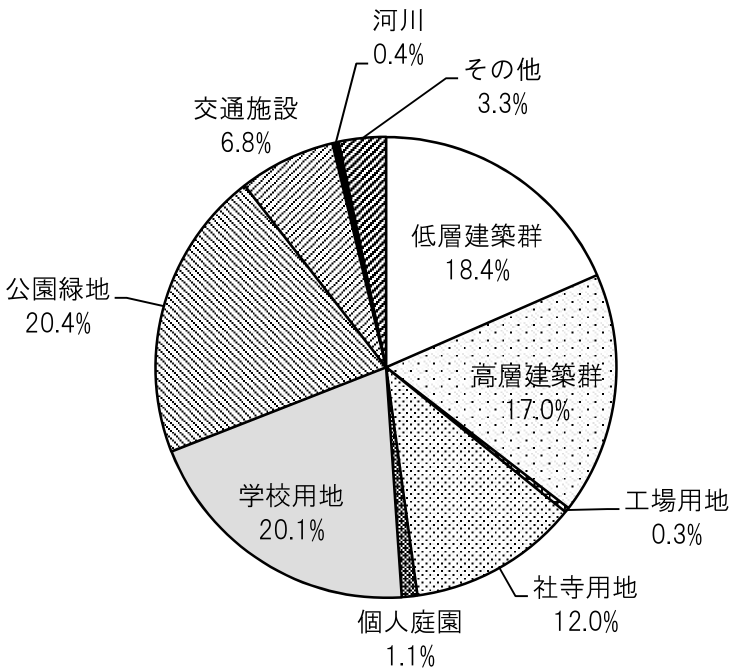


北 区
荒 川 区
豊 島 区
台
東
区
新 宿 区
千 代 田 区
凡 例
緑被率
0.0 - 9.9%
10.0 - 19.9%
20.0 - 39.9%
40.0 - 59.9%
60.0%以上
(注)緑被率＝樹木被覆率＋草地率
0m
500m
1km

図Ⅴ－7 緑地分布図



図Ｖ－８　都市構造区分別敷地面積比率



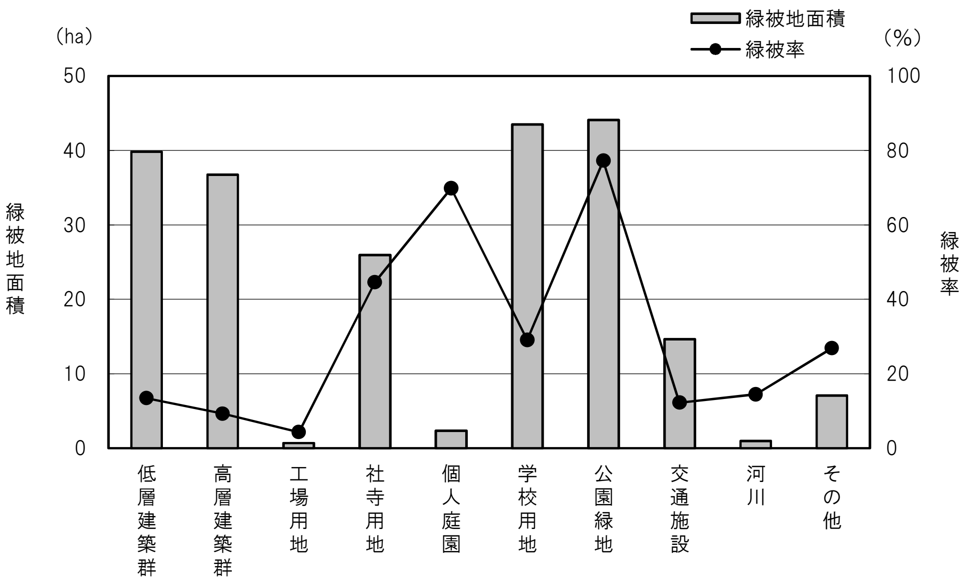
図Ｖ－９　都市構造区分別緑被地面積比率

次に都市構造区分別の緑被地面積および緑被率の関係を図Ⅴ－１０に示す。
都市構造区分と緑被地の関係には次のような特徴があった。

○　緑被率は高く、敷地面積は小さいが緑被地面積が大きい都市構造区分
　　　公園緑地　　　　社寺用地
○　緑被率は高く、敷地面積および緑被地面積が小さい都市構造区分
　　　個人庭園
○　緑被率は低く、敷地面積および緑被地面積が大きい都市構造区分
　　　高層建築群　　　低層建築群
○　緑被率は低く、敷地面積および緑被地面積が小さい都市構造区分
　　　工場用地　　　　河川
○　緑被率はやや高く、緑被地面積が大きい都市構造区分
　　　学校用地
○　緑被率も緑被地面積も比較的小さい都市構造区分
　　　交通施設

公園緑地は、敷地面積は小さいながら緑被率・緑被地面積がともに高く、本区の緑被地として重要な役割を果たしている。同様に学校用地、社寺用地もこれに準じる役割を果たしている。

低層建築群、高層建築群の緑被率は区平均を下回るが、本区でこれらの敷地面積の占める割合は大きいため、緑被地の面積の総和も大きくなる。特に、低層建築群は公園緑地・学校用地に次いで緑被地を有している区分である。低層建築群および高層建築群の緑被率の増減が、本区全体の緑量に大きな影響を与えるものとなっている。



図Ⅴ－１０　都市構造区分別緑被地面積と緑被率の関係

２－２．用途地域別の緑被の特徴

○　緑被地面積の多い地域
　　第１種中高層住居専用地域　　第１種低層住居専用地域　　第１種住居地域
○　緑被地面積の特に少ない用途地域
　　第２種中高層住居専用地域　準工業地域

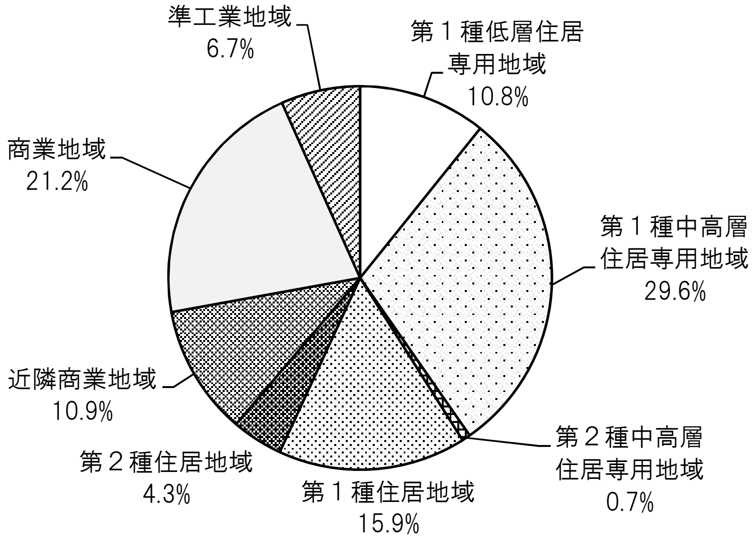
用途地域別の面積、緑被の状況を表Ｖ－４に示す。また、用途地域別の敷地面積比率を図Ｖ－１１に示す。

住居系の用途地域（第１種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域）の面積は、本区全体の面積の約 60%を占めており、これに対して、商業系（商業地域、近隣商業地域）が約 30%、準工業地域が 10%満たない程度となっている。

表Ｖ－4　用途地域別緑被率

用途地域	敷地面積 (ha)	樹木被覆地	草地	裸地	水面	緑被地	小計	樹木被覆地率	草地	裸地	緑被率
		(ha)						(%)			
第１種低層住居専用地域	121.60	42.41	4.13	1.08	1.56	46.54	49.18	34.9	3.4	0.9	38.3
第１種中高層住居専用地域	333.90	78.39	4.67	6.13	0.25	83.05	89.43	23.5	1.4	1.8	24.9
第２種中高層住居専用地域	7.80	0.60	0.01	0.02	0.00	0.62	0.63	7.7	0.2	0.2	7.9
第１種住居地域	179.10	32.68	1.98	1.47	1.81	34.67	37.95	18.2	1.1	0.8	19.4
第２種住居地域	48.60	11.56	0.46	0.52	0.32	12.02	12.86	23.8	1.0	1.1	24.7
近隣商業地域	123.60	10.44	0.80	0.34	0.34	11.24	11.93	8.4	0.6	0.3	9.1
商業地域	238.90	20.07	0.89	0.32	1.08	20.96	22.35	8.4	0.4	0.1	8.8
準工業地域	75.50	6.19	0.65	1.58	0.71	6.84	9.13	8.2	0.9	2.1	9.1
合計	1129.00	202.33	13.60	11.46	6.07	215.93	233.46	17.9	1.2	1.0	19.1

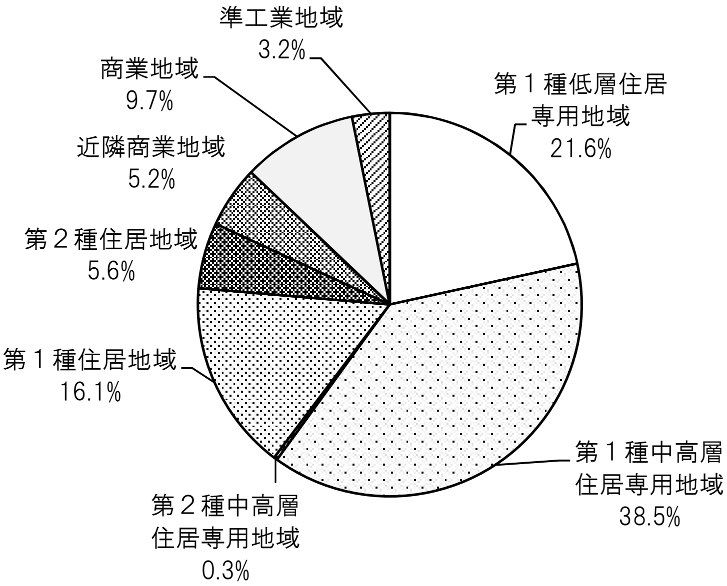
注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。



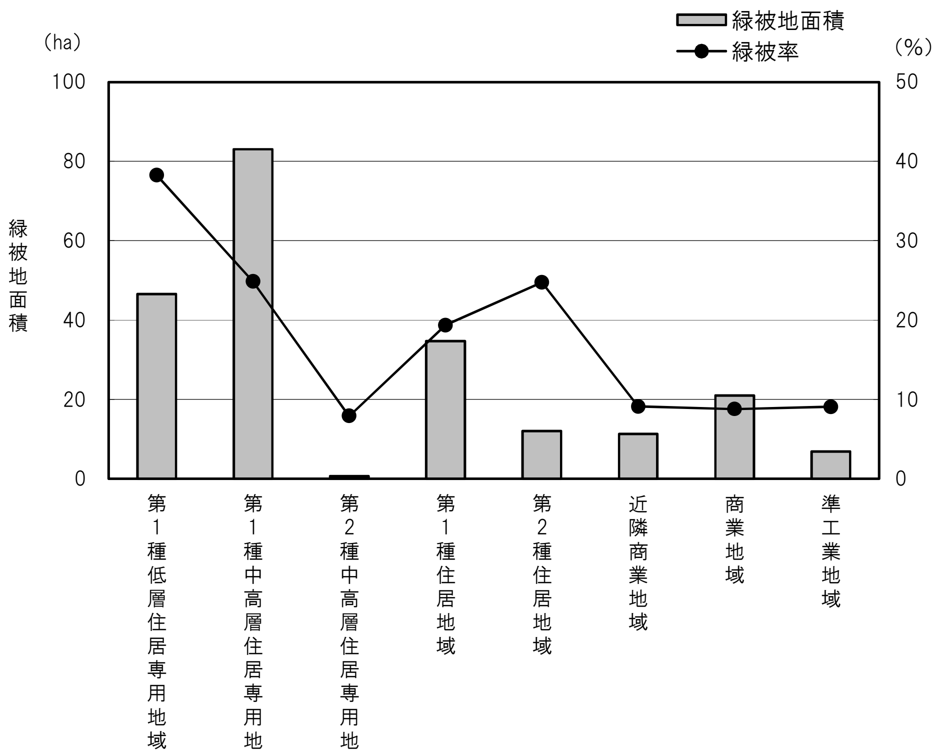
図Ｖ－１１　用途地域別敷地面積構成比率

用途地域別の緑被地面積比率を図Ⅴ－１２に、用途地域別の緑被地面積および緑被率の関係を図Ⅴ－１３に示す。

本区に分布する緑被地の８割近くが、第１種中高層住居専用地域、第１種低層住居専用地域、第１種住居地域で占められている。緑被率は、第１種低層住居専用地域が 38.3％ともっとも高い。



図Ⅴ－１２ 用途地域別緑被地面積比率



図Ⅴ－１３ 用途地域別緑被地面積と緑被率の関係

用途地域と緑被地の関係には次のような特徴があった。

○　緑被率は高く、敷地面積および緑被地が大きい用途地域
　　第 1 種中高層住居専用区地域　第 1 種住居地域
○　緑被率は高く、敷地面積は小さいが緑被地は大きい用途地域
　　第 1 種低層住居専用地域
○　緑被率は高く、敷地面積および緑被地が小さい用途地域
　　第 2 種住居地域
○　緑被率は低く、敷地面積は大きいが緑被地は小さい用途地域
　　商業地域
○　緑被率は低く、敷地面積および緑被地が小さい用途地域
　　第 2 種中高層住居専用地域　準工業地域　近郊商業地域

もっとも高い緑被率を有す第 1 種低層住居専用地域は、敷地面積は比較的小さいものの、緑被地面積は第 1 種中高層住居専用地域に次ぐ大きさで、その影響は大きい。

また、第 1 種中高層住居専用地域、第 1 種住居地域は、比較的高い緑被率を有している地域であり、緑被地面積もこれらの地域で本区の 50%以上を占めている。この区分における緑被率の増減は本区の緑に大きな影響を与える。

一方、商業地域、近隣商業地域の緑被率は、それぞれ 10%に満たない程度と低いが、これらの商業系の用途地域の面積が占める割合は 30%程度と本区の中でも比較的大きいことから、この地域の緑化の推進は、緑を確保する上で重要となる。

２－３．区域別、町丁目別の緑被の特徴

区域別の緑被の状況を図Ｖ－１４、区域別の都市構造区分別および用途地域別の構成比と緑被率の状況を図Ｖ－１５、図Ｖ－１６に示す。

また、町丁目別の緑被の状況を表Ｖ－５、表Ｖ－６、図Ｖ－１７に、町丁目別の樹木覆率の分布状況を図Ｖ－１８にそれぞれ示す。

各区域と緑被地の関係には以下に示すような特徴があった。

○　緑被率の高い区域
　特別区域　弥生　目白台　大塚南　関口

○　緑被率の特に低い区域
　水道　本郷北　千石

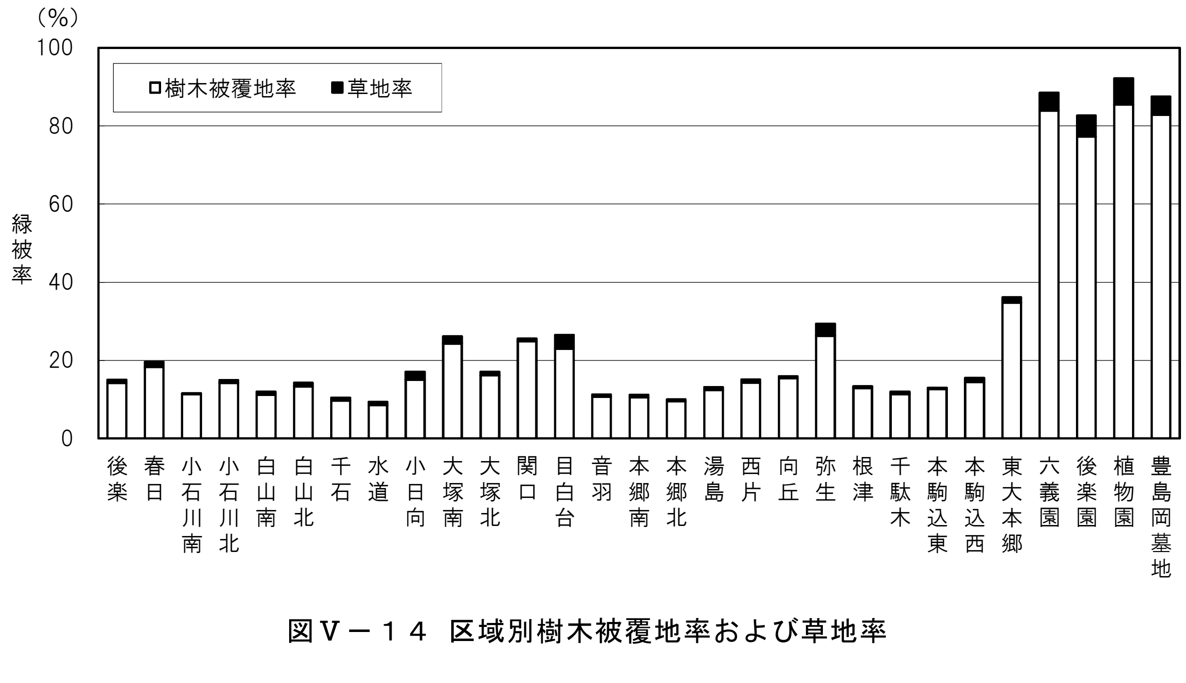
○　緑被率の高い町丁目
　関口２丁目　目白台１丁目

○　緑被率の低い町丁目
　根津２丁目　湯島３丁目　水道２丁目

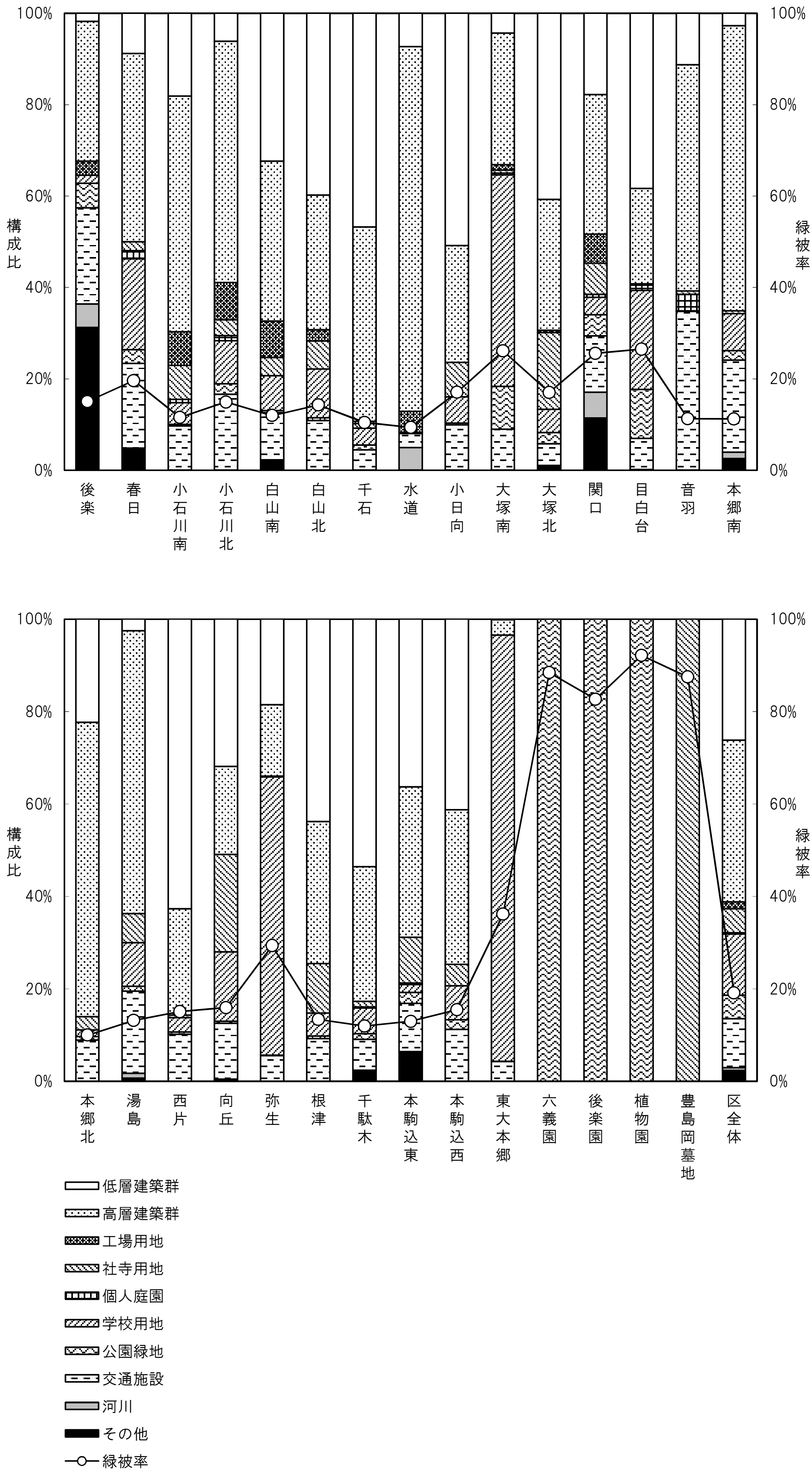
一般区域では、弥生がもっとも高い緑被率（29.3%）となっており、目白台、大塚南、関口が続き、いずれも 25%を超えている。これらの区域は住宅地が多く、学校や公園等の大規模な緑地も存在している地域である。

特別区域では、東大本郷を除いた六義園、後楽園、小石川植物園、豊島岡墓地で 80%を越える非常に高い緑被率となっている。

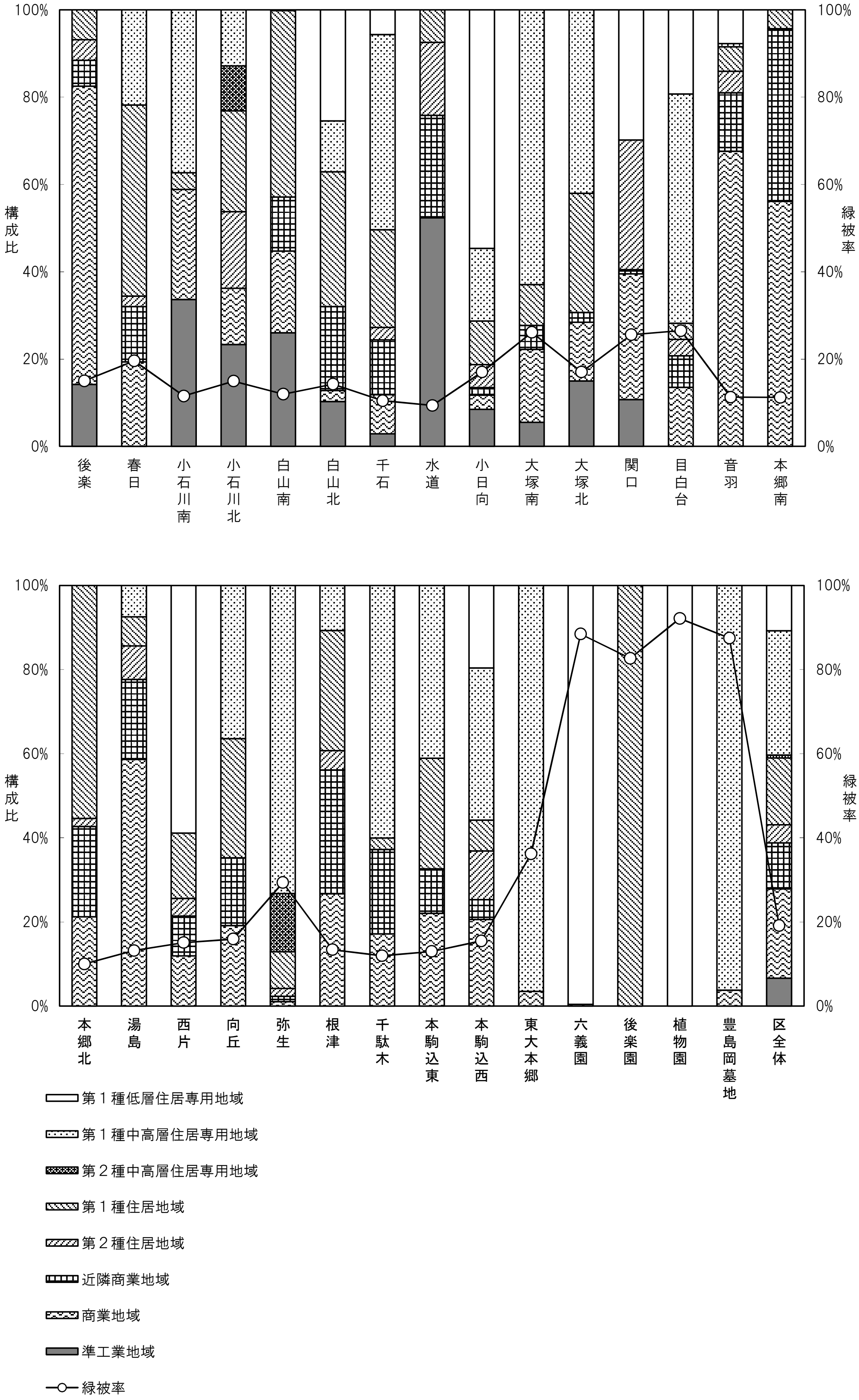
これに対して、商業や準工業などに利用されている水道、本郷北、千石などの区域では、緑被率が 10%程度で低い。



図Ｖ－１４　区域別樹木被覆地率および草地率



図Ｖ－１５ 区域別都市構造区分の構成比と緑被率

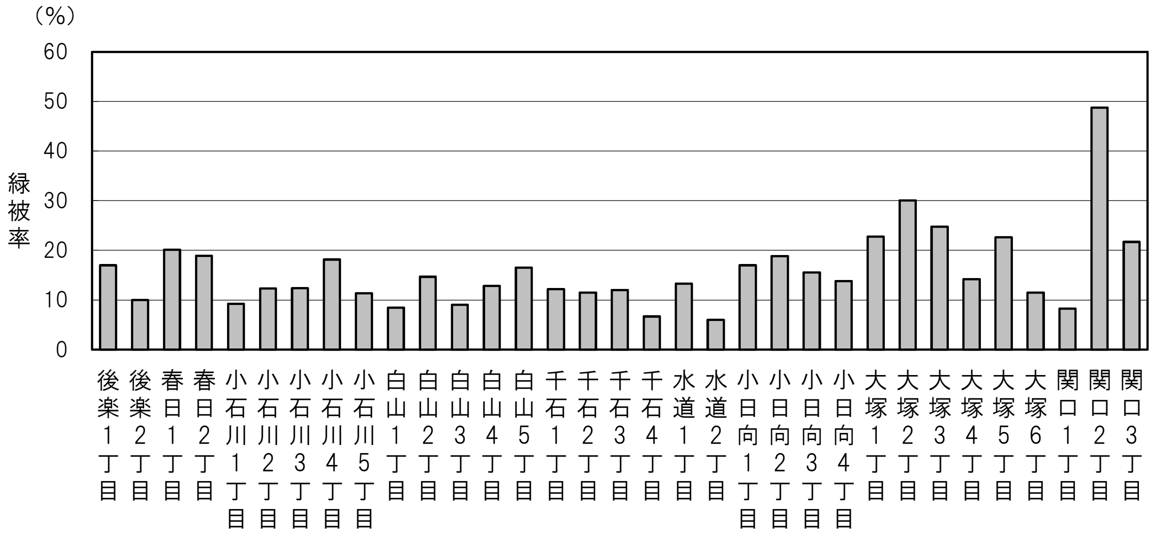


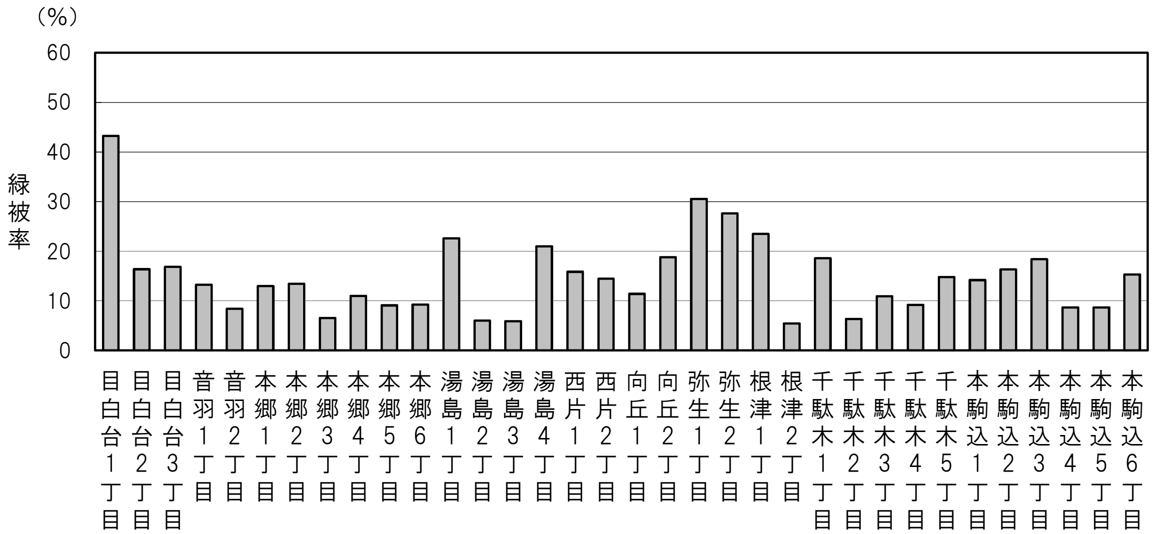
図Ｖ－１６　区域別用途地域の構成比と緑被率

一般区域における町丁目別の緑被率の分布をみると、関口２丁目の緑被率が 48.7%ともっとも高く、目白台１丁目が 43.2%と続いている。これは東西に続く台地と低地の境に位置する崖線の緑が、公園、学校、個人住宅等の敷地内に残されているためであると考えられる。

また、関口３丁目、小日向２丁目など豊かな緑を有する個人宅の存在する地域や、大塚１丁目、大塚２丁目、大塚３町目、弥生１丁目、弥生２丁目、根津１丁目など大学、社寺等にまとまった緑が存在する地域の緑被率が高くなっている。

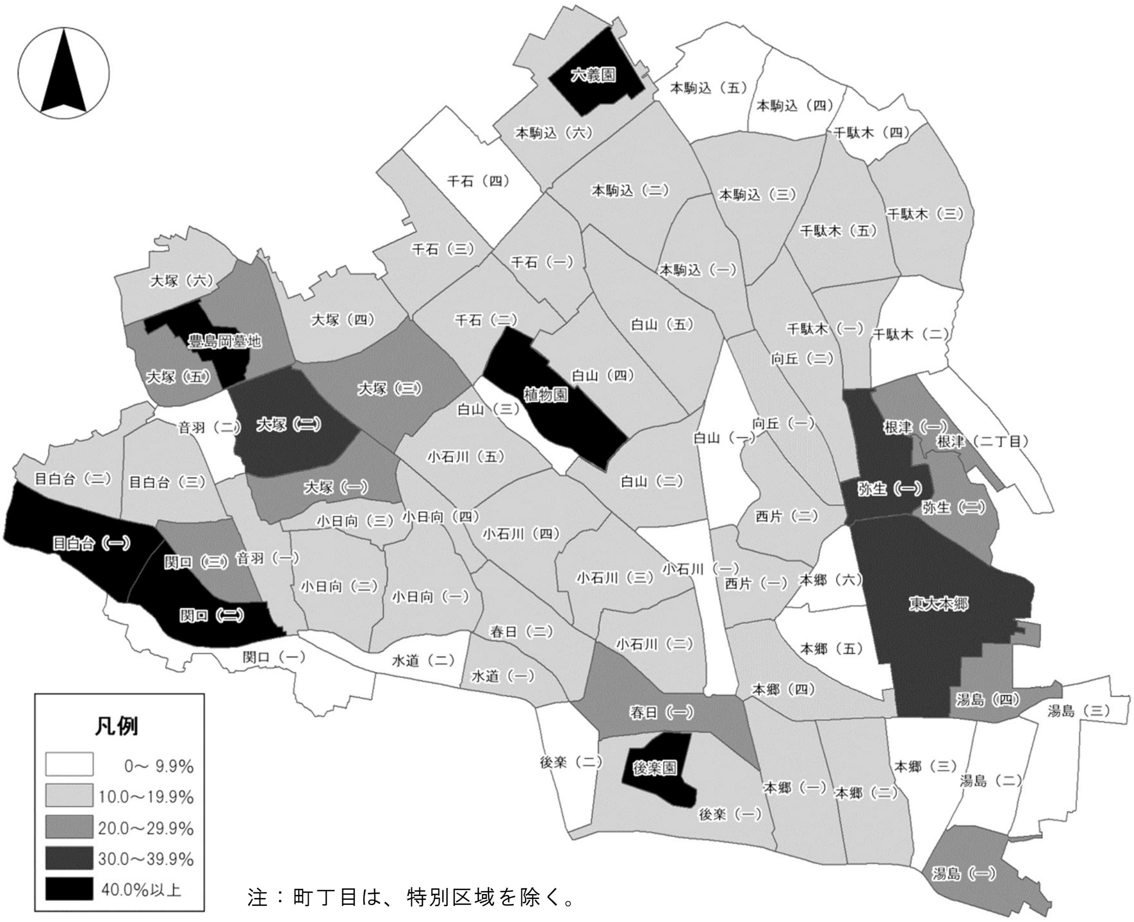
一方、根津２丁目、湯島３丁目、水道２丁目、湯島２丁目、千駄木２丁目、本郷３丁目は、中心部に幹線道路が存在する地域や、商業系、準工業系の用途に利用されている地域では緑被率が低くなっている。





注：町丁目は、特別区域を除く。

図Ｖ－１７ 町丁目別緑被率



注：町丁目は、特別区域を除く。

図Ｖ－１８　町丁目別緑被率

表Ｖ－５ 町丁目別緑被率（1/2）

区域	町丁目	敷地面積	樹木被覆地	草地	裸地	水面	緑被地	樹木被覆地率	草地率	裸地率	緑被率
		(ha)	(ha)					(%)			
後楽	後楽１丁目	26.00	4.33	0.10	0.10	0.51	4.43	16.6	0.4	0.4	17.0
	後楽２丁目	10.30	0.82	0.21	0.02	0.16	1.03	8.0	2.0	0.2	10.0
		36.30	5.14	0.31	0.11	0.67	5.45	14.2	0.8	0.3	15.0
春日	春日１丁目	18.50	3.53	0.20	0.53	0.00	3.73	19.1	1.1	2.9	20.1
	春日２丁目	15.10	2.62	0.24	0.02	0.00	2.86	17.4	1.6	0.1	18.9
		33.60	6.15	0.44	0.55	0.00	6.58	18.3	1.3	1.6	19.6
小石川南	小石川１丁目	11.40	1.04	0.01	0.38	0.00	1.05	9.1	0.1	3.3	9.2
	小石川２丁目	14.80	1.78	0.04	0.00	0.00	1.82	12.0	0.3	0.0	12.3
	小石川３丁目	18.30	2.22	0.05	0.05	0.00	2.27	12.1	0.3	0.2	12.4
		44.50	5.04	0.10	0.42	0.00	5.14	11.3	0.2	1.0	11.5
小石川北	小石川４丁目	21.70	3.68	0.26	1.06	0.00	3.94	17.0	1.2	4.9	18.1
	小石川５丁目	19.50	2.17	0.04	0.46	0.00	2.21	11.2	0.2	2.3	11.4
		41.20	5.86	0.29	1.51	0.00	6.15	14.2	0.7	3.7	14.9
白山南	白山１丁目	15.00	1.21	0.06	0.03	0.00	1.27	8.1	0.4	0.2	8.5
	白山２丁目	19.10	2.60	0.21	0.03	0.00	2.81	13.6	1.1	0.2	14.7
		34.10	3.82	0.27	0.06	0.00	4.08	11.2	0.8	0.2	12.0
白山北	白山３丁目	5.10	0.44	0.02	0.01	0.00	0.46	8.7	0.4	0.3	9.0
	白山４丁目	19.00	2.21	0.23	0.15	0.00	2.44	11.6	1.2	0.8	12.8
	白山５丁目	24.00	3.74	0.23	0.06	0.00	3.97	15.6	0.9	0.3	16.5
		48.10	6.39	0.47	0.23	0.00	6.86	13.3	1.0	0.5	14.3
千石	千石１丁目	13.80	1.59	0.09	0.06	0.00	1.68	11.6	0.6	0.5	12.2
	千石２丁目	17.60	1.85	0.18	0.02	0.00	2.02	10.5	1.0	0.1	11.5
	千石３丁目	18.70	2.10	0.14	0.13	0.00	2.24	11.2	0.7	0.7	12.0
	千石４丁目	18.70	1.12	0.13	0.21	0.00	1.25	6.0	0.7	1.1	6.7
		68.80	6.66	0.53	0.42	0.00	7.19	9.7	0.8	0.6	10.5
水道	水道１丁目	9.00	1.09	0.10	0.02	0.22	1.19	12.1	1.2	0.2	13.3
	水道２丁目	10.30	0.56	0.05	0.02	0.52	0.61	5.5	0.5	0.2	6.0
		19.30	1.65	0.16	0.03	0.74	1.81	8.6	0.8	0.2	9.4
小日向	小日向１丁目	18.50	2.73	0.42	0.07	0.00	3.15	14.7	2.3	0.4	17.0
	小日向２丁目	17.60	2.95	0.37	0.05	0.00	3.32	16.7	2.1	0.3	18.8
	小日向３丁目	8.20	1.13	0.14	0.03	0.00	1.28	13.8	1.8	0.3	15.6
	小日向４丁目	5.90	0.73	0.09	0.00	0.00	0.81	12.3	1.5	0.0	13.8
		50.20	7.53	1.02	0.15	0.00	8.55	15.0	2.0	0.3	17.0
大塚南	大塚１丁目	13.40	2.82	0.23	1.15	0.00	3.05	21.1	1.7	8.6	22.8
	大塚２丁目	19.10	5.12	0.62	0.98	0.00	5.74	26.8	3.2	5.1	30.1
	大塚３丁目	22.60	5.44	0.15	1.26	0.01	5.60	24.1	0.7	5.6	24.8
		55.10	13.39	1.00	3.39	0.01	14.39	24.3	1.8	6.2	26.1
大塚北	大塚４丁目	16.80	2.21	0.17	0.16	0.00	2.39	13.2	1.0	0.9	14.2
	大塚５丁目	21.10	4.58	0.20	0.05	0.00	4.78	21.7	0.9	0.3	22.6
	大塚６丁目	12.80	1.40	0.06	0.06	0.00	1.47	11.0	0.5	0.5	11.5
		50.70	8.20	0.44	0.27	0.00	8.63	16.2	0.9	0.5	17.0
関口	関口１丁目	18.20	1.43	0.06	0.00	1.06	1.50	7.9	0.3	0.0	8.2
	関口２丁目	15.40	7.32	0.18	0.01	0.29	7.50	47.5	1.2	0.1	48.7
	関口３丁目	10.30	2.13	0.10	0.00	0.00	2.23	20.7	1.0	0.0	21.7
		43.90	10.88	0.35	0.01	1.35	11.23	24.8	0.8	0.0	25.6
目白台	目白台１丁目	18.00	6.46	1.32	0.35	0.18	7.78	35.9	7.4	2.0	43.2
	目白台２丁目	13.80	2.11	0.15	0.22	0.00	2.26	15.3	1.1	1.6	16.4
	目白台３丁目	16.70	2.61	0.20	0.71	0.00	2.81	15.6	1.2	4.2	16.8
		48.50	11.18	1.68	1.28	0.18	12.85	23.0	3.5	2.6	26.5

注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

表Ｖ－６ 町丁目別緑被率（2/2）

区域	町丁目	敷地面積	樹木被覆地	草地	裸地	水面	緑被地	樹木被覆地率	草地率	裸地率	緑被率
		(ha)	(ha)					(%)			
音羽	音羽１丁目	11.40	1.42	0.09	0.00	0.00	1.51	12.5	0.8	0.0	13.3
	音羽２丁目	7.90	0.64	0.03	0.00	0.00	0.67	8.1	0.3	0.0	8.4
		19.30	2.06	0.11	0.00	0.00	2.18	10.7	0.6	0.0	11.3
本郷南	本郷１丁目	19.90	2.52	0.06	0.22	0.31	2.58	12.7	0.3	1.1	12.9
	本郷２丁目	19.20	2.32	0.26	0.02	0.26	2.58	12.1	1.4	0.1	13.4
	本郷３丁目	16.50	1.02	0.06	0.02	0.06	1.08	6.2	0.4	0.1	6.5
		55.60	5.85	0.38	0.26	0.62	6.24	10.5	0.7	0.5	11.2
本郷北	本郷４丁目	17.20	1.77	0.12	0.04	0.00	1.89	10.3	0.7	0.2	11.0
	本郷５丁目	13.20	1.15	0.05	0.02	0.00	1.20	8.7	0.4	0.2	9.1
	本郷６丁目	7.50	0.69	0.01	0.00	0.00	0.70	9.2	0.1	0.1	9.3
		37.90	3.61	0.17	0.06	0.00	3.79	9.5	0.5	0.2	10.0
湯島	湯島１丁目	14.00	2.92	0.25	0.01	0.37	3.17	20.9	1.8	0.1	22.6
	湯島２丁目	12.90	0.76	0.02	0.00	0.00	0.78	5.9	0.1	0.0	6.1
	湯島３丁目	17.40	1.00	0.02	0.01	0.00	1.03	5.8	0.1	0.1	5.9
	湯島４丁目	11.00	2.18	0.13	0.02	0.00	2.31	19.8	1.2	0.2	21.0
		55.30	6.87	0.42	0.04	0.38	7.29	12.4	0.8	0.1	13.2
西片	西片１丁目	12.00	1.82	0.08	0.00	0.00	1.90	15.2	0.7	0.0	15.8
	西片２丁目	15.90	2.16	0.15	0.08	0.00	2.30	13.6	0.9	0.5	14.5
		27.90	3.97	0.23	0.08	0.00	4.21	14.2	0.8	0.3	15.1
向丘	向丘１丁目	13.90	1.49	0.10	0.05	0.00	1.59	10.7	0.7	0.3	11.4
	向丘２丁目	21.50	3.97	0.08	0.05	0.00	4.05	18.4	0.4	0.3	18.8
		35.40	5.45	0.18	0.10	0.00	5.64	15.4	0.5	0.3	15.9
弥生	弥生１丁目	16.10	4.42	0.49	0.01	0.00	4.91	27.5	3.0	0.0	30.5
	弥生２丁目	11.10	2.72	0.34	0.03	0.00	3.07	24.5	3.1	0.2	27.6
		27.20	7.15	0.83	0.03	0.00	7.98	26.3	3.1	0.1	29.3
根津	根津１丁目	9.00	2.05	0.07	0.02	0.05	2.11	22.8	0.7	0.2	23.5
	根津２丁目	11.50	0.60	0.03	0.02	0.00	0.63	5.2	0.3	0.2	5.5
		20.50	2.64	0.10	0.04	0.05	2.74	12.9	0.5	0.2	13.4
千駄木	千駄木１丁目	9.30	1.65	0.08	0.02	0.00	1.73	17.7	0.9	0.2	18.6
	千駄木２丁目	14.50	0.90	0.02	0.02	0.00	0.92	6.2	0.1	0.1	6.4
	千駄木３丁目	21.90	2.16	0.23	0.07	0.05	2.39	9.9	1.1	0.3	10.9
	千駄木４丁目	6.30	0.57	0.01	0.01	0.00	0.58	9.0	0.2	0.2	9.2
	千駄木５丁目	20.70	2.99	0.07	0.30	0.00	3.06	14.5	0.3	1.5	14.8
		72.70	8.27	0.42	0.42	0.05	8.68	11.4	0.6	0.6	11.9
本駒込東	本駒込３丁目	23.60	4.22	0.13	0.41	0.00	4.35	17.9	0.5	1.7	18.4
	本駒込４丁目	12.60	1.08	0.01	0.05	0.00	1.10	8.6	0.1	0.4	8.7
	本駒込５丁目	17.30	1.46	0.04	0.14	0.00	1.50	8.4	0.2	0.8	8.7
		53.50	6.76	0.18	0.59	0.00	6.94	12.6	0.3	1.1	13.0
本駒込西	本駒込１丁目	15.20	2.08	0.07	0.03	0.00	2.15	13.7	0.5	0.2	14.2
	本駒込２丁目	27.50	4.25	0.24	0.61	0.00	4.49	15.5	0.9	2.2	16.3
	本駒込６丁目	24.20	3.31	0.40	0.64	0.00	3.71	13.7	1.6	2.6	15.3
		66.90	9.64	0.71	1.28	0.00	10.35	14.4	1.1	1.9	15.5
一般区域小計		1046.50	154.19	10.79	11.36	4.05	164.97	14.7	1.0	1.1	15.8
特別区域	東大本郷	42.80	14.89	0.59	0.01	0.14	15.48	34.8	1.4	0.0	36.2
	六義園	8.80	7.38	0.40	0.01	0.86	7.78	83.9	4.5	0.1	88.4
	後楽園	7.10	5.49	0.38	0.08	0.83	5.87	77.3	5.3	1.1	82.7
	植物園	16.10	13.76	1.07	0.01	0.19	14.83	85.5	6.7	0.0	92.1
	豊島岡墓地	8.00	6.63	0.37	0.00	0.00	7.00	82.9	4.6	0.0	87.5
特別区域小計		82.80	48.15	2.81	0.10	2.02	50.96	58.1	3.4	0.1	61.5
区全体		1129.00	202.33	13.60	11.46	6.07	215.93	17.9	1.2	1.0	19.1

２－４．施設別の緑被の特徴

施設における緑化を進める上での資料とするため、公共施設・民間施設の緑被について調査を実施した。

施設別の面積と緑被の状況を表Ｖ－７、また、施設別の緑被地の面積と緑被率の関係を図Ｖ－１９に、施設別敷地面積比率を図Ｖ－２０に、施設別緑被地面積比率を図Ｖ－２１にそれぞれ示す。

本区の施設面積は公共施設（148.29ha）、民間施設（150.58ha）、公園（56.53ha）で本区面積の約 30%を占めている。

施設別緑被地面積は公共施設（48.46ha）、民間施設（43.77ha）、公園（43.76ha）で本区の緑被地の約 60%を占めている。

また、施設別緑被率は公共施設 32.7%、民間施設 29.1%、公園 77.4%であり、公共施設と民間施設との間に大きな差はみられない。本区全体の緑被率（19.1%）と比較すると、これらの施設全体（38.3%）では 2 倍程度の緑被率となっている。

これらの結果から、施設の緑被地が本区の緑に大きく貢献をしていることが分かる。

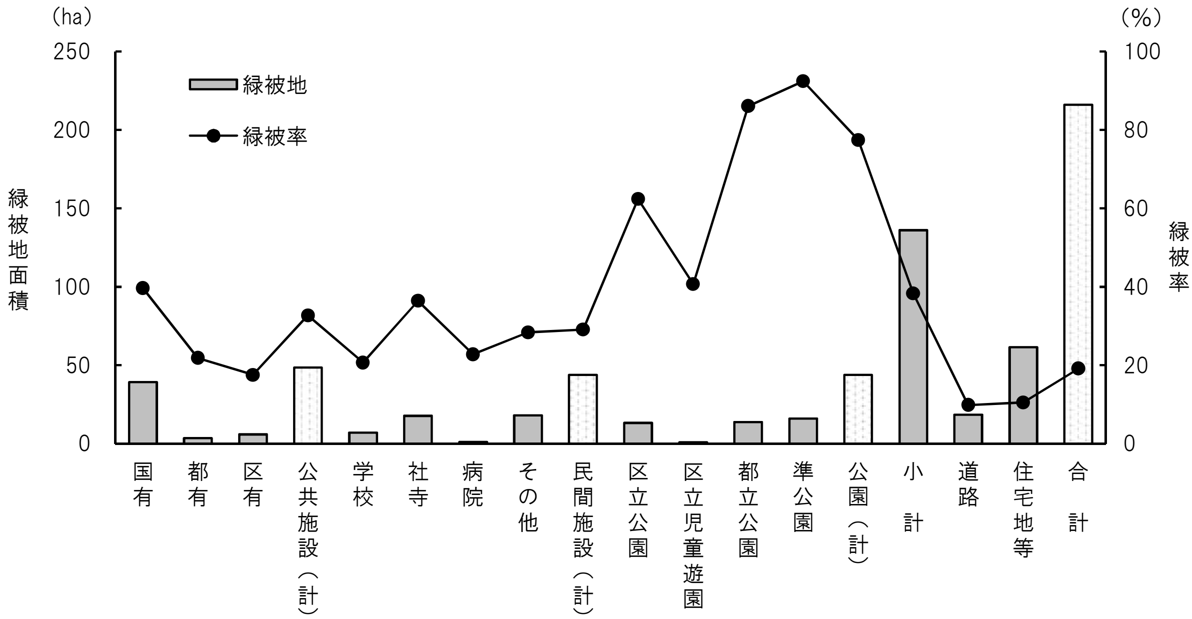
表Ｖ－７ 施設別緑被率

施設種別		敷地面積 (ha)	樹木被覆地	草地	裸地	水面	緑被地	小計	樹木被覆地率	草地	裸地	緑被率
			(ha)						(%)			
公共施設	国有	98.69	36.19	2.90	3.33	0.14	39.09	42.57	36.7	2.9	3.4	39.6
	都有	15.59	2.90	0.50	0.58	0.00	3.40	3.98	18.6	3.2	3.7	21.8
	区有	34.00	5.61	0.35	1.77	0.00	5.96	7.73	16.5	1.0	5.2	17.5
	公共施設計	148.29	44.71	3.75	5.69	0.14	48.46	54.28	30.1	2.5	3.8	32.7
民間施設	学校	33.84	6.47	0.52	0.47	0.00	6.99	7.46	19.1	1.6	1.4	20.7
	社寺	48.76	17.21	0.54	0.13	0.06	17.75	17.94	35.3	1.1	0.3	36.4
	病院	4.58	0.94	0.11	0.00	0.00	1.04	1.04	20.4	2.3	0.0	22.8
	その他（大規模）	63.40	16.93	1.05	1.12	0.05	17.98	19.15	26.7	1.7	1.8	28.4
	民間施設計	150.58	41.54	2.22	1.72	0.11	43.77	45.59	27.6	1.5	1.1	29.1
公園	区立公園	21.12	11.69	1.47	2.26	0.18	13.17	15.61	55.4	7.0	10.7	62.4
	区立児童遊園	2.16	0.87	0.01	0.39	0.00	0.88	1.27	40.4	0.3	17.9	40.7
	都立公園	15.87	12.87	0.78	0.08	1.69	13.65	15.42	81.1	4.9	0.5	86.0
	準公園	17.38	14.98	1.07	0.01	0.19	16.06	16.26	86.2	6.2	0.0	92.4
	公園計	56.53	40.42	3.33	2.73	2.07	43.76	48.56	71.5	5.9	4.8	77.4
小　計		355.39	126.67	9.31	10.14	2.31	135.98	148.43	35.6	2.6	2.9	38.3
道路（公道）		187.72	18.16	0.30	0.01	0.00	18.47	18.47	9.7	0.2	0.0	9.8
その他（住宅地･河川等）		585.89	57.50	3.99	1.31	3.75	61.49	66.55	9.8	0.7	0.2	10.5
区全体		1129.00	202.33	13.60	11.46	6.07	215.93	233.46	17.9	1.2	1.0	19.1

注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

施設の緑被地面積および緑被率は、本区内では相対的に高い傾向にあるが、その中での特徴を下記に示す。

○ 緑被地面積の大きい施設
　国有施設
○ 緑被率の高い施設
　準公園　　都立公園　　区立公園
○ 緑被地面積の小さい施設
　区立児童遊園　病院　　都有施設　　学校
○ 緑被率の低い施設（区平均 19.1%を下回る施設）
　区有施設

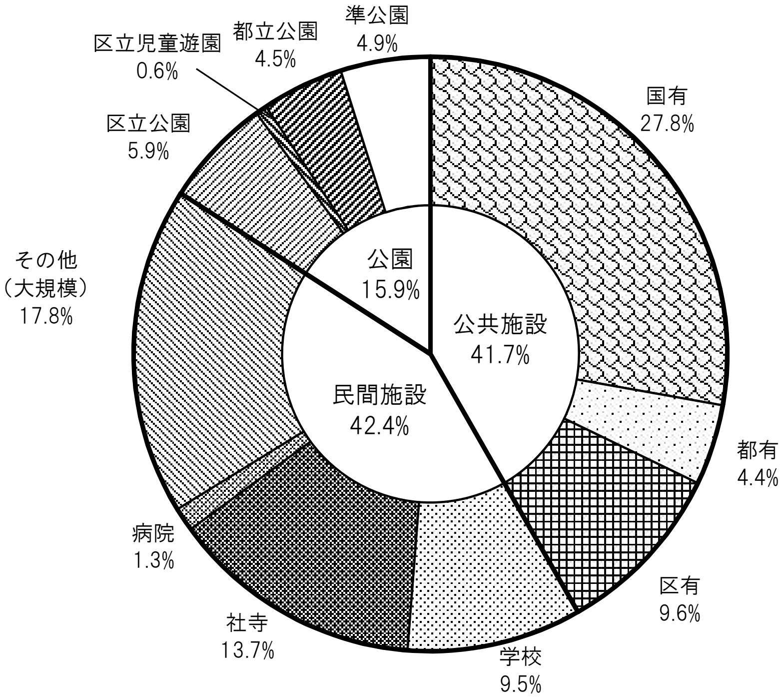


図Ｖ－19 施設別緑被地面積と緑被率の関係

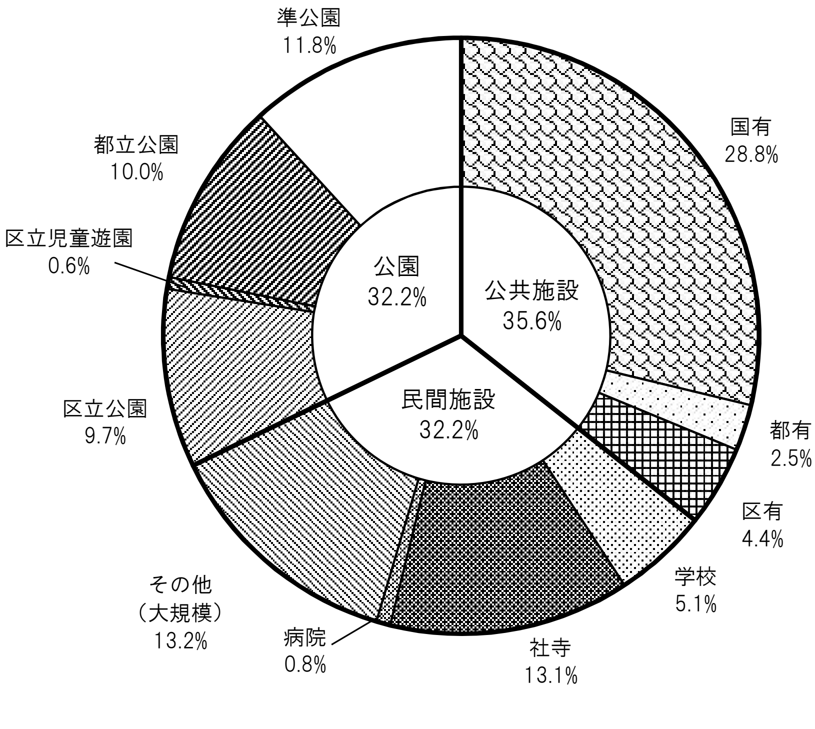
施設別の敷地面積の構成では、公園の割合（15.9%）が公共施設（41.7%）や民間施設（42.4%）より大きく下回っているが、施設別の緑被地面積の構成では、公園の割合（32.2%）が大きくなり、公共施設（35.5%）、民間施設（32.2%）とほぼ同様になる。

施設別の内訳では、国有施設の割合が敷地面積で約 28%、緑被地面積で約 29%ともっとも大きな割合を占めている。また、区立公園、都立公園、準公園は敷地面積に対して緑被地の面積割合が高くなっている。

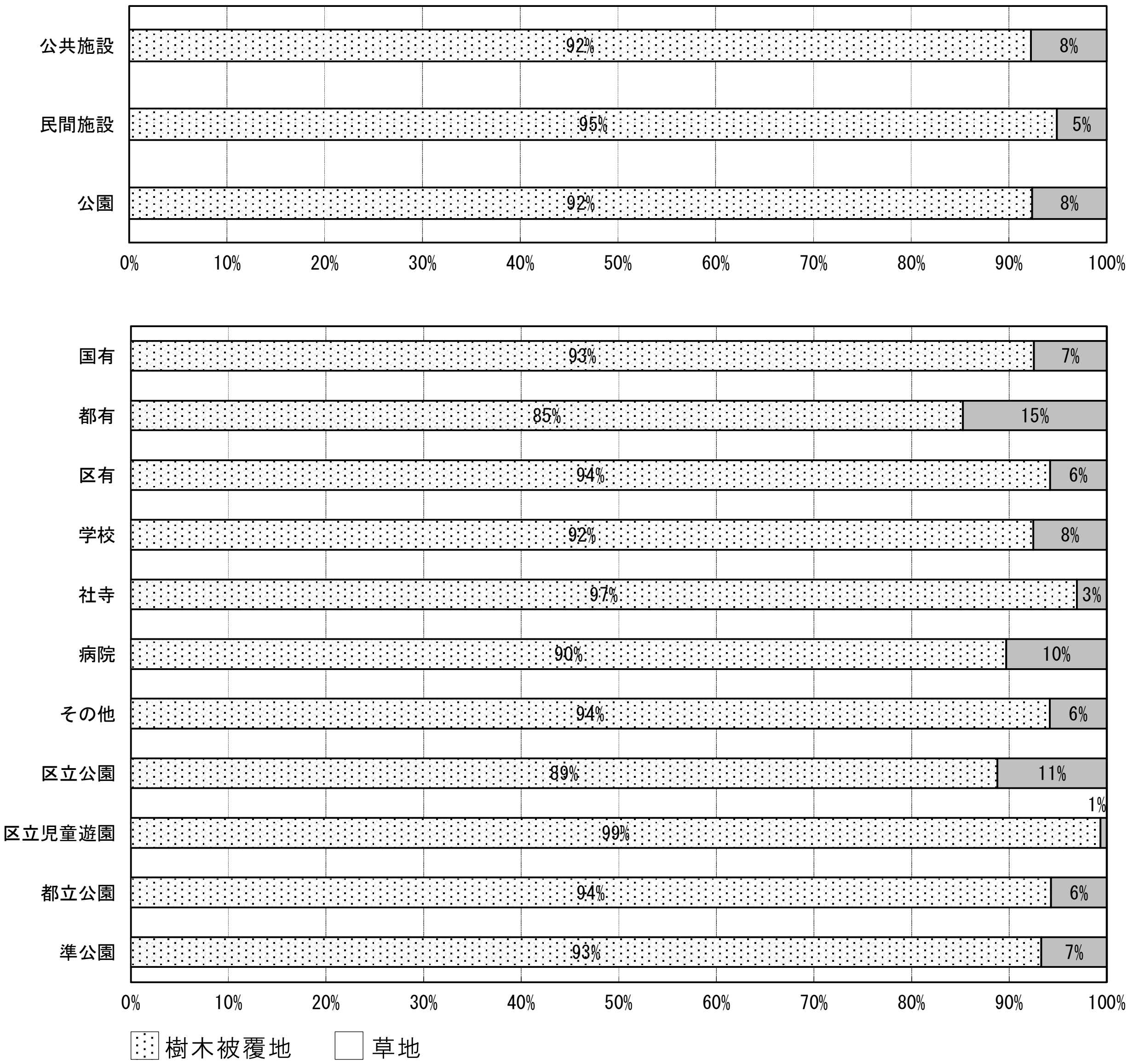
施設別に緑被地の構成をみると、すべての施設で樹木被覆地が緑被地の 80%以上を占めている。都有施設において、草地の割合が比較的高くなっている。（図Ｖ－２２）



図Ｖ－２０　施設別敷地面積比率



図Ｖ－２１　施設別緑被地面積比率



図Ｖ－２２ 施設別緑被地の構成

また、公有地・民有地における区域別の緑被の分布状況を表Ｖ－８に示す。

一般区域では、緑被地の約 6 割が民有地に分布している。一般区域の区域別にみると、公有地では、弥生（25.2%）、大塚南（21.1%）で緑被率が高い。また、水道（1.1%）、根津（1.5%）、千石（1.6%）で緑被率が低くなっている。

民有地では、関口（17.3%）、目白台（15.1%）、小日向（15.0%）で緑被率が高く、また、本郷南（3.8%）、弥生（4.2%）で緑被率が低くなっている。

一方、特別区域では、緑被地のほとんどが公有地に分布しており、その緑被率は東大本郷（36.0%）を除いて 80%を超えている。

表Ｖ－８　区域別公有地・民有地別施設緑被の分布状況

区域番号	区域	敷地面積 (ha)	公有地						民有地					
			樹木被覆地	草地	緑被地	樹木被覆地率	草地率	緑被率	樹木被覆地	草地	緑被地	樹木被覆地率	草地率	緑被率
			(ha)			(%)			(ha)			(%)		
1	後楽	36.30	1.81	0.05	1.86	5.0	0.1	5.1	3.33	0.25	3.59	9.2	0.7	9.9
2	春日	33.60	2.38	0.15	2.53	7.1	0.4	7.5	3.77	0.29	4.05	11.2	0.9	12.1
3	小石川南	44.50	0.91	0.00	0.91	2.0	0.0	2.0	4.14	0.10	4.23	9.3	0.2	9.5
4	小石川北	41.20	2.61	0.09	2.69	6.3	0.2	6.5	3.25	0.21	3.46	7.9	0.5	8.4
5	白山南	34.10	0.82	0.01	0.83	2.4	0.0	2.4	2.99	0.26	3.25	8.8	0.8	9.5
6	白山北	48.10	1.61	0.02	1.63	3.3	0.0	3.4	4.78	0.45	5.24	9.9	0.9	10.9
7	千石	68.80	1.11	0.01	1.12	1.6	0.0	1.6	5.55	0.51	6.07	8.1	0.7	8.8
8	水道	19.30	0.20	0.00	0.20	1.1	0.0	1.1	1.45	0.16	1.60	7.5	0.8	8.3
9	小日向	50.20	0.93	0.08	1.01	1.9	0.2	2.0	6.60	0.94	7.54	13.1	1.9	15.0
10	大塚南	55.10	10.79	0.85	11.65	19.6	1.5	21.1	2.59	0.15	2.74	4.7	0.3	5.0
11	大塚北	50.70	1.89	0.08	1.98	3.7	0.2	3.9	6.31	0.35	6.66	12.4	0.7	13.1
12	関口	43.90	3.53	0.10	3.63	8.0	0.2	8.3	7.35	0.24	7.60	16.7	0.6	17.3
13	目白台	48.50	4.27	1.25	5.52	8.8	2.6	11.4	6.91	0.42	7.33	14.2	0.9	15.1
14	音羽	19.30	0.59	0.02	0.61	3.0	0.1	3.1	1.48	0.10	1.57	7.6	0.5	8.1
15	本郷南	55.60	3.83	0.28	4.11	6.9	0.5	7.4	2.02	0.11	2.12	3.6	0.2	3.8
16	本郷北	37.90	1.07	0.02	1.09	2.8	0.1	2.9	2.54	0.15	2.69	6.7	0.4	7.1
17	湯島	55.30	4.14	0.29	4.43	7.5	0.5	8.0	2.73	0.12	2.85	4.9	0.2	5.2
18	西片	27.90	0.70	0.03	0.73	2.5	0.1	2.6	3.27	0.20	3.48	11.7	0.7	12.5
19	向丘	35.40	1.01	0.04	1.06	2.9	0.1	3.0	4.44	0.14	4.58	12.5	0.4	12.9
20	弥生	27.20	6.09	0.76	6.85	22.4	2.8	25.2	1.06	0.07	1.13	3.9	0.3	4.2
21	根津	20.50	0.29	0.01	0.30	1.4	0.0	1.5	2.35	0.09	2.44	11.5	0.4	11.9
22	千駄木	72.70	2.16	0.08	2.24	3.0	0.1	3.1	6.11	0.34	6.45	8.4	0.5	8.9
23	本駒込東	53.50	2.48	0.09	2.56	4.6	0.2	4.8	4.28	0.09	4.38	8.0	0.2	8.2
24	本駒込西	66.90	1.94	0.26	2.20	2.9	0.4	3.3	7.70	0.45	8.15	11.5	0.7	12.2
	一般区域小計	1,046.50	57.18	4.58	61.76	5.5	0.4	5.9	97.00	6.21	103.21	9.3	0.6	9.9
25	東大本郷	42.80	14.80	0.59	15.39	34.6	1.4	36.0	0.08	0.00	0.09	0.2	0.0	0.2
26	六義園	8.80	7.38	0.40	7.78	83.9	4.5	88.4	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
27	後楽園	7.10	5.49	0.38	5.87	77.3	5.3	82.7	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
28	植物園	16.10	13.76	1.07	14.83	85.5	6.7	92.1	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
29	豊島岡墓地	8.00	6.63	0.37	7.00	82.9	4.6	87.5	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
	特別区域小計	82.80	48.06	2.81	50.87	58.0	3.4	61.4	0.08	0.00	0.09	0.1	0.0	0.1
	区全体	1,129.00	105.25	7.39	112.63	9.3	0.7	10.0	97.09	6.21	103.30	8.6	0.6	9.1

注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

３．緑被率の経年変化

３－１．緑被率変化の概要

樹木被覆地率、緑被率の経年変化の状況を表Ｖ－９、図Ｖ－２３、図Ｖ－２４に示す。

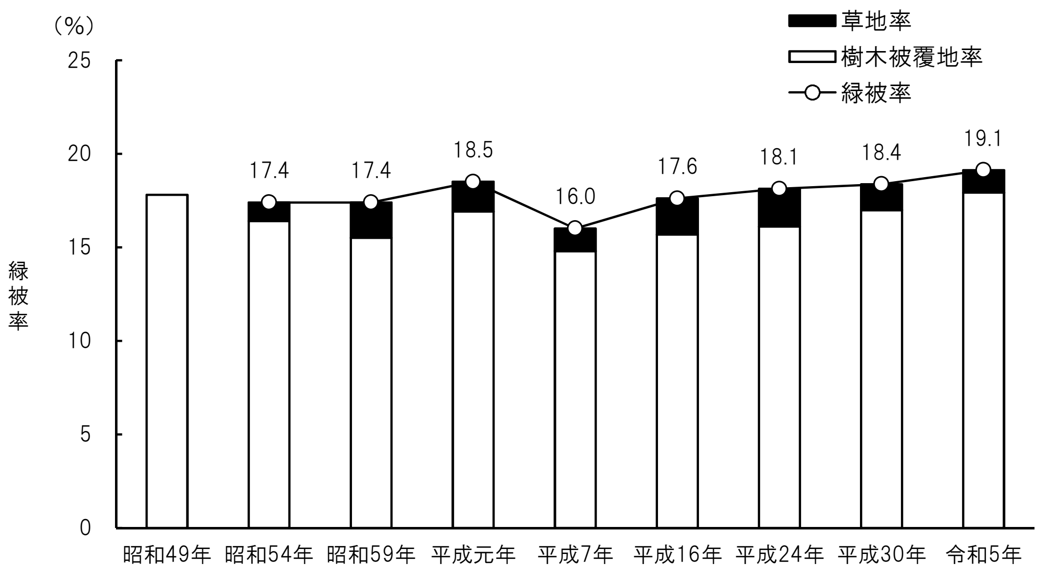
緑被率の調査方法は、平成元年度に改正され、本調査では空中写真のオルソ画像をもとにした GIS による解析手法を用いており、年々精度は向上している。

昭和 54 年からの推移をみると、平成 7 年度以降においては、徐々に増加傾向にあり、今回の調査では、前回調査（平成 30 年度）の緑被率に比べて、0.7 ポイント増加している。

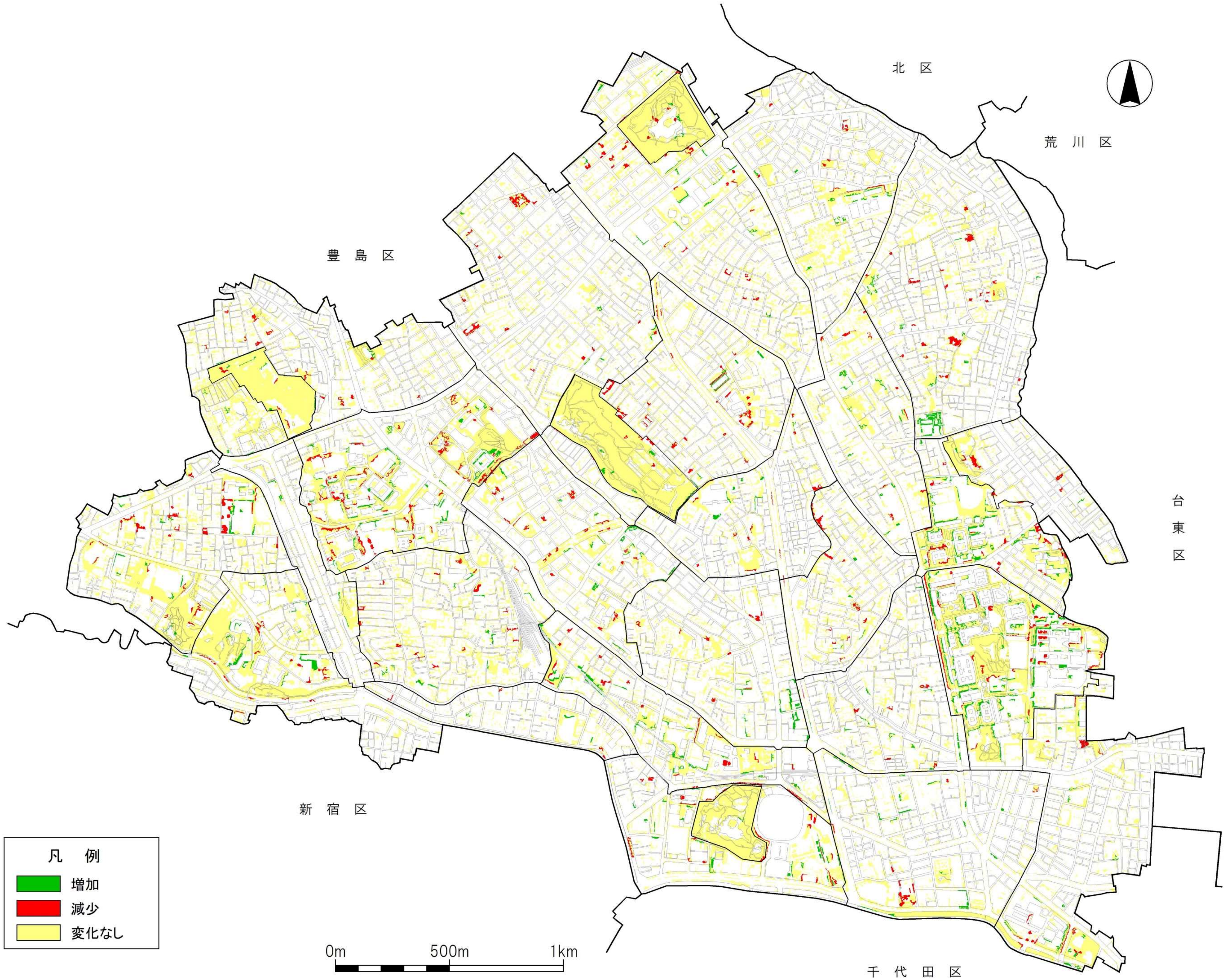
樹木は、経年による成長や衰退、季節的な条件に伴い、樹冠の形状が大きく異なる。また、街路樹や公園等で管理されている樹木は、剪定のタイミングによっても樹冠の大きさが変動する。本区は樹木被覆地の割合が高いことからも、これらの影響を受け易く、緑被率の変動の大きな要因となっている。また、日本医科大学付属病院など、大規模、中規模施設建設の緑化整備に伴う新規植栽も増加の要因の一つとして考えられる。

表Ｖ－９ 緑被率の経年変化

調査年次		昭和49年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成7年	平成16年	平成24年	平成30年	令和5年
緑被率	(%)		17.4	17.4	18.5	16.0	17.6	18.1	18.4	19.1
樹木被覆地率	(%)	17.8	16.4	15.5	16.9	14.8	15.7	16.1	17.0	17.9
草地率	(%)	0.0	1.0	1.9	1.6	1.2	1.9	2.0	1.4	1.2



図Ｖ－２３ 緑被率の経年変化



図Ｖ－２４ 樹木被覆地の変化図

３－２．都市構造区分別緑被率の経年変化

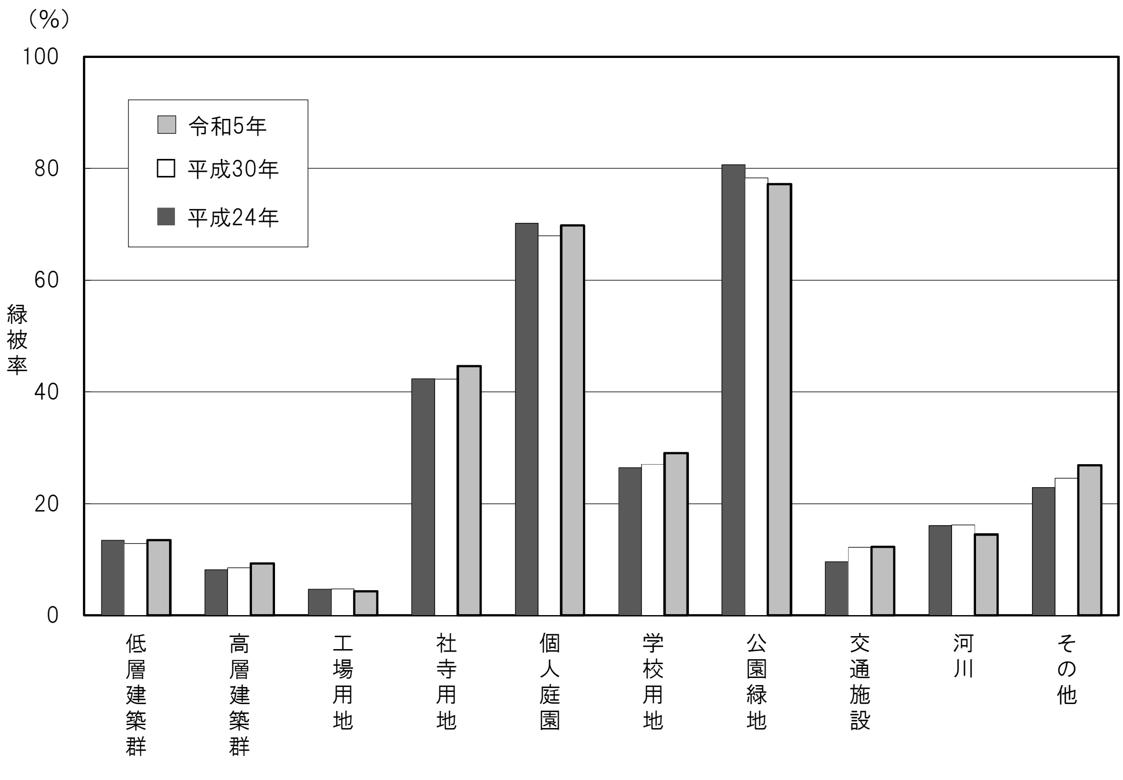
都市構造区分別の緑被率について、過去 2 回の調査（前回：平成 30 年、前々回：平成 24 年）との推移を表Ｖ－１０、図Ｖ－２５に示す。

前回調査との比較では、社寺用地、個人庭園、学校用地、その他施設において 2 ポイント前後の増加となっており、それ以外の区分での増加分は、1 ポイント未満となっている。

一方、河川で 1.7 ポイント、公園緑地で 1.1 ポイントの減少となっており、工場用地で 1 ポイント未満の減少傾向がみられる。交通施設では、ほとんど変動がみられなかった。

表Ｖ－１０ 都市構造区分別緑被率の推移

都市構造区分	緑被率(%)			
	平成24年	平成30年	令和5年	増減
低層建築群	13.4	12.9	13.5	0.6
高層建築群	8.2	8.5	9.3	0.8
工場用地	4.7	4.8	4.3	-0.4
社寺用地	42.3	42.3	44.6	2.3
個人庭園	70.2	67.9	69.8	1.9
学校用地	26.4	27.0	29.1	2.0
公園緑地	80.7	78.3	77.2	-1.1
交通施設	9.6	12.2	12.2	0.0
河川	16.1	16.2	14.5	-1.7
その他	22.9	24.6	26.9	2.3
区全体	18.1	18.4	19.1	0.7



図Ｖ－２５ 都市構造区分別緑被率の経年変化

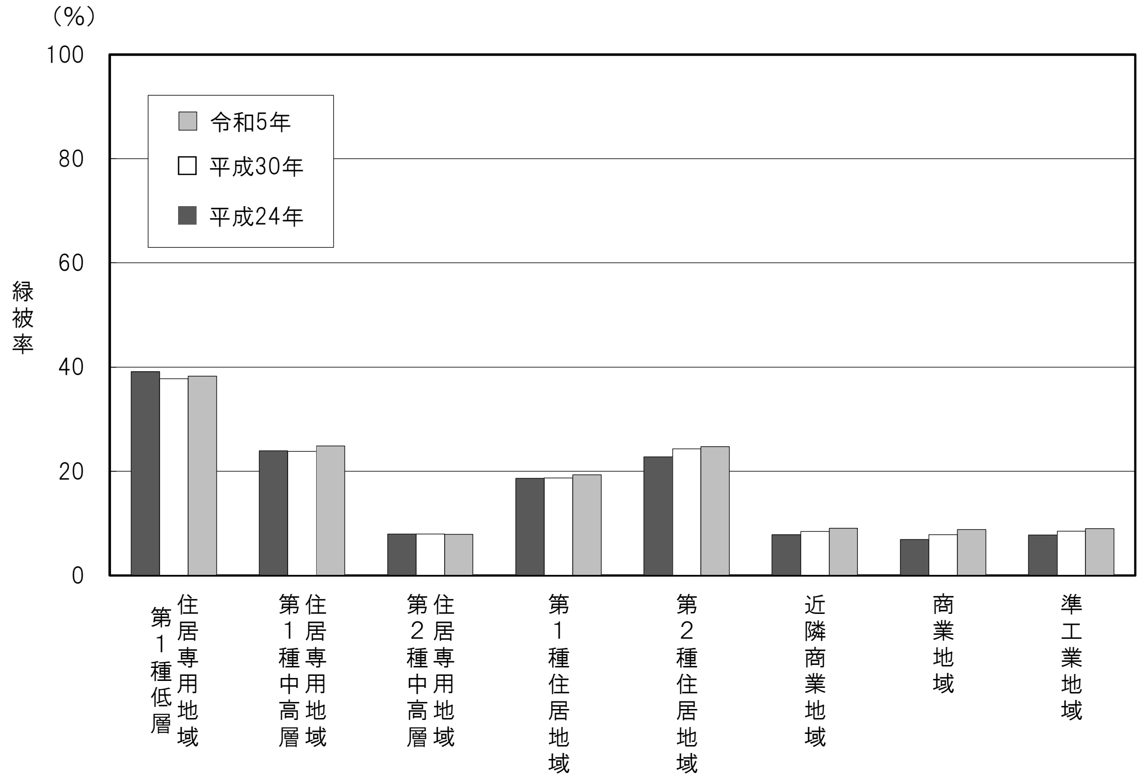
３－３．用途地域別緑被率の経年変化

用途地域別の緑被率について、過去 2 回の調査（前回 : 平成 30 年、前々回 : 平成 24 年）との推移を表Ｖ－１１、図Ｖ－２６に示す。

前回調査との比較では、第 1 種中高層住居専用地域での増加（1.1 ポイント）がもっとも大きく、それ以外の地域では、いずれも 1 ポイント未満の変動となっており、大きな減少傾向の地域はみられない。

表Ｖ－１１ 用途地域別緑被率の推移

用途地域	緑被率（%）			
	平成24年	平成30年	令和5年	増減
第１種低層住居専用地域	39.1	37.8	38.3	0.5
第１種中高層住居専用地域	23.9	23.8	24.9	1.1
第２種中高層住居専用地域	8.0	8.0	7.9	-0.1
第１種住居地域	18.6	18.7	19.4	0.7
第２種住居地域	22.8	24.3	24.7	0.4
近隣商業地域	7.9	8.4	9.1	0.7
商業地域	6.9	7.8	8.8	0.9
準工業地域	7.8	8.5	9.1	0.6
合計	18.1	18.3	19.1	0.7



図Ｖ－２６ 用途地域別緑被率の経年変化

３－４．区域別緑被率の経年変化

区域別の緑被地面積、緑被率について、過去 2 回の調査（前回：平成 30 年、前々回：平成 24 年）との推移を表Ｖ－１２、図Ｖ－２７、図Ｖ－２８に示す。

前回調査との比較では、一般区域の緑被率は、弥生で 2.9 ポイントともっとも大きく増加し、緑被地面積では千駄木が 0.97ha ともっとも増加が大きい。

一方、大塚南で緑被率が-1.1 ポイント、緑被地面積が-0.61ha ともっとも大きな減少を示している。

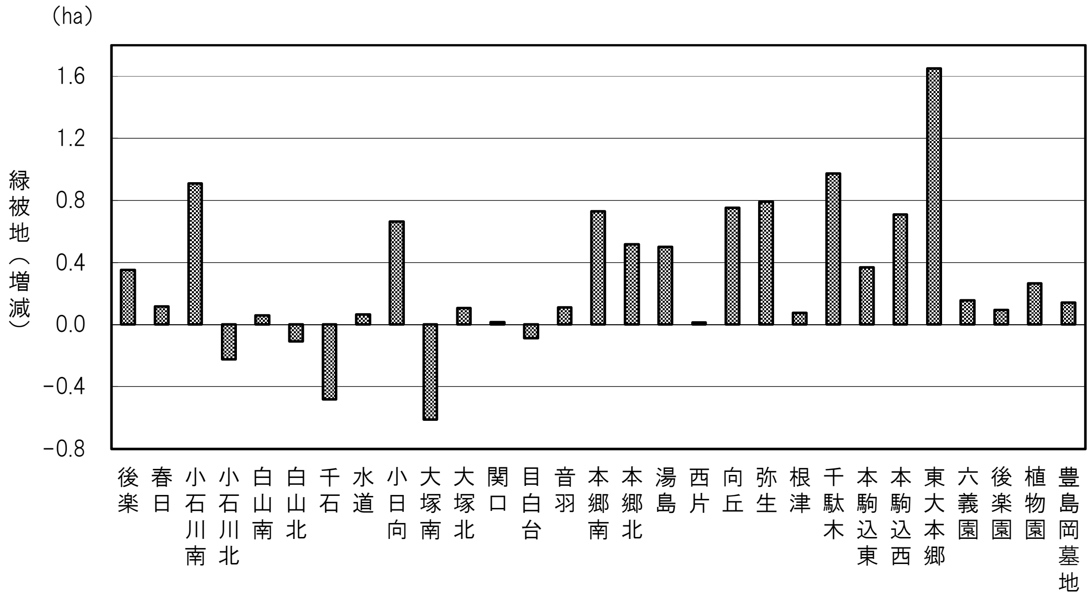
特別区域の緑被率では、東大本郷において前回から約 4 ポイントともっとも増加が大きく、六義園、後楽園、植物園でもそれぞれ増加傾向を示している。豊島岡墓地では、緑被率-0.4 ポイントとやや減少している。

緑被地の増加に関しては、屋上緑化の大幅な普及、樹木の成長、街路樹等の剪定施業のタイミング、緑化基準に伴う敷地緑化面積の増加、大規模緑地の開発等の減少、等の要因により、区全体として緑被率を上昇させていると考えられる。

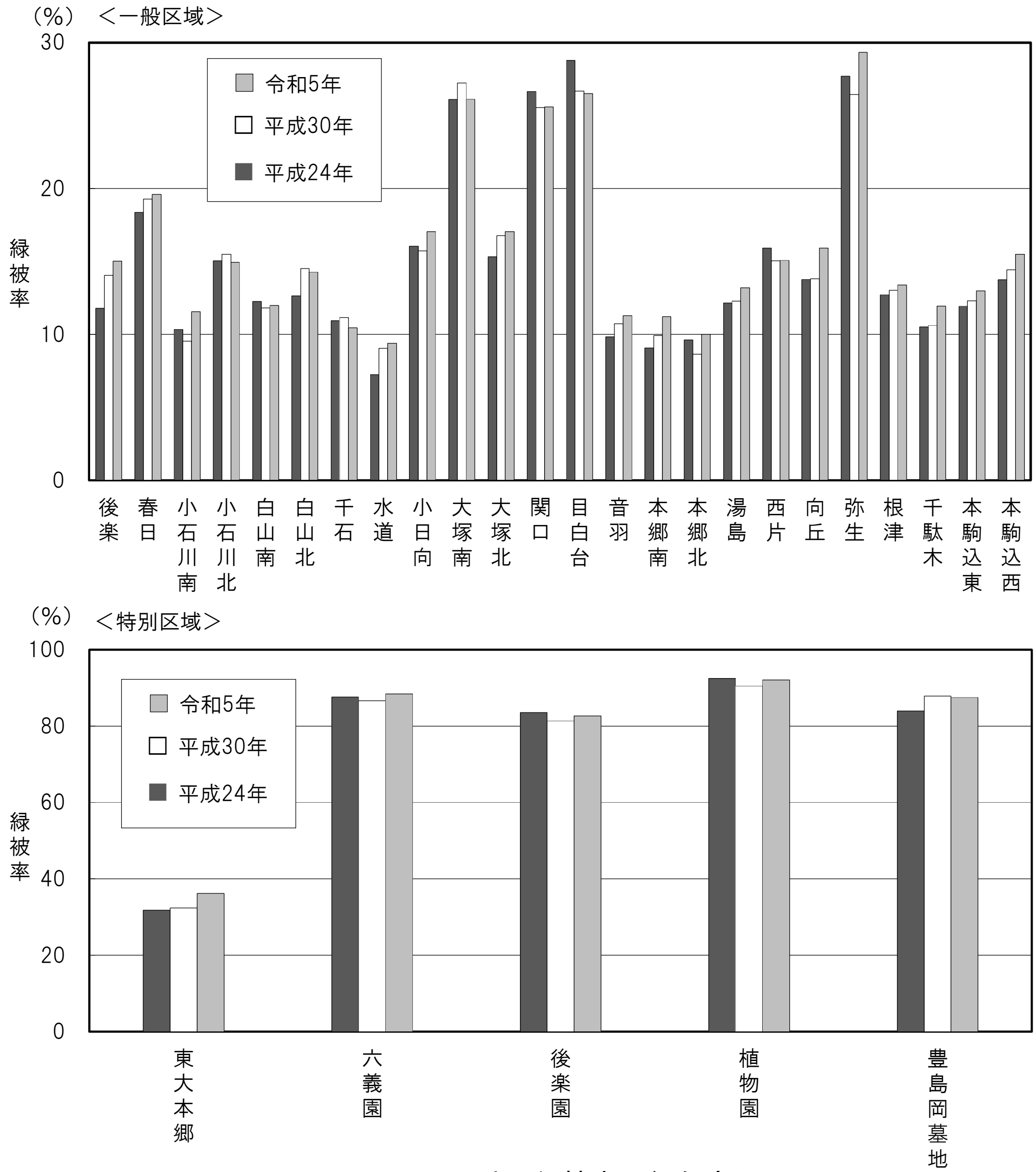
過去 2 回の調査での緑被率の推移から、後楽、春日、水道、大塚北、音羽、本郷南、湯島、根津、千駄木、本駒込東、本駒込西、東大本郷の各区域で増加傾向にあり、目白台で減少傾向にある。

表Ｖ－１２　区域別緑被地と緑被率の推移

区域	緑被地（ha）				緑被率（%）			
	平成24年	平成30年	令和5年	前回調査との増減	平成24年	平成30年	令和5年	前回調査との増減
後楽	4.37	5.10	5.45	0.35	11.8	14.1	15.0	1.0
春日	6.18	6.47	6.58	0.11	18.4	19.3	19.6	0.3
小石川南	4.62	4.23	5.14	0.91	10.3	9.5	11.5	2.0
小石川北	6.22	6.38	6.15	-0.23	15.0	15.5	14.9	-0.6
白山南	4.21	4.02	4.08	0.06	12.3	11.8	12.0	0.2
白山北	6.16	6.97	6.86	-0.11	12.6	14.5	14.3	-0.2
千石	7.60	7.68	7.19	-0.48	10.9	11.2	10.5	-0.7
水道	1.40	1.75	1.81	0.06	7.2	9.0	9.4	0.3
小日向	8.08	7.89	8.55	0.66	16.0	15.7	17.0	1.3
大塚南	14.52	15.00	14.39	-0.61	26.1	27.2	26.1	-1.1
大塚北	7.86	8.53	8.63	0.10	15.3	16.8	17.0	0.3
関口	11.58	11.22	11.23	0.01	26.7	25.6	25.6	0.0
目白台	13.90	12.94	12.85	-0.09	28.8	26.7	26.5	-0.2
音羽	1.91	2.07	2.18	0.11	9.8	10.7	11.3	0.6
本郷南	5.09	5.51	6.24	0.73	9.1	9.9	11.2	1.3
本郷北	3.63	3.27	3.79	0.52	9.6	8.6	10.0	1.4
湯島	6.62	6.79	7.29	0.50	12.1	12.3	13.2	0.9
西片	4.46	4.20	4.21	0.01	15.9	15.0	15.1	0.0
向丘	4.95	4.89	5.64	0.75	13.8	13.8	15.9	2.1
弥生	7.11	7.19	7.98	0.79	27.7	26.4	29.3	2.9
根津	2.64	2.67	2.74	0.07	12.7	13.0	13.4	0.4
千駄木	7.93	7.71	8.68	0.97	10.5	10.6	11.9	1.3
本駒込東	6.26	6.58	6.94	0.37	11.9	12.3	13.0	0.7
本駒込西	9.23	9.64	10.35	0.71	13.7	14.4	15.5	1.1
東大本郷	13.87	13.83	15.48	1.65	31.8	32.3	36.2	3.9
六義園	7.80	7.63	7.78	0.15	87.7	86.7	88.4	1.8
後楽園	5.93	5.77	5.87	0.09	83.6	81.3	82.7	1.3
植物園	14.90	14.57	14.83	0.26	92.4	90.5	92.1	1.6
豊島岡墓地	6.68	6.86	7.00	0.14	84.0	87.9	87.5	-0.4
区全体	205.71	207.36	215.93	8.57	18.1	18.4	19.1	0.7



図Ⅴ－２７　前回調査との区域別緑被地面積の増減



図Ⅴ－２８　区域別緑被率の経年変化

４．緑化余地の状況

草地および裸地の面積率から算出した緑化余地率を表Ｖ－１３に示す。

区内全域の緑化余地として 5.01ha の面積が算出された。前回調査（H30）よりも 0.65ha 減少し、前々回調査（H24）からは 3.05ha 減少した結果となっており、本区の緑化余地は減少傾向にある。

表Ｖ－１３ 町丁目別緑化余地率

区域	町丁目	面積	草地	裸地	緑化余地	緑化余地率
		(ha)				(%)
後楽	後楽１丁目	26.00	0.10	0.10	0.04	0.15
	後楽２丁目	10.30	0.21	0.02	0.04	0.43
		36.30	0.31	0.11	0.08	0.23
春日	春日１丁目	18.50	0.20	0.53	0.15	0.79
	春日２丁目	15.10	0.24	0.02	0.05	0.33
		33.60	0.44	0.55	0.20	0.59
小石川南	小石川１丁目	11.40	0.01	0.38	0.08	0.67
	小石川２丁目	14.80	0.04	0.00	0.01	0.06
	小石川３丁目	18.30	0.05	0.05	0.02	0.10
		44.50	0.10	0.42	0.10	0.23
小石川北	小石川４丁目	21.70	0.26	1.06	0.26	1.21
	小石川５丁目	19.50	0.04	0.46	0.10	0.51
		41.20	0.29	1.51	0.36	0.88
白山南	白山１丁目	15.00	0.06	0.03	0.02	0.12
	白山２丁目	19.10	0.21	0.03	0.05	0.25
		34.10	0.27	0.06	0.07	0.19
白山北	白山３丁目	5.10	0.02	0.01	0.01	0.13
	白山４丁目	19.00	0.23	0.15	0.08	0.40
	白山５丁目	24.00	0.23	0.06	0.06	0.24
		48.10	0.47	0.23	0.14	0.29
千石	千石１丁目	13.80	0.09	0.06	0.03	0.21
	千石２丁目	17.60	0.18	0.02	0.04	0.23
	千石３丁目	18.70	0.14	0.13	0.05	0.29
	千石４丁目	18.70	0.13	0.21	0.07	0.36
		68.80	0.53	0.42	0.19	0.28
水道	水道１丁目	9.00	0.10	0.02	0.02	0.27
	水道２丁目	10.30	0.05	0.02	0.01	0.13
		19.30	0.16	0.03	0.04	0.20
小日向	小日向１丁目	18.50	0.42	0.07	0.10	0.53
	小日向２丁目	17.60	0.37	0.05	0.08	0.48
	小日向３丁目	8.20	0.14	0.03	0.03	0.42
	小日向４丁目	5.90	0.09	0.00	0.02	0.30
		50.20	1.02	0.15	0.23	0.47
大塚南	大塚１丁目	13.40	0.23	1.15	0.28	2.06
	大塚２丁目	19.10	0.62	0.98	0.32	1.67
	大塚３丁目	22.60	0.15	1.26	0.28	1.25
		55.10	1.00	3.39	0.88	1.59
大塚北	大塚４丁目	16.80	0.17	0.16	0.07	0.39
	大塚５丁目	21.10	0.20	0.05	0.05	0.24
	大塚６丁目	12.80	0.06	0.06	0.03	0.20
		50.70	0.44	0.27	0.14	0.28
関口	関口１丁目	18.20	0.06	0.00	0.01	0.07
	関口２丁目	15.40	0.18	0.01	0.04	0.26
	関口３丁目	10.30	0.10	0.00	0.02	0.20
		43.90	0.35	0.01	0.07	0.16
目白台	目白台１丁目	18.00	1.32	0.35	0.34	1.86
	目白台２丁目	13.80	0.15	0.22	0.07	0.54
	目白台３丁目	16.70	0.20	0.71	0.18	1.09
		48.50	1.68	1.28	0.59	1.22

区域	町丁目	面積	草地	裸地	緑化余地	緑化余地率
		(ha)				(%)
音羽	音羽１丁目	11.40	0.09	0.00	0.02	0.15
	音羽２丁目	7.90	0.03	0.00	0.01	0.07
		19.30	0.11	0.00	0.02	0.12
本郷南	本郷１丁目	19.90	0.06	0.22	0.06	0.28
	本郷２丁目	19.20	0.26	0.02	0.06	0.29
	本郷３丁目	16.50	0.06	0.02	0.02	0.10
		55.60	0.38	0.26	0.13	0.23
本郷北	本郷４丁目	17.20	0.12	0.04	0.03	0.18
	本郷５丁目	13.20	0.05	0.02	0.01	0.11
	本郷６丁目	7.50	0.01	0.00	0.00	0.03
		37.90	0.17	0.06	0.05	0.12
湯島	湯島１丁目	14.00	0.25	0.01	0.05	0.37
	湯島２丁目	12.90	0.02	0.00	0.00	0.03
	湯島３丁目	17.40	0.02	0.01	0.01	0.04
	湯島４丁目	11.00	0.13	0.02	0.03	0.26
		55.30	0.42	0.04	0.09	0.16
西片	西片１丁目	12.00	0.08	0.00	0.02	0.15
	西片２丁目	15.90	0.15	0.08	0.04	0.28
		27.90	0.23	0.08	0.06	0.22
向丘	向丘１丁目	13.90	0.10	0.05	0.03	0.21
	向丘２丁目	21.50	0.08	0.05	0.03	0.13
		35.40	0.18	0.10	0.06	0.16
弥生	弥生１丁目	16.10	0.49	0.01	0.10	0.62
	弥生２丁目	11.10	0.34	0.03	0.07	0.67
		27.20	0.83	0.03	0.17	0.64
根津	根津１丁目	9.00	0.07	0.02	0.02	0.19
	根津２丁目	11.50	0.03	0.02	0.01	0.09
		20.50	0.10	0.04	0.03	0.13
千駄木	千駄木１丁目	9.30	0.08	0.02	0.02	0.22
	千駄木２丁目	14.50	0.02	0.02	0.01	0.05
	千駄木３丁目	21.90	0.23	0.07	0.06	0.28
	千駄木４丁目	6.30	0.01	0.01	0.00	0.07
	千駄木５丁目	20.70	0.07	0.30	0.07	0.36
		72.70	0.42	0.42	0.17	0.23
本駒込東	本駒込３丁目	23.60	0.13	0.41	0.11	0.46
	本駒込４丁目	12.60	0.01	0.05	0.01	0.09
	本駒込５丁目	17.30	0.04	0.14	0.04	0.21
		53.50	0.18	0.59	0.16	0.29
本駒込西	本駒込１丁目	15.20	0.07	0.03	0.02	0.13
	本駒込２丁目	27.50	0.24	0.61	0.17	0.62
	本駒込６丁目	24.20	0.40	0.64	0.21	0.86
		66.90	0.71	1.28	0.40	0.59
一般区域小計		1046.50	10.79	11.36	4.43	0.42
特別区域	東大本郷	42.80	0.59	0.01	0.12	0.28
	六義園	8.80	0.40	0.01	0.08	0.92
	後楽園	7.10	0.38	0.08	0.09	1.28
	植物園	16.10	1.07	0.01	0.22	1.34
	豊島岡墓地	8.00	0.37	0.00	0.07	0.92
特別区域小計		82.80	2.81	0.10	0.58	0.70
区全体		1,129.00	13.60	11.46	5.01	0.44

注：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

５．屋上緑化の状況

屋上緑化の面積および屋上緑化が可能と考えられる水平な屋上（陸屋根）の面積から算出した屋上緑化率を表Ｖ－１４、表Ｖ－１５、表Ｖ－１６に示す。

区内全体の屋上緑化の面積は 54,149 ㎡（5.4ha）であった。屋上緑化面積は、本区面積の約 0.5%にあたり、緑被地の 2.5%を占める。前回調査と比べると 0.1ha 増加しており、学校用地の屋上緑化の新設と個人宅でのプランターなどが主な要因である。

また、区内の屋上緑化可能な面積は 242.7ha で、これは本区面積の 21.5%にあたり、屋上緑化率としては 2.2%になる。後楽、春日、白山北、関口、音羽、向丘の各区域で屋上緑化率がそれぞれ 3%を上回っており、屋上緑化がもっとも進行している区域である。屋上緑化可能面積の大部分は構造的に屋上緑化を実施するのに充分な建築物だと考えられ、仮に 10%の面積が屋上緑化されたと仮定すれば、本区内の緑被率は 1.7 ポイントの上昇することになる。その意味でも屋上緑化の普及が文京区の緑化を向上させていく上で重要であり、普及のためのより積極的な施策が求められる。

表Ｖ－１４　区域別屋上緑化の状況

区域番号	区域	屋上緑化可能		屋上緑化		屋上緑化率
		（箇所）	（㎡）	（箇所）	（㎡）	（%）
1	後楽	172	58, 251	31	2, 314	4. 0
2	春日	233	77, 337	35	3, 163	4. 1
3	小石川南	585	117, 636	104	1, 844	1. 6
4	小石川北	579	107, 922	79	2, 803	2. 6
5	白山南	506	71, 569	56	722	1. 0
6	白山北	565	94, 573	70	3, 582	3. 8
7	千石	1, 057	155, 540	128	2, 674	1. 7
8	水道	285	59, 030	39	885	1. 5
9	小日向	425	83, 638	79	2, 241	2. 7
10	大塚南	442	114, 084	50	3, 346	2. 9
11	大塚北	546	85, 469	49	883	1. 0
12	関口	405	89, 299	56	2, 788	3. 1
13	目白台	365	75, 562	46	1, 130	1. 5
14	音羽	216	50, 937	29	2, 004	3. 9
15	本郷南	1, 061	178, 457	124	4, 848	2. 7
16	本郷北	735	105, 246	82	1, 367	1. 3
17	湯島	949	166, 163	124	4, 502	2. 7
18	西片	329	52, 045	45	958	1. 8
19	向丘	395	63, 068	75	2, 211	3. 5
20	弥生	180	55, 000	19	269	0. 5
21	根津	333	44, 592	26	358	0. 8
22	千駄木	1, 090	153, 056	145	4, 117	2. 7
23	本駒込東	903	105, 707	95	1, 300	1. 2
24	本駒込西	718	139, 573	121	2, 639	1. 9
一般区域小計		13, 074	2, 303, 754	1, 707	52, 948	2. 3
25	東大本郷	109	122, 288	15	1, 201	1. 0
26	六義園	0	0	0	0	-
27	後楽園	0	0	0	0	-
28	植物園	3	833	0	0	0. 0
29	豊島岡墓地	1	37	0	0	0. 0
特別区域小計		113	123, 158	15	1, 201	1. 0
区全体		13, 187	2, 426, 912	1, 722	54, 149	2. 2

都市構造区分別にみると、学校用地では屋上緑化に適した建物が多いことから、屋上緑化率（3.3%）、緑化面積（12,766 ㎡）は共に高い数値を示している。

用途地域別では、第 2 種住居地域の屋上緑化率がもっとも高く、箇所当たりの緑化面積も約 70.6 ㎡と平均の約 31.5 ㎡を大きく上回っている。

表Ｖ－１５ 都市構造区分別屋上緑化の状況

区分番号	都市構造区分	屋上緑化可能（箇所）	屋上緑化可能（㎡）	屋上緑化（箇所）	屋上緑化（㎡）	屋上緑化率（%）
1	低層建築群	3, 639	326, 963	487	5, 410	1. 7
2	高層建築群	8, 683	1, 595, 172	1, 101	29, 130	1. 8
3	工場用地	363	42, 432	44	1, 209	2. 8
4	社寺用地	67	17, 262	9	489	2. 8
5	個人庭園	9	1, 333	1	38	2. 9
6	学校用地	369	388, 041	67	12, 766	3. 3
7	公園緑地	6	1, 486	1	164	11. 0
8	交通施設	6	1, 748	1	5	0. 3
9	河川	0	0	0	0	-
10	その他	45	52, 475	11	4, 938	9. 4
区全体		13, 187	2, 426, 912	1, 722	54, 149	2. 2

表Ｖ－１６ 用途地域別屋上緑化の状況

地域番号	用途地域	屋上緑化可能（箇所）	屋上緑化可能（㎡）	屋上緑化（箇所）	屋上緑化（㎡）	屋上緑化率（%）
1	第１種低層住居専用地域	645	143, 160	116	2, 614	1. 8
2	第１種中高層住居専用地域	2, 451	588, 282	367	12, 676	2. 2
3	第２種中高層住居専用地域	172	20, 206	23	230	1. 1
4	第１種住居地域	2, 090	348, 268	291	9, 186	2. 6
5	第２種住居地域	320	122, 834	58	4, 093	3. 3
6	近隣商業地域	2, 513	328, 496	298	6, 454	2. 0
7	商業地域	3, 803	685, 871	404	14, 500	2. 1
8	準工業地域	1, 193	189, 795	165	4, 396	2. 3
区全体		13, 187	2, 426, 912	1, 722	54, 149	2. 2

６．壁面緑化の状況

区内の壁面緑化の状況を、区域別に表Ⅴ－１７、規模別に表Ⅴ－１８、都市構造区分別に表Ⅴ－１９、用途地域別に表Ⅴ－２０にそれぞれ示す。

区内全体の壁面緑化の面積は 7,503 ㎡で、箇所数にして 187 箇所であった。前回調査と比べると面積で 3,036 ㎡、箇所数で 66 箇所減少した。建物の建て替えやブロック塀のツル類の撤去が減少した主な要因である。

区域別の面積では、本郷南で 1,000 ㎡を越える大きな値となっており、箇所数では、白山北が 18 箇所ともっとも多く、本郷北、本駒込西の 3 区域でそれぞれ 15 箇所を超えている。

これらの壁面緑化は住宅地のブロック塀やフェンスのツル類による緑化が主であり、都市内の放射熱等による気温の上昇を低減する景観性のある建物壁面の緑化については、各所でみられたものの、全体的にはまだ少ない。

都市内のヒートアイランド現象の緩和には壁面緑化の普及は重要であり、屋上緑化と併せて積極的な施策が必要である。

表Ⅴ－１７　区域別壁面緑化の状況

区域番号	区域	箇所数	面積（㎡）
1	後楽	0	0
2	春日	3	153
3	小石川南	8	102
4	小石川北	4	115
5	白山南	8	67
6	白山北	18	426
7	千石	12	591
8	水道	3	656
9	小日向	14	454
10	大塚南	7	87
11	大塚北	6	220
12	関口	8	91
13	目白台	5	464
14	音羽	3	480
15	本郷南	6	1, 192
16	本郷北	17	563
17	湯島	9	282
18	西片	13	382
19	向丘	6	145
20	弥生	2	15
21	根津	2	23
22	千駄木	9	110
23	本駒込東	9	226
24	本駒込西	15	659
一般区域小計		187	7, 503
25	東大本郷	0	0
26	六義園	0	0
27	後楽園	0	0
28	植物園	0	0
29	豊島岡墓地	0	0
特別区域小計		0	0
区全体		187	7, 503

壁面緑化の規模別においては、25 ㎡未満の緑化規模が 140 箇所ともっとも多く、全体の約 75%を占めている。25 ㎡以上の規模になると箇所数は少なくなるものの、200 ㎡以上の規模における壁面緑化面積はもっとも多く、全体の半数近くを占めている。

表Ｖ－１８ 規模別壁面緑化の状況

壁面緑化規模	箇所数	面積 （㎡）
200㎡以上	11	3, 680
100～200㎡未満	9	973
50～100㎡未満	10	715
25～50㎡未満	17	576
1～25㎡未満	140	1, 559
合計	187	7, 503

都市構造区分別では、低層建築群、高層建築群において箇所数、面積ともに非常に大きな数値を示すが、壁面緑化 1 箇所あたりの面積では学校用地が高い値を示している。

用途地域別では、箇所数と面積ともに第 1 種中高層住居専用地域がもっとも多く全体の約 25%を占めた。また第 2 種住居地域は 4 箇所と少ないが、壁面緑化 1 箇所あたりの緑化面積ではもっとも大きな値を示している。

表Ｖ－１９ 都市構造区分別壁面緑化の状況

区分番号	都市構造区分	箇所数	面積（㎡）
1	低層建築群	97	2, 647
2	高層建築群	74	3, 515
3	工場用地	7	60
4	社寺用地	4	121
5	個人庭園	0	0
6	学校用地	5	1, 160
7	公園緑地	0	0
8	交通施設	0	0
9	河川	0	0
10	その他	0	0
区全体		187	7, 503

表Ｖ－２０ 用途地域別壁面緑化の状況

地域番号	用途地域	箇所数	面積（㎡）
1	第１種低層住居専用地域	39	1, 114
2	第１種中高層住居専用地域	47	1, 926
3	第２種中高層住居専用地域	1	5
4	第１種住居地域	35	1, 083
5	第２種住居地域	4	546
6	近隣商業地域	19	984
7	商業地域	29	1, 597
8	準工業地域	13	248
区全体		187	7, 503

Ⅵ　緑 視 率 の 状 況

Ⅵ　緑視率の状況

人間の視野に近い画角を想定して撮影された写真を用い、その中に占める樹木等の緑の面積占有率から算出される緑の量を緑視率という。

緑被率が視野外も含めた平面的な緑の量を測る尺度であるのに対し、緑視率では立面的に視野内に占める緑の量を対象とする。緑被率の低い地域でも、接道部など視野に入りやすい場所に公園樹や街路樹といった緑地が多く存在すれば、緑視率は高くなる。緑視率は緑の豊かさを実感する度合いを測るための指標といえる。

１．調査地点の選定

調査地点は、調査区域にかけたメッシュ（網目 140m×140m）に近い道路の交差点とした。調査地点数は 212 点とし、図Ⅵ－１にその位置と調査番号を示す。これは、第 5 次緑地実態調査（平成 7 年）から継続して調査している地点である。なお、特別区域には調査地点を設けていない。

２．他区との比較

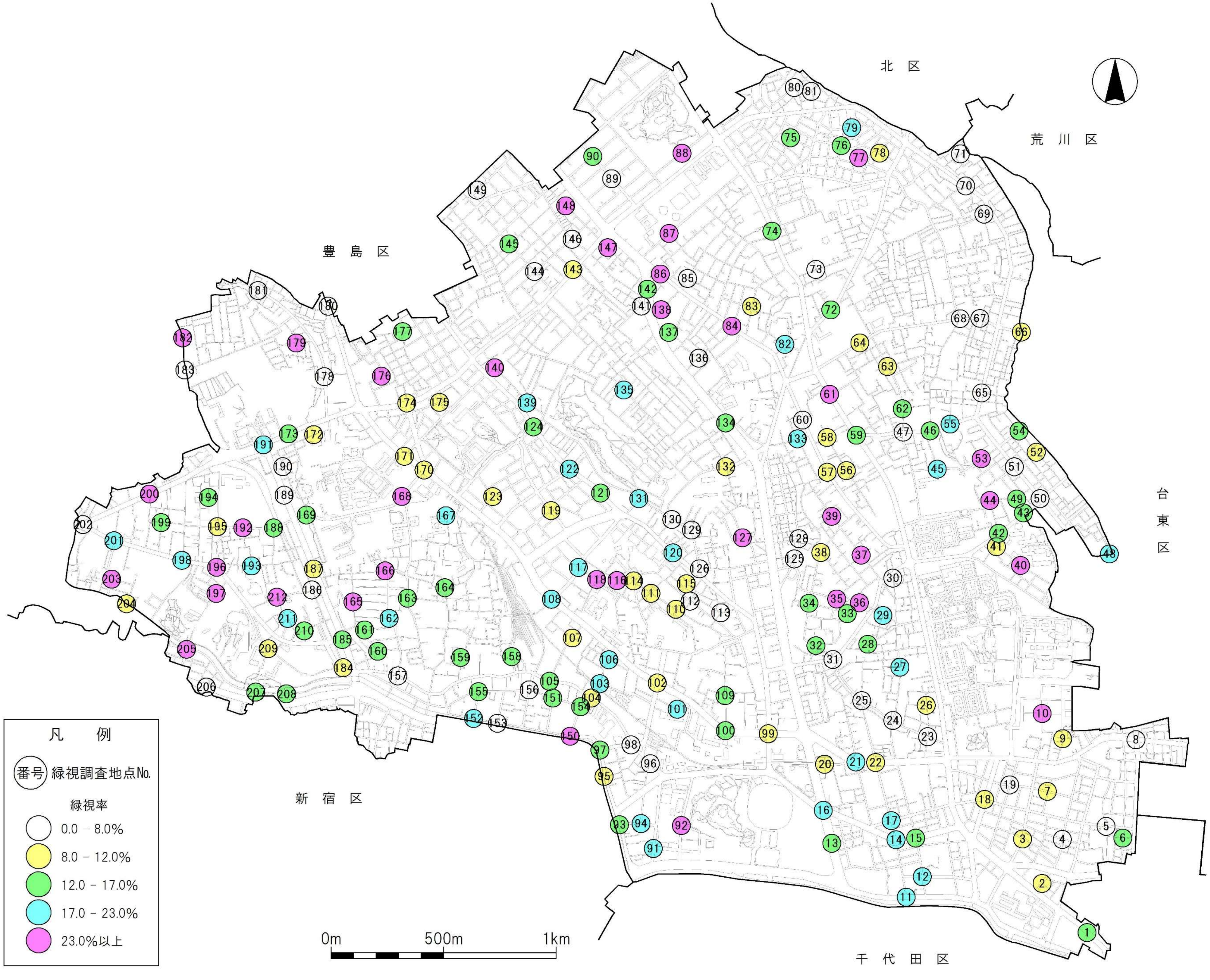
緑視率は緑の量を把握するための手法として用いられるが、比較的特殊な方法であり、まだ事例としては少なく、各区によって調査方法や調査地点が統一されていない。公園付近や街路樹、接道緑化が多い箇所では必然と緑視率が高い数値となる。

本区の緑視率の平均は 14.3%である。近年、調査している区が徐々に増えているものの、全体平均よりも緑視地点の効果をみる調査となっている傾向にあり、他区との比較が難しい状態である。周辺区との緑視率の比較を表Ⅵ－１に示す。

表Ⅵ－１　周辺区との緑視率の比較（参考）

	緑視率（%）	調査年度
文京区	14.3	令和5年
中央区	39.5	平成29年
北区	38.7	平成30年
練馬区	27.9	令和3年
渋谷区	24.7	令和4年
台東区	21.8	平成30年
杉並区	20.1	令和4年
港区	19.8	令和3年
墨田区	19.0	平成30年
江東区	17.2	令和4年
足立区	14.6	平成29年
新宿区	11.6	令和2年
大田区	11.2	平成30年

注：緑視率は、定点観測結果の平均値であり、区全体の状況を反映するものではない。また、他区では特別に決められた調査地点での緑視率のため、単純な比較はできない。



図Ⅵ－１　緑視率の調査地点

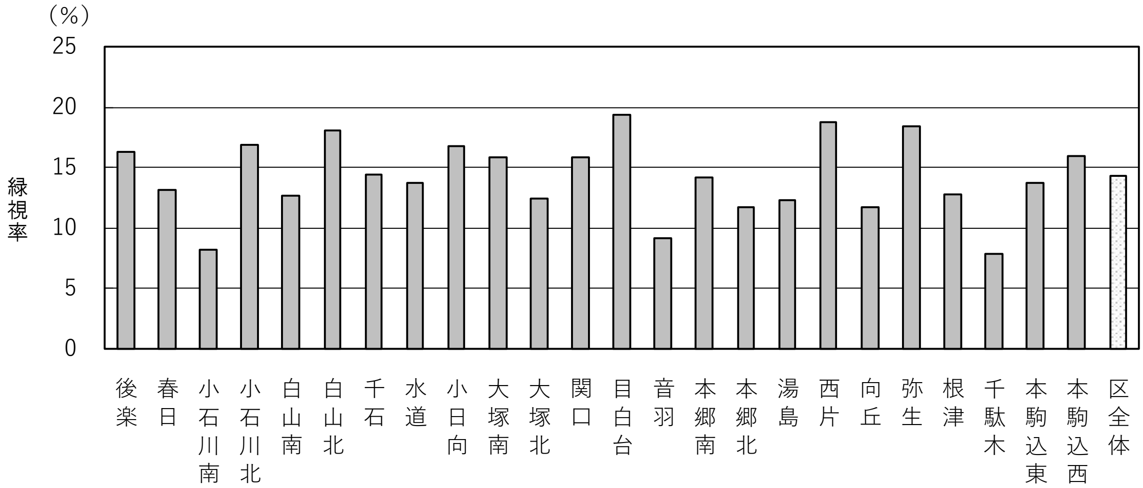
３．緑視率の特徴

３－１．区域別、町丁目別の緑視率

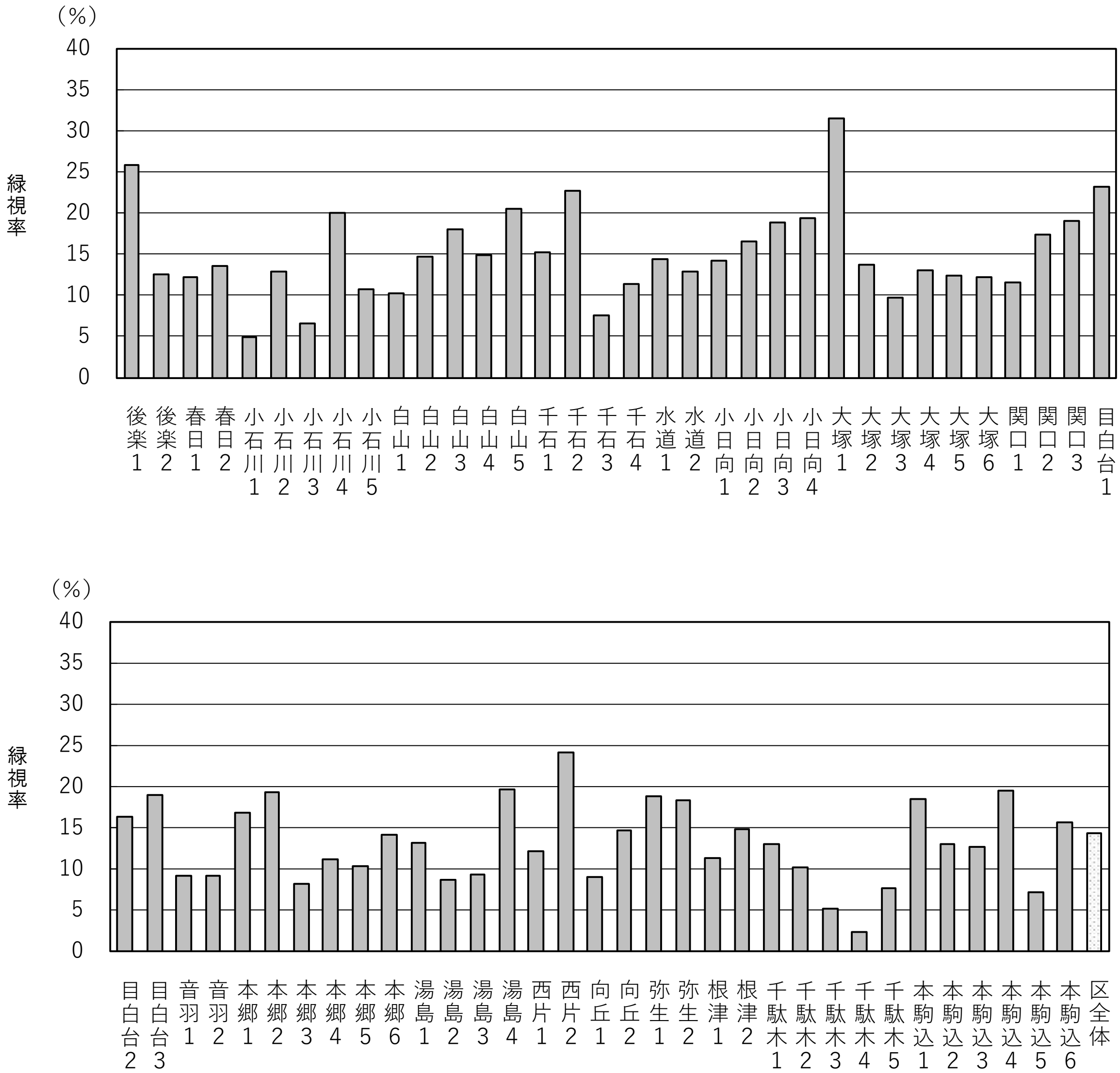
一般区域における区域別、町丁目別の緑視率の平均値を表Ⅵ－２、図Ⅵ－２、図Ⅵ－３に示す。また、区域別の緑視率分布図を図Ⅵ－４に示す。

表Ⅵ－２　緑視率の区域別町丁目別平均値

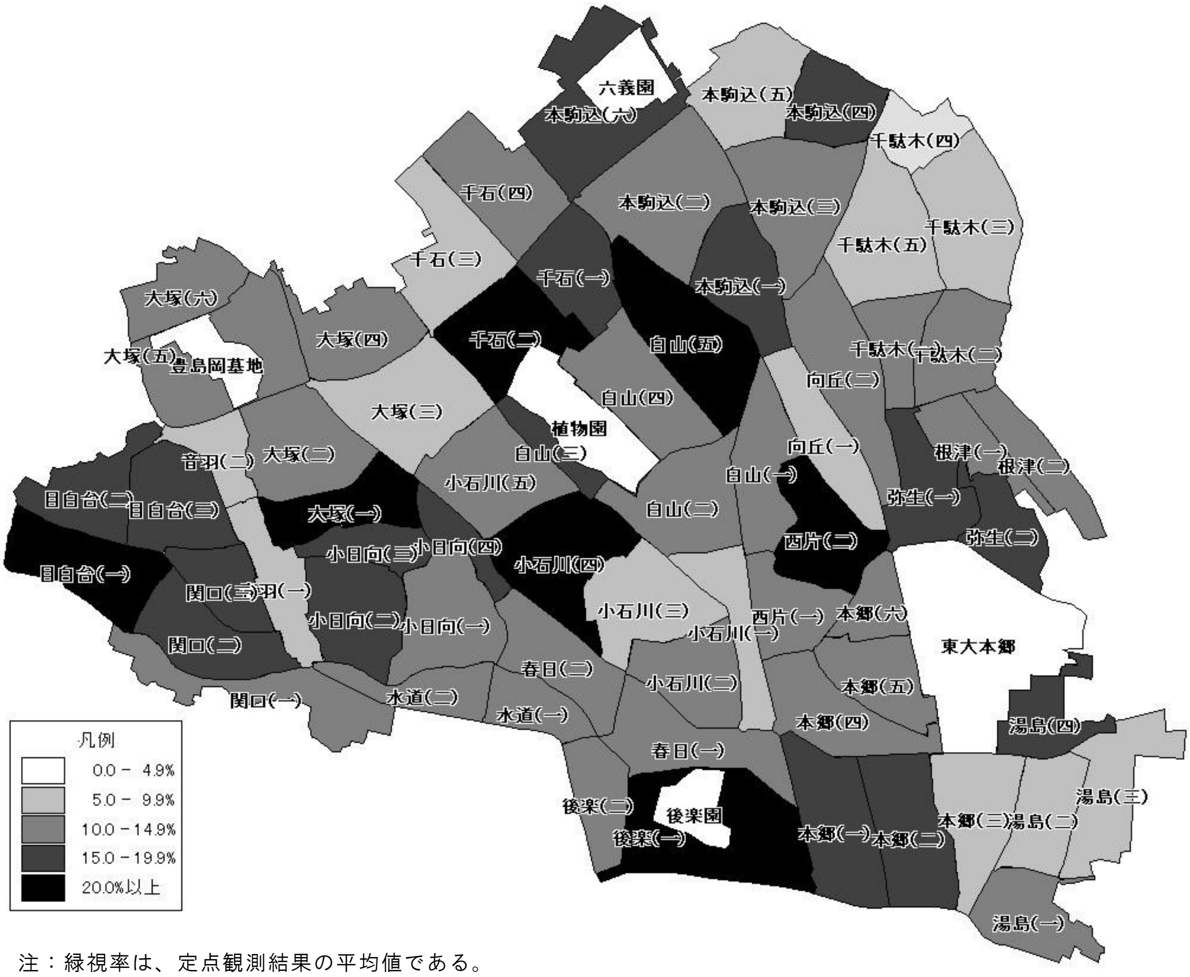
区域	町丁目	緑視率（％）
1 後楽	後楽１	25.8
	後楽２	12.5
		16.3
2 春日	春日１	12.2
	春日２	13.6
		13.2
3 小石川南	小石川１	5.0
	小石川２	12.9
	小石川３	6.6
		8.2
4 小石川北	小石川４	20.0
	小石川５	10.8
		16.9
5 白山南	白山１	10.2
	白山２	14.6
		12.7
6 白山北	白山３	18.0
	白山４	14.9
	白山５	20.5
		18.1
7 千石	千石１	15.1
	千石２	22.6
	千石３	7.6
	千石４	11.4
		14.5
8 水道	水道１	14.3
	水道２	12.9
		13.7
9 小日向	小日向１	14.2
	小日向２	16.6
	小日向３	18.8
	小日向４	19.3
		16.8
10 大塚南	大塚１	31.5
	大塚２	13.8
	大塚３	9.7
		15.9
11 大塚北	大塚４	13.0
	大塚５	12.3
	大塚６	12.2
		12.5
12 関口	関口１	11.5
	関口２	17.4
	関口３	19.1
		15.8
13 目白台	目白台１	23.2
	目白台２	16.3
	目白台３	18.9
		19.4
14 音羽	音羽１	9.2
	音羽２	9.2
		9.2
15 本郷南	本郷１	16.9
	本郷２	19.3
	本郷３	8.2
		14.2
16 本郷北	本郷４	11.1
	本郷５	10.3
	本郷６	14.1
		11.7
17 湯島	湯島１	13.2
	湯島２	8.6
	湯島３	9.4
	湯島４	19.6
		12.3
18 西片	西片１	12.2
	西片２	24.0
		18.8
19 向丘	向丘１	9.0
	向丘２	14.7
		11.8
20 弥生	弥生１	18.8
	弥生２	18.3
		18.4
21 根津	根津１	11.3
	根津２	14.9
		12.8
22 千駄木	千駄木１	13.0
	千駄木２	10.2
	千駄木３	5.2
	千駄木４	2.4
	千駄木５	7.7
		7.9
23 本駒込東	本駒込３	12.6
	本駒込４	19.5
	本駒込５	7.1
		13.7
24 本駒込西	本駒込１	18.5
	本駒込２	12.9
	本駒込６	15.6
		16.0
区全体		14.3



図Ⅵ－２　区域別緑視率（平均値）



図Ⅵ－３　町丁目別緑視率（平均値）



注：緑視率は、定点観測結果の平均値である。
　　特別区域には、調査地点を設定していない。

図Ⅵ－４　緑視率分布図

○　緑視率の高い区域（上位５位）：目白台、西片、弥生、白山北、小石川北
○　緑視率の低い区域（下位５位）：千駄木、小石川南、音羽、本郷北、向丘

区域別緑視率では、目白台、西片、弥生、白山北、小石川北の順で緑視率が高く、千駄木、小石川南、音羽、本郷北、向丘の順で低い緑視率となっている。緑視率のもっとも高い目白台（19.4%）ともっとも低い千駄木（7.9%）では 11.5 ポイントの開きがあり、区全体の緑視率（14.3%）に対して、それぞれ５ポイント以上の差が生じている。

目白台、西片は閑静な住宅地が広がり住宅の樹木が多いところである。弥生、白山北は公園、学校等施設のまとまった緑地に恵まれているところである。

一方､緑視率の低い千駄木､小石川南等は小規模住宅が狭隘道路を挟んで林立しており、緑化スペースが少ない事もあり前回からの大きな変動は見られなかった。

○　緑視率の高い町丁目：大塚１丁目、後楽１丁目、西片２丁目、目白台１丁目、千石２丁目
○　緑視率の低い町丁目：千駄木４丁目、小石川１丁目、千駄木３丁目、小石川３丁目、本駒込５丁目

町丁目別緑視率では、大塚１丁目、後楽１丁目、西片２丁目、目白台１丁目、千石２丁目の順で緑視率が高く、千駄木４丁目、小石川１丁目、千駄木３丁目、小石川３丁目、本駒込５丁目の順で緑視率が低い結果となった。

大塚１丁目（31.5%）や後楽１丁目（25.8%）は、区全体（14.3%）との比較でも突出して高く、大塚１丁目ともっとも低い千駄木４丁目（2.4%）の差は 29.1 ポイントの開きがある。

３－２．土地利用と緑視率

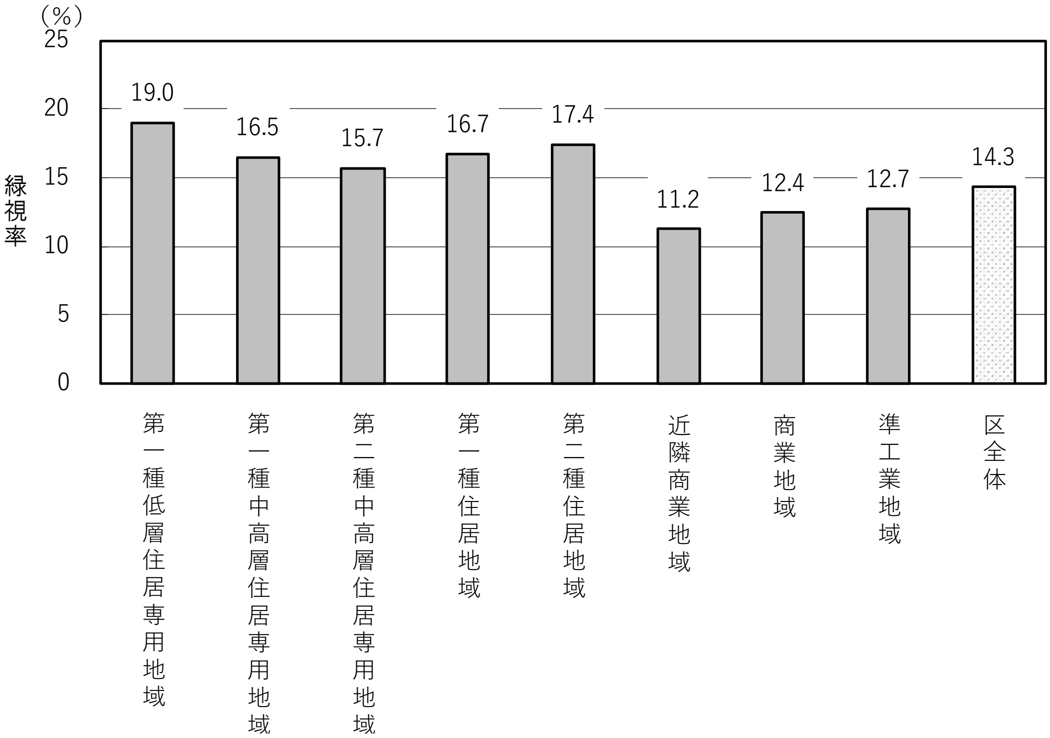
用途地域別の緑視率の平均値を表Ⅵ－３、図Ⅵ－５に示す。

第一種低層住居専用地域（19.0％）、第二種住居地域（17.4％）、第一種住居地域（16.7％）など住居系の用途地域で平均を上回る緑視率の箇所が集中している。

また平均を下回ったのは準工業地域（12.7％）、商業地域（12.4％）、近隣商業地域（11.2％）となっており、区全体の平均値を境に住居系地域とそれ以外とで分かれている。

表Ⅵ－３　緑視率の用途地域別平均値

用途地域	緑視率（％）
第一種低層住居専用地域	19.0
第一種中高層住居専用地域	16.5
第二種中高層住居専用地域	15.7
第一種住居地域	16.7
第二種住居地域	17.4
近隣商業地域	11.2
商業地域	12.4
準工業地域	12.7
区全体	14.3



図Ⅵ－５　用途地域別緑視率（平均値）

４．緑視率の経年変化

平成 16 年、平成 24 年、平成 30 年、令和 5 年の調査における緑視率の経年変化について区域ごとに集計した結果を表Ⅵ－４、図Ⅵ－６に示す。

○ 平均緑視率の経年変化

平成１６年	：	１６．０％
平成２４年	：	１４．７％
平成３０年	：	１４．２％
令和　５年	：	１４．３％

令和 5 年の平均緑視率は、前回と比較して 0.1 ポイントの増加であり、前々回との比較では 0.4 ポイントの減少となっている。

区域別緑視率の前回との比較では、西片、湯島、後楽で 2 ポイント以上の減少がみられた。また、小日向、根津、弥生、大塚北で 2 ポイント以上の増加がみられた。減少した区域では､宅地内の樹木の伐採や､道路の形状変更による街路樹の撤去などが影響している。

一方、連続して減少している区域は、後楽、大塚南、目白台、湯島、千駄木であり、調査地点において、道路が狭く植栽するスペースがないことや、施設改修に伴う樹木の伐採などが緑視率の低下につながっていると推測される。

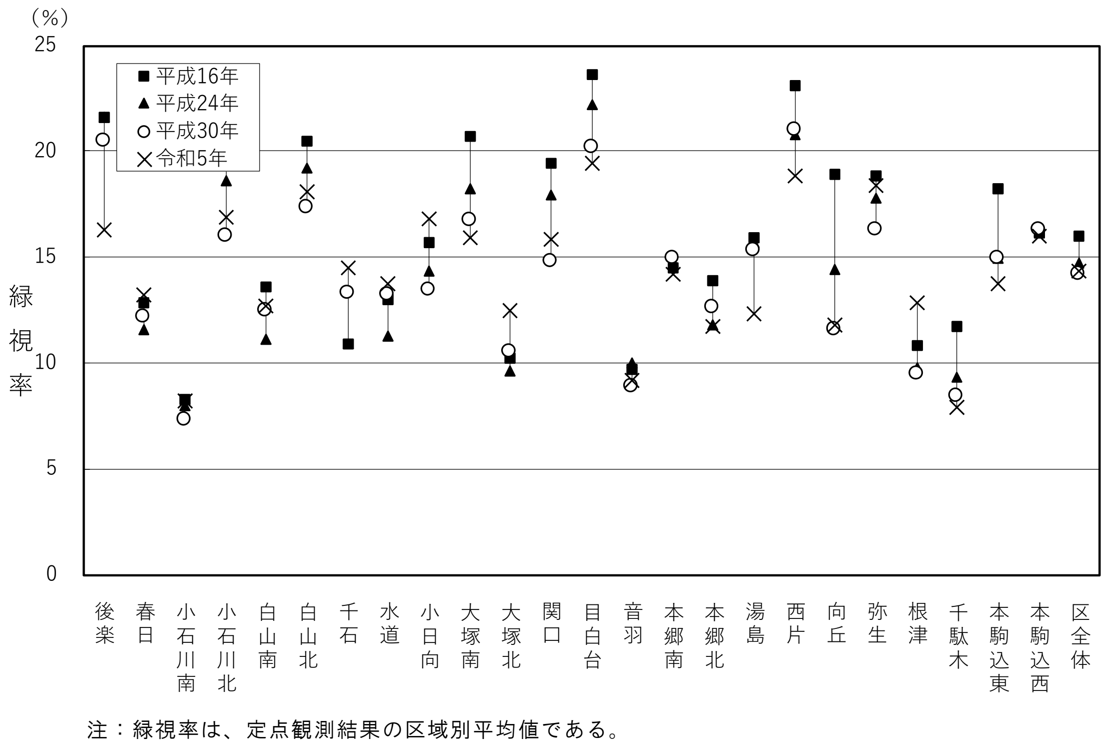
○ 緑視率が連続して増加している区域：春日、白山南、千石、水道、大塚北

○ 緑視率が連続して減少している区域：後楽、大塚南、目白台、湯島、千駄木

表Ⅵ－４　区域別緑視率の経年変化

No.	区域	平成16年	平成24年	平成30年	令和5年	増減
1	後楽	21.6	21.6	20.5	16.3	-4.2
2	春日	12.8	11.6	12.2	13.2	1.0
3	小石川南	8.3	8.0	7.3	8.2	0.9
4	小石川北	20.0	18.6	16.0	16.9	0.9
5	白山南	13.6	11.1	12.5	12.7	0.2
6	白山北	20.5	19.2	17.3	18.1	0.8
7	千石	10.9	10.9	13.3	14.5	1.2
8	水道	13.0	11.3	13.2	13.7	0.5
9	小日向	15.7	14.3	13.4	16.8	3.4
10	大塚南	20.7	18.2	16.7	15.9	-0.8
11	大塚北	10.2	9.6	10.5	12.5	2.0
12	関口	19.4	17.9	14.8	15.8	1.0
13	目白台	23.6	22.2	20.2	19.4	-0.8
14	音羽	9.7	10.0	8.9	9.2	0.3
15	本郷南	14.5	14.8	14.9	14.2	-0.7
16	本郷北	13.9	11.8	12.6	11.7	-0.9
17	湯島	15.9	15.7	15.3	12.3	-3.0
18	西片	23.1	20.8	21.0	18.8	-2.2
19	向丘	18.9	14.4	11.6	11.8	0.2
20	弥生	18.8	17.8	16.3	18.4	2.1
21	根津	10.8	9.8	9.5	12.8	3.3
22	千駄木	11.7	9.3	8.4	7.9	-0.5
23	本駒込東	18.2	14.9	14.9	13.7	-1.2
24	本駒込西	16.1	16.2	16.3	16.0	-0.3
	区全体	16.0	14.7	14.2	14.3	0.1

注 1：緑視率は、定点観測結果の区域別平均値である。
　2：増減は、平成 30 年と令和 5 年を比較。



注：緑視率は、定点観測結果の区域別平均値である。

図Ⅵ－６　区域別緑視率の経年変化

Ⅶ　道路および河川に関わる緑の状況

Ⅶ　道路および河川に関わる緑の状況

１．道路に関わる緑の状況

街路樹、植樹帯、沿道部の緑化は、通行者の心を和ませるとともに、防音、防火、夏期の日陰、秋の紅葉等、地域にとっても重要な緑となっている。道路上および道路沿道における緑化状況の調査することで現状を把握し、沿道緑化をおこなうことの必要性を検討した。しかし、沿道緑化について問題がない訳ではなく、落葉の処理、交通標識への配慮、倒木、折れ枝や枯枝の処理等が必要であり、これらには地域住民の協力が欠かせない。

１－１．道路内植栽の状況

本区の道路種別は、国道、都道、区道、私道があり、そのうち公道部分は延長 205km、面積 1.90ｋ㎡を占め、これは文京区の面積の 16.8%にあたる。

このうち区道が延長 171km、面積 1.05ｋ㎡であり、公道において延長で約 83%、面積で約 55%を占めている。

公道上（歩道および車道部分）の街路樹および植樹帯の植栽状況は、街路樹が 6,671 本、植樹帯が 43,006 ㎡となっている。特に街路樹は、胸高直径 50cm を超えるものが増えてきた事により樹木調査において好影響をもたらすほか、樹冠のサイズが反映される緑被調査においては大きな比重を占めている。公道上の緑化状況について表Ⅶ－１に示す。

表Ⅶ－１　公道緑化状況

種別	道路延長（km）	道路面積（k㎡）	街路樹本数（本）	植樹帯面積（㎡）
国道	8.2	0.20	904	17,724
都道	26.1	0.65	2,988	13,454
区道	170.9	1.05	2,779	11,828
合計	205.2	1.90	6,671	43,006

注 1：胸高直径 50cm 未満のものも含む。
　2：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

１－２．ポケットパークおよびグリーンスポットの状況

公道上におけるポケットパークおよびグリーンスポットは、地域のシンボルとして、また通行者の休憩場所としての機能をもたせたもので、合計 36 箇所設置してある。

前回調査からグリーンスポットが 1 箇所増えたが、ポケットパークでは樹木数の減少もあり樹木数及び面積は横ばいとなった。

ポケットパークおよびグリーンスポットにおける緑化状況を表Ⅶ－２、前回調査（平成 30 年）との変化状況を表Ⅶ－３、図Ⅶ－１に示す。

表Ⅶ－２　ポケットパークおよびグリーンスポットの緑化状況

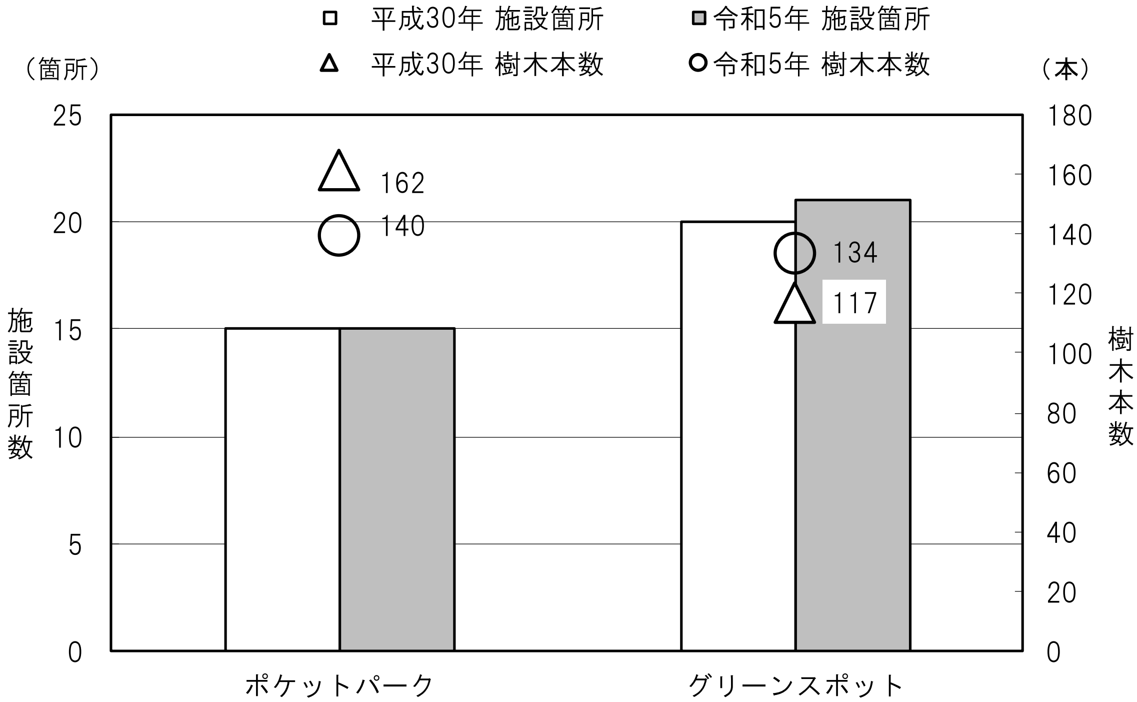
種別	箇所数	樹木（本）	施設面積（㎡）
ポケットパーク	15	140	1,354
グリーンスポット	21	134	595
合計	36	274	1,949

注：胸高直径 50cm 未満のものも含む。

表Ⅶ－３　ポケットパークおよびグリーンスポットの緑化の経年変化

種別	増減	
	箇所数	樹木（本）
ポケットパーク	0	-22
グリーンスポット	1	17
合計	1	-5

注：胸高直径 50cm 未満のものも含む。



図Ⅶ－１　ポケットパークおよびグリーンスポットの緑化の経年変化

１－３．接道緑化の状況

接道緑化には、防音、防火、災害の回避効果（塀の場合は倒壊する危険が大きい）や通行者の心を和ませる効果も期待できるものである。そのため、公道に接している部分がどの程度緑化されているのかを、本区独自の調査として実施した。

接道緑化には、道路に沿った樹木、植樹帯、生垣（背の低いフェンス、竹組みのもの等を指す）を想定している。道路沿いの中を見透かせない塀の内側部分の植栽も接道緑化の対象として算出した。

国道、都道の道路幅員の大きい道路沿いには商店、事務所、大規模マンションなどの建物が多く、接道緑化延長の比率は区道や私道に比べて低くなっている。

また、前回調査と比較して、接道緑化率は国道と都道で増加している。接道緑被率では、すべてで増加しており、中でも国道は 2.7 ポイント増加している。

接道緑化の延長状況を表Ⅶ－４、接道緑化の面積状況を表Ⅶ－５に示す。また、前回調査との接道緑化の変化状況を表Ⅶ－６、図Ⅶ－２、図Ⅶ－３に示す。

表Ⅶ－４　接道緑化の延長状況

種別	接道延長（㎞）（道路延長×2）	接道緑化延長（㎞）		接道緑化率（％）
			うち生垣（㎞）	
国道	16.35	2.26	0.27	13.8
都道	52.22	9.76	1.30	18.7
区道	341.79	70.08	10.48	20.5
私道（幅 4m以上）	29.79	6.09	0.61	20.4
合計	440.14	88.18	12.67	20.0

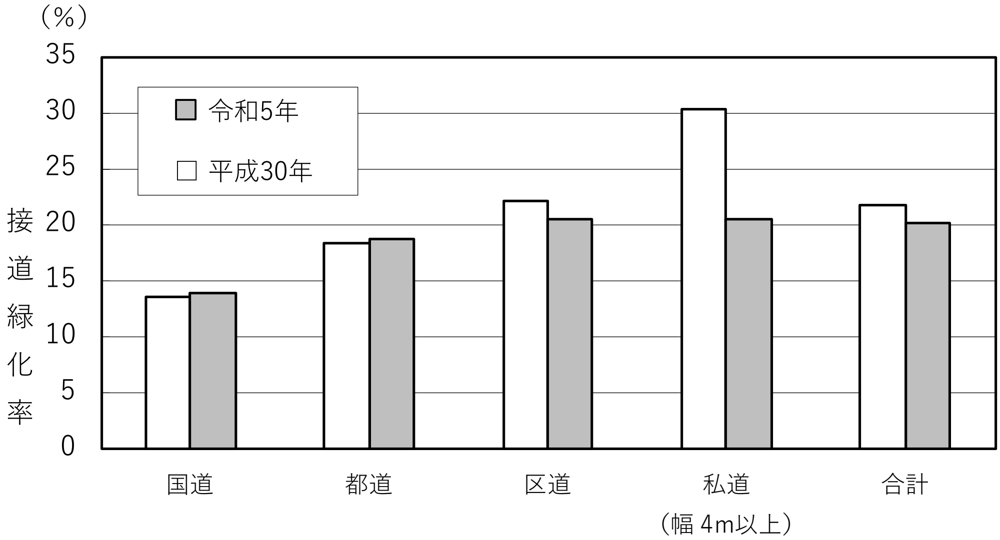
注 1：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

表Ⅶ－５　接道緑化の面積状況

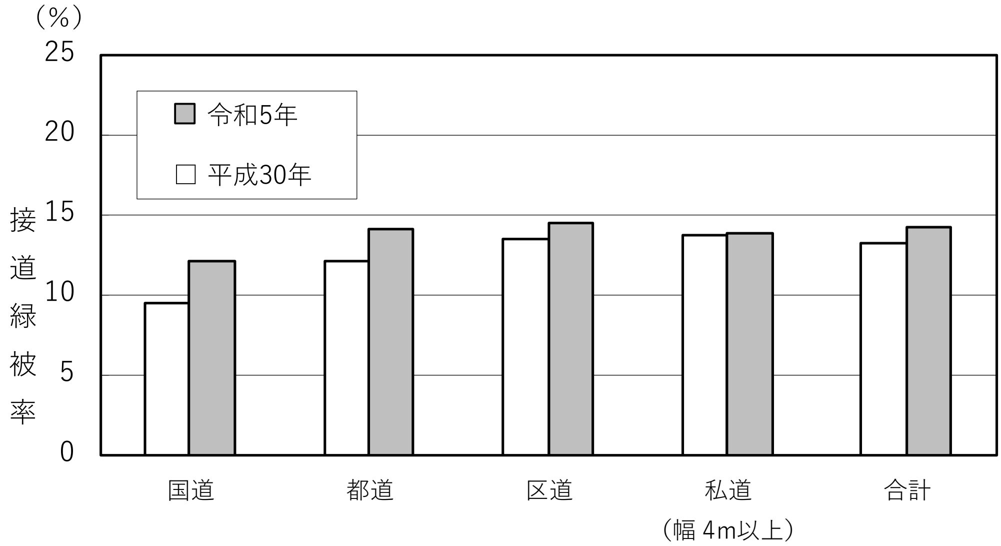
種別	接道面積（㎡）（接道延長×5m）	接道緑被地面積（㎡）	接道緑被率（％）
国道	81,730	9,888	12.1
都道	261,080	36,596	14.0
区道	1,708,930	246,300	14.4
私道（幅 4m以上）	148,940	20,630	13.9
合計	2,200,680	313,414	14.2

表Ⅶ－６　接道緑化の経年変化

種別	増減	
	接道緑化率（%）	接道緑被率（%）
国道	0.2	2.7
都道	0.4	1.9
区道	-1.5	0.9
私道（幅 4m以上）	-9.9	0.2
合計	-1.7	1.0



図Ⅶ－２　接道緑化率の経年変化



図Ⅶ－３　接道緑被率の経年変化

２．河川に関わる緑の状況

平成 30 年度に続き 2 回目となる河川緑化調査を実施した。河川の緑化には、景観として通行者の心を和ませる効果のほか、ヒートアイランド対策として河川との相乗作用により周囲の温度を抑制する温度低減効果、台風などの自然災害時に河川から受ける水害に対する水防効果や雨水の河川への流入を一時的に抑制する貯水効果、河川の汚濁などで発生する悪臭の拡散を抑制する防臭効果、河川域に生息する生物を保護し生態系を維持する効果など、さまざまな効果が期待できるものである。そのため、河川に接している部分がどの程度の緑化状況にあるのかについて､本区を流れる神田川においてその実態を調査した。

神田川は、三鷹市の井の頭池を源とし、善福寺川、妙正寺川などと合流して隅田川に注ぐ全長 24.6km の河川である。本区では、関口区域、水道区域、後楽区域、本郷区域、湯島区域において、その流域を有している。

本調査においては、その流域に接する領域を「関口区域」､「水道・後楽区域」､「本郷・湯島区域」に区分し、それぞれの区域において緑の状況を調査した。

緑被地の面積は、本郷・湯島区域でもっとも大きく、水道・後楽区域でもっとも小さくなっている。いずれの区域でも樹木被覆地が優勢で、草地は 0.01ha 未満の状態である。

緑被率は、関口区域で約 29%、本郷・湯島区域で約 58%とそれぞれ高い値を示すが、水道・後楽区域では、約 3%と著しく低い値となっている。みどり率をみると、関口区域、本郷・湯島区域で 85%以上の非常に高い値を示し、水道・後楽区域でも 50%を上回る。

みどり率が高い要因は、これらの区域において水面の占める割合が高いためで、これは緑化する余地が限られていることを示唆している。

樹木では、本郷・湯島区域で直径 50cm 以上の大きい樹木が一定数みられるが、そのほかの区域では直径 50cm 以上は 1 本のみとなっている。

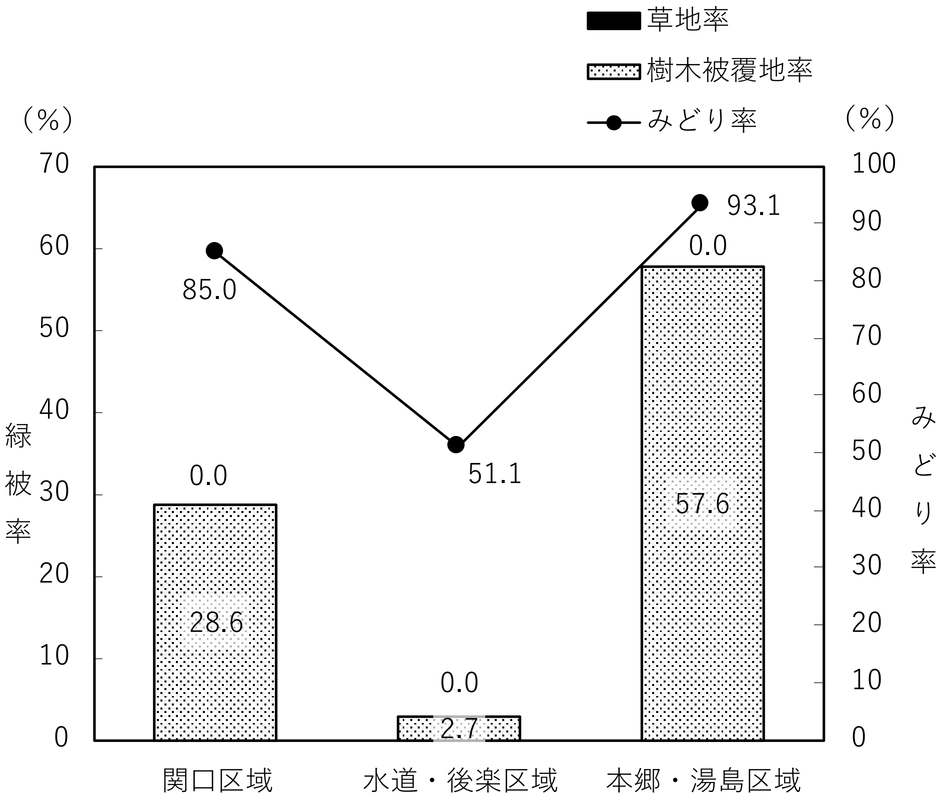
各区域の河川緑化の状況を表Ⅶ－７、緑被率の状況を図Ⅶ－４に示す。

表Ⅶ－７　河川区域別の緑化状況

神田川	延長 (㎞)	面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆地率 (%)	草地率 (%)	緑被率 (%)	樹木 (本数)	みどり率 (%)
関口区域	0.9	2.06	0.59	0.00	0.59	28.6	0.0	28.6	1	85.0
水道・後楽区域	2.7	3.31	0.09	0.00	0.09	2.7	0.0	2.7	0	51.1
本郷・湯島区域	1.1	2.76	1.59	0.00	1.59	57.6	0.0	57.6	28	93.1
合計	4.7	8.13	2.27	0.00	2.27	27.9	0.0	27.9	29	73.9

注 1：樹木は胸高直径 50cm 以上を対象。

2：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。



図Ⅶ－４　河川区域別の緑被率の状況

Ⅷ　緑に関わる環境の状況

Ⅷ　緑に関わる環境の状況

１．地表面温度の状況

１－１．ヒートアイランド現象について

ヒートアイランド現象とは、都市の中心部の気温が郊外に比べて高くなる現象であり、近年都市に特有の環境問題として、その対策が求められている。

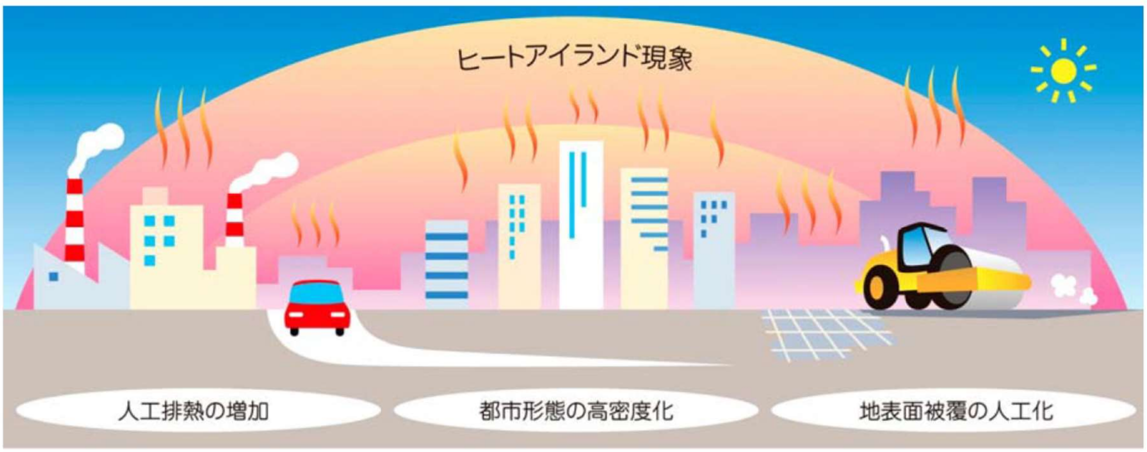
ヒートアイランド現象の主な原因としては、人工排熱の増加、地表面被覆の人工化、都市形態の高密度化の３つがあげられる。このうち、地表面被覆と都市形態については緑地の保全および公園整備、緑化の推進により、ヒートアイランドを軽減できる。

（表Ⅷ－１、図Ⅷ－１）

表Ⅷ－１　ヒートアイランドの原因と対策

類型	ヒートアイランドの原因	ヒートアイランドの対策
人工排熱の増加	建物の空調機器や自動車等におけるエネルギー使用は熱として放出され大気を温める。	・省エネルギーの推進 ・交通流対策等の推進 ・未利用エネルギー等の利用
地表面被覆の人工化	アスファルトやコンクリート等の舗装面や建物の屋根面は、夏季の日中に日射を受けると表面温度が 50～60℃程度にまで達し、大気を加熱するとともに、日中に都市内の舗装面に蓄えられた熱は、夜間の気温低下を妨げる原因となる。	・緑地・水面の確保や緑化による蒸発散作用確保。 ・地表面の高温化を防ぐため、緑陰などによる地表面被覆の改善。
都市形態の高密度化	中高層の建物の高密度化や連続したオープンスペースの減少により、地上近くの弱風化や風通しが悪化するため、都市部の熱の拡散や換気力を低下させる可能性がある。また、高密度化した都市では、天空率が小さく、夜間の放射冷却が阻害されるために、熱が溜まりやすくなる。	・緑地の保全、風の通り道の確保等による、水と緑のネットワークの形成。 ・コンパクトで環境負荷の少ない都市の構築。

参考：ヒートアイランド現象緩和に向けた都市づくりガイドライン（2013（平成 25）年　国土交通省）



出典：ヒートアイランド対策ガイドライン改訂版, 2013（平成 25）年　環境省

図Ⅷ－１　ヒートアイランドの原因

１－２．衛星から観た地表面温度の状況

衛星が観測した文京区の夏期昼間の地表面温度分布（LANDSAT-8 ; 2023 年 7 月 11 日 10 : 15 観測（東京気象台同日 11 : 00 気温 32.0℃））を図Ⅷ－２に示す。もっとも地表面温度の高い場所（大塚４丁目付近）で 34.6℃、もっとも低い場所（小石川後楽園付近）で 27.1℃であり、7.5℃の地表面温度差があった。

特に、地表面温度が高い地域（32℃～34℃）は、以下の通りとなる。

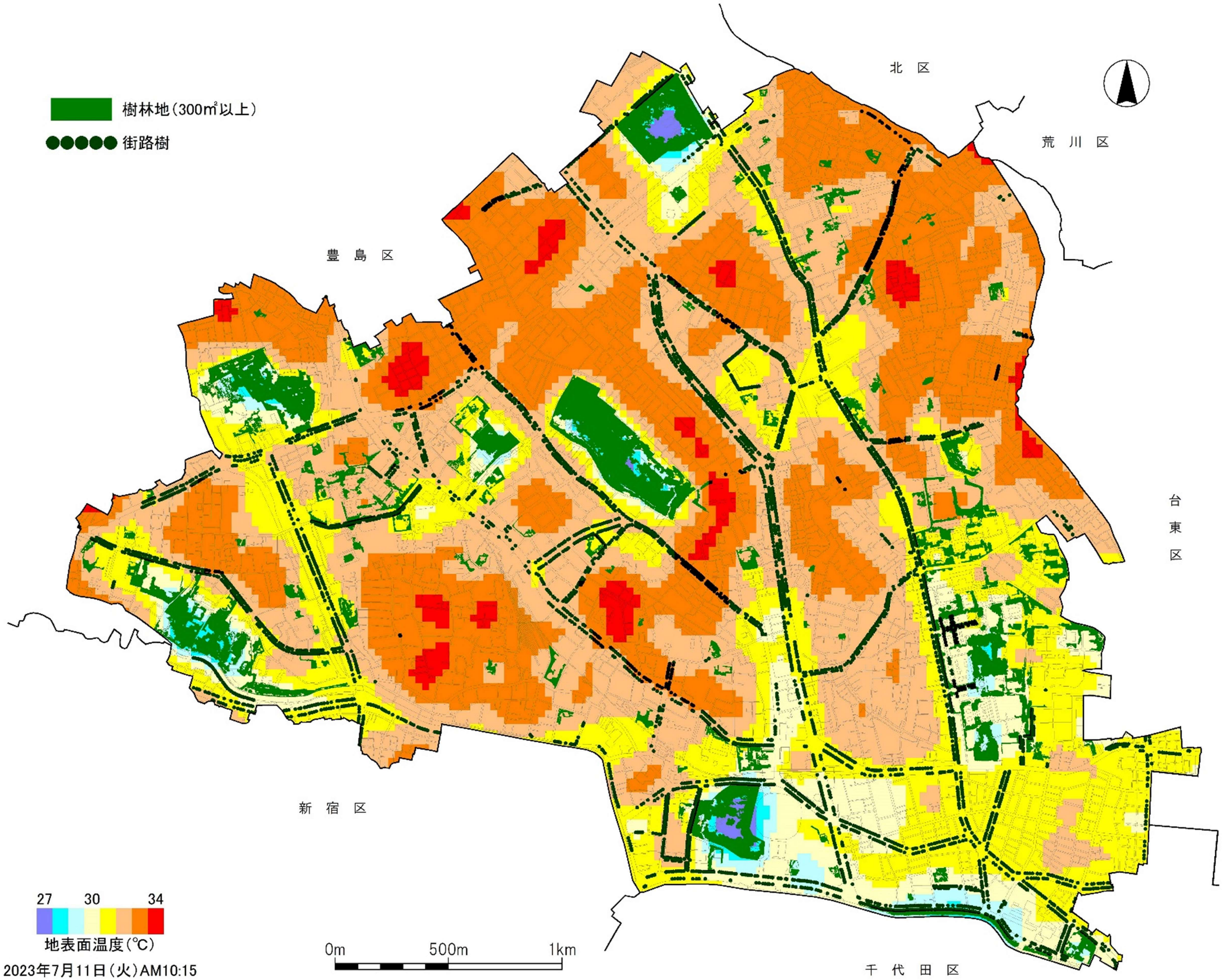
○ 文京区内の地表面温度が高い地域

・本駒込１・２・４・５丁目	・千駄木１～５丁目	・根津２丁目
・千石１～４丁目	・白山２・４丁目	・小石川４丁目
・大塚４・６丁目	・目白台３丁目	・小日向１～３丁目

一方、河川域以外で地表面温度が低い地域（30℃未満）は、以下の通りである。

○ 文京区内の地表面温度が低い地域

・六義園
・小石川後楽園
・小石川植物園
・豊島岡墓地～護国寺
・占春園～筑波大学東京キャンパス
・江戸川公園～椿山荘～肥後細川庭園～関口芭蕉庵
・東京大学本郷キャンパス
・元町公園～順天堂大学、東京医科歯科大学



図Ⅷ－２　地表面温度分布図

１－３．文京区における地表面温度の緩和

地表面温度分布をみてもわかるように、区内全体でみて夏期の昼間において地表面温度に7℃以上の温度差が発生していることから、特に台地上部においてヒートアイランド現象が発生しているものと推測される。

地表面温度がもっとも低い地域は、「六義園」「小石川後楽園」といった池や河川などの水面を有した広範に樹木に覆われた緑地であった。これらは、「樹木や水面の蒸発散作用による温度低減効果が相互に発揮されている場所」といってよい。

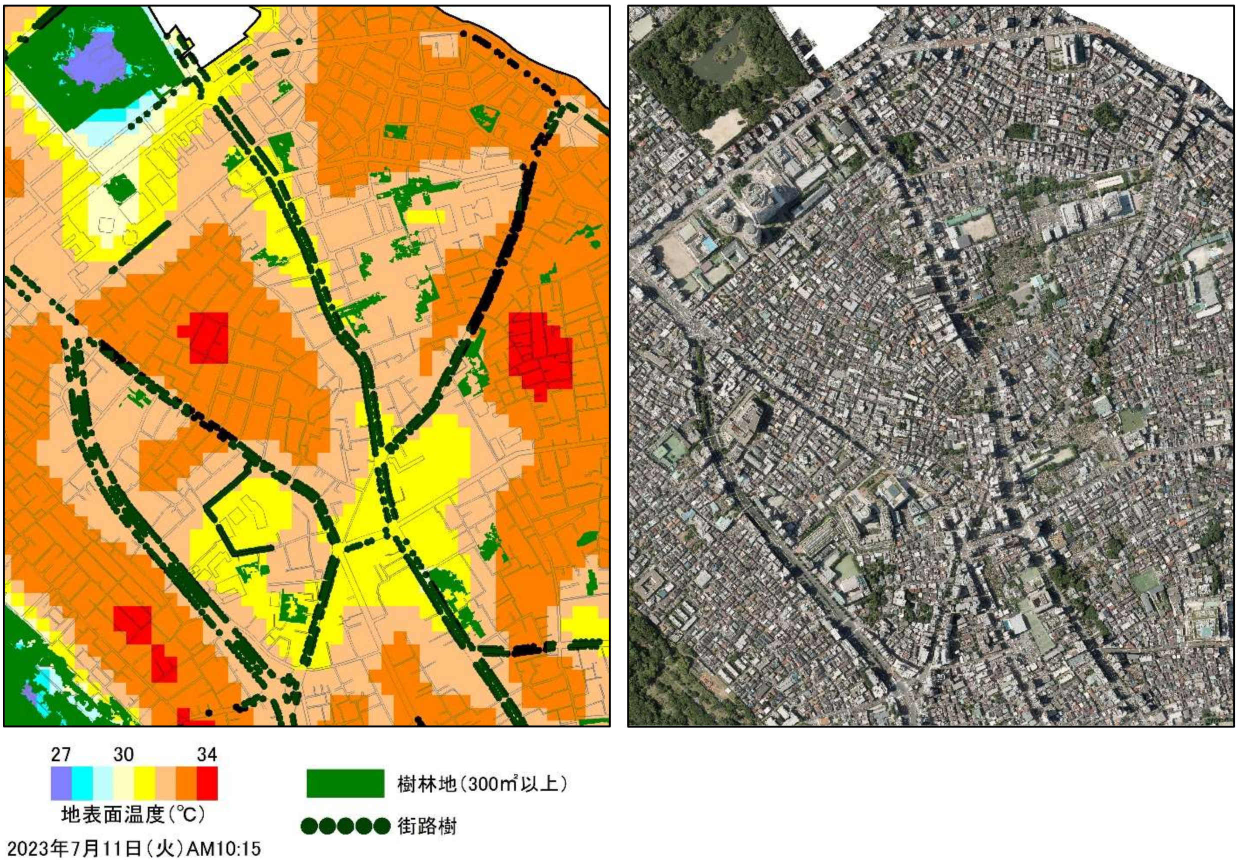
また、「六義園」「小石川後楽園」ほどではないが、「豊島岡墓地～護国寺」「小石川植物園」「占春園～筑波大学東京キャンパス」「江戸川公園～椿山荘～肥後細川庭園～関口芭蕉庵」「東京大学本郷キャンパス」においても地表面温度が低くなっている。これらは、いずれも1ha 以上の連坦した樹林地を形成している地域であり、樹木の蒸発散効果や緑陰によりヒートアイランドが緩和されている場所といえる。

一方で、高層・低層の建築物などにより、風の流れが阻害されやすい台地上部では、外濠周辺の低地部と比較して地表面温度が高いが、「街路樹を有する国道・都道」などの道路が風の通り道となって、高温域が分断されている様子がみられる。（図Ⅷ－３）

ヒートアイランドを起こした市街地に、大規模な緑地により温度が低減された空気を運ぶ風の道を、効果的に取り込んでいくことがヒートアイランド対策の一つとなる。

特に国道 17 号線白山上交差点付近の、白山神社、長元寺、諏訪山吉祥寺などの広いオープンスペースと樹林地を有する寺社と、街路樹を伴う本郷通り、国道 17 号線、白山通りが、六義園の低温域とつながり、市街地の高温域の広がりを分断し低減していることがよくわかる。これらの温度緩和の要素がなかった場合、市街地の高温域は大きく広がり、中心付近の地表面温度がさらに高温になっていたかもしれない。同様の状況は、お茶の水女子大学付近でもみられる。

ヒートアイランド対策として緑の政策を考えた場合、ヒートアイランドが発生している台地上部において、「六義園」のような水場を有する公園の配置や再整備をおこない、これらを冷熱源として、街路樹や施設の緑化の推進などによりネットワークさせ、市街地の高温化を防いでいくことが重要な施策となるといえる。



図Ⅷ－３　道路とオープンスペースによる市街地高温域の分断（白山上交差点付近）

２．生物多様性の状況

２－１．文京区の動植物

２－１－１．動植物の状況

平成 29 年度に実施した、公園、公共施設、神社、民間施設、道路など区内 8 箇所の現地調査により、動植物が 357 科 1,137 種確認された。

この中で、樹林地を含む「根津神社」や「関口台公園」、水辺（池、水路）を含む「本郷給水所公苑」では、最も多くの動物・植物が確認された。

また、人工的な施設であっても、「順天堂大学医学部附属順天堂医院」は、屋上庭園や施設の外構にさまざまな植物が植栽されており、神田川に近いこともあり、緑地としての面積は小さいものの 154 科 336 種の動植物が確認された。市街地に位置する「文京シビックセンター」においても、小さな昆虫や芝生に生えてきた植物を中心に 166 種の動物・植物が確認された。

区内 8 箇所の現地調査における動植物の確認種数を表Ⅷ－２に示す。

	本郷給水所公苑	千石緑地	須藤公園	関口台公園	文京シビックセンター	根津神社	順天堂大学医学部附属順天堂医院	播磨坂さくら並木	合計
植物	70科209種	51科83種	－	75科206種	41科97種	75科194種	75科210種	66科161種	122科505種
昆虫類	80科185種	66科124種	－	106科209種	43科58種	93科188種	56科98種	43科67種	158科464種
クモ類	14科29種	14科33種	－	17科36種	5科6種	23科62種	8科13種	7科7種	20科98種
陸産貝類	0科0種	2科2種	－	2科3種	0科0種	4科4種	1科1種	1科1種	5科7種
鳥類	12科12種	8科9種	－	11科12種	5科5種	18科22種	13科13種	7科7種	23科29種
哺乳類	1科1種	3科3種	－	3科3種	0科0種	2科2種	1科1種	0科0種	4科4種
爬虫類・両生類	3科3種	1科1種	5科5種	3科3種	0科0種	4科4種	0科0種	1科1種	10科11種
魚類	3科4種	－	2科4種	－	－	－	－	－	3科6種
底生生物*	10科10種	－	7科7種	－	－	－	－	－	12科13種
合計	193科453種	145科255種	14科16種	217科472種	94科166種	219科476種	154科336種	125科244種	357科1137種

※須藤公園は「爬虫類・両生類」「魚類」「底生生物」のみ調査し、「魚類」「底生生物」の調査は、本郷給水所公苑と須藤公園のみ実施

表Ⅷ－２　平成 29 年度の現地調査で確認された動物・植物の種数

参考資料）「文京区生物多様性地域戦略（平成 31 年 3 月）」

２－１－２．重要な種の状況

本区の現地調査における動植物の確認種のうち、東京都のレッドデータブックや環境省レッドリスト等に選定されている、絶滅の恐れがあるとされる重要な種について、調査地全体で 23 種が確認された。（表Ⅷ－３）

これらには、都市の環境に上手く適応し、人間と共存しながら生きている種や、調査地を一時的に通過した種、人が人為的に持ち込んだと思われる種などもあった。

表Ⅷ－３　重要な種の確認状況 （※平成 30 年度時点での資料による）

種類	種名	重要種選定基準			
		①	②	③	④
植物	ウマノスズクサ				○
	キンラン			○	○
	アマドコロ				○
昆虫類	リンゴクロカスミカメ			○	
	センノカミキリ				○
	オオミズアオ				○
クモ類	キシノウエトタテグモ			○	○
	ヨコフカニグモ				○
鳥類	コサギ				○
	ヒメアマツバメ				○
	チョウゲンボウ				○
	ハヤブサ		○	○	○
哺乳類	アズマモグラ				○
爬虫類・両生類	ヒキガエル科の一種				○
	クサガメ				○
	ニホンスッポン			○	○
	ニホンヤモリ				○
	ニホントカゲ				○
	ニホンカナヘビ				○
	アオダイショウ				○
	ヒバカリ				○
魚類	メダカ属の一種			○	○
底生生物	スジエビ				○
合計種数		0種	1種	6種	22種

【重要種選定基準】
①「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）及び「文化財保護条例」に基づき指定された天然記念物
②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律75号）
③「環境省レッドリスト2017」（環境省、2017）
④「レッドデータブック東京2013（本土部）」（平成25年3月東京都）の区部に該当する掲載種

２－１－３．外来生物の状況

外来生物法において、「特定外来生物」（海外起源の外来種であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの）に指定された生物として、２種（オオキンケイギク、ウシガエル）が確認された。

また、特定外来生物には指定されていないものの、ミシシッピアカミミガメやアメリカザリガニなど、普段よく見かける動物や植物の中に、多くの外来生物が含まれていることが確認された。（表Ⅷ－４）

表Ⅷ－４　外来生物の確認状況

	No.	種名	調査地点							
			本郷給水所公苑	千石緑地	須藤公園	関口台公園	文京シビックセンター	根津神社	順天堂大学医学部附属順天堂医院	播磨坂さくら並木
			春	春	春	春	春	春	春	春
特定外来生物	1	オオキンケイギク	●							
	2	ウシガエル	●							
	計	2種	2種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種
その他の主な外来生物			アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ、コイ（飼育品種）、キンギョなど							

２－１－４．特徴的な生物

（１）水辺や様々な環境に生息する飛翔性の昆虫類

本郷給水所公苑の池や水路は、人工的に作られたごく限られた面積の水辺であり、他の池や川ともつながっていない。しかし、ゲンゴロウやトンボの仲間など飛ぶ力の強い昆虫たちが水辺を訪れ、水中に卵を産み、そして幼虫から成虫へと成長するなど、生物の「営み」を見ることができる。

チョウの仲間は、好む場所や食べるものが決まっている。調査でもさまざまなチョウが確認されており、それだけ多様な環境が文京区にも残されていることを示している。

（２）旧来からの環境に生息するタヌキ

根津神社や千石緑地のように、古くからの樹林地が残る場所では、「タヌキ」の生息も確認された。

（３）様々な形で持ち込まれる国内由来の外来種

調査で確認された「メダカ属の一種」や「ヒキガエル科の一種」などは、ペットの放逐や工事の土砂に紛れるなどして、人為的に運ばれてきたものが定着したものである。

「メダカ属の一種」はヒメダカ（ペット）とメダカの交雑が、「ヒキガエル科の一種」は、アズマヒキガエルとニホンヒキガエル（関西から人為的に移入）の交雑が考えられた。

また、本来は里山で可憐な花を咲かせる「キンラン」は、土地を造成する際、ほかの土地から運ばれてきた土砂に種子が紛れており、造成後に芽をだし、そのまま定着したものと考えられる。

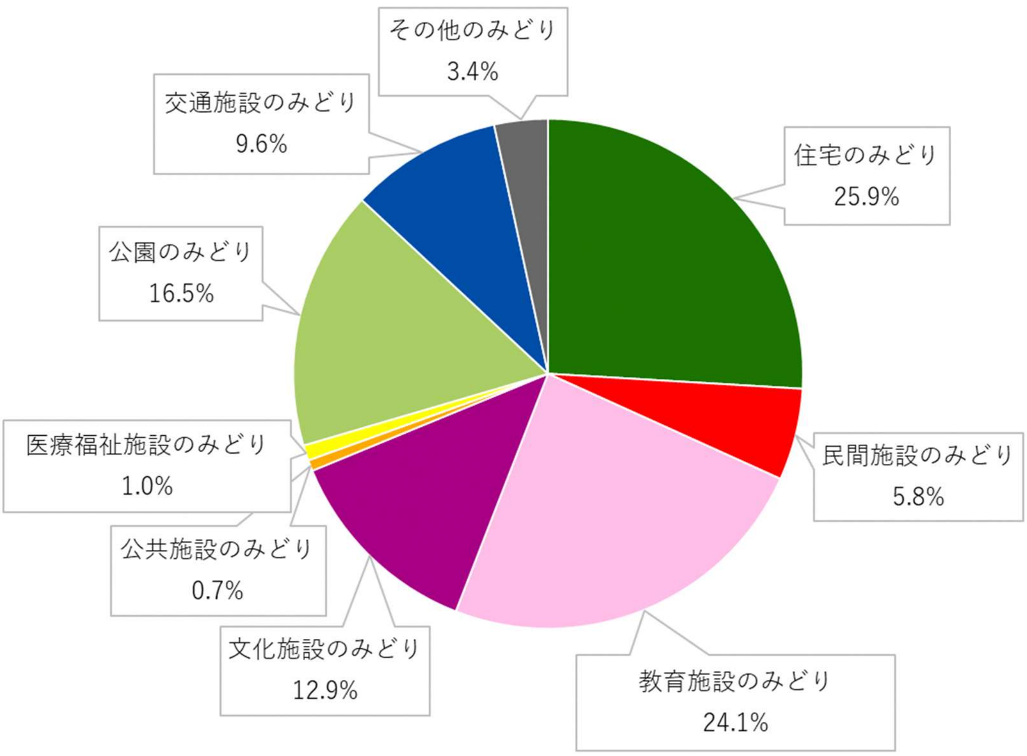
２－２．ビオトープ

「ビオトープ」とは、動植物の生息場所を指す。「ビオトープ」には、気候や水・大気・土壌などの違いにより多種多様なタイプが存在し、タイプによって生息する動植物の種類や構成も違うものになる。

一般的には、都市や農村、山林等も含むあらゆる場所において生き物の棲み着くことのできる場所を示すことから、区内においても大規模な公園や庭園などに限らず、街路樹や施設の外構、住宅のみどりなどもビオトープといえる。

文京区生物多様性地域戦略では、区内の「ビオトープ」を土地利用に着目した９タイプに分類している。区内のビオトープタイプ別の構成比率を見てみると、「住宅のみどり」が 25.9%と最も多いのが文京区の特徴である。次いで多いのが「教育施設のみどり」で区内のみどりの 24.1%を占めている。（図Ⅷ－４）

また、区内には六義園や小石川後楽園といった大きな都立公園や多数の社寺があるため、「公園のみどり」や「文化施設のみどり」が多いのも文京区の特徴である。



※図中の構成比率は、四捨五入により合計が 100%になりません。

図Ⅷ－４　ビオトープタイプごとの構成比率（樹林地＋草地・低木等）

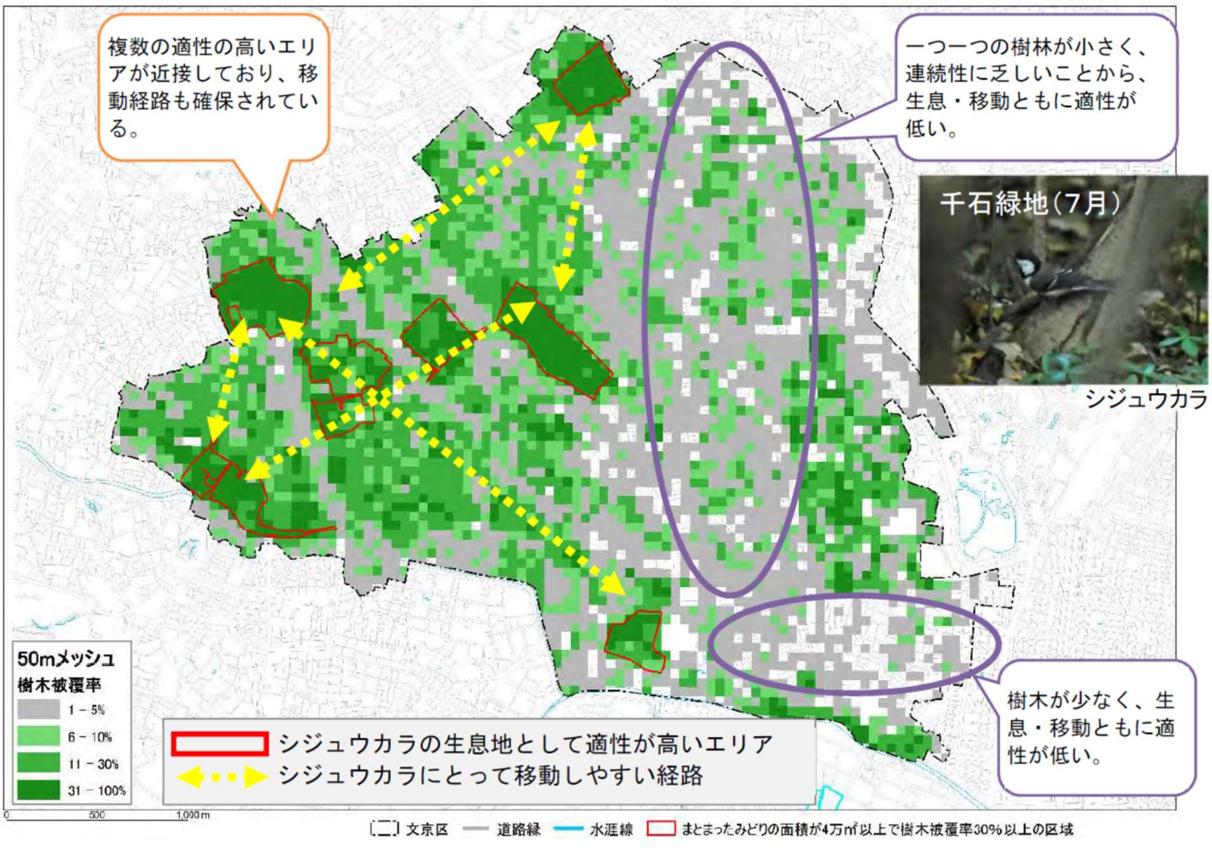
参考資料）「文京区生物多様性地域戦略（平成 31 年３月）」

２－３．エコロジカルネットワーク

文京区生物多様性地域戦略では、いくつかの生物種についてのエコロジカルネットワークの分析がされている。

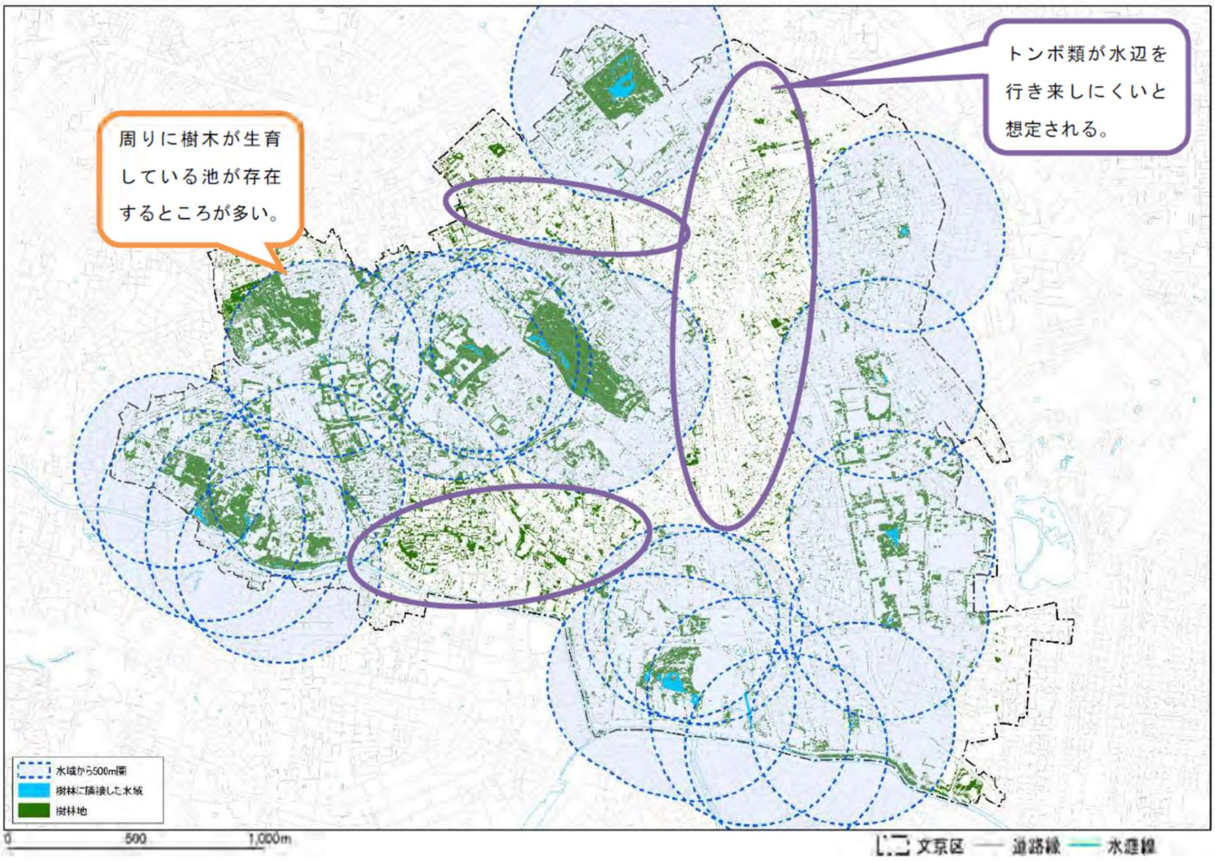
「シジュウカラ」の生息地と移動経路を想定したエコロジカルネットワーク分析では、シジュウカラの生息地となる「まとまった樹林地」と、安全な移動経路となる連続性のある樹林地を解析した結果、区西部においては肥後細川庭園、豊島岡墓地、六義園、小石川植物園、小石川後楽園によるネットワークが形成されているが、本駒込～向丘～西片～本郷～湯島にかけてシジュウカラの生息及び移動に資する連続性のある樹木や樹林のネットワーク要素が不足している。（図Ⅷ－５）。

「トンボ類」の生息域と移動経路を想定したエコロジカルネットワーク分析では、トンボ類の生息域となる水辺と、水辺からの距離の連続性を解析した結果、六義園、小石川植物園～護国寺～肥後細川庭園、小石川後楽園～東大キャンパスといった連続性のある水辺ネットワークとの間に、トンボ類の移動に資する水辺のネットワークが不足している（図Ⅷ－６）。



図Ⅷ－５　「シジュウカラ」の生息地・移動経路の分析（樹林地）

参考資料）「文京区生物多様性地域戦略（平成 31 年３月）」



図Ⅷ－６　「トンボ類」の生息地・移動経路の分析（水辺）

参考資料）「文京区生物多様性地域戦略（平成 31 年 3 月）」

Ⅸ　緑の地域カルテ

Ⅸ　緑の地域カルテ

１．区域別の総合評価

今回の調査結果から区域別に集計した各種データを用いて緑の特徴を区域別に解析し、課題の抽出を行った。

緑の評価として、緑被率、緑被変化率、公園充足率、緑視率、樹木密度、緑化余地率の6種類の指標を基準にしたがって5段階に点数化し、評価図としてレーダーグラフを作成した。点数化の基準を表Ⅸ－１に示す。

また、区全体における基礎データとその評価図を表Ⅸ－２、図Ⅸ－１に、区域別の評価を表Ⅸ－３にそれぞれ示す。

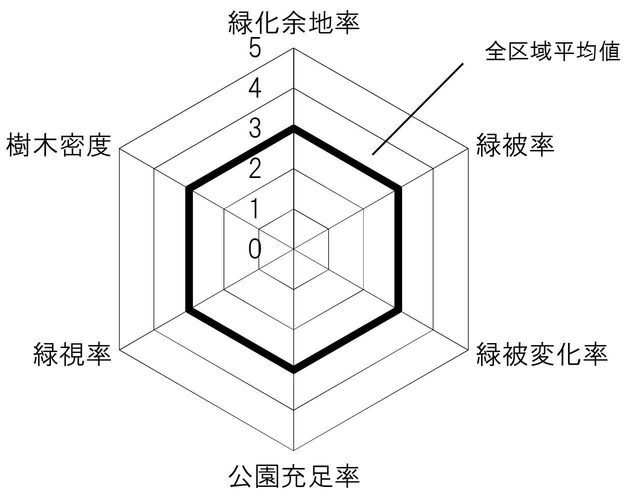
表Ⅸ－１　指標の５段階評価

点数	緑被率	緑被変化率	樹木密度	公園充足率	緑化余地率	緑視率
	（%）	（%）	（本/ha）	（%）	（%）	（%）
5	24.0～	10.0～	12.0～	90.0～	1.00～	18.0～
4	21.0～23.9	6.0～9.9	8.0～11.9	80.0～89.9	0.60～0.99	16.0～17.9
3	17.0～20.9	2.0～5.9	4.0～7.9	70.0～79.9	0.30～0.59	13.0～15.9
2	13.0～16.9	0.0～1.9	2.0～3.9	60.0～69.9	0.20～0.29	11.0～12.9
1	～12.9	～0.0	～1.9	～59.9	～0.19	～10.9
区全体	19.1	4.1	6.4	77.3	0.44	14.3

表Ⅸ－２　文京区の基礎データ

文京区基礎データ	
面積	1,129.0 ha
人口	232,177 人
人口密度	205.6 人/ha
緑被率	19.1 %
樹木被覆地率	17.9 %
草地率	1.2 %
裸地率	1.0 %
樹木本数	7,245 本
保護樹木本数	690 本
樹木密度	6.4 本/ha
公園充足率	77.3 %
緑視率	14.3 %

注 1：人口は、令和６年１月１日現在。
　2：保護樹木は、令和５年８月１日現在。



図Ⅸ－１　文京区の緑の評価

表Ⅸ－３　区域別緑の評価

区域番号	区域名称	面積（ha）	人口（人）	樹木数（本）	樹木密度（本/ha）	評価	緑被率（%）	評価	緑被変化率（%）	評価	公園充足率（%）	評価	緑化余地率（%）	評価	緑視率（%）	評価
1	後楽	36.3	2,106	62	1.7	1	15.0	2	6.9	4	52.4	1	0.23	2	16.3	4
2	春日	33.6	5,789	184	5.5	3	19.6	3	1.8	2	79.0	3	0.59	3	13.2	3
3	小石川南	44.5	15,148	84	1.9	1	11.5	1	21.4	5	94.4	5	0.23	2	8.2	1
4	小石川北	41.2	10,083	175	4.2	3	14.9	2	-3.6	1	82.6	4	0.88	4	16.9	4
5	白山南	34.1	9,519	99	2.9	2	12.0	1	1.4	2	69.6	2	0.19	1	12.7	2
6	白山北	48.1	9,370	102	2.1	2	14.3	2	-1.6	1	67.8	2	0.29	2	18.1	5
7	千石	68.8	19,597	106	1.5	1	10.5	1	-6.3	1	80.1	4	0.28	2	14.5	3
8	水道	19.3	6,730	7	0.4	1	9.4	1	3.6	3	45.0	1	0.20	2	13.7	3
9	小日向	50.2	8,496	91	1.8	1	17.0	3	8.4	4	85.9	4	0.47	3	16.8	4
10	大塚南	55.1	8,034	695	12.6	5	26.1	5	-4.1	1	86.0	4	1.59	5	15.9	3
11	大塚北	50.7	11,869	238	4.7	3	17.0	3	1.6	2	80.4	4	0.28	2	12.5	2
12	関口	43.9	7,843	521	11.9	4	25.6	5	0.1	2	96.3	5	0.16	1	15.8	3
13	目白台	48.5	7,565	516	10.6	4	26.5	5	-0.7	1	94.3	5	1.22	5	19.4	5
14	音羽	19.3	6,055	34	1.8	1	11.3	1	5.3	3	65.0	2	0.12	1	9.2	1
15	本郷南	55.6	11,717	59	1.1	1	11.2	1	13.2	5	66.6	2	0.23	2	14.2	3
16	本郷北	37.9	10,216	43	1.1	1	10.0	1	15.7	5	45.8	1	0.12	1	11.7	2
17	湯島	55.3	11,133	228	4.1	3	13.2	2	7.4	4	77.8	3	0.16	1	12.3	2
18	西片	27.9	5,687	58	2.1	2	15.1	2	0.3	2	91.1	5	0.22	2	18.8	5
19	向丘	35.4	7,055	184	5.2	3	15.9	2	15.4	5	72.6	3	0.16	1	11.8	2
20	弥生	27.2	2,032	346	12.7	5	29.3	5	11.0	5	29.5	1	0.64	4	18.4	5
21	根津	20.5	6,556	102	5.0	3	13.4	2	2.7	3	60.0	2	0.13	1	12.8	2
22	千駄木	72.7	21,317	174	2.4	2	11.9	1	12.6	5	91.7	5	0.23	2	7.9	1
23	本駒込東	53.5	13,658	267	5.0	3	13.0	2	5.6	3	94.0	5	0.29	2	13.7	3
24	本駒込西	66.9	14,195	234	3.5	2	15.5	2	7.4	4	96.3	5	0.59	3	16.0	4
一般区域小計		1,046.5	231,770	4,609	4.4	—	15.8	—	3.7	—	77.3	—	0.42	—	14.3	—
25	東大本郷	42.8	407	742	17.3	5	36.2	5	11.9	5	—	—	0.28	2	—	—
26	六義園	8.8	—	430	48.9	5	88.4	5	2.0	3	—	—	0.92	5	—	—
27	後楽園	7.1	—	372	52.4	5	82.7	5	1.6	2	—	—	1.28	5	—	—
28	植物園	16.1	—	701	43.5	5	92.1	5	1.8	2	—	—	1.34	5	—	—
29	豊島岡墓地	8.0	—	391	48.9	5	87.5	5	-0.5	1	—	—	0.92	5	—	—
特別区域小計		82.8	407	2,636	31.8	—	61.5	—	4.5	—	—	—	0.70	—	—	—
区全体		1,129.0	232,177	7,245	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
区平均		—	—	—	6.4	3	19.1	3	4.1	3	77.3	3	0.44	3	14.3	3

２．区域別地域カルテ

一般区域の区域別に、「基礎データ」、「緑のタイプと現況」、「緑の分布」、「緑の評価・指標」、「緑の評価と課題」の５項目について現況、評価をまとめた区域別地域カルテを以下に記載する。なお、「基礎データ」における用途地域の凡例は以下のとおりとする。

○ 用途地域の凡例

１低・・・第１種低層住居専用地域
１高・・・第１種中高層住居専用地域
２高・・・第２種中高層住居専用地域
１住・・・第１種住居地域
２住・・・第２種住居地域
近　・・・近隣商業地域
商　・・・商業地域
準　・・・準工業地域

［１．後楽区域］

［基礎データ］　　　**小石川後楽園除く**

◎ 面積	36.3	ha
◎ 人口	2,106	人
◎ 用途地域	１住、２住、近、商、準	
◎ 樹木本数	62	本
◎ 樹木密度	1.7	本/ha
◎ 樹木密度	29	本/1,000人
◎ 保護樹木	11	本
◎ 緑被率	15.0	%
◎ 樹木被覆地率	14.2	%
◎ 緑視率	16.3	%
◎ 公園充足率	52.4	%

［緑のタイプと現況］

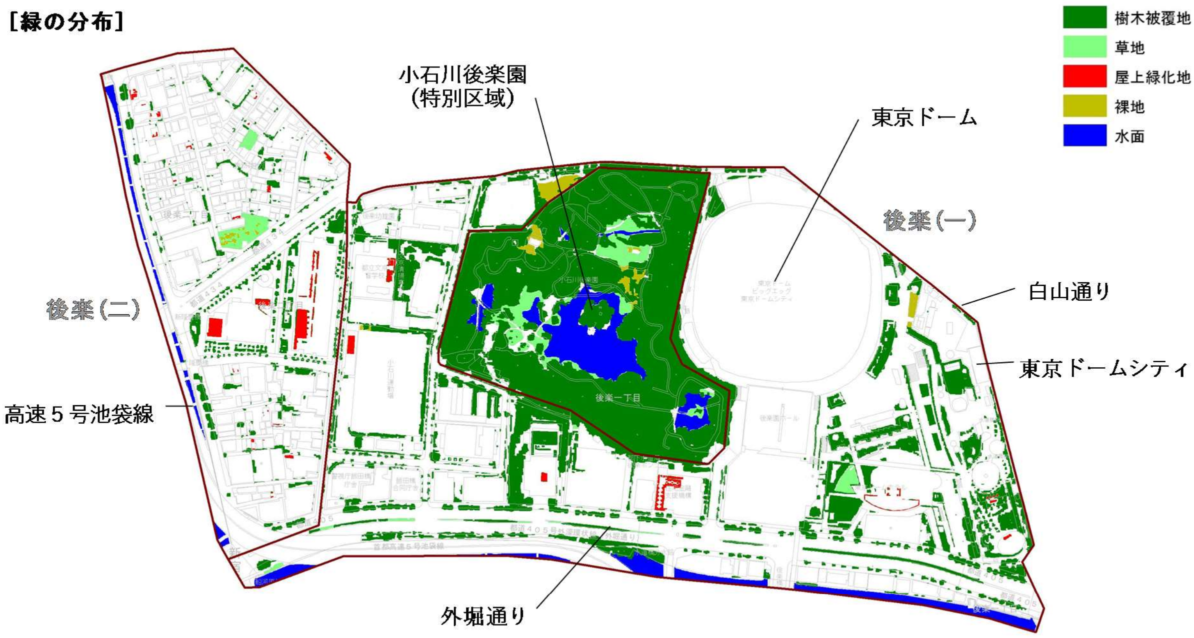
緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　民間施設（東京ドームシティ）
緑被地の規模　小規模
現況

区域内に集計対象外であるが特別区域の小石川後楽園があり、大きな緑の拠点となっている。

１丁目は大規模の商業ビル等が建ち緑化はほぼ終了している。

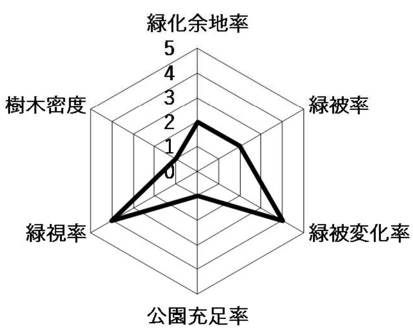
２丁目においては、ほとんどの地域が小規模な住宅・商業ビルが大部分を占めており緑化する余地はほとんどない。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

- 緑被率は区の平均より低いが、増加傾向にある。
- 道路沿道の街路樹や植樹帯により、緑視率は区平均より高いが減少傾向にある。
- 小石川後楽園や東京ドームシティなどがあるが、区立公園が１箇所しかないため、２丁目の公園充足率が低い。
- ２丁目の住宅、商業ビルにおいて、共同化等による開発が行われる場合、一般に開放される屋上緑化や公開空地が整備されるよう誘導していくことが求められる。
- 樹木密度が低いため、現状の大木の保護と同時に、若い樹木を大きく生長させる管理を行っていくことが望まれる。
- 緑化余地の少ない2丁目においては、ベランダ緑化や壁面緑化を推進することが望まれる。

[２．春日区域]

[基礎データ]

◎ 面積	33.6	ha
◎ 人口	5,789	人
◎ 用途地域	１高、１住、２住、近、商、準	
◎ 樹木本数	184	本
◎ 樹木密度	5.5	本/ha
◎ 樹木密度	32	本/1,000人
◎ 保護樹木	12	本
◎ 緑被率	19.6	%
◎ 樹木被覆地率	18.3	%
◎ 緑視率	13.2	%
◎ 公園充足率	79.0	%

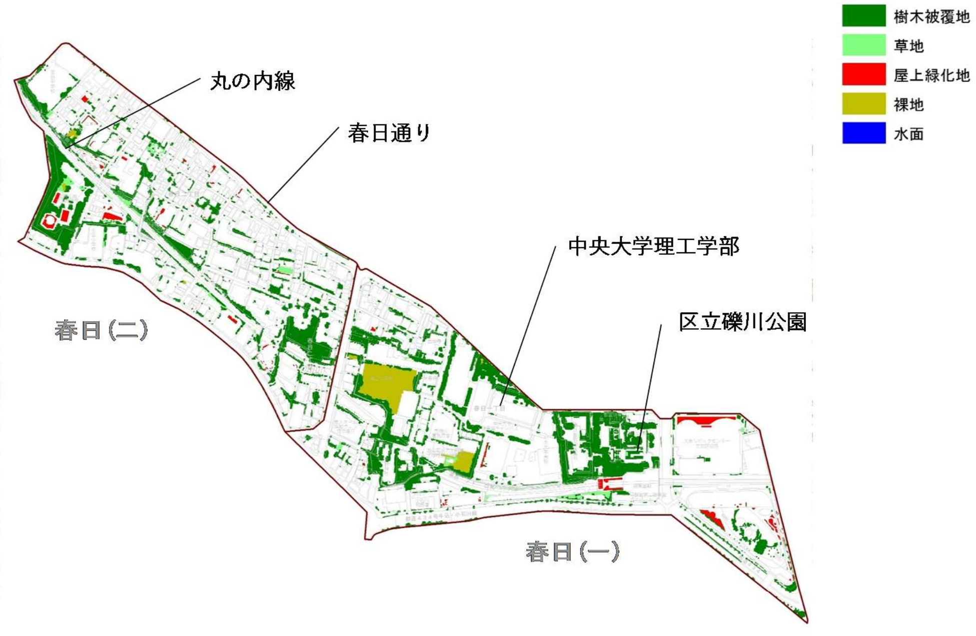
[緑のタイプと現況]

緑被地の所有　公有地型
主要な緑被地　公園（区立礫川公園）
緑被地の規模　中規模
現況

１丁目の緑被地は公共施設・公有地にあり緑の永続性は高い。

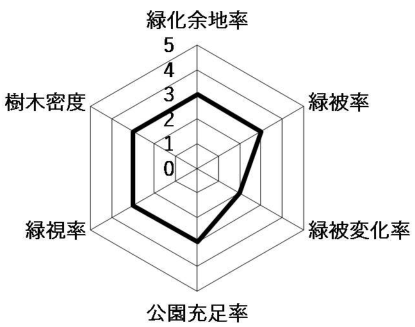
２丁目は低層住宅と中高層住宅の混在する地域であるが、まとまった樹林地や住宅街には樹木もあり緑被率は平均的である。

[緑の分布]



建ぺい率制限（％）・・・80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

・隣接する区域と比較して樹木密度が高く、区全体の中でも緑被率は安定的な区域である。

・緑化余地率は平均的だが、民有地の占める割合も高いため、既存の緑の保全・育成と同時に、屋上緑化や壁面・ベランダ活かした緑化手法の適用が求められる。

・２丁目で中高層化等による開発が行われる場合、一般に開放される屋上緑化や公開空地が整備されるよう誘導していくことが求められる。

［３．小石川南区域］

［基礎データ］

◎ 面積	44.5	ha
◎ 人口	15,148	人
◎ 用途地域	１高、１住、商、準	
◎ 樹木本数	84	本
◎ 樹木密度	1.9	本/ha
◎ 樹木密度	6	本/1,000人
◎ 保護樹木	33	本
◎ 緑被率	11.5	%
◎ 樹木被覆地率	11.3	%
◎ 緑視率	8.2	%
◎ 公園充足率	94.4	%

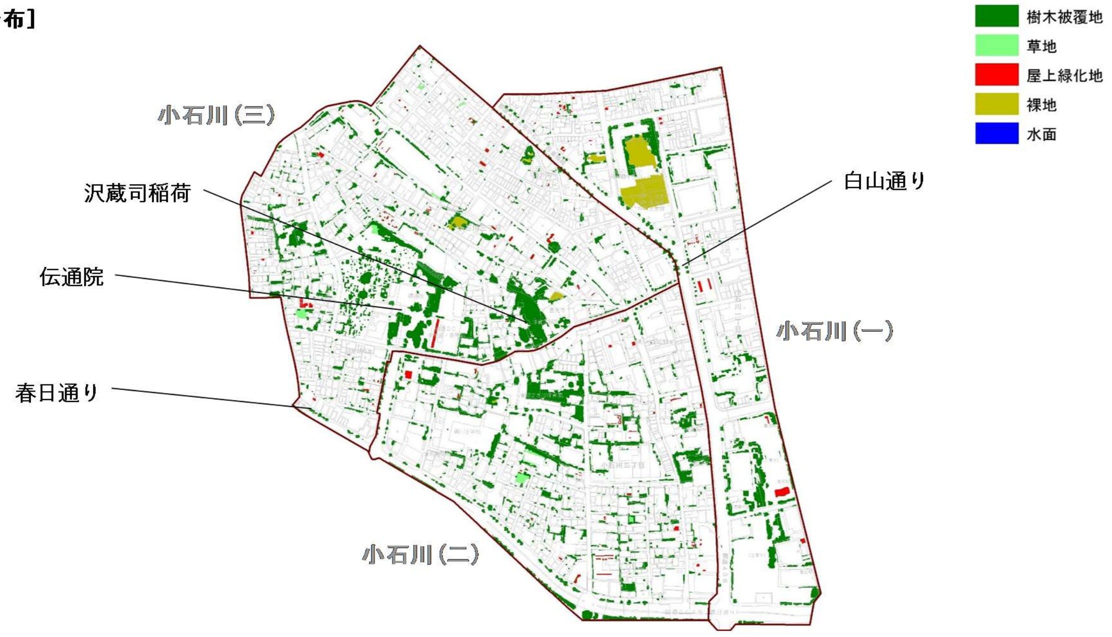
［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　社寺（伝通院、沢蔵司稲荷）
緑被地の規模　小規模
現況

１丁目は商業地域で緑被率が区の平均よりかなり低いが再開発等により前回調査と比較して緑化が進んだ。

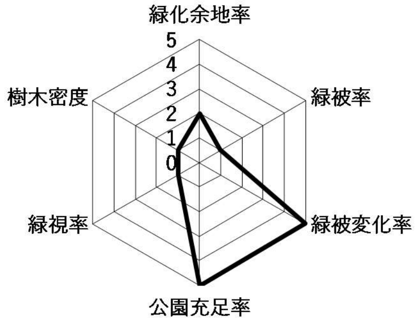
２・３丁目は住居系地域で３丁目の北部では小規模の工場が散在し、主な緑被地は社寺林である。

［緑の分布］



建ぺい率制限（％）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・**緑被率は区平均**より低いが、再開発による緑化が進められて**おり、緑被率は**大きく増加している。
・**区域内には区立**公園や児童遊園が点在しているため、公園充足率は高い。
・**白山通り、春日**通りなどでは、関係機関に街路樹や植樹帯の**整備や街路樹の**生長促す管理を行っていくことが望まれる。
・**緑化余地率が低く**、低層住宅の広がる区域では、生垣などの**接道部緑化等を**促進していく必要がある。

［4． 小石川北区域］

［基礎データ］

◎ 面積	41.2	ha
◎ 人口	10,083	人
◎ 用途地域	１高、２高、１住、２住、商、準	
◎ 樹木本数	175	本
◎ 樹木密度	4.2	本/ha
◎ 樹木密度	17	本/1,000人
◎ 保護樹木	17	本
◎ 緑被率	14.9	%
◎ 樹木被覆地率	14.2	%
◎ 緑視率	16.9	%
◎ 公園充足率	82.6	%

［緑のタイプと現況］

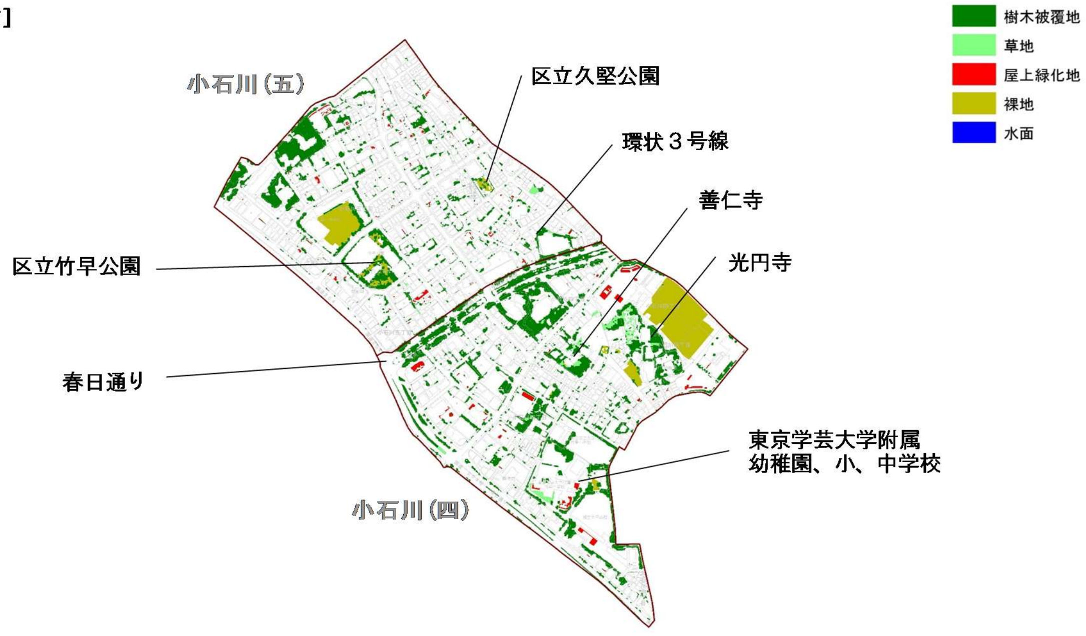
緑被地の所有　公有地型
主要な緑被地　道路（環状３号線）、個人宅
緑被地の規模　中規模
現況

４丁目は大きな事業所、マンション、学校、社寺が多くを占めており、緑被率は平均的な水準を保っている。

５丁目においては住宅の地域であり、緑被率は４丁目より低い数値であり減少傾向にある。

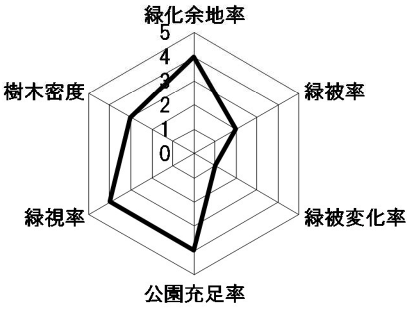
総合的に緑被率は平均よりも低いが、緑の担保性は高い。また、環状３号線のサクラの街路樹の存在はかなり大きい。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

- 緑被率は僅かに減少傾向にある。
- 街路樹により、緑視率は平均より高く、また増加している。
- 樹木密度は平均的であり既存の樹木の保存と同時に、大きく成長させるよう促していく必要がある。
- 樹林を有する社寺、学校も多く、街路樹も含めて、保全をしていくことが必要である。
- 緑の多い住宅地があり、区域の環境維持のため、これらの庭が今後も存在し続けられるよう保存する必要がある。
- 長年にわたり緑の安定した区域のため、既存の緑の維持やさらに区域の景観に資する緑化を促進することが望まれる。

［5．白山南区域］

［基礎データ］

◎ 面積	34.1	ha
◎ 人口	9,519	人
◎ 用途地域	1住、近、商、準	
◎ 樹木本数	99	本
◎ 樹木密度	2.9	本/ha
◎ 樹木密度	10	本/1,000人
◎ 保護樹木	7	本
◎ 緑被率	12.0	%
◎ 樹木被覆地率	11.2	%
◎ 緑視率	12.7	%
◎ 公園充足率	69.6	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型

主要な緑被地　学校（東洋大学京北中学校・高等学校）、民間施設（白山閣）

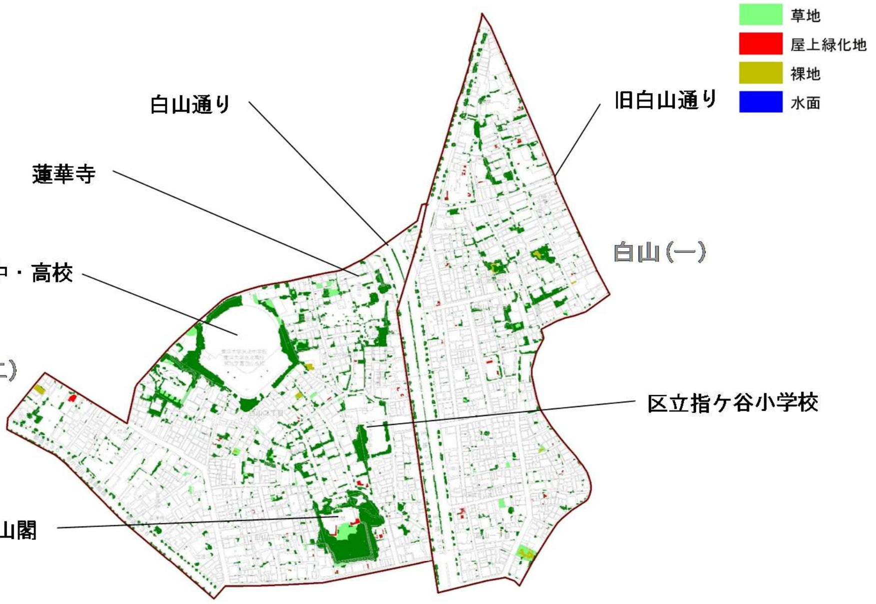
緑被地の規模　中規模

現況

大部分が低地であり、白山通り沿いは小・中規模の商業ビルが多く１丁目は小規模な商店、工場が林立しているために緑被率はかなり低い。

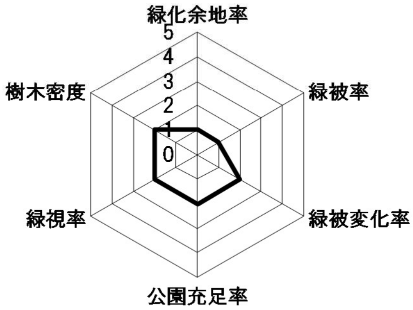
２丁目も小規模住宅、工場が多いが企業、公共用地の大きな緑地により緑被率は一定の水準を維持している。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

- 緑被率が区の平均を下回っているが、わずかに増加傾向がみられる。
- 緑視率は低い水準にある。
- １丁目及び千川通り沿いの住宅地や工業区域が開発される際には、緑地確保や屋上緑化を促していく必要がある。
- ２丁目においては、学校・民間施設の既存の緑の保全が重要であり、さらにその生長を促していく必要がある。

［６．白山北区域］

［基礎データ］　　小石川植物園除く

◎ 面積	48.1	ha
◎ 人口	9,370	人
◎ 用途地域	１低、１高、１住、近、商、準	
◎ 樹木本数	102	本
◎ 樹木密度	2.1	本/ha
◎ 樹木密度	11	本/1,000人
◎ 保護樹木	19	本
◎ 緑被率	14.3	%
◎ 樹木被覆地率	13.3	%
◎ 緑視率	18.1	%
◎ 公園充足率	67.8	%

［緑のタイプと現況］

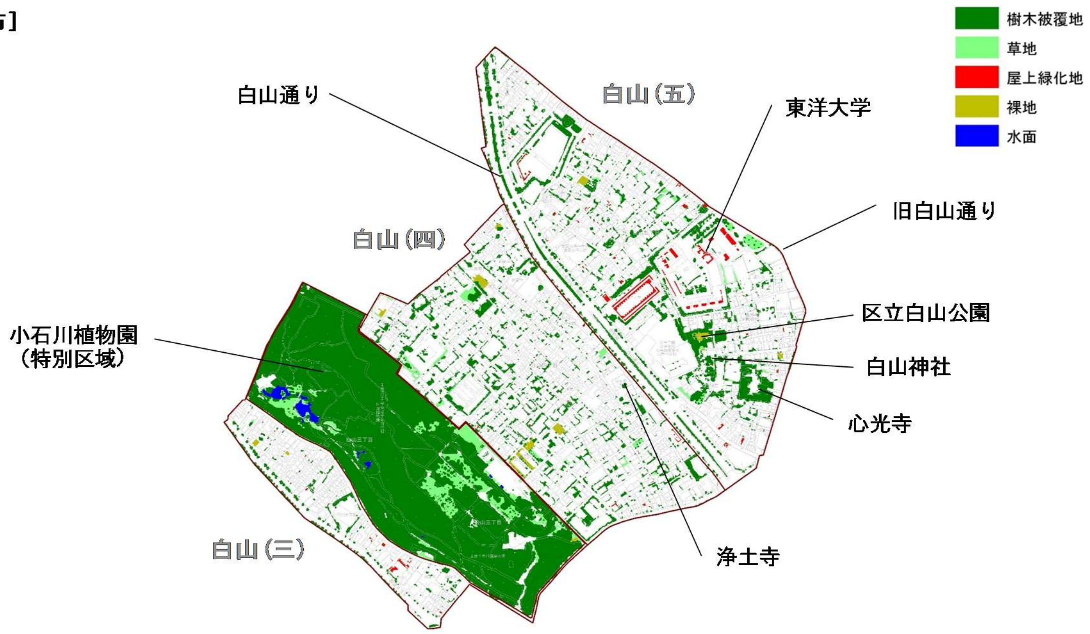
緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　社寺（白山神社）
緑被地の規模　小規模
現況

区域内に集計対象外であるが特別区域の小石川植物園があり、緑の拠点となっている。

４丁目は多くが住居系の地域であり、比較的緑の豊かな住宅が多い。

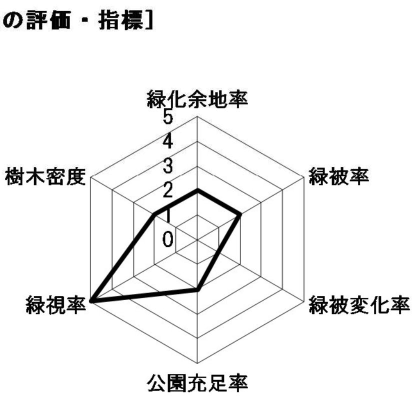
５丁目は学校関係の敷地が大きく保全性は高い。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

- 緑視率は区の平均を大きく上回っており、これは街路樹、緑豊かな住宅地が良い影響を与えている。
- 住居地に庭や接道部に緑が多く、これらを維持・保全していく必要がある。
- 千川通り沿いの小規模工場等の開発の際には、緑化を促していく必要がある。
- 小石川植物園があるが公園充足率は低く、何らかの形で区民のレクリエーションに資する場を検討する必要がある。
- 社寺の緑が多くこれらの保全・維持を促す必要がある。

［７．千石区域］

［基礎データ］

◎ 面積	68.8	ha
◎ 人口	19,597	人
◎ 用途地域	１低、１高、１住、２住、近、商、準	
◎ 樹木本数	106	本
◎ 樹木密度	1.5	本/ha
◎ 樹木密度	5	本/1,000人
◎ 保護樹木	16	本
◎ 緑被率	10.5	%
◎ 樹木被覆地率	9.7	%
◎ 緑視率	14.5	%
◎ 公園充足率	80.1	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　公園（区立文京宮下公園、区立千石緑地）
緑被地の規模　小規模
現況

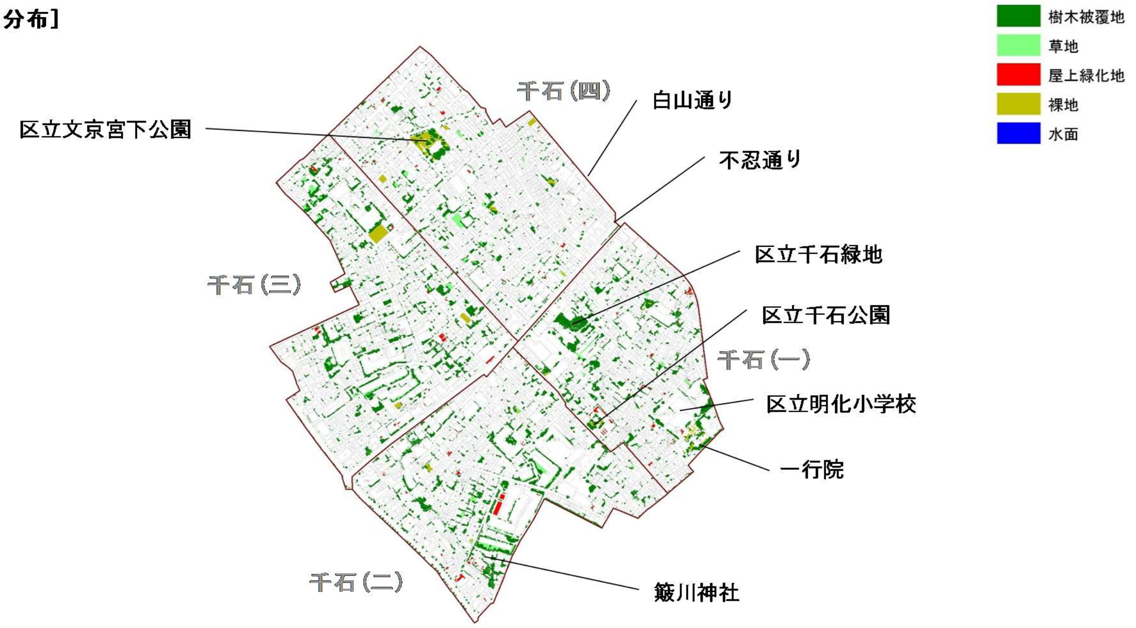
主な緑被地は区立公園、企業の寮、民間の優良な共同住宅である。

多くの部分が住居系の地域であり、４丁目は小規模住宅が密集しており、特に緑被率が低い。

３丁目は良好な住宅地であり、緑被率も区の平均をやや下回るが、公園緑地が多い１丁目と並ぶ数値である。

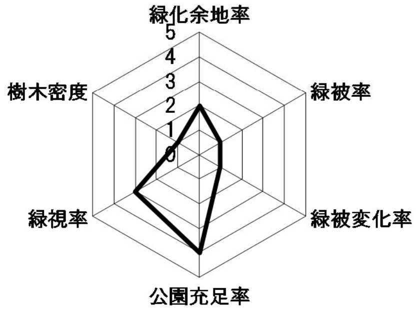
一部不忍通り沿いに小規模な店舗、住宅が見られるが緑被地はほとんどない。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率は低い水準となっており、前回よりも減少している。
・大部分を住宅地が占め、緑の保全性が低いことから、良好な住環境を維持するために緑化を促進する必要がある。
・宅地の建て替え時等には緑化を促していく事が求められる。
・緑視率は前回より上昇したが、依然３・４丁目で低い。
今後、ブロック塀の生垣等への改修等が望まれる。
・社寺の緑の保全・維持を促す必要がある。

［８．水道区域］

［基礎データ］

◎ 面積	19.3	ha
◎ 人口	6,730	人
◎ 用途地域	１住、２住、近、商、準	
◎ 樹木本数	7	本
◎ 樹木密度	0.4	本/ha
◎ 樹木密度	1	本/1,000人
◎ 保護樹木	0	本
◎ 緑被率	9.4	%
◎ 樹木被覆地率	8.6	%
◎ 緑視率	13.7	%
◎ 公園充足率	45.0	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型

主要な緑被地　民間施設（TOPPAN）

緑被地の規模　小規模

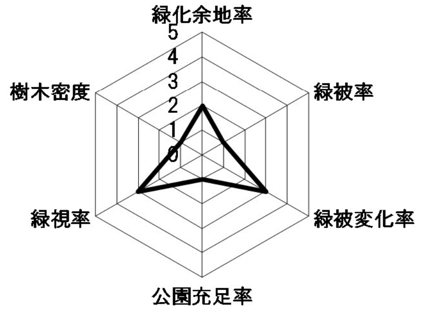
現況

工業系の地域であり、大小の印刷工場が占めている。
その他の地域は小規模な住宅、共同住宅が点在している。
民間施設に緑被地が増えたもののまだ大きな緑被地が少ない。

［緑の分布］

建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・この地域は緑被率が区の中でも低い地域であるが増加傾向にある。
・緑視率については、前回調査よりやや上昇した。
・１丁目の緑視率が区の平均を超えているのは、規模の大きな民間施設や街路樹によるものであり、今後も開発による緑地の確保を促す必要がある。
・再開発等を行う際には、緑化を促す必要がある。
・公園充足率が低い為、緑の多い民間施設のオープンスペースの活用が望まれる。

［９．小日向区域］

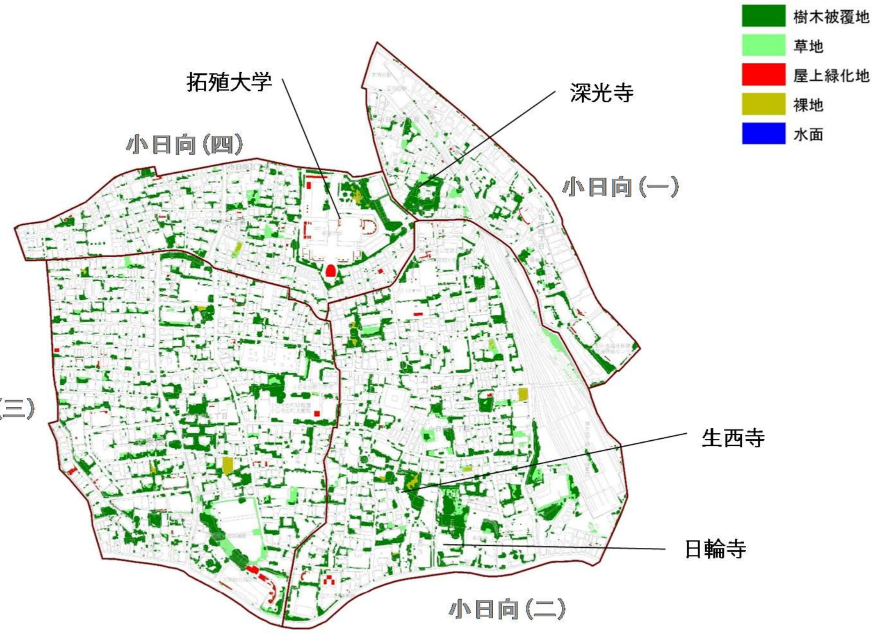
［基礎データ］

◎ 面積	50.2	ha
◎ 人口	8,496	人
◎ 用途地域	１低、１高、１住、２住、近、商、準	
◎ 樹木本数	91	本
◎ 樹木密度	1.8	本/ha
◎ 樹木密度	11	本/1,000人
◎ 保護樹木	13	本
◎ 緑被率	17.0	%
◎ 樹木被覆地率	15.0	%
◎ 緑視率	16.8	%
◎ 公園充足率	85.9	%

［緑のタイプと現況］

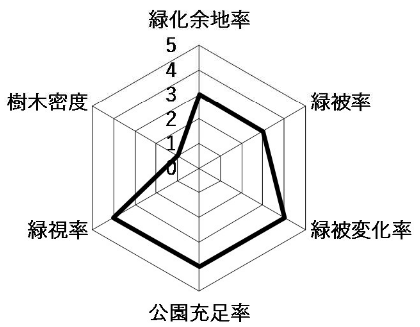
緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　社寺（日輪寺）、民間施設
緑被地の規模　中規模
現況
台地上の地域であり、住居系がほとんどを占めている。
比較的緑豊かな住宅地といえる。
主な緑被地は大学、社寺林、寮、住宅地の緑である。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率、緑視率ともに前回調査より増加した。
・２丁目は区の平均緑被率に近い数値であり、良好な状況にある。
・１、３丁目も区の平均緑被率をやや下回っている程度であるが、緑化の余地はあまりなく、大きな増加は期待できない。
・社寺林、大学の緑地、住宅の緑の保全・育成を重点に考えていく必要がある。

[１０．大塚南区域]

[基礎データ]

◎ 面積	55.1	ha
◎ 人口	8,034	人
◎ 用途地域	１高、１住、近、商、準	
◎ 樹木本数	695	本
◎ 樹木密度	12.6	本/ha
◎ 樹木密度	87	本/1,000人
◎ 保護樹木	18	本
◎ 緑被率	26.1	%
◎ 樹木被覆地率	24.3	%
◎ 緑視率	15.9	%
◎ 公園充足率	86.0	%

[緑のタイプと現況]

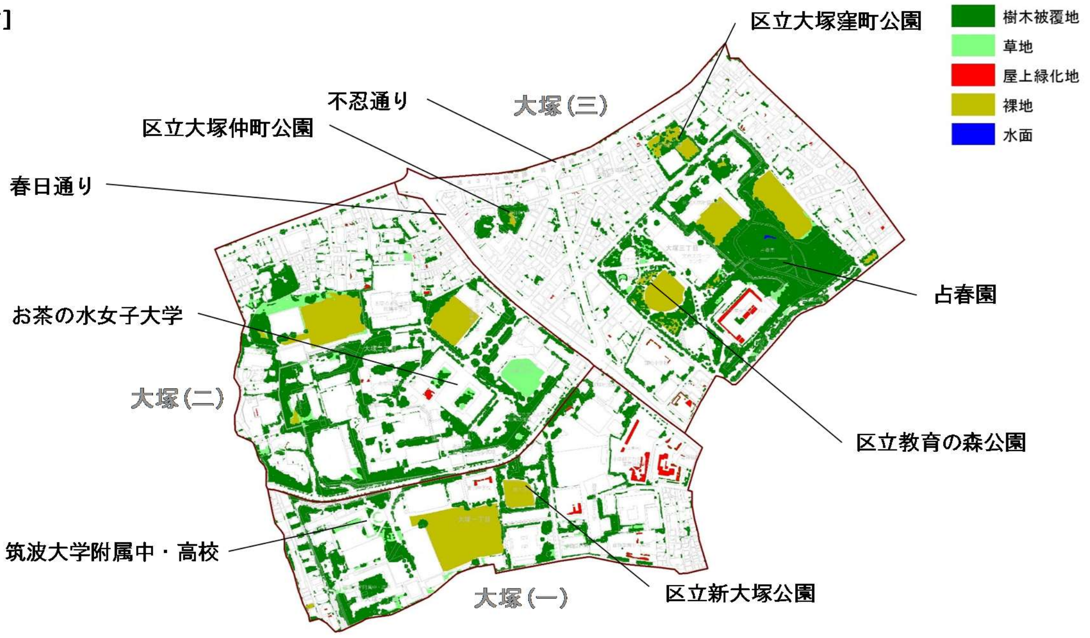
緑被地の所有　公有地型
主要な緑被地　公園（区立教育の森公園、占春園）
緑被地の規模　大規模
現況

台地上にある住居系地域であり、公共施設や学校が多い。

被覆地はお茶の水女子大学、区立公園、筑波大学付属の中高校、占春園等が大きなものである。

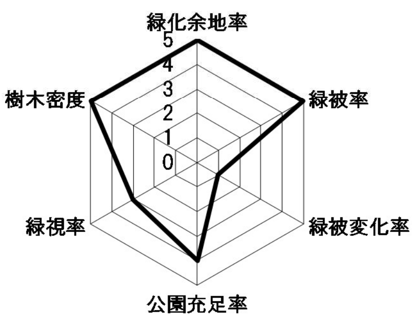
公園施設等の緑被地が中心なので、緑の担保性は高い。

[緑の分布]



建ぺい率制限（%）・・・80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- 全ての丁目で緑被率が区の平均より高い水準にあるが、減少傾向にある。
- 緑化余地率は高いがこれは学校の校庭等が大きいためであり、緑化手法を工夫して緑を増やしていくことが望まれる。
- 春日通り沿いの小商業地及び住宅地を再開発にあたっては、樹木などによる緑地の確保を促す必要がある。
- 高い緑被率に比べると緑視率は平均的で、生垣などの接道部緑化や、壁面緑化などの促進が望まれる。

[１１．大塚北区域]

[基礎データ]　　**豊島岡墓地を除く**

◎ 面積	50.7	ha
◎ 人口	11,869	人
◎ 用途地域	１高、１住、近、商、準	
◎ 樹木本数	238	本
◎ 樹木密度	4.7	本/ha
◎ 樹木密度	20	本/1,000人
◎ 保護樹木	32	本
◎ 緑被率	17.0	%
◎ 樹木被覆地率	16.2	%
◎ 緑視率	12.5	%
◎ 公園充足率	80.4	%

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有　民有地型

主要な緑被地　社寺（護国寺）、公園（区立大塚公園）

緑被地の規模　中規模

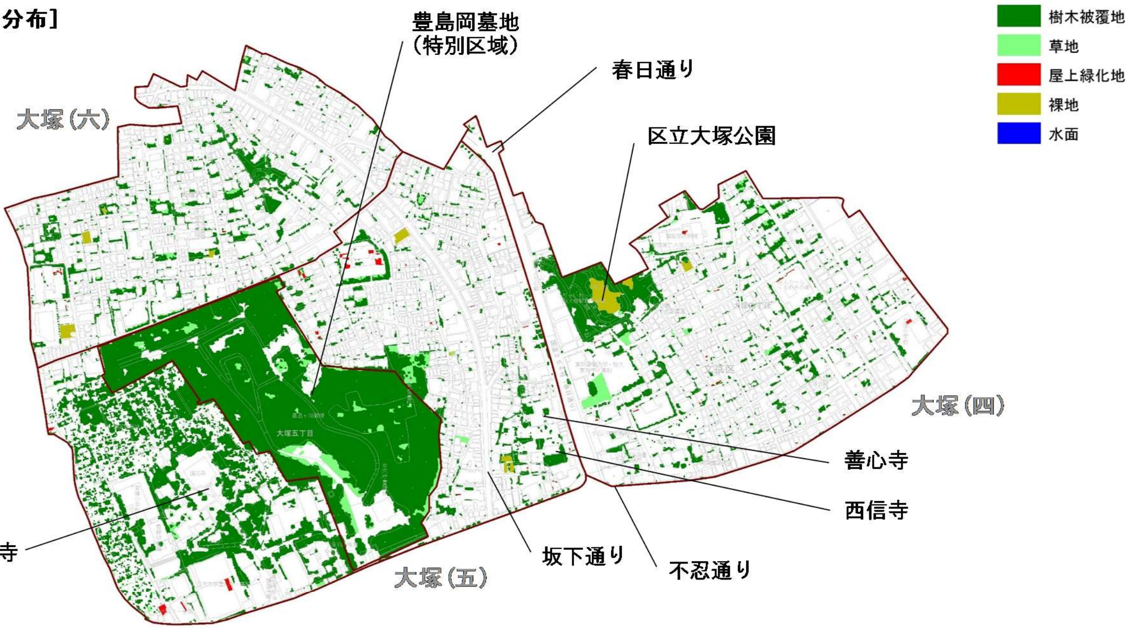
現況

住居系地域であり５丁目の一部と６丁目の一部が低地であり、多くは台地上に位置している。

５丁目と６丁目は小規模住宅が密集している状況である。

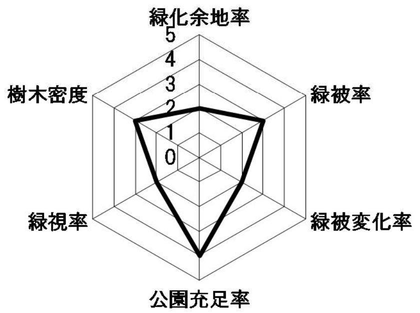
区立公園、護国寺、集計対象外であるが特別区域の豊島岡墓地が大きい緑被地となっている。

[緑の分布]



建ぺい率制限（%）・・・80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ５丁目の緑被率が区の平均を上回っている。
- 社寺の緑が占める割合が大きいため保全と成長を促す必要性がある。
- 緑化余地率が低いため、小規模住宅の密集地域で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

［１２．関口区域］

［基礎データ］

◎ 面積	43.9	ha
◎ 人口	7,843	人
◎ 用途地域	１低、２住、近、商、準	
◎ 樹木本数	521	本
◎ 樹木密度	11.9	本/ha
◎ 樹木密度	66	本/1,000人
◎ 保護樹木	80	本
◎ 緑被率	25.6	%
◎ 樹木被覆地率	24.8	%
◎ 緑視率	15.8	%
◎ 公園充足率	96.3	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型

主要な緑被地　民間施設（関口芭蕉庵、椿山荘）、個人宅

緑被地の規模　大規模

現況

１丁目は神田川沿いの低地、２丁目は崖線、３丁目は台地上にある。

１丁目は商業系の地域で、２､３丁目は住居系の地域である。

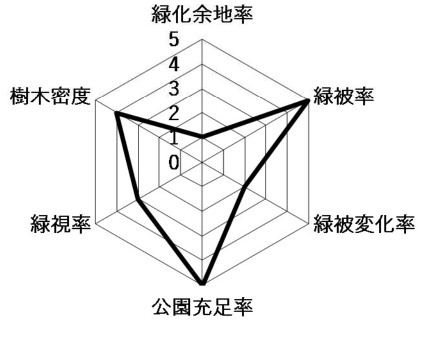
２､３丁目は椿山荘、江戸川公園等広大な樹林や広い土地を持つ緑豊かな住宅地で形成されている。

１丁目は小規模な店舗住宅により形成されており緑は少ない。

［緑の分布］

建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

- １丁目については緑被率及び緑視率が平均より低いものの２、３丁目は緑被率、緑視率ともに区の平均を上回っている。
- ２､３丁目の民有地緑については、その維持・保全を促す必要がある。
- １丁目は緑化余地率が低いため、再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

[１３．目白台区域]

[基礎データ]

◎ **面積**	48.5	**ha**
◎ **人口**	7,565	**人**
◎ **用途地域**	１低、１高、１住、２住、近、商	
◎ **樹木本数**	516	**本**
◎ **樹木密度**	10.6	**本/ha**
◎ **樹木密度**	68	**本/1,000人**
◎ **保護樹木**	117	**本**
◎ **緑被率**	26.5	**%**
◎ **樹木被覆地率**	23.0	**%**
◎ **緑視率**	19.4	**%**
◎ **公園充足率**	94.3	**%**

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有　公有地型

主要な緑被地　公園（区立肥後細川庭園）

公園（区立目白台運動公園）

緑被地の規模　大規模

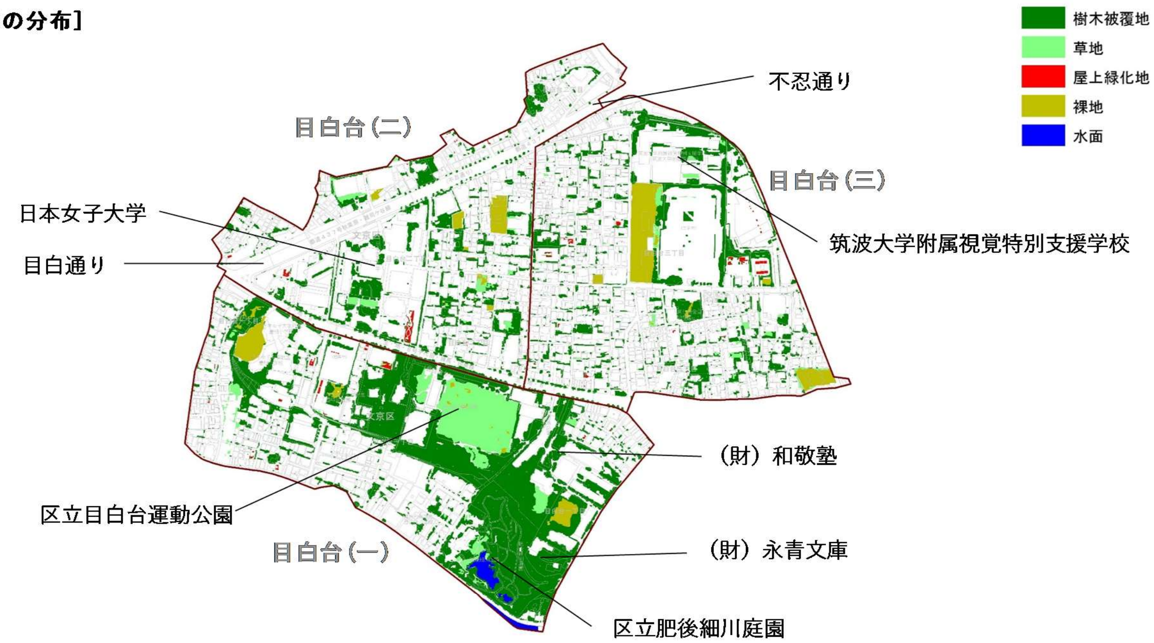
現況

１丁目は崖線にあり、２、３丁目は台地上に分布している。

ほとんどが住居系の地域で、肥後細川庭園、和敬塾、大学等の緑が主な緑被地を形成している。

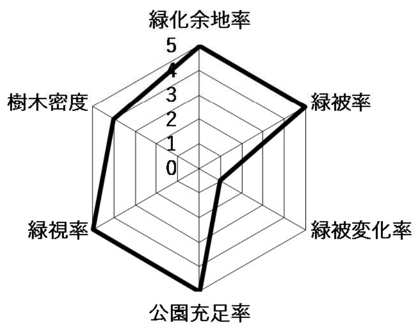
住宅のうち１丁目に小規模住宅が密集している地域があり、２、３丁目は緑豊かな住宅が多く分布している。

[緑の分布]



建ぺい率制限（%）・・・80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

・緑被率、緑視率ともに区の平均を上回っており、良好な区域であり、特に１丁目は緑被率が非常に高くなっている。

・緑被率・緑視率とも前回調査と比較してほぼ横ばいであり規模は維持している。

・都市計画道路の整備にあたっては、街路樹や植栽帯の整備を促す必要がある

・１丁目の住宅地で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

・緑被率の維持には大規模な樹林の保全が必要である。

［１４．音羽区域］

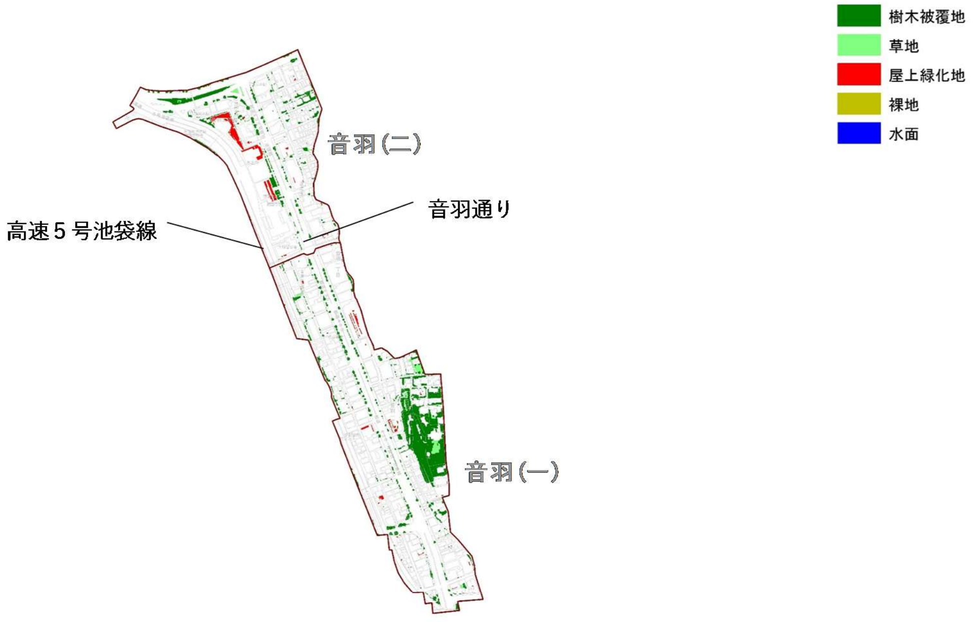
［基礎データ］

◎ 面積	19.3	ha
◎ 人口	6,055	人
◎ 用途地域	１低、１高、１住、２住、近、商	
◎ 樹木本数	34	本
◎ 樹木密度	1.8	本/ha
◎ 樹木密度	6	本/1,000人
◎ 保護樹木	1	本
◎ 緑被率	11.3	%
◎ 樹木被覆地率	10.7	%
◎ 緑視率	9.2	%
◎ 公園充足率	65.0	%

［緑のタイプと現況］

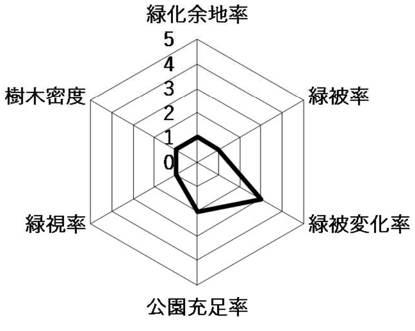
緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　個人宅
緑被地の規模　小規模
現況
低地に広がる商業系の地域である。
大規模な共同住宅、商業ビルが多い。
主な緑は住宅地の緑地と街路樹である。

［緑の分布］



建ぺい率制限（％）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・１丁目に民有地の大きな緑地がある以外は大きな緑地はない。
・緑被率、緑視率ともに区の平均を下回っている。
・緑化余地率は低いが、１、２丁目ともに一部小規模住宅等の地域で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

［１５．本郷南区域］

［基礎データ］

◎ 面積	55.6	ha
◎ 人口	11,717	人
◎ 用途地域	1住、近、商	
◎ 樹木本数	59	本
◎ 樹木密度	1.1	本/ha
◎ 樹木密度	5	本/1,000人
◎ 保護樹木	8	本
◎ 緑被率	11.2	%
◎ 樹木被覆地率	10.5	%
◎ 緑視率	14.2	%
◎ 公園充足率	66.6	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　公有地型

主要な緑被地　公園（区立元町公園、区立本郷給水所公苑）

緑被地の規模　小規模

現況

商業系の地域であり、台地から神田川沿いに下っている。

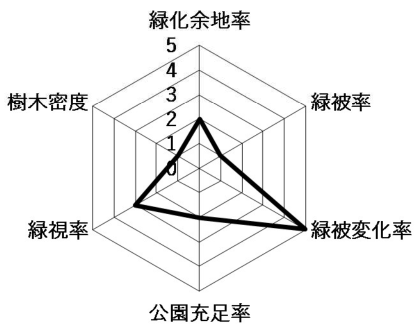
小中商業ビルが多く、緑地は少ない。

大きな緑地も元町公園、本郷給水所公苑くらいしか見あたらない。

［緑の分布］

建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率は大きく増加したものの、区の平均よりかなり低い。

・緑視率は平均的な値を示しており、これは街路樹に依るところが多い。

・緑化余地率は低く、緑被の増加はあまり望めない。

・２、３丁目の小中規模の商業ビルの建て替え時に規模が大きくなるような開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保や、屋上緑化を促していく必要がある。

［１６．本郷北区域］

［基礎データ］　　　**東大本郷は除く**

◎ 面積	37.9	ha
◎ 人口	10,216	人
◎ 用途地域	１住、２住、近、商	
◎ 樹木本数	43	本
◎ 樹木密度	1.1	本/ha
◎ 樹木密度	4	本/1,000人
◎ 保護樹木	13	本
◎ 緑被率	10.0	%
◎ 樹木被覆地率	9.5	%
◎ 緑視率	11.7	%
◎ 公園充足率	45.8	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　公園（区立清和公園）
緑被地の規模　小規模
現況

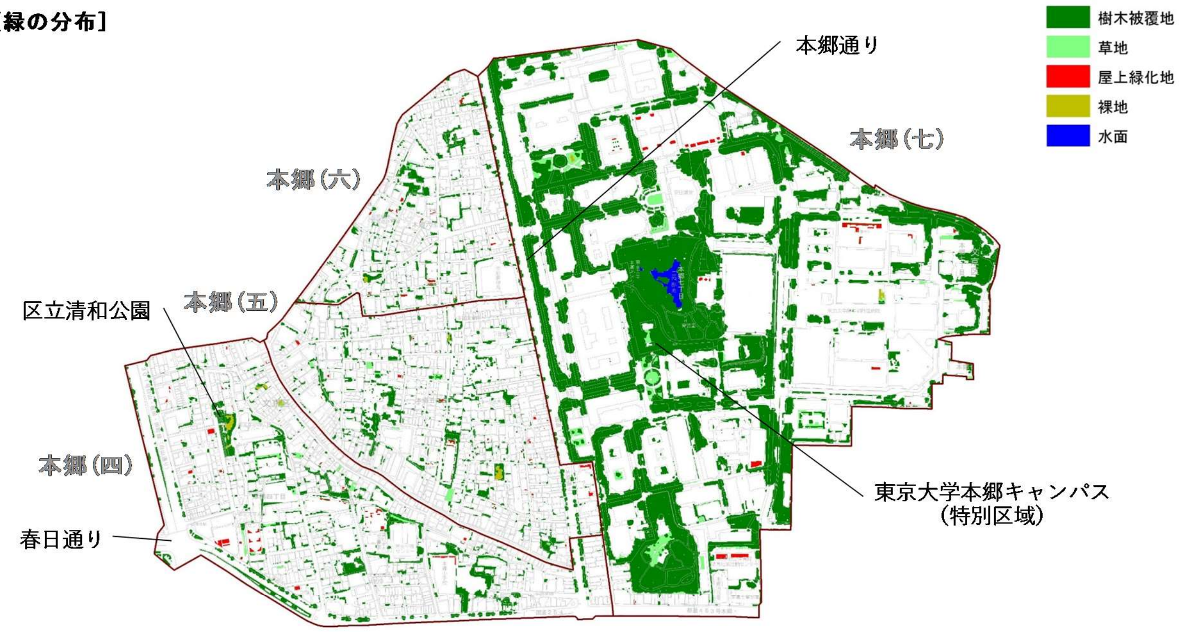
多くが住居系の区域であり、台地から白山通りの低地に向かっている地域である。

小規模な住宅、共同住宅が混在している地域であり、緑地は少ない。

主な緑地は区立の公園であるが数は多くない。

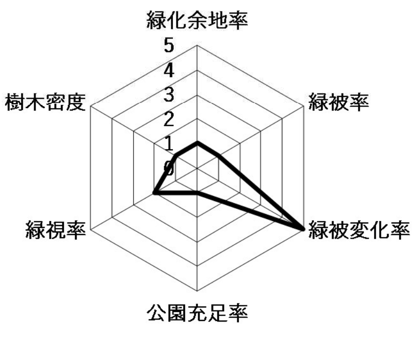
集計対象外であるが特別区域の東京大学本郷キャンパスが大きい緑被地となっている。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率は増加傾向ではあるが緑被率は依然として低いままである。
・緑視率は６丁目が区の平均に近いもののそれ以外の丁目においては低く壁面緑化などを促していく必要がある。
・公園充足率が低い。
・緑化余地率が低く緑地の大幅な増加が望めない為、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促していく必要がある。

[１７．湯島区域]

[基礎データ]

◎ 面積	55.3	ha
◎ 人口	11,133	人
◎ 用途地域	１高、１住、２住、近、商	
◎ 樹木本数	228	本
◎ 樹木密度	4.1	本/ha
◎ 樹木密度	20	本/1,000人
◎ 保護樹木	10	本
◎ 緑被率	13.2	%
◎ 樹木被覆地率	12.4	%
◎ 緑視率	12.3	%
◎ 公園充足率	77.8	%

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　社寺（湯島聖堂、麟祥院）
緑被地の規模　中規模
現況

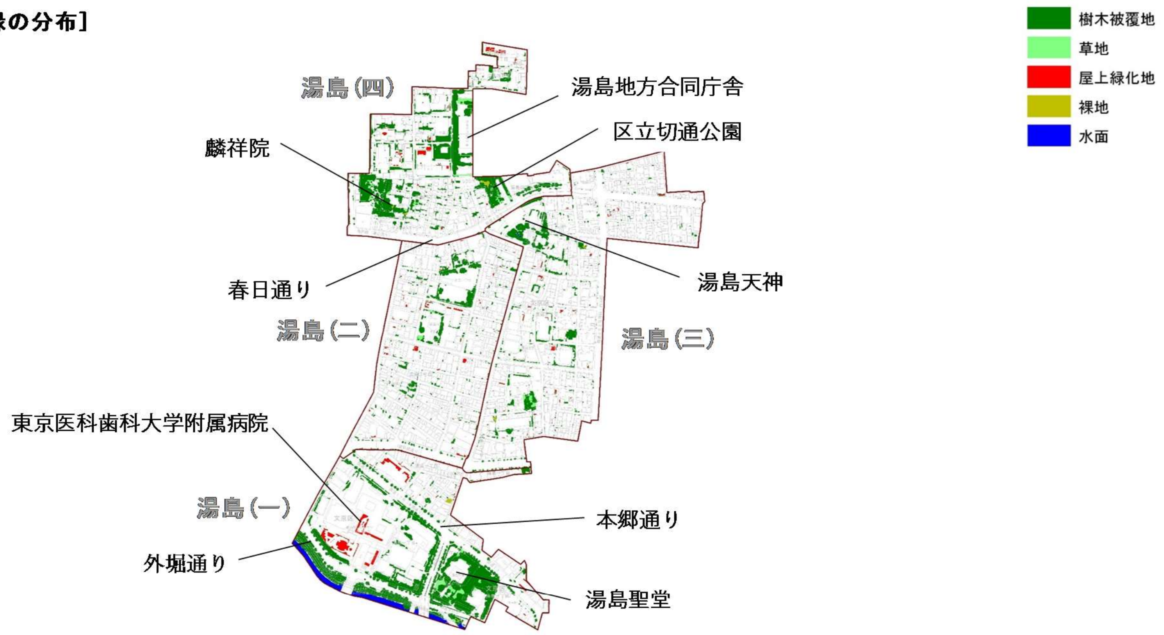
　台地から上野、神田川沿いの低地に向かって分布しており、多くの地域は低地に位置している。

　殆どが商業系の地域であり、中小の商業ビルが多い。

　主な緑地は湯島聖堂、湯島天神、切通公園、湯島地方合同庁舎などがある。

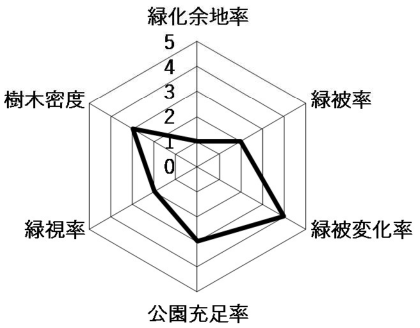
　２、３丁目の一部住宅地も小規模住宅が多い。

[緑の分布]



建ぺい率制限（%）・・・80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- 緑被率は１、４丁目で区の平均を超えているのとは対照的に２、３丁目で平均を大きく下回っている。
- 緑視率は区の平均を下回っており生垣や壁面緑化の保全や充実を促していく必要がある。
- 緑化余地率が低く、緑化の余地はほとんどない状況である為、春日通り沿い、不忍通り沿いの中小ビル及び一部小規模住宅で開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促していく必要がある。
- 社寺の緑の保全と生長を促す必要性がある。

［１８．西片区域］

[基礎データ]

◎ 面積	27.9	ha
◎ 人口	5,687	人
◎ 用途地域	１低、１住、２住、近、商	
◎ 樹木本数	58	本
◎ 樹木密度	2.1	本/ha
◎ 樹木密度	10	本/1,000人
◎ 保護樹木	17	本
◎ 緑被率	15.1	%
◎ 樹木被覆地率	14.2	%
◎ 緑視率	18.8	%
◎ 公園充足率	91.1	%

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有	民有地型
主要な緑被地	個人宅
緑被地の規模	小規模

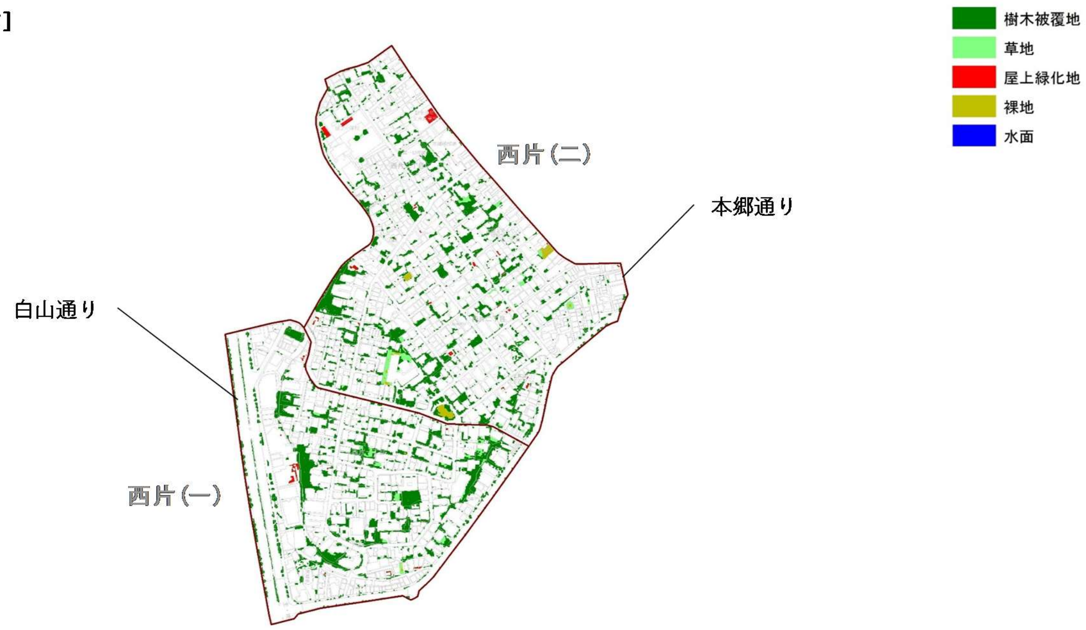
現況

台地から崖線に沿って広がる地域である。

ほとんどが低層の住宅地であり、緑豊かな住宅が多い。

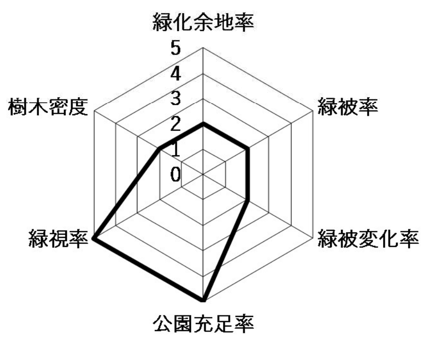
大きな緑地はほとんどなく、住宅地の緑が主な緑地となっており、区内でも珍しい区域である。

[緑の分布]



建ぺい率制限（%）・・・80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

・緑被率は区の平均より低い状況であるが、緑視率は区の平均を上回っており、街路樹と豊かな住宅地の緑による。

・緑化余地率は区の平均以下で緑地のさらなる確保は難しい。

・現状の住宅の細分化が懸念されるため、豊かな住宅地の緑の保全方策を検討していく必要がある。

・言問通り及び旧白山通り沿いの一部小規模商業ビル、小規模住宅の建て替えを行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

［１９．向丘区域］

［基礎データ］

◎ 面積	35.4	ha
◎ 人口	7,055	人
◎ 用途地域	１高、１住、近、商	
◎ 樹木本数	184	本
◎ 樹木密度	5.2	本/ha
◎ 樹木密度	26	本/1,000人
◎ 保護樹木	59	本
◎ 緑被率	15.9	%
◎ 樹木被覆地率	15.4	%
◎ 緑視率	11.8	%
◎ 公園充足率	72.6	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型

主要な緑被地　社寺（大林寺、長元寺、浄心寺）

緑被地の規模　中規模

現況

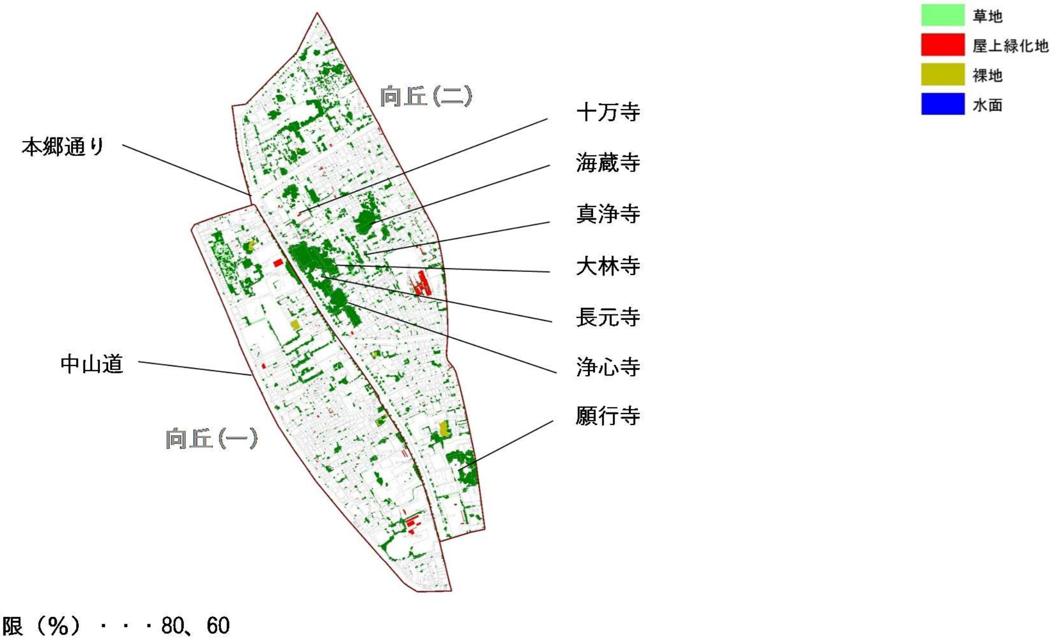
台地上に位置しており、住居系地域が多くを占めている。

１丁目は学校が大きな面積を占め、その他はほとんどが小規模な住宅が密集している。

２丁目は社寺が非常に多く、一部学校の敷地、その他は小規模な住宅が密集している。

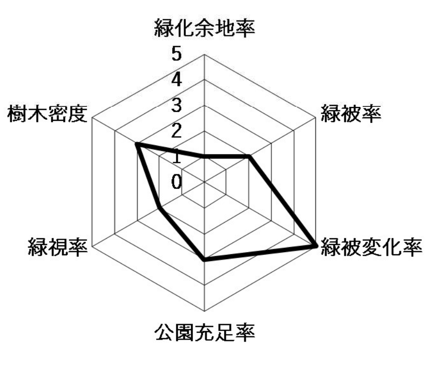
緑被地の多くを社寺地で占めている。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑視率については大きな変化が見られなかったものの、緑被率については１丁目、２丁目ともに順調な増加がみられた。

・区域の緑において、社寺の緑が大きな比重を占めており、緑被率の向上のためには、これらを維持していく事は非常に重要である。

・緑化余地率が低いため、小規模住宅の密集地の再開発、中山道沿い、本郷通り沿い及び白山上から団子坂沿道等の開発を行う場合には、緑の景観の確保を促す必要がある。

［２０．弥生区域］

［基礎データ］

◎ 面積	27.2	ha
◎ 人口	2,032	人
◎ 用途地域	１高、２高、１住、２住、近、商	
◎ 樹木本数	346	本
◎ 樹木密度	12.7	本/ha
◎ 樹木密度	170	本/1,000人
◎ 保護樹木	3	本
◎ 緑被率	29.3	%
◎ 樹木被覆地率	26.3	%
◎ 緑視率	18.4	%
◎ 公園充足率	29.5	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有	公有地型
主要な緑被地	学校（東京大学弥生キャンパス） 学校（東京大学浅野キャンパス）
緑被地の規模	大規模

現況

台地上から崖地に位置しており、住居系の区域である。

面積の大部分を東京大学が占めており、特に１丁目は殆どが東京大学弥生キャンパスの敷地である。

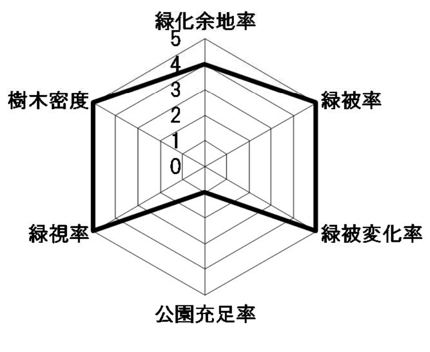
２丁目も半分ほどが東京大学の敷地で１、２丁目とも緑地の大部分が東京大学のものである。

大学以外は小規模住宅が多い。

［緑の分布］

建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率及び緑視率とも高く、樹木密度も高いことから総合的に緑が充実している地区である。

・公園充足率が区で一番低い区域であり、公園の設置や、大学との連携方策を検討する必要がある。

・大学の敷地内の緑被地が大部分で担保性は高い。今後、大きく成長させられるよう促していく必要がある。

［２１．根津区域］

［基礎データ］

◎ 面積　20.5 ha
◎ 人口　6,556 人
◎ 用途地域　１高、１住、２住、近、商
◎ 樹木本数　102 本
◎ 樹木密度　5.0 本/ha
◎ 樹木密度　16 本/1,000人
◎ 保護樹木　47 本
◎ 緑被率　13.4 %
◎ 樹木被覆地率　12.9 %
◎ 緑視率　12.8 %
◎ 公園充足率　60.0 %

［緑のタイプと現況］

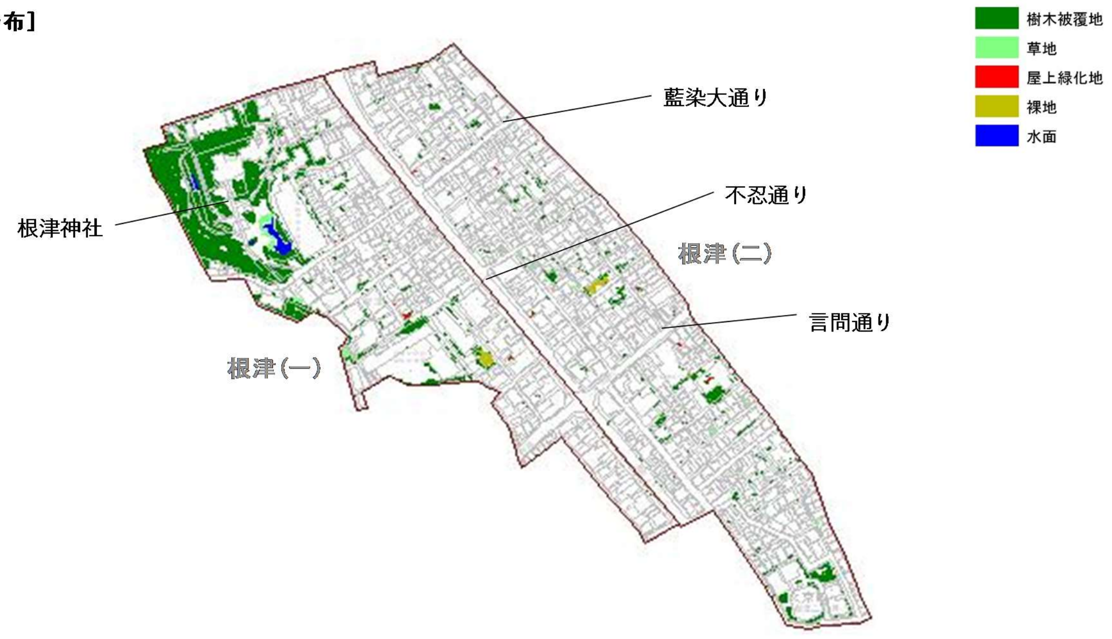
緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　社寺（根津神社）
緑被地の規模　大規模
現況

不忍通り沿いの低地に位置している。

商業系と住居系の混在する地域であり、小規模商業ビル、小規模住宅が密集する区域である。

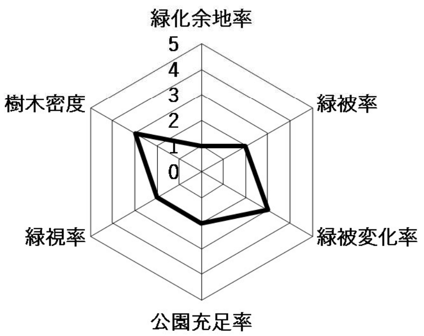
主な緑被地は根津神社であり、住宅地の緑被地は少ない。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・１丁目の緑被率は区の平均を上回るが、これは根津神社に負うところが大きく、緑被率、緑視率ともに区の平均を下回っている。
・２丁目の緑被率、緑視率ともに非常に低い。限られた場所以外には緑地がないことを示している。
・緑化余地率は低い水準ではあるが、再開発を行う場合には、壁面緑化などによる、緑の景観の確保を促していく必要がある。
・不忍通り、言問通りなどでは、関係機関に街路樹や植樹帯の整備を働きかけることも望まれる。

［２２．千駄木区域］

［基礎データ］

◎ 面積	72.7	ha
◎ 人口	21,317	人
◎ 用途地域	1高、1住、近、商	
◎ 樹木本数	174	本
◎ 樹木密度	2.4	本/ha
◎ 樹木密度	8	本/1,000人
◎ 保護樹木	15	本
◎ 緑被率	11.9	%
◎ 樹木被覆地率	11.4	%
◎ 緑視率	7.9	%
◎ 公園充足率	91.7	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有	民有地型
主要な緑被地	公園（区立須藤公園）、社寺（養源寺） 病院（日本医科大学付属病院）
緑被地の規模	小規模

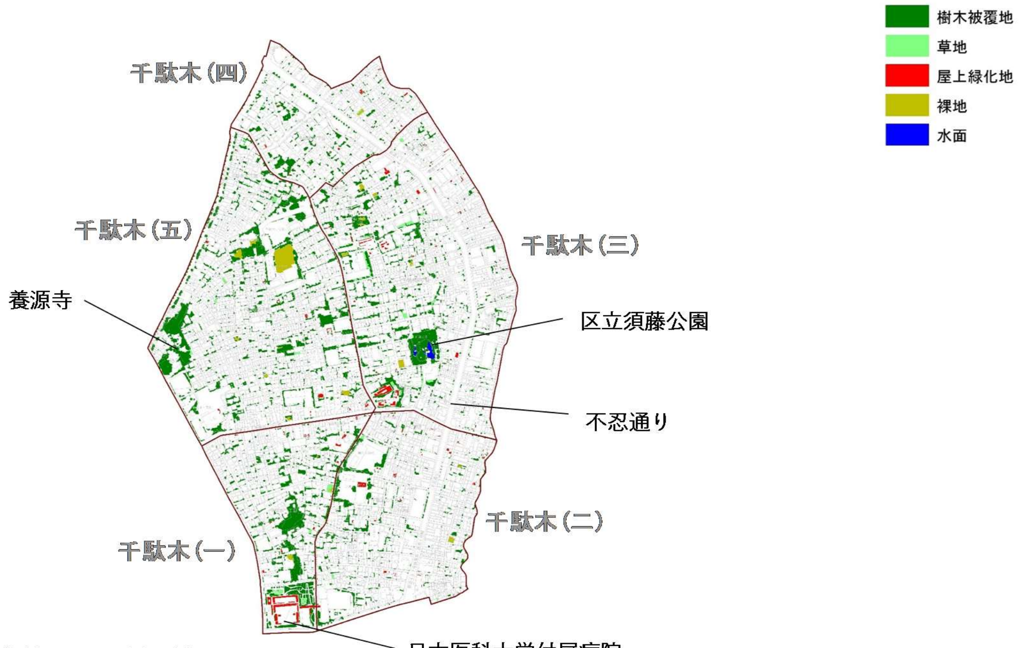
現況

多くが住宅系の区域であり、台地から崖線、低地へと分布している。

小規模な住宅が密集しており、不忍通り沿いに一部商業系の中小規模のビルがある。

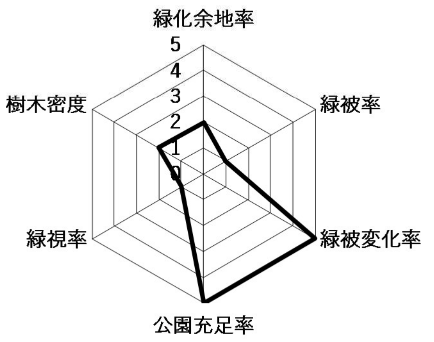
緑地は社寺林、公園が主なものであるが、さして多くはない。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率緑視率ともに平均を下回っているが、緑被率は大きく増加している。

・現在の緑地は公園、社寺林など、比較的担保性の高いものが多く、これらを維持し成長促進していく必要がある。

・緑化余地率が低いのは、小規模住宅の密集地域が広がっているためであり都市計画道路や細街路の整備に伴って再開発が行われる場合は、壁面緑化などによる緑の景観確保を促す必要がある。

・病院施設の屋上緑化など、緑化余地率が低い区域においては特に効果的な緑地が存在する。

［２３．本駒込東区域］

［基礎データ］

◎ 面積	53.5	ha
◎ 人口	13,658	人
◎ 用途地域	１高、１住、近、商	
◎ 樹木本数	267	本
◎ 樹木密度	5.0	本/ha
◎ 樹木密度	20	本/1,000人
◎ 保護樹木	57	本
◎ 緑被率	13.0	%
◎ 樹木被覆地率	12.6	%
◎ 緑視率	13.7	%
◎ 公園充足率	94.0	%

［緑のタイプと現況］

緑被地の所有　民有地型

主要な緑被地　公園（区立動坂公園、区立神明公園）

緑被地の規模　小規模

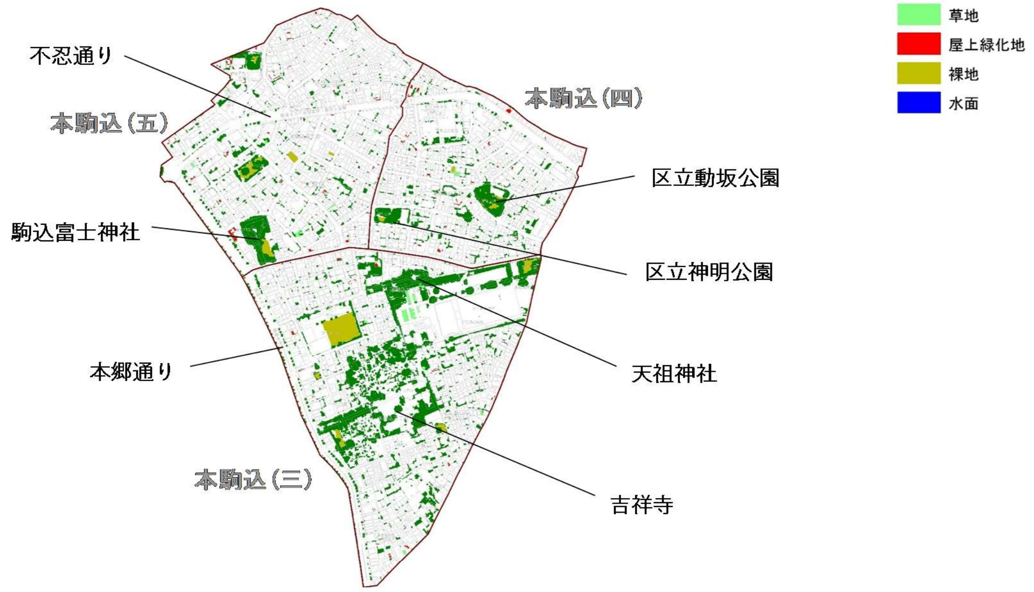
現況

台地から扇状に低地に向かって広がっている区域であり、多くが住居系の区域である。

主な緑被地は社寺林、公園である。

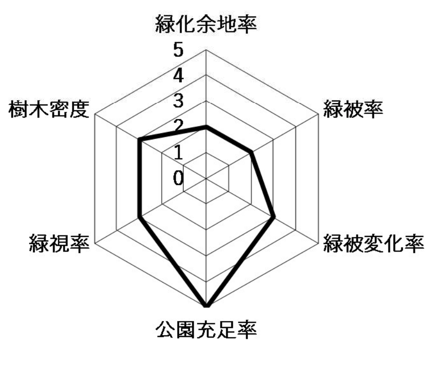
不忍通り沿いに中小規模の商業ビルが分布している。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

- 緑被率は増加傾向にあるが、社寺用地の多い３丁目に緑被地が偏っており、４、５丁目はかなり低い状況にある。
- 公園充足率は区内でも高い水準にあり、緑被の少ない４、５丁目において重要な緑の拠点となっている。
- 緑化余地率が低いため緑被率の維持には社寺林を保全し成長を促していく必要がある。
- 小規模住宅密集地の再開発がある場合、壁面緑化などによる景観の向上を促す必要がある。

［２４．本駒込西区域］

［基礎データ］　　六義園除く

◎ 面積	66.9	ha
◎ 人口	14,195	人
◎ 用途地域	１低、１高、１住、２住、近、商	
◎ 樹木本数	234	本
◎ 樹木密度	3.5	本/ha
◎ 樹木密度	16	本/1,000人
◎ 保護樹木	85	本
◎ 緑被率	15.5	%
◎ 樹木被覆地率	14.4	%
◎ 緑視率	16.0	%
◎ 公園充足率	96.3	%

［緑のタイプと現況］

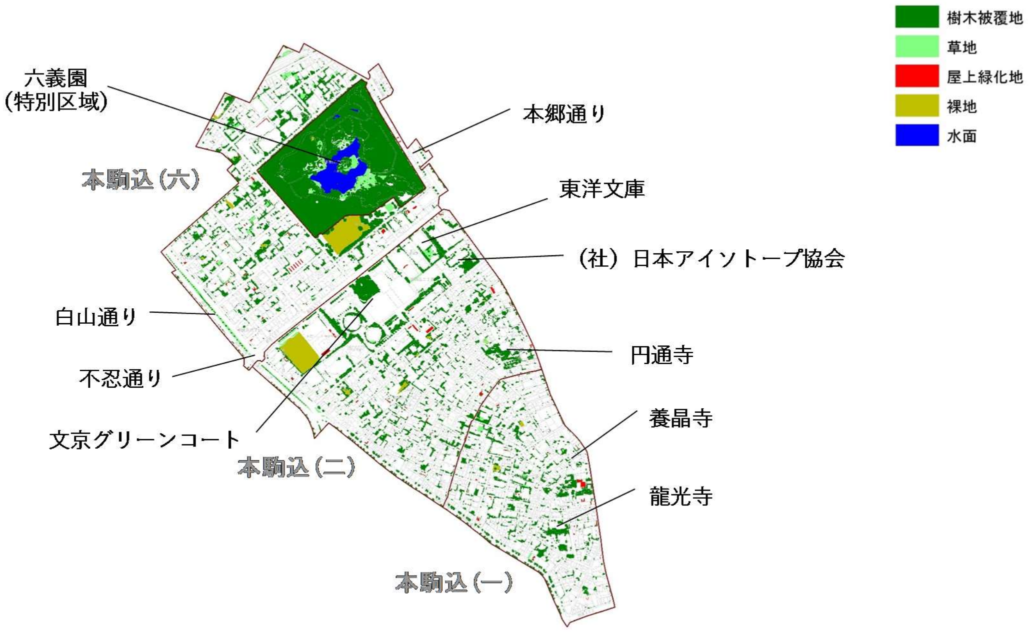
緑被地の所有　民有地型
主要な緑被地　民間施設（文京グリーンコート）
緑被地の規模　小規模
現況

台地上に位置しており、ほとんどが住居系の地域である。

６丁目は敷地の大きな住宅地が広がっている。

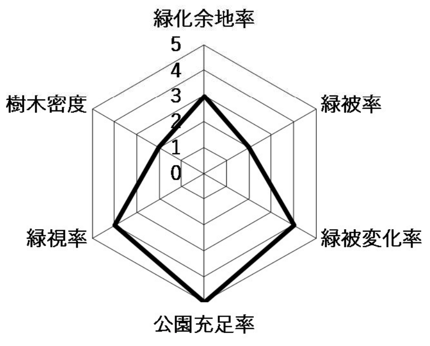
主な緑被地は、集計対象外であるが特別区域の六義園、民間施設、社寺林がある。

［緑の分布］



建ぺい率制限（%）・・・80、60

［緑の評価・指標］



［緑の評価と課題］

・緑被率、緑視率とも各丁目毎の差が比較的少なく、全域においてバランスの取れた環境が形成されている。

・緑の豊かな住宅地をはじめとする、民有地の緑が占める割合が高く、これらの維持・保全する方策が求められる。

・本郷通り沿い、白山通り沿い及び不忍通り沿いの中小商業ビル等で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

３．まとめ

区域別地域カルテで示した緑の評価結果から、文京区全体の特徴を把握し、課題の抽出をおこなった。

○ 総合評価が高い区域： 目白台、弥生、大塚南、関口、本駒込西
○ 総合評価が低い区域： 白山南、水道、音羽、本郷北

総合評価が高い区域（20 点以上）として、目白台、弥生、大塚南、関口、本駒込西が挙げられ、特に目白台、弥生は 30 満点中の 25 点と顕著で、目白台は緑被変化率（1 点）以外すべて高い数値で安定しており、また弥生については公園充足率（1 点）が低いが、学校施設の緑化がそれを補っている。それぞれ特性の違う 2 区域だが、特性を活かした理想的な区域といえる。

これら上位区域の緑地は、公共施設と住宅地に多く分布しており、樹木密度、緑被率、緑化余地率が特に高く、安定した緑の分布と新たな緑被地の可能性があることを示している。ただ、民有地の占める割合も多いため、まとまった緑の増加は望めないと考えられ、現在の緑を効果的に維持する施策の検討が必要である。

総合評価が低い区域（11 点以下）は、白山南、水道、音羽、本郷北があげられる。

これらの区域では商業系地域や工業系地域の占める割合が高く、建物が密集しており緑地スペースが限られるため、街路樹や接道部の生垣など、緑視景観を考えた緑化施策が重要である。

そのほか、小石川南、千駄木の区域は、公園充足率が高いため緑の量としては比較的安定すると考えられるが、緑被率は区の平均を下回っており、緑視率でも低い数値を示していることから、今後は緑を維持して公園以外の緑地を確保していく方策を検討する必要がある。また、向丘など社寺が多い区域では永続的に緑を保全していくための方策も検討する必要がある。

なお、特別区域では緑被率、樹木密度ともに非常に高く、本区はもとより、23 区内の代表的かつ貴重な緑となっている。今後の施策による大きな変動は考えにくいが、引き続き万全な管理により維持、保全を継続することが望ましい。

X　緑の特徴と今後の課題

X　緑の特徴と今後の課題

１．調査結果による緑の特徴と課題

樹木・保護樹木
●特徴 ・区内の胸高直径 50cm 以上の樹木は、7,245 本であり、1 ha あたりの樹木本数は 6.4 本/ha であった。これは、東京都内の他区と比較して高い水準である。 ・前回調査と比較して、樹木本数は横ばいである。約半数の区域で樹木本数が増加していた。一方、公園や学校施設などの改修により減少した区域がみられた。 ・樹木本数が多い場所は、特別区域の小石川後楽園、小石川植物園、豊島岡墓地、六義園、東京大学で、一般区域では占春園～教育の森公園、肥後細川庭園～椿山荘などの大規模な庭園や公園、護国寺などの社寺、お茶の水女子大学などの樹木の多い大規模な教育施設、大規模緑地のある区域、住居系の区域であった。一方、商業系の区域で樹木本数が少なかった。 ・最も多い樹種はイチョウで、次いで、ケヤキ、サクラ、スダジイの順であった。これらの 4 種で樹木の 56%を占めている。 ・区内の「保護樹木」は 690 本が指定されており、そのうち 677 本が確認された。 ・「保護樹木」の健康度は平均で 1.59 と、おおむね健康度 2 以下の正常な状況であるが、健康度 3 ～ 4 となる樹勢や樹形の悪化の進んでいる保護樹木もあった。 ●課題 ・「保護樹木」指定による、ランドマークとなる大木の保護の推進。 ・多様な樹種の保護・育成の促進。 ・健康度の低い「保護樹木」の樹勢回復対策の実施と、適切な剪定等の管理普及。
樹林地
●特徴 ・300 ㎡以上の連坦性のある樹林地は 104 か所、87.0ha であった。前回調査から 3.0ha 増加している。これは、樹木の自然生長による樹林地の拡大や、樹林地の連坦性の拡大による面積の増加が考えられる。 ・1ha 以上の樹林地 16 箇所で全樹林地面積の 73.9%を占めている。六義園・小石川植物園・小石川後楽園・東京大学・豊島岡墓地などがその主なものである。 ・六義園や小石川後楽園のスダジイ-ヤブコウジ群集、タブノキ-イノデ群集など、自然度の高い植生が残されているのも特徴である。 ●課題 ・樹林地を構成する樹木の自然生長の維持。 ・「保護樹林」指定による民有地の樹林地の保全。 ・自然性の高い樹林地の保全と維持。

公園
●特徴 ・区内の公園緑地は、116 公園　56.5ha であった。区民一人あたり公園面積は 2.4 ㎡、区域面積に占める公園緑地の割合、公園緑地面積率は 5.0%であった。うち、区立公園及び児童遊園の「身近な公園」の公園面積率は 2.1%であった。 ・条例で標準とする、一人あたり公園面積 5.0 ㎡は、未達成である。 ・前回調査と比較して、箇所数及び公園緑地面積率に変化はなく、面積は約 900 ㎡増加した。一方、区民一人あたり公園面積は、人口増加により 0.1 ㎡減少していた。 ・区立公園及び児童遊園の公園誘致圏の充足率をみると 77.3%であった。特に、弥生、本郷北、水道の充足率は低いが、弥生と本郷北は東京大学の敷地を大きく含むためである。 ●課題 ・既存公園の再整備と合わせて質的な確保について検討。 ・市民緑地認定制度を活用した、オープンスペースの確保。
緑被率・みどり率
●特徴 ・緑被率は 19.1%であった。この緑被地に水面および公園の裸地を加えたみどり率は 19.7%であった。これらのうち樹木被覆地は 17.9%で緑被地の 9 割を占めていた。 ・緑被率・樹木被覆地率ともに平成 7（1995）年以降増加傾向にあり、樹木被覆地の増加が緑被率の増加の主な要因である。 ●課題 ・まとまった緑被地である公園・学校・社寺などの緑の保全。 ・公共施設を中心とした緑化による緑視率の拡大。

屋上緑化・壁面緑化
●特徴 ・区内の屋上緑化は 5.4ha で、前回調査と比較すると 0.1ha 増加し、主な増加要因としては学校屋上の緑化及び個人宅でのプランター緑化であった。 ・屋上緑化の余地があるとみられる屋上緑化可能地は、区内に約 243ha 存在しており、緑化可能地に対する屋上緑化率は 2.2％で、低層建築群及び高層建築群や学校中心に屋上緑化の余地はまだ多く存在している。 ・区内の壁面緑化は、0.75ha であったが、建替えやブロック塀の撤去などにより、前回調査と比較すると 0.30ha 減少している。 ●課題 ・屋上緑化のさらなる推進。 ・建築物の新築・改築の際の壁面緑化の普及。
緑視率
●特徴 ・区内の平均緑視率は 14.3％であった。 ・前回調査と比較すると 0.1 ポイントの増加、前々回と比較しての 0.4 ポイントの減少であった。建て替えに伴う樹木の伐採や、道路形状の変更などによる街路樹の撤去などが減少の原因である。 ●課題 ・民有地の建て替え時における緑の維持や接道部緑化の推進。 ・道路形状変更時の街路樹の新規植栽の推進。
道路
●特徴 ・区内の公道（国道、都道、区道）上の街路樹および植樹帯の植栽状況は、街路樹が 6,670 本、植樹帯が 42,997 ㎡であった。 ・通行者の休憩所として、ポケットパーク、グリーンスポットが 36 か所整備されている。 ・生垣や道路沿いの樹木など、接道部の緑化状況をみると、接道緑化延長は 88.18km で、接道部緑化率は 20.0％であった。 ・接道部緑化率を前回調査と比較すると、全体で 1.7 ポイント減少し、特に、区道で 1.5 ポイント、私道（幅 4m以上）で 9.9 ポイント減少していた。 ●課題 ・民有地における接道部緑化の推進。 ・街路樹などによる市街地の景観確保方策の推進。

地表面温度

●特徴

・夏期の台地上部の市街地でヒートアイランド現象の発生が確認された。

・大規模な樹林地や水面を擁する緑地で地表面温度の低減効果が確認された。

・街路樹を有する高規格の道路や、社寺などの樹林地の連続する地域で、市街地の高温域の拡大が防がれていることが確認できた。

●課題

・ヒートアイランドを緩和する樹林地や水場を伴うオープンスペースの保全。

・樹林地の成長促進。

・街路樹等の整備による風の道となるネットワークの形成。

生物多様性

●特徴

・公園内の池や水路に集まる飛翔性の昆虫類が確認されている。

・根津神社や千石緑地など、古くからの樹林に「タヌキ」が確認されている。

・ペット由来や開発に伴う土砂移入で、様々な外来種が確認されている。

・エコロジカルネットワークの観点からは、種によって、周りに樹木が生息している池が存在せず水辺を移動しにくいエリアが存在したり、樹林の大きさや連続性に乏しく生息・移動ともに適正が低いエリアが存在する。

●課題

・生物の生息地となる一団の緑地の保全と、水場の形成。

・街路樹・公園・屋上緑化などによる生物の移動経路となる連続的な緑の確保。

２．緑の構造からの課題

(1)環境保全系統からの課題

六義園・小石川植物園・護国寺などの大規模な樹林は、都市における生活環境の保全や、生物多様性の保全の観点から、文京区にとって重要な資源である。これらの大規模な緑地のヒートアイランドの緩和や、生物の生息環境域の形成などの機能を、市街部に効果的に取り込む方策を講じていくことで、文京区の都市環境を向上させることができる。

今後の文京区の都市環境形成にかかる緑の課題としては、

○公園や学校などで、ヒートアイランドの緩和や、水辺の生き物の移動の中継地点・生息域となる機能を有する池や水路などの水辺整備。食餌植物などの植栽。
○神田川沿いを中心とした市街地の緑化の促進。
○学校や病院、集合住宅などの大規模施設の緑化の推進。
○社寺や大学などの大規模な樹林地の保全推進。
○屋上緑化のさらなる推進。
○ヒートアイランド対策、エコロジカルネットワーク形成に資する道路緑化の推進。

などを進めていく必要がある。

図Ｘ－１　文京区の環境保全系統（現況図）

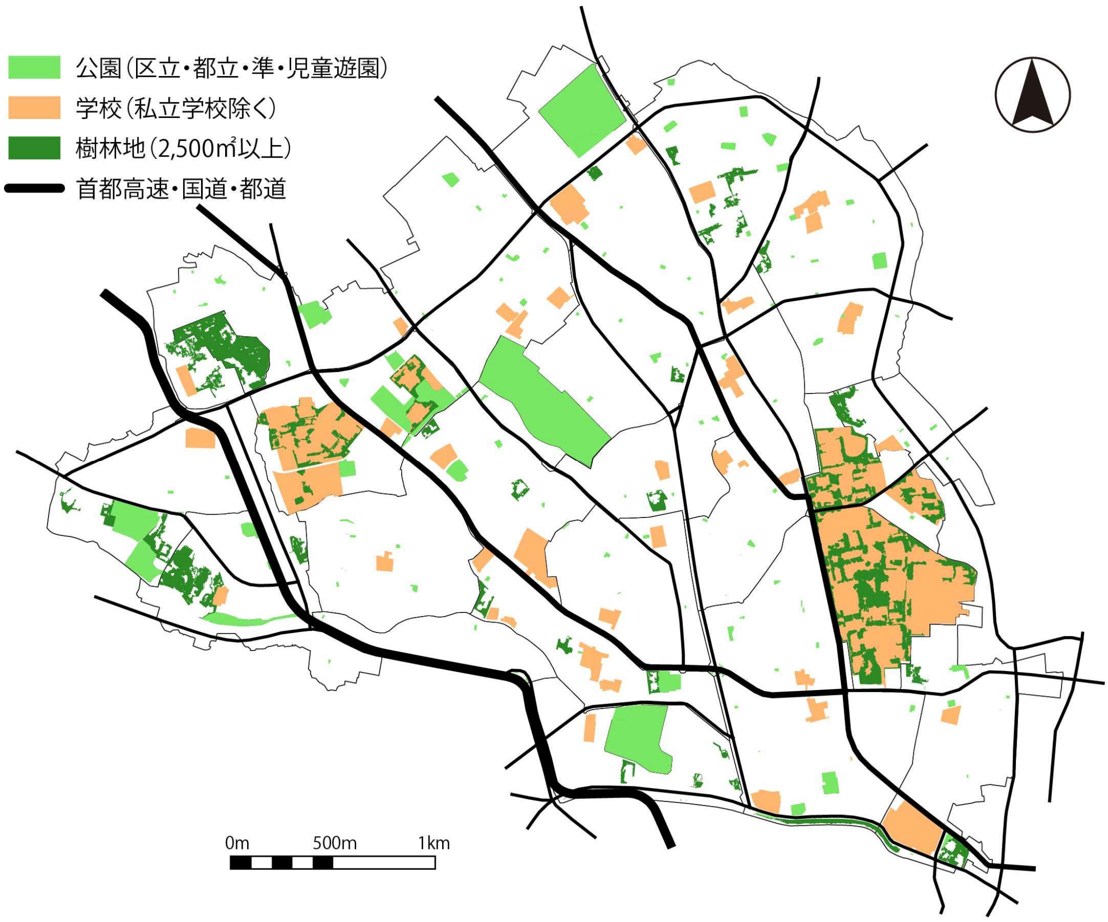
（2）レクリエーション系統からの課題

公園の量的な整備については文京区みどりの基本計画の目標は達成できていない。公園の誘致圏については、ほぼ全域をカバーしつつある。量的な公園の確保も今後とも努力をし続けていく必要はあるが、一方で、既存の公園の地域や多様な利用者に対する利用価値を高めることや、区内にある豊富なまとまりのある樹林地の活用、学校グラウンドなどの活用など公園に準ずる場を確保していくことも重要である。

今後の文京区の公園緑地整備の課題としては、

○既存の公園の「公園の質」の向上 ○社寺の樹林や学校のオープンスペースの活用 ○市民緑地認定制度を活用した、オープンスペースの確保。

等を図っていく必要がある。



図Ｘ－２　文京区のレクリエーション系統（現況図）

（3）防災系統からの課題

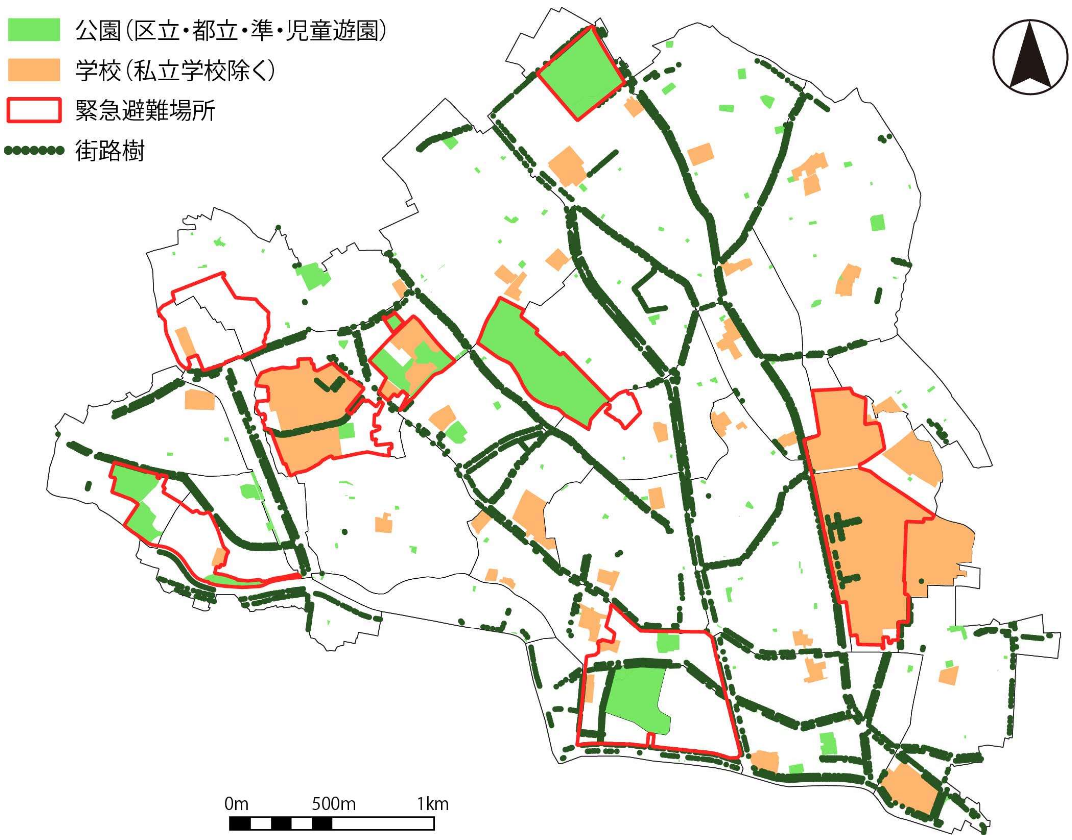
都市部における緑地や公園には、火災の延焼防止機能や、災害の際の一時避難場所となる機能がある。市街地の多い文京区においては、これらの機能を積極的に活用していくことが望まれる。

また、地震においても避難路や通学路の安全確保のために、道路沿いのブロック塀などの生垣化などを積極的に働きかけることも都市防災上重要である。

今後の文京区の防災に資する緑や公園の課題としては

- ○火災時の延焼防止や避難路の確保に資する、道路沿いの緑地帯など街路緑化の推進
- ○震災時の安全確保のための通学路、生活道路に面するブロック塀の生垣化の推進
- ○避難困難地での一時的な避難に資する公園整備の推進
- ○マンホールトイレや防災井戸の設置など、地域の防災機能向上に資する「公園の質」の向上

などを進めていく必要がある。



図Ｘ－３　文京区の防災系統（現況図）

（4）景観系統からの課題

文京区は昔からの樹林地が現代においても継承されている地域である。また、多くの樹木が残されており、文京区の景観形成に資している。一方で、市街化も進み市街地景観が連坦している地域でもある。

文京区において、旧来からの景観資源を保全しつつ、道路や公園・公共施設における視覚的に立体感のある樹木による緑化をおこなうことは、潤いある都市景観形成のためには欠かせない。積極的な樹木植栽と、植栽された樹木の成長により樹木被覆地率の増加を今後とも促進していかなくてはならない。

今後の文京区の都市景観形成にかかる緑の課題としては、

○社寺林や庭園など歴史ある樹林地・樹木の保全
○樹木の樹冠を大きく成長させるための管理育成体制の確保
○樹木による学校および公共施設の緑化推進
○街路樹の整備・保全による道路の緑化推進
○屋上・壁面緑化の推進

などを進めていく必要がある。

図Ｘ－４　文京区の景観系統（現況図）

参　考　文　献

参考文献

１．東京都、環境保全局自然保護部緑化推進室、緑被率標準調査マニュアル、昭和 63 年 10 月
２．東京都、東京都都市整備局、東京の土地 2022（土地関係資料集）、令和 5 年 11 月
３．東京都、東京都統計年鑑、令和 3 年
４．東京都、東京都世帯数の予測、平成 31 年 3 月
５．文京区、「文の京」総合戦略、令和 2 年 3 月
６．文京区、第 55 回文京区の統計、令和 4 年
７．文京区、文京区人口統計資料、令和 6 年 1 月
８．文京区、文京区都市マスタープラン、平成 23 年 3 月
９．文京区、文京区みどりの基本計画、令和 2 年 3 月
10. 文京区、文京区土木部土木現況、令和 5 年 4 月
11. 文京区、土地利用現況図、令和 4 年 3 月
12. 文京区、文京区都市計画図、令和 3 年 4 月
13. 文京区、文京区環境基本計画、平成 29 年 3 月
14. 文京区、文京区景観計画、平成 25 年 10 月
15. 文京区、文京区緑地実態調査報告書、昭和 49 年 10 月
16. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 2 次）、昭和 55 年 2 月
17. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 3 次）、昭和 60 年 3 月
18. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 4 次）、平成 2 年 3 月
19. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 5 次）、平成 8 年 3 月
20. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 6 次）、平成 17 年 3 月
21. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 7 次）、平成 25 年 3 月
22. 文京区、文京区緑地実態調査報告書（第 8 次）、平成 31 年 3 月
23. 文京区、文京区生物多様性地域戦略、平成 31 年 3 月
24. 文京区以外の区、緑の実態調査報告書（平成 23 年～令和 4 年度）
25. 国土交通省、ヒートアイランド現象緩和に向けた都市づくりガイドライン、平成 25 年 12 月

以上

「文(ふみ)の京(みやこ)」　文京区のみどり

《第９次　文京区緑地実態調査報告書》

令和６年３月

発 行 者　文京区土木部みどり公園課
東京都文京区春日 1-16-21
電話　03-3812-7111（代表）

調査機関　三 和 航 測 株 式 会 社
東京都練馬区豊玉北 6-15-14
電話　03-3994-7501（代表）